

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第84集

ま びき よこ て
馬引横手遺跡

1999

愛知県埋蔵文化財センター

序

濃尾平野のほぼ中央に位置する一宮市と尾西市は、木曽川・長良川・揖斐川の木曽三川が形成する肥沃な沖積地上にあり、古くから豊かな生産物に恵まれ、発展してきました。特に、木曽川の分流のひとつで市内を流れる日光川は、交通面でも大きな役割を担っていましたが、同時に、たびたび洪水を引き起こし、時に多くの人々の生命を奪う恐ろしい存在でもありました。河川改修の進んだ現在の姿からは想像もできませんが、いろいろな意味で人々の生活と大きく関わっていた存在であったと言えるでしょう。

このたび馬引横手遺跡の発掘調査を行いました。今回の調査では縄文土器や弥生土器も見つかっており、この地域で古くから人々が生活していた様子の一端を知ることができました。やがて室町時代になると、溝によって区画された町の跡から、瀬戸や美濃、常滑の焼き物のほかに、尾張地方ではあまり出土していない南伊勢地域の鍋などもまとまって出てきます。おそらく日光川の水運を利用して、いろいろな地域から人や物がこの場所に集まっていたのでしょう。しかしながら、日光川とともに発展してきた馬引横手遺跡でしたが、やがて日光川の洪水によって埋もれてしまい、そのまま忘れ去られていったようです。まさしくこの地域が、日光川とともにあったことがよくわかります。

馬引横手遺跡の周辺では、法圓寺中世墓遺跡という中世のお墓も調査されており、おびただしい量の蔵骨器などが出土しています。しかしながら、被葬者などに関する文献などの記録は全く残されておらず、この地域の歴史には不明な点が多いというのが実情です。そういった意味でも、今回の馬引横手遺跡の発掘調査の成果は、今後地域の歴史を解明していく上で重要な資料になると思います。

発掘調査の実施にあたっては各方面の方々よりご配慮を賜り、また関係機関および関係者の多大なご指導とご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、昭和60年度に発足しました財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、平成11年度より、財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センターへと衣替えしました。今までのご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

平成11年8月

財団法人 愛知県教育サービスセンター
理事長 久留宮 泰啓

例言

- 1 本書は愛知県一宮市大和町馬引字横手から尾西市籠屋にかけて所在する、馬引横手遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 今回の調査は東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、愛知県教育委員会を通じて依頼を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は平成7（1995）年10月から平成8（1996）年10月まで、調査面積は7489m²である。
- 3 発掘調査は赤塚次郎（本センター主査）、小泉渡（同主査、現一宮市立浅野小学校教諭）、伊藤太佳彦（同調査研究員）が担当した。
- 4 調査にあたっては、次の各関係機関のご協力を得た。

愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター
一宮市教育委員会・尾西市教育委員会・愛知県土木部一宮事務所
日本道路公団名古屋建設局および一宮工事事務所
- 5 遺物整理・製図などには次の方々のご協力を得た。

平野昌子、杉山恭也（以上調査研究補助員）
松田典子、大西多賀子、穂波由枝、加藤美和子、野々垣裕美、高山正美、
大津洋子、斎藤智可子、神田善子、大迫慶子（以上整理補助員）
深川進（写真撮影）
- 6 本書の執筆は第Ⅲ章2節を赤塚次郎、第Ⅲ章10節を蔭山誠一・鈴木正貴（本センター調査研究員）が、第Ⅳ章を鬼頭剛・堀木真美子（同調査研究員）および尾崎和美（同調査研究補助員）が担当し、それ以外の執筆および編集を伊藤太佳彦が担当した。
- 7 本書をまとめるにあたっては、次の各氏をはじめ、多くの方々からご指導・ご助言をいただいた。

青木修・伊藤裕偉・尾野善裕・金子健一・中野晴久・藤澤良祐（敬称略）
- 8 調査区に使用した座標は国土座標第Ⅶ系に基づくものである。
- 9 調査記録は本センターにて保管している。
- 10 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。

目次

I	調査の概要	1
1	調査の経緯と概要	1
2	地理的および歴史的環境	2
II	遺構	4
1	基本層序	4
2	遺構の概要	5
3	古墳時代の遺構	14
4	中世前期の遺構	15
5	中世後期の遺構	15
III	遺物	25
1	縄文時代および弥生時代	25
2	古墳時代	26
3	中世前期	30
4	中世後期	32
5	加工円盤・陶丸	55
6	土錘	55
7	瓦	56
8	石製品	56
9	木製品	58
10	金属製品	58
IV	馬引横手遺跡の古環境復元	61
V	まとめ	80
	付表	85

図版目次

図版1	遺構1 (95Aa区)
図版2	遺構2 (95Ab区)
図版3	遺構3 (95Aa・95Ab区)
図版4	遺構4 (95Ba区)
図版5	遺構5 (95Ba区)
図版6	遺構6 (96Ca区)
図版7	遺構7 (96Ca・96Db区)
図版8	遺構8 (96Ea・96Eb・96Da区)
図版9	遺構9 (96Ea・96Cb・95Bb2・96Cb2区)
図版10	遺構10 (95Bb2・95Ca2区)
図版11	花粉化石
図版12	珪藻化石
図版13	植物珪酸体
図版14	遺物1
図版15	遺物2
図版16	遺物3
図版17	遺物4
図版18	遺物5
図版19	遺物6
図版20	遺物7
図版21	遺物8

挿図目次

図1	調査区位置図 (1:2500)	1
図2	周辺の遺跡 (1:25000)	3
図3	基本層序1 (1:80)	4
図4	基本層序2 (1:80)	5
図5	遺構図割り付け	6
図6	遺構図1 (1:400)	7
図7	遺構図2 (1:400)	8
図8	遺構図3 (1:400)	9
図9	遺構図4 (1:400)	9
図10	遺構図5 (1:200)	10
図11	遺構図6 (1:200)	11
図12	遺構図7 (1:200)	12
図13	遺構図8 (1:200)	13
図14	95Bb区平面図 (1:100) およびSD31断面図 (1:40)	14
図15	95Ab区SD41・39断面図 (1:40)	15
図16	95Ca区SE02・03平面図および断面図 (1:40)	16

図17	95Ba区SD46断面図 (1:40)	16
図18	96Ca区SD01断面図 (1:40)	17
図19	96Ca区SD05・06・07・08断面図 (1:40)	17
図20	96Db区SD11断面図 (1:40)	18
図21	96Ea区SD21・22断面図 (1:40)	18
図22	96Ea区SK189平面図および断面図 (1:40)	19
図23	96Ea区SK191・311平面図および断面図 (1:40)	19
図24	95Ba区SK399・415平面図および断面図 (1:40)	20
図25	95Ab区SK275平面図および断面図 (1:40)	21
図26	95Ab区SB01・02平面図 (1:100)	22
図27	95Ba区SB03平面図 (1:100)	22
図28	95Ba区SB04平面図 (1:100)	23
図29	95Ba区SB05平面図 (1:100)	24
図30	96Ca区SB06平面図 (1:100)	24
図31	96Ca区SB07平面図 (1:100)	24
図32	縄文時代および弥生時代の遺物 (1~3=1:2、4=2:3、5~6=1:3)	25
図33	古墳時代の遺物1 (1:4)	27
図34	古墳時代の遺物2 (1:4)	28
図35	古墳時代の遺物3 (1:4)	29
図36	SD31上層遺物組成	30
図37	中世前期の遺物 (1:4)	31
図38	灰釉系陶器・椀の時期別グラフ	32
図39	土師器・皿の法量分布	33
図40	土師器・煮炊具の口径分布	35
図41	293の穿孔の位置	36
図42	B類 (羽釜型鍋, 1:4)	37
図43	清洲城下町遺跡出土の焙烙 (1:4)	37
図44	中世後期の遺物1 (SK210, 1:4)	38
図45	中世後期の遺物2 (SK210, 1:4、ただし161=1:3)	39
図46	中世後期の遺物3 (SD39, 1:4)	40
図47	中世後期の遺物4 (SD41, 1:4)	41
図48	中世後期の遺物5 (SD46, 1:4)	42
図49	中世後期の遺物6 (SD46, 1:4)	43
図50	中世後期の遺物7 (SD49, 1:4)	44
図51	中世後期の遺物8 (SD49, 1:4)	45
図52	施釉陶器・時期別グラフ	47
図53	施釉陶器・器種別グラフ	47
図54	中世後期の遺物9 (SD45・48・50・51・54・55, 1:4)	48
図55	中世後期の遺物10 (95A区, 1:4、ただし379・395=1:3)	49
図56	中世後期の遺物11 (95Ba・C区, 1:4)	50
図57	中世後期の遺物12 (96調査区, 1:4)	51
図58	中世後期の遺物13 (包含層, 1:4、ただし489・490=1:3)	52
図59	遺物組成グラフ	53
図60	加工円盤・陶丸 (1:4)	54
図61	加工円盤分布図 (長軸と重量)	54

図62	土錘（1：4）	55
図63	土錘分布図（長さと幅）	55
図64	瓦（1：3）	56
図65	石製品1（1：2）	56
図66	石製品2（1：2）	57
図67	木製品（1：2）	58
図68	銭貨（1：2）	60
図69	鉄関連試料（1：2）	60
図70	試料採取断面柱状図	62
図71	95Bb区深堀の主要珪藻化石群集	63
図72	95Bb区深堀の植物珪酸体化石組成	64
図73	96Ca区深堀の主要花粉化石群集	65
図74	96Ca区深堀の植物珪酸体化石組成	65
図75	96Cb区深堀の主要花粉化石群集	66
図76	96Cb区深堀の主要珪藻化石群集	67
図77	96Cb区深堀の植物珪酸体化石組成	68
図78	施釉陶器・時期別グラフ（遺構別破片数）	80
図79	馬引横手遺跡主要遺構配置図（中世後期）	82
図80	中世の遺跡分布図	83

表目次

表1	施釉陶器の時期別・器種別一覧表	46
表2	遺物組成表	53
表3	鉄関連試料一覧表	59
表4	¹⁴ C年代測定結果	61
表5	95Bb区深堀の珪藻分析結果	71
表6	95Bb区深堀の植物珪酸体化石分析結果	74
表7	96Ca区深堀の花粉化石分析結果	74
表8	96Ca区深堀の植物珪酸体化石分析結果	75
表9	96Cb区深堀の花粉化石分析結果	75
表10	96Cb区深堀の珪藻分析結果	76
表11	96Cb区深堀の植物珪酸体分析結果	79

I 調査の概要

1 調査の経緯と概要

調査の経緯 馬引横手遺跡は愛知県の北西部、一宮市大和町馬引字横手から尾西市籠屋にかけて広がる遺跡で、中世の遺物散布地として県遺跡番号02097で登録されている。西尾張中央道と起街道とが交差する辺りを中心に遺跡は広がっており、現在も交通量の大変多い場所である。

今回の調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、日本道路公団および愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施された。調査区内中央を南北に走る西尾張中央道を境にして、西側（尾西市側）の2529㎡を平成7年10月から平成8年3月にかけて、東側（一宮市側）の4960㎡を平成8年4月から10月にかけて調査を行った。

調査の概要 試掘調査の結果からはかなり攪乱が激しく、遺構も大半が既に壊されてしまっていると予想されていたが、調査の結果、規則的に並ぶ東西方向の溝に区画された中世後期の良好な遺構群を確認することができた。県内でもこの時期の遺跡の調査例は少なく、今回の調査の意義は大きいと言えよう。

さらに下面では古墳時代のまとまった資料が得られたほか、遺構には伴わないものの、弥生時代や縄文時代晩期の遺物も確認することができた。

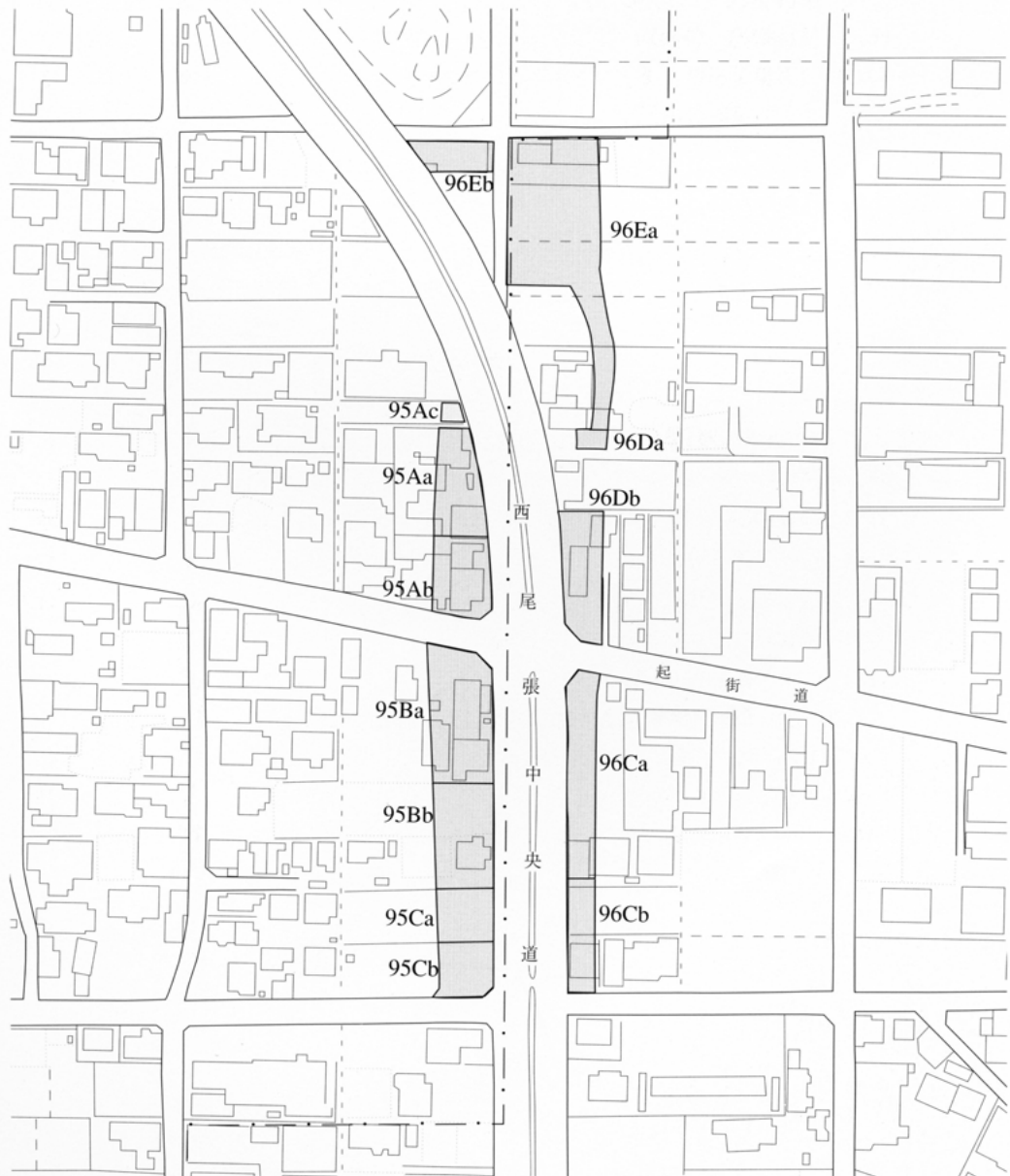


図1 調査区位置図 (1:2500)

2 地理的および歴史的環境

地理的環境 濃尾平野における沖積平野の地形は、上流側から扇状地地帯、自然堤防卓越地帯、デルタ地帯の3地帯形が典型的に配列しているのを特徴としている。

かつての木曽川本流は現在の境川筋にあり、現在の位置に移ったのは天正14(1586)年の大洪水以降とされる。そして「御囲堤」が完成して本流が固定されたわけだが、それ以前は多くの分流が流れていた。馬引横手遺跡は木曽川の分流の1つである日光川によって形成された自然堤防帯に位置し、現在の標高は6m前後である。

歴史的環境 馬引横手遺跡から起街道を東へ500m程行くと、13～15世紀にかけての墓である法圓寺中世墓遺跡がある。反対に西へ約2km程行くと大平遺跡があり、やはり東西方向の溝によって区画されている中世の遺構群が確認されている。

これら3遺跡に共通するのは、15世紀後半代を境に洪水の影響によって遺跡が埋没していったと考えられている点である。

法圓寺中世墓遺跡の報告書によると「洪水等で一気にⅡ層が堆積し、積石墓頂部を残して埋没した感を呈している」(Ⅱ層は茶褐色土層)と記述されている。そしてこの礫群が埋没した段階で蔵骨器が埋納される時期が15世紀後半代とされ、15世紀末までは埋葬が行われたものの、以後さらに埋没し忘れ去られていったと推定されている。

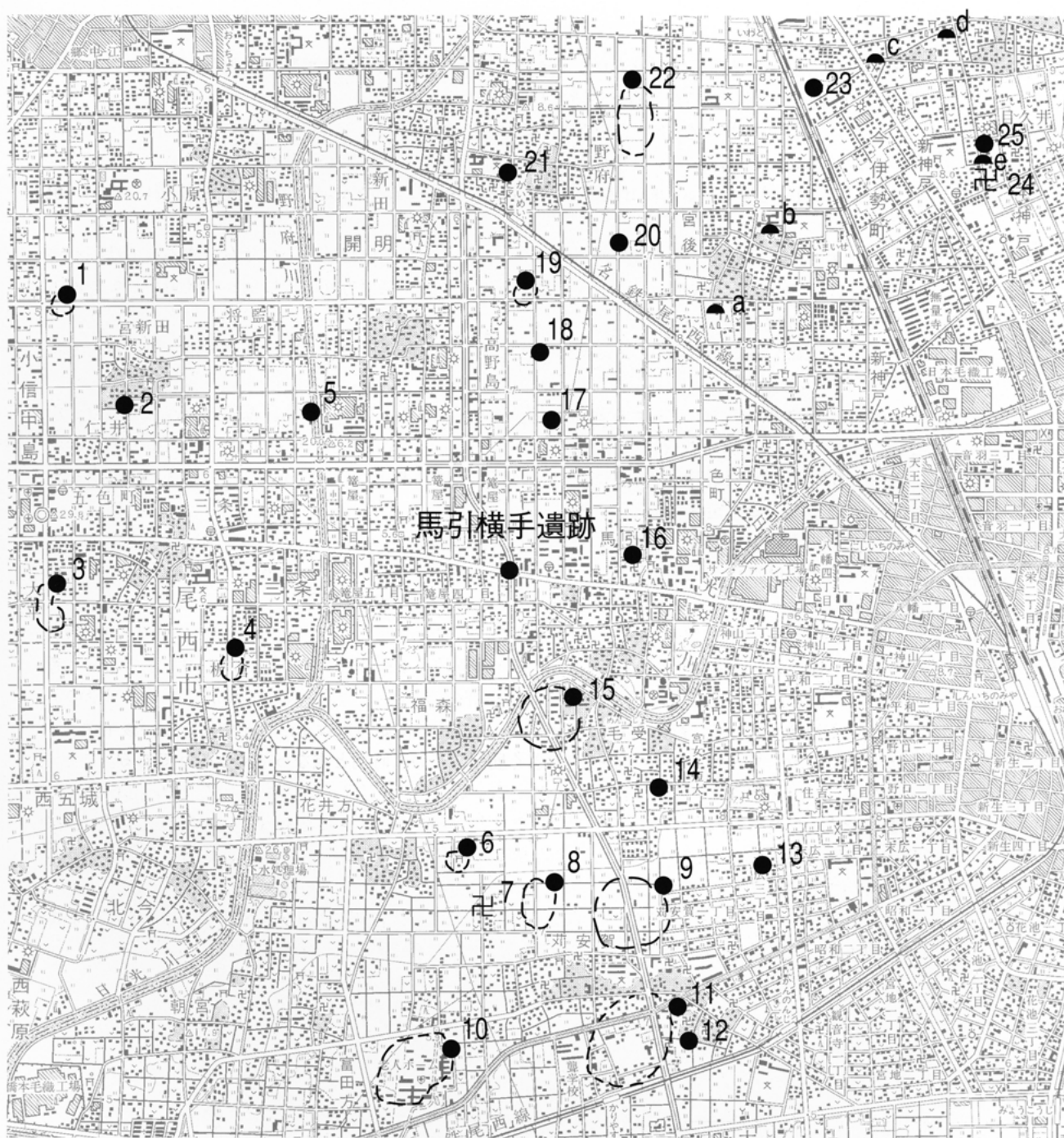
後で述べるように馬引横手遺跡の中世後期の遺構面の上には、Ⅱ層(にぶい黄褐色シルトまたは褐色シルト)およびⅢ層(灰黄褐色シルト～砂質シルト)が堆積している。馬引横手遺跡からは大窯段階の遺物は出土しておらず、法圓寺中世墓遺跡のⅡ層と対応関係にあるものと考えられる。

また馬引横手遺跡では、中世後期の遺構面と中世前期の遺構面との間にはⅣ層およびⅤ層が堆積しているが、珪藻分析からは流水域の珪藻が多いという結果が得られており、洪水性の堆積であると考えられる。中世前期は尾張型第6型式までの灰釉系陶器が、中世後期は東濃型明和1号窯式以降の灰釉系陶器が出土している。法圓寺中世墓遺跡でもその造立開始時期は「13世紀中葉に近い後半代」と考えられており、馬引横手遺跡で遺構が大きく展開していく時期と重なってくるようである。

このように日光川(および木曽川)は洪水によって人々の生活を一変させてしまう恐ろしい存在ではあったが、同時に、水利・水運の点で大きな恩恵をもたらす存在でもあったはずである。実際、法圓寺中世墓遺跡において200年近くも延々と墓が作り続けられたということは、それだけ人々が住み続けていたということにほかならない。

また日光川を渡った対岸には毛受遺跡が、その南には八王子遺跡と荊安賀遺跡がある。特に荊安賀城を中心とした荊安賀の集落は、この地域の拠点的な集落であったと考えられている。

-
- 参考文献 井関弘太郎(1988)「河道変遷」『木曽三川～その流域と河川技術』建設省中部地方建設局
伊藤和彦編(1990)『大平遺跡発掘調査報告書』尾西市教育委員会
土本典生編(1995)『法圓寺中世墓遺跡発掘調査報告書』一宮市教育委員会
千田嘉博(1989)「清洲城とその城下町-地籍図による復元的考察-」『清洲-織豊期の城と都市-研究報告編』東海埋蔵文化財研究会



- | | | |
|------------------|--------------------|------------------|
| 1 畑添遺跡 (弥生) | 11 苺安賀遺跡 (弥生～中世) | 21 野府城跡 |
| 2 四反田遺跡 (弥生～古墳) | 12 北川田遺跡 (弥生) | 22 西上免遺跡 (弥生～古墳) |
| 3 大平遺跡 (古墳・中世) | 13 田島遺跡 (弥生～古墳) | 23 中切遺跡 (古墳) |
| 4 板倉貝塚 (縄文) | 14 龍明寺遺跡 (弥生) | 24 神戸廃寺 |
| 5 蒲原遺跡 (弥生～古墳) | 15 毛受遺跡 (中世) | 25 目久井遺跡 (弥生～古墳) |
| 6 伝治越遺跡 (古墳) | 16 法圓寺中世墓遺跡 | a 野見神社古墳 |
| 7 薬師堂廃寺 | 17 東苺安賀道遺跡 (古墳・中世) | b でんやま古墳 |
| 8 斎宮寺遺跡 (奈良) | 18 三味郭遺跡 (古墳) | c 上野屋古墳 |
| 9 八王子遺跡 (弥生～中世) | 19 東向野遺跡 (古墳) | d 西宮社古墳 |
| 10 尾張病院山中遺跡 (弥生) | 20 東新規道遺跡 (古墳・中世) | e 車塚古墳 |

図2 周辺の遺跡
(国土地理院発行 1/25000 地形図「一宮」をもとに作成)

Ⅱ 遺構

1 基本層序

馬引横手遺跡における基本層序は以下のとおりである（図3・4）。

- I層：表土
- Ⅱ層：にぶい黄褐色シルトまたは褐色シルト
- Ⅲ層：灰黄褐色シルト～砂質シルト
- Ⅳ層：暗灰黄色細粒砂または黄灰色シルト
- V層：灰黄褐色粘質シルトまたは黒褐色粘土
- Ⅵ層：オリーブ灰色粘土または灰色粘土

上面

調査区は市街地に位置するため、家屋等によってすでに遺構検出面近くまで破壊されている調査区が大半であった。しかし部分的にⅡ層およびⅢ層の堆積が確認されており、中世後期の遺物が出土している。そしてこの層の直下、標高5 m前後のところが中世後期の遺構検出面である。Ⅳ層がベースとなる。

下面

さらに遺跡の南側にあたる95Bb、95Ca、95Cb、96Cbの各調査区では、Ⅳ層およびⅤ層をはさんで中世前期および古墳時代の遺構検出面となる（下面については以後それぞれ95Bb2、95Ca2、95Cb2、96Cb2と表記する）。Ⅵ層がベースとなり、検出面の標高は4.4 m前後である。

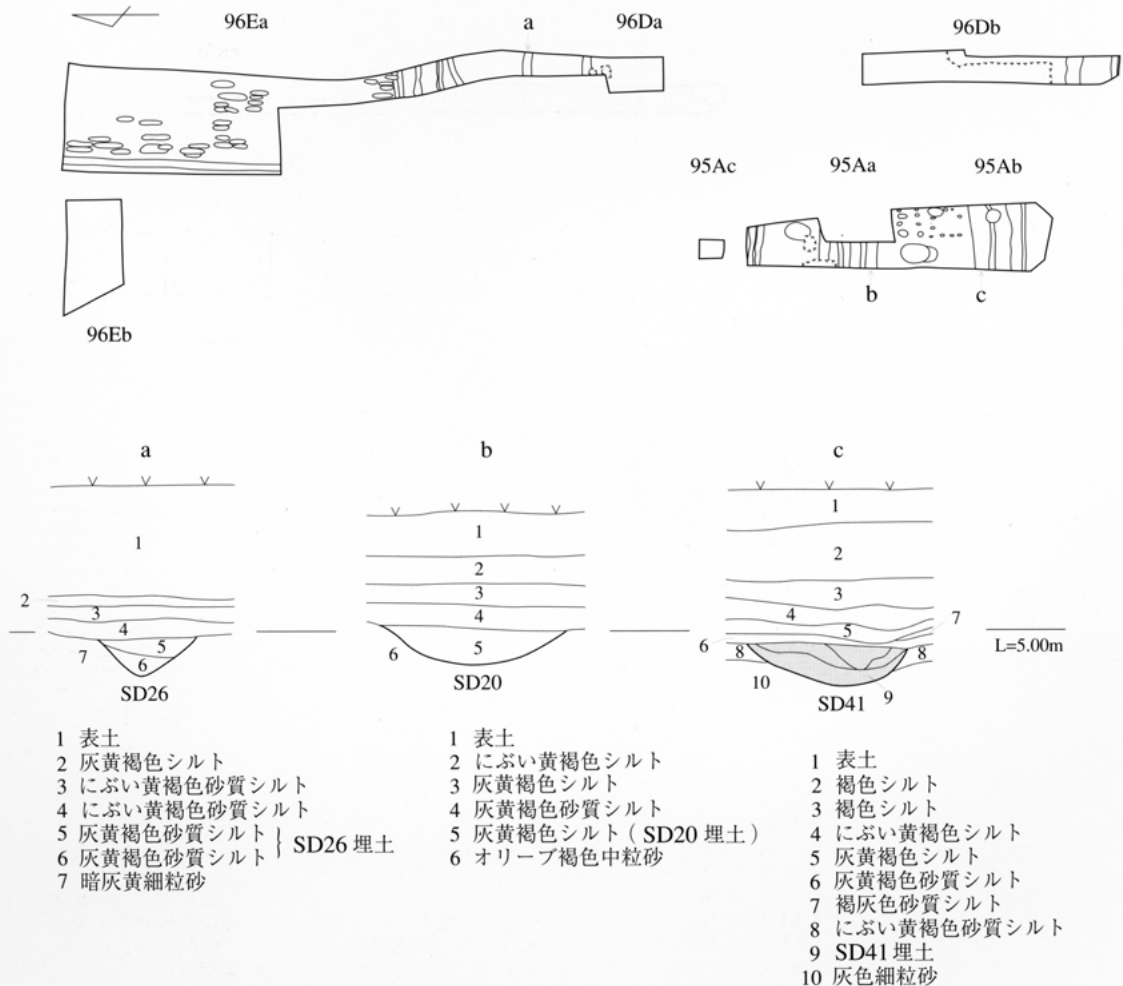


図3 基本層序 1 (1:80)

2 遺構の概要

今回の調査で確認できた遺構は、古墳時代、中世前期、中世後期の各段階の遺構である（図6～13）。

古墳時代 古墳時代の遺構としては、95Bb2区のSD31で松河戸式から宇田式にかけての遺物がまとまって出土している。遺構が検出されたのは、95Bb2、95Ca2、95Cb2、96Cb2の各調査区だけである。

中世前期 いわゆる南部系の灰釉系陶器などが出土する時期を中世前期とした。灰釉系陶器の編年では、尾張型第4型式～第6型式の段階にあたる。この段階の遺構は古墳時代の遺構と同じ検出面で確認されているため、やはり95Bb2、95Ca2、95Cb2、96Cb2の各調査区でのみ遺構が確認されている。

中世後期 洪水によるものと考えられる土層の堆積ををばさんで、いわゆる北部系の灰釉系陶器などが出土する遺構が展開する。馬引横手遺跡の遺構の中心はこの段階のものであり、この時期を中世後期とした。灰釉系陶器の編年では東濃型明和1号窯式～生田2号窯式の段階にあたる。

古墳時代や中世前期の遺構についてはその全体像がなかなかつかみにくい状況であるのに対して、中世後期の場合にはいくつかの大きな特徴が認められる。

この段階の遺構は、①東西方向の溝が規則的に並んでいる、②溝に区画された内部には多数の土坑（ピット）や井戸が配置されている、③こうした状況は現在西尾張中央道と起街道が交差する95Ab区や95Ba区などで最も顕著にみられるのに対して、調査区の南北両端部では確認できない、といったような特徴があげられる。

（なお遺構図では土坑は番号のみを表記し、記号〔SK〕は省略している）

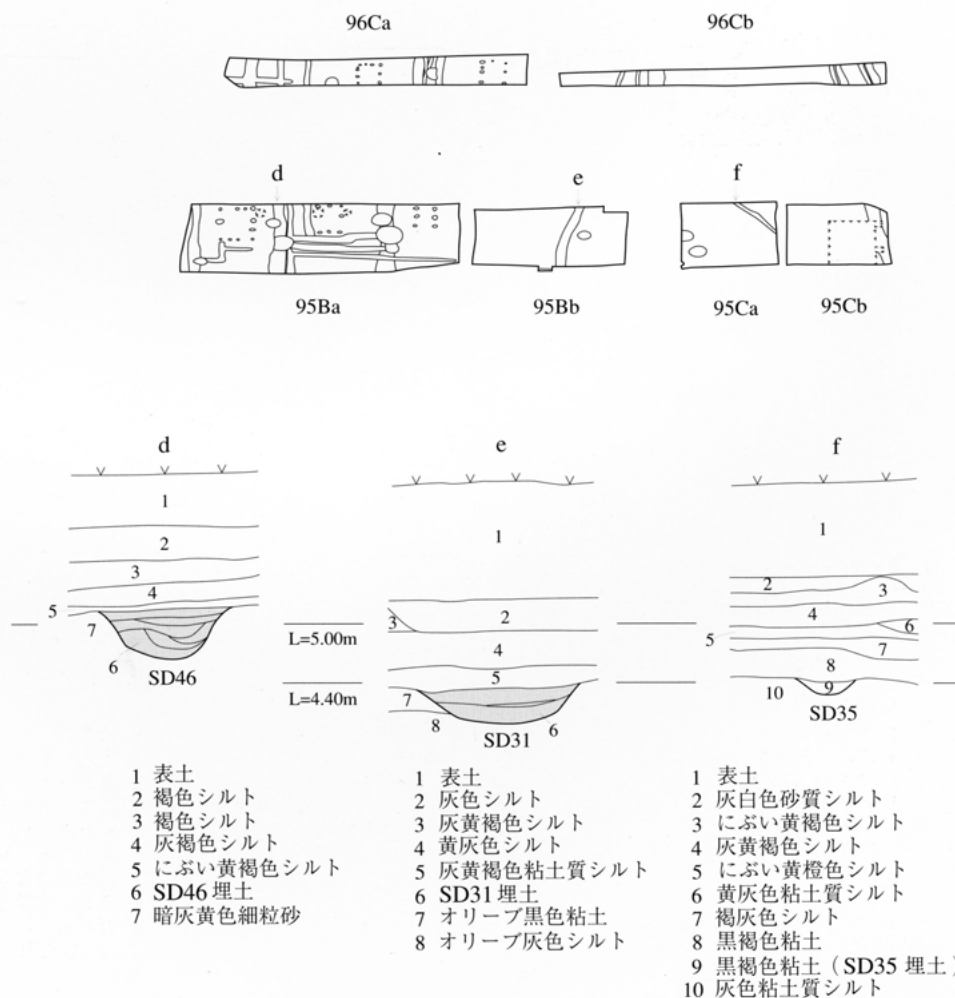


図4 基本層序2 (1:80)

図6 (1 : 400)

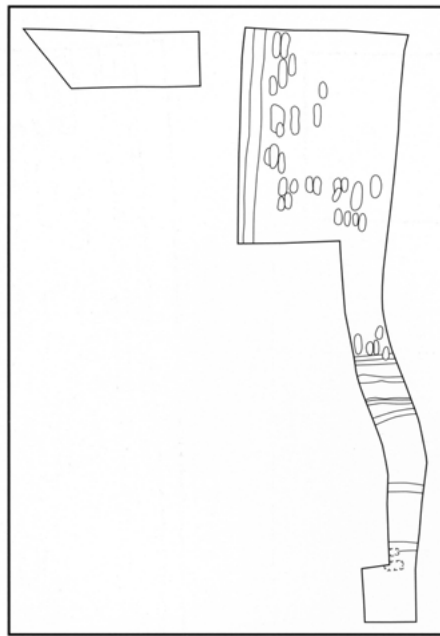


図7 (1 : 400)

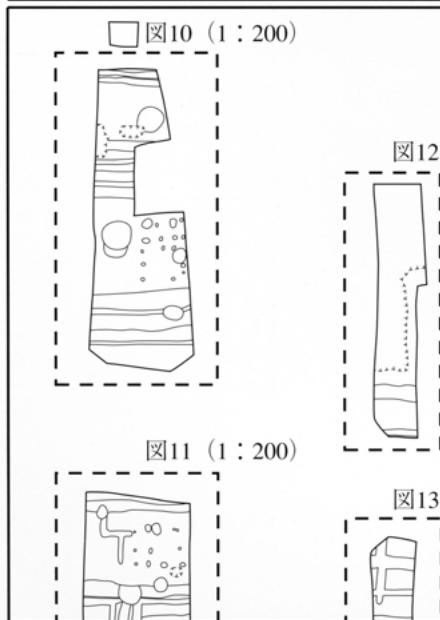


図8 (1 : 400)

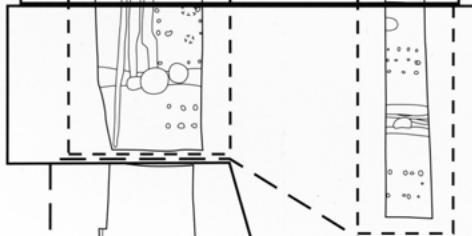


図9 (下面1 : 400)

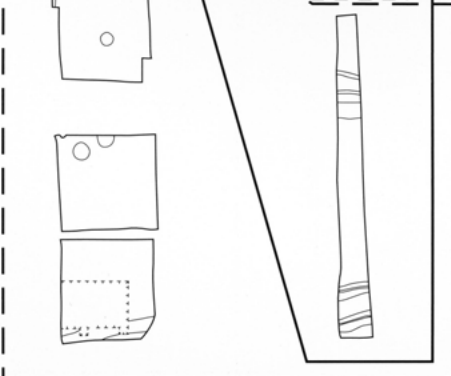


図5 遺構図割り付け

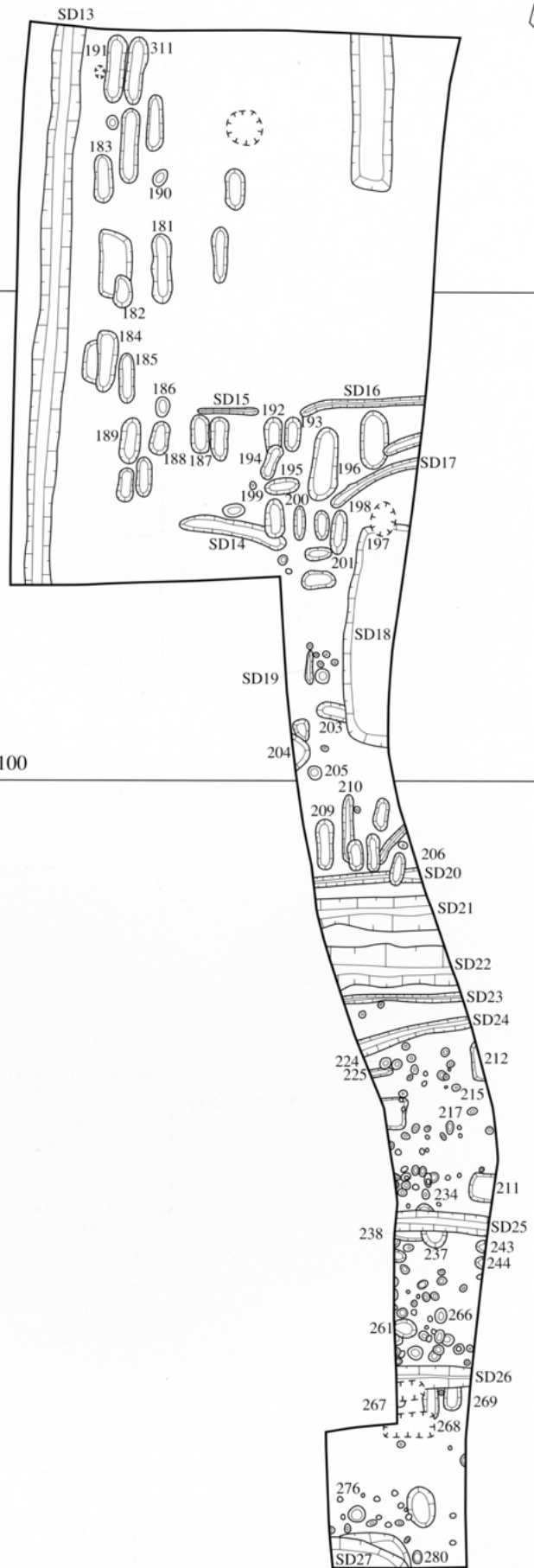
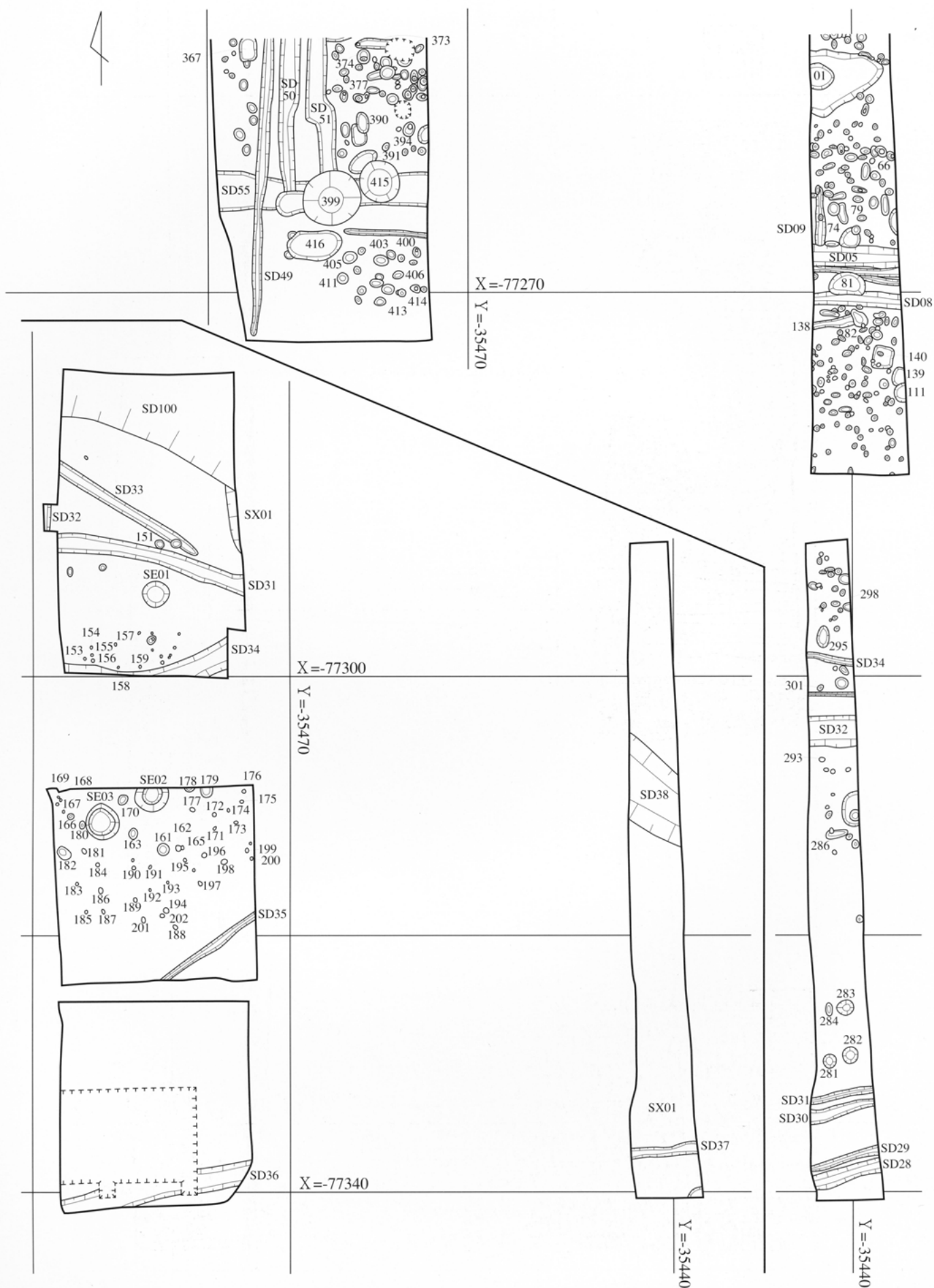


図6 遺構図1 (1:400)



右上：図8 遺構図3 (1:400) / 左下：図9 遺構図4 (1:400)

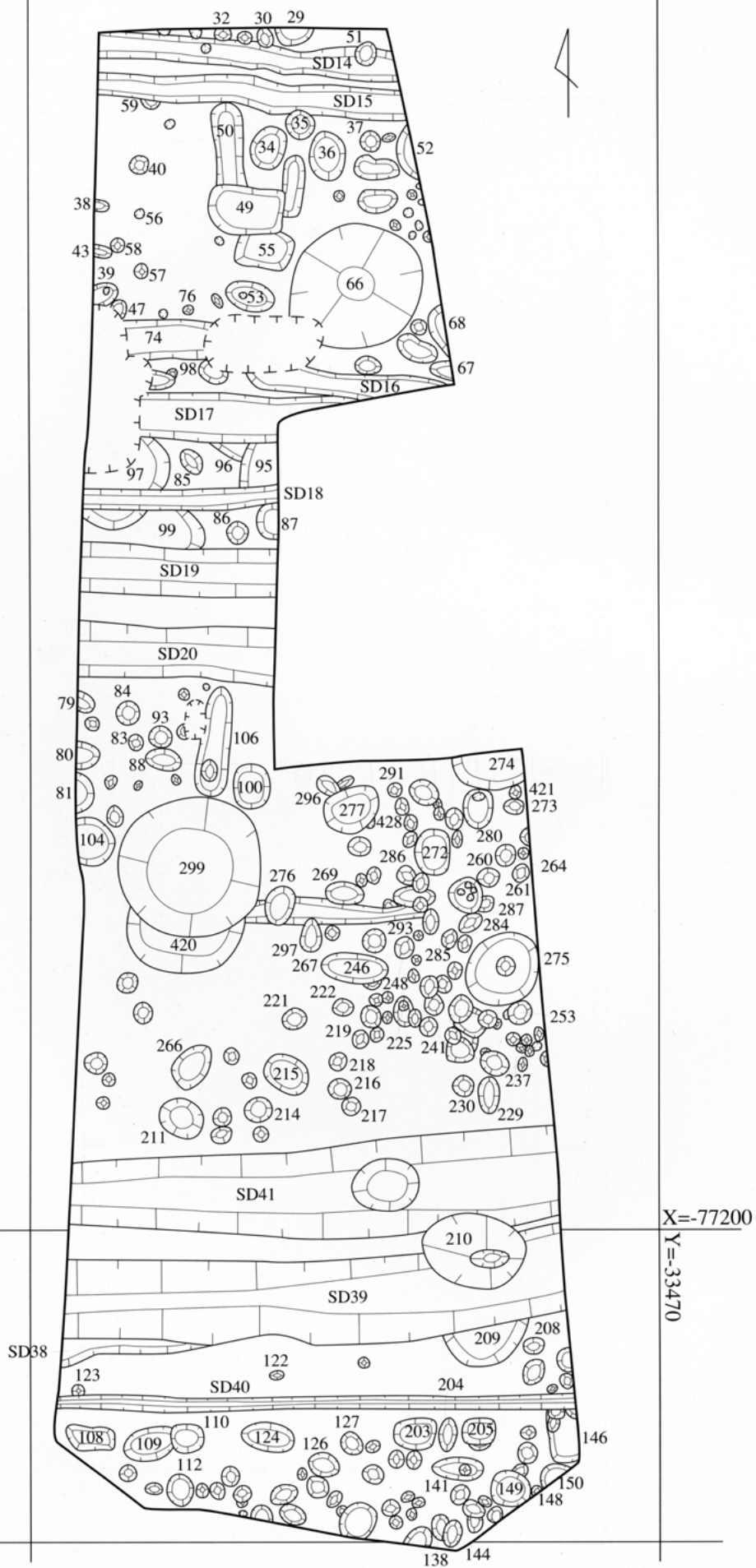


図 10 遺構図 5 (1 : 200)

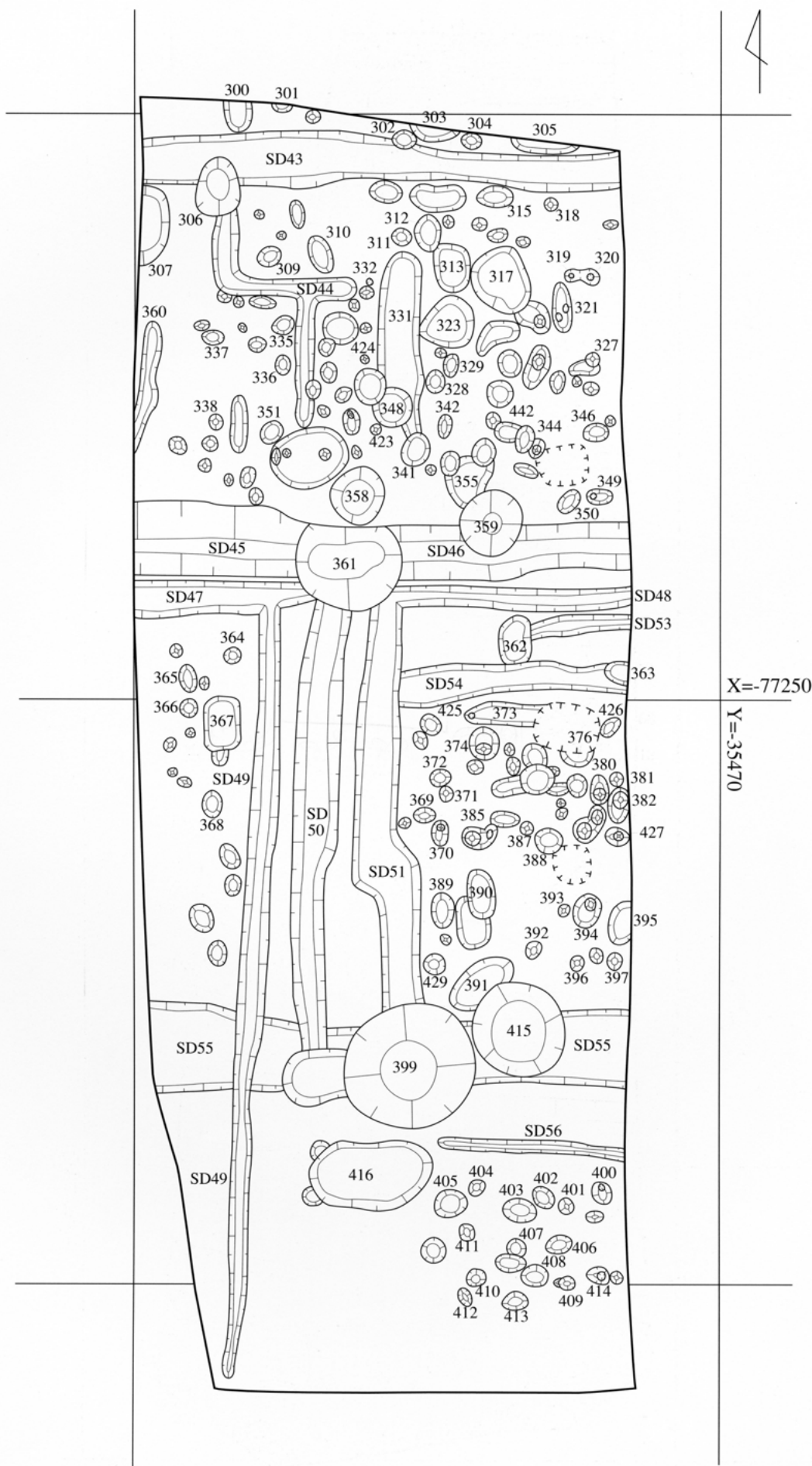


図 11 遺構図 6 (1:200)

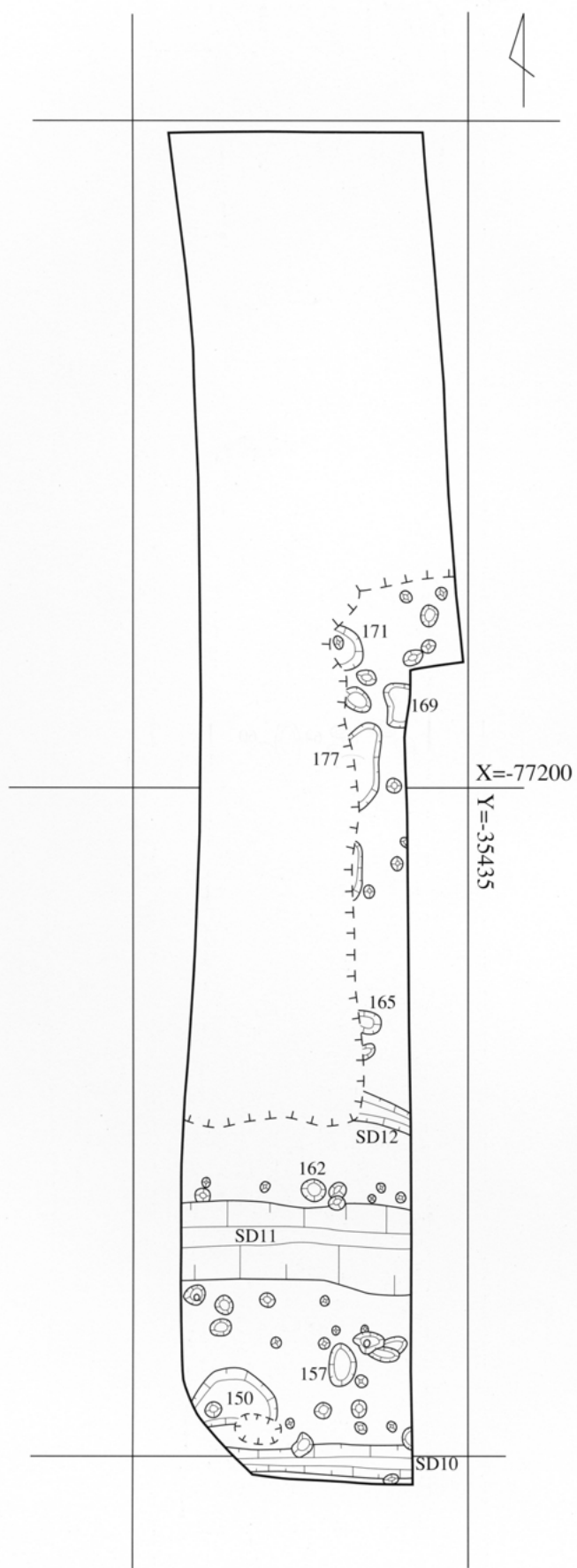


図 12 遺構図 7 (1:200)

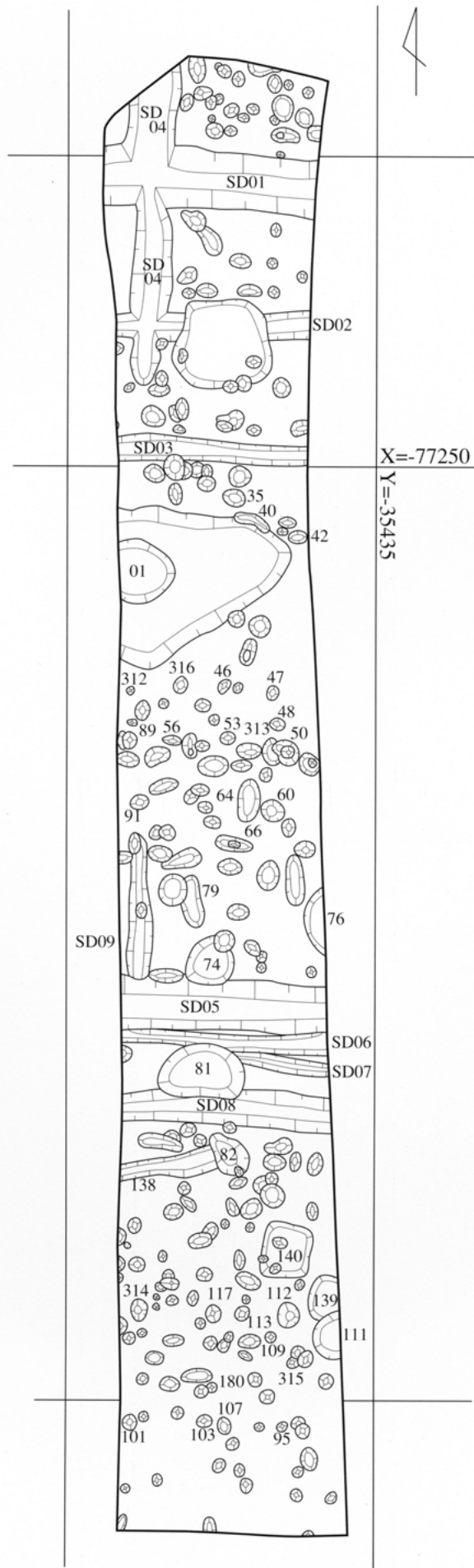


図 13 遺構図 8 (1 : 200)

3 古墳時代の遺構

3-1 溝 (SD)

SD31 95Bb 区の下面で検出された遺構 (図 14)。幅 118 cm、深さ 29 cm の東西方向の溝で、東に行くにしたがってやや南に曲がっていく。

炭化物層をはさんで上層にはオリブ黒色粘土が、下層には灰色粘土が堆積している。下層からは松戸 I 式後半から II 式にかけての遺物が、上層からは宇田式中段階の遺物がまとまって出土している。

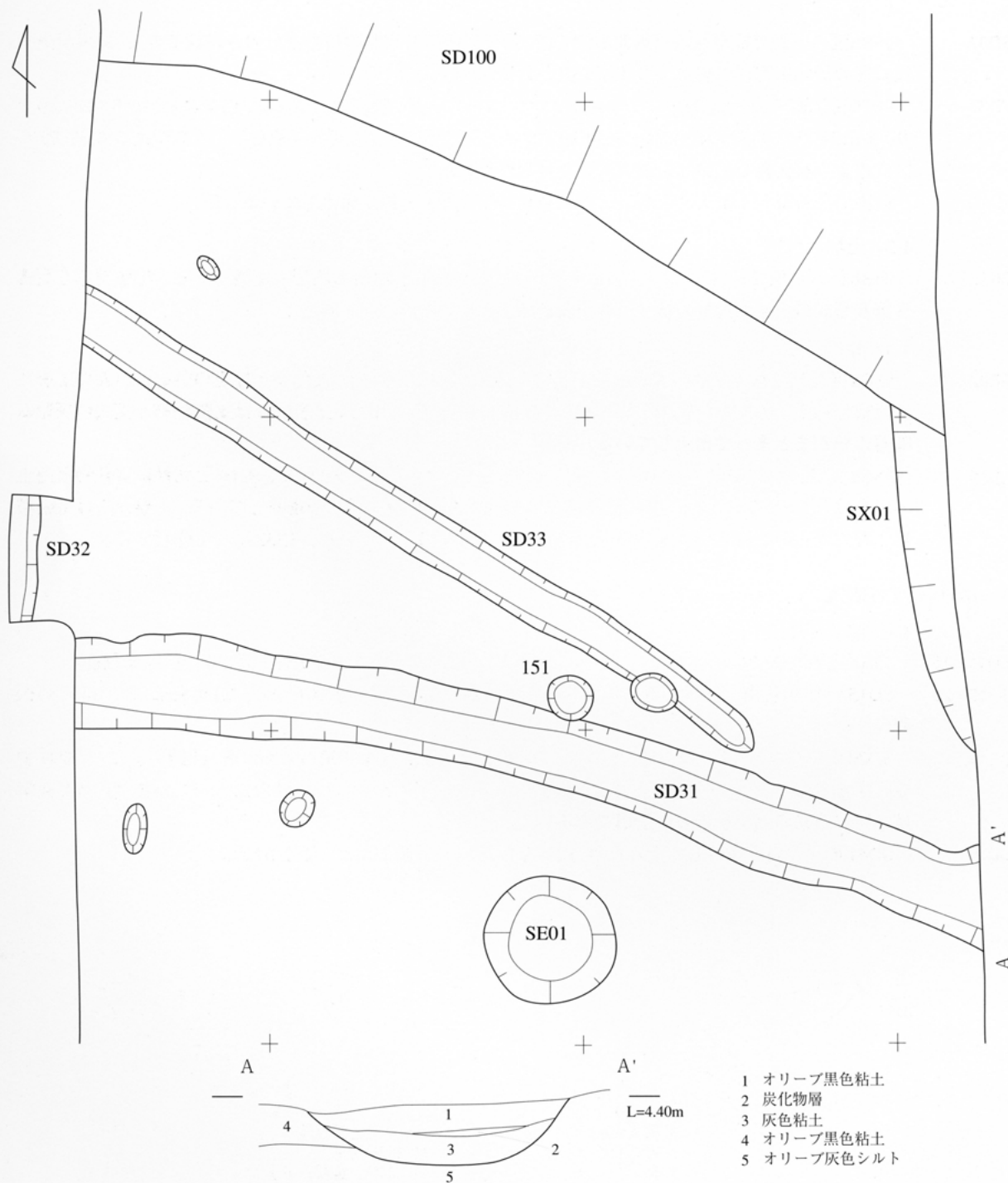


図 14 95Bb 区平面図 (1:100) および SD31 断面図 (1:40)

3-2 SX01 (96Cb区下面)、SX01・SD100 (95Bb区下面、図14)

95Bb2区や96Cb2区で確認された窪地状の地形。珪藻分析の結果からは止水域に住む珪藻がまともってみられ、池や沼といった環境が広がっていたと推測できる。

この南側に位置するのがSD31であり、SD31が居住域と池・沼的な環境とを区画するような性格の溝であった可能性がある。

遺物は各時代のものが混在していて流れ込みによるものと考えられるが、95Bb2区SX01からは縄文土器が、95Bb区SD100からは弥生土器が出土している。

4 中世前期の遺構

4-1 溝 (SD)

SD32 95Bb区の下面で検出された南北方向の溝。調査区西端で東側の肩の部分のみ確認できた。尾張型第5型式期の灰釉系陶器の碗や2型式期の甕 (常滑産) が出土している。

SD37 96Cb区下面の南端に位置する幅91cm、深さ23cmの東西方向の溝である。SD37の北側がSX01にあたり、またSD37より南は若干高くなっていくようである。こうした点から考えると古墳時代のSD31 (95Bb区) のような区画を意識した溝であった可能性もある。

遺物は尾張型第4型式～第6型式の灰釉系陶器の碗や白磁が出土している。

4-2 土坑 (SK)

SK151 95Bb区の下面で、SD31のすぐ北側にある径70cm、深さ23cmの円形の遺構である。尾張型第5型式～第6型式の灰釉系陶器の碗や伊勢型鍋が出土している。

4-3 井戸 (SE)

SE02 95Ca区北端で検出された井戸 (図16)。径2m、深さ2.8mで、炭化物と焼土の層をはさんで上層には黒褐色粘土、下層には黒褐色または黒色の粘土が堆積しており、上層からは尾張型第5型式の灰釉系陶器の碗がまともって出土している。

SE03 95Ca区でSE02の南西に位置する井戸 (図16)。径2.7m、深さ2.3mで、SE02と同様に炭化物と焼土の層をはさんで上層に黒褐色粘土、下層に黒褐色または黒色の粘土が堆積している。上層からは尾張型第4型式から第5型式の灰釉系陶器・碗がまともって出土しており、SE02にやや先行する。

5 中世後期の遺構

5-1 溝 (SD)

SD14・15 95Aa区の北端で検出された東西方向に並行して走る溝。幅70～90cm、深さ21～24cm程度。

SD19・20 SD15の15m程南に位置する溝で、やはり東西方向に並行して走っている。幅160cm、深さ34～49cm程度。

SD41 SD20からやはり15m程南に位置する、幅280cm、深さ71cmの東西方向の溝 (図15)。このSD41や並行するSD39、これらの溝と切り合い関係にあるSK210、さらに95Ba区のSD45やSD46といった遺構は、特に遺物の出土量の多い遺構である。

SD39 SD41のすぐ南を並行して走る東西方向の溝 (図15)。幅270cm、深さ59cm。

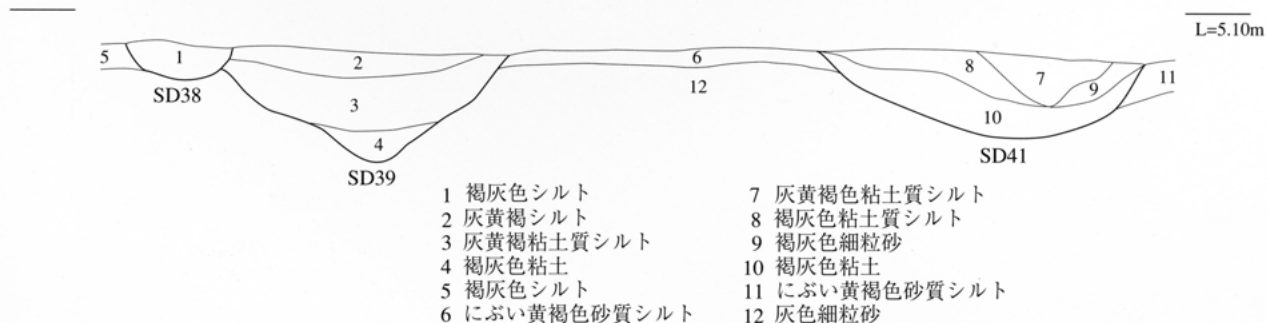


図15 95Ab区SD41・SD39断面図 (1:40)

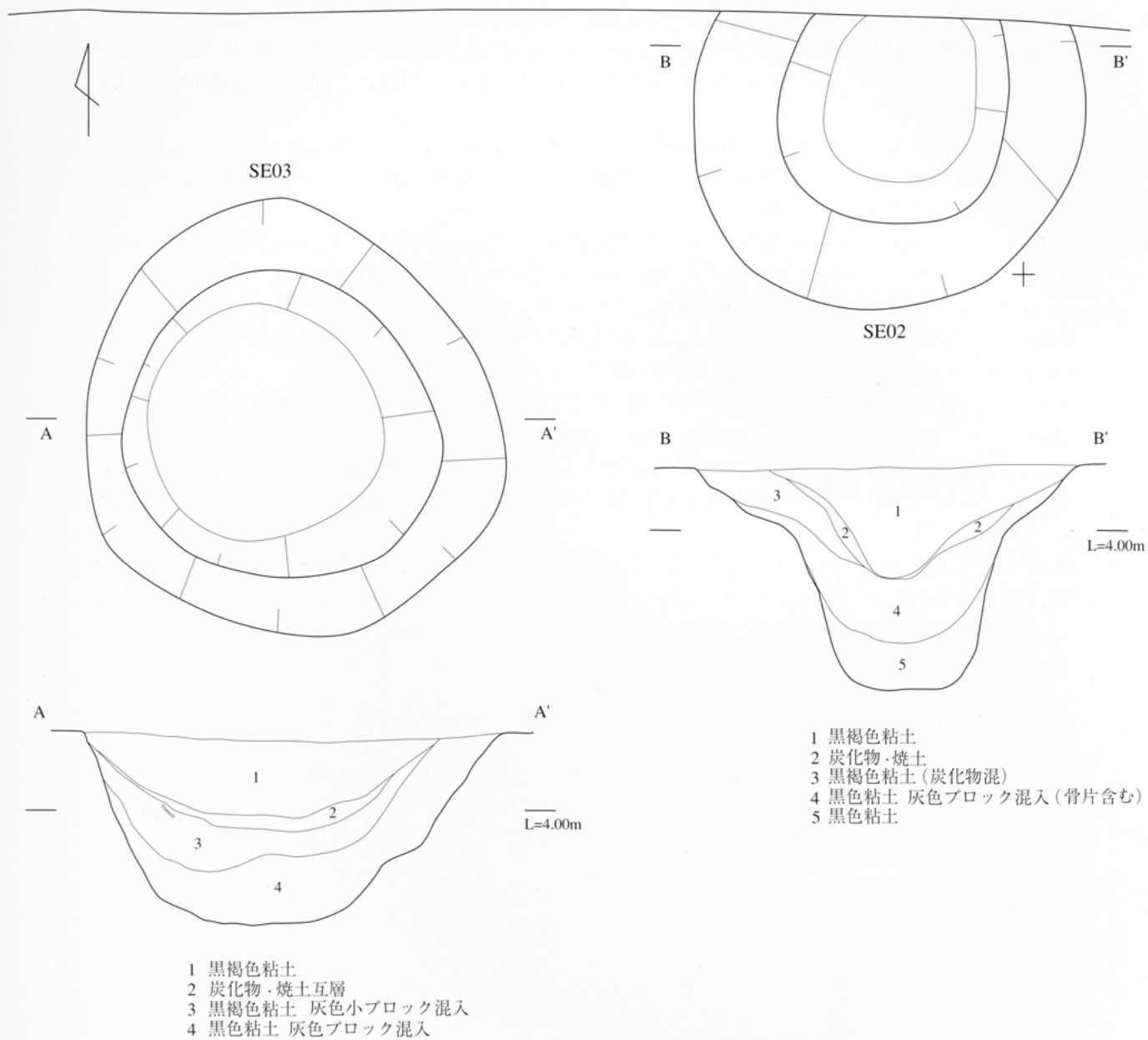


図 16 95Ca 区 SE02・03 平面図および断面図 (1:40)

- SD43 95Ba 区の北端を東西方向に走る幅 105 cm、深さ 43 cm の溝。SD39 からは 27 m 程南に位置する。
- SD45・46 SD43 の南約 12 m の所に位置する溝で、SD45 と SD46 は一続きの溝と考えられる (図 17)。幅 140 ~ 235 cm、深さ 66 cm 程で、東西方向に走る溝である。

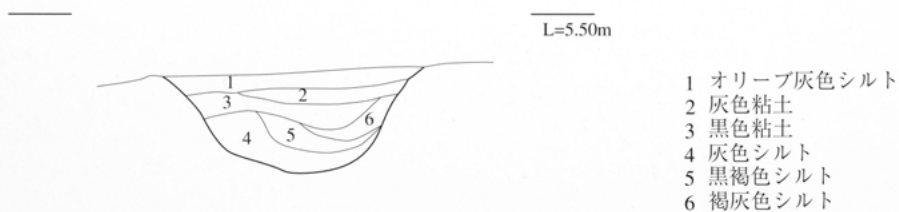


図 17 95Ba 区 SD46 断面図 (1:40)

- SD47・48 SD45・SD46 のすぐ南を並行して走る東西方向の溝。幅 62 ～ 132 cm、深さ 20 ～ 24 cm 程度。
- SD49・50・51 SD47 および SD48 につながる南北方向の溝群。東西方向の溝に比べれば規模は小さいと言える。その中で幅 142 cm、深さ 23 cm の SD49 からは、古瀬戸後期後半の内耳鍋など古瀬戸の煮炊具がまとまって出土している。
- SD55 SD46 から南に約 15 m の所に位置する東西方向の溝。幅 260 cm、深さ 21 cm と他に比べて浅い溝である。しかしながら、この溝を境にして南側ではこの段階の遺構がなくなってしまう点は注目すべき点と言えよう。
- SD01 96Ca 区は西尾張中央道をはさんで 95Ba 区の東に位置する調査区である。95Ba 区と同様に東西方向の溝がいくつか確認されており、遺物の時期も同時期であるが、出土量は全体的に少ない傾向にある。幅 162 cm、深さ 71 cm の SD01 もそのうちの 1 つである（図 18）。
- SD02 SD01 の南約 4 m の所に位置する東西方向の溝。幅 64 cm、深さ 6 cm とかなり浅い。
- SD04 SD01 と SD02 を結び南北方向に走る幅 120 cm、深さ 34 cm の溝。
- SD05 SD01 の南約 25 m の所に位置する東西方向の溝（図 19）。幅 170 cm、深さ 62 cm。
- SD08 SD05 のすぐ南を並行して走る東西方向の溝（図 19）。幅 110 cm、深さ 53 cm。
- SD32 96Cb 区の北側で検出された幅 355 cm、深さ 45 cm の東西方向の溝。SD08 の南約 31 m に位置する。SD32 の南側ではぱったりと遺構が見られなくなるため、95Ba 区の SD55 と同じ状況にあるものと思われる。
- SD28・29・30・31 96Cb 区南端を並行して走る北西－南東方向の溝。他の溝とは方向が異なっている点や、調査区中央部、SD32 と SD31 との間にはほとんど遺構がないことから考えると、他の中世後期の遺構群とはやや性格の異なる遺構と言えそうである。

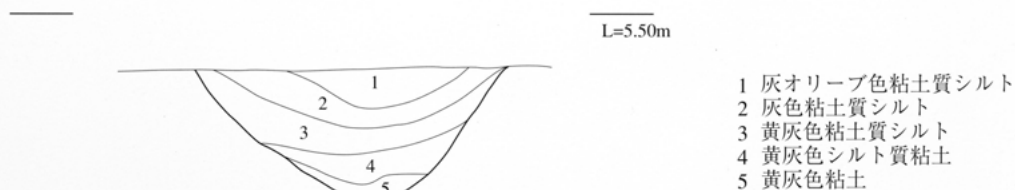


図 18 96Ca 区 SD01 断面図（1：40）

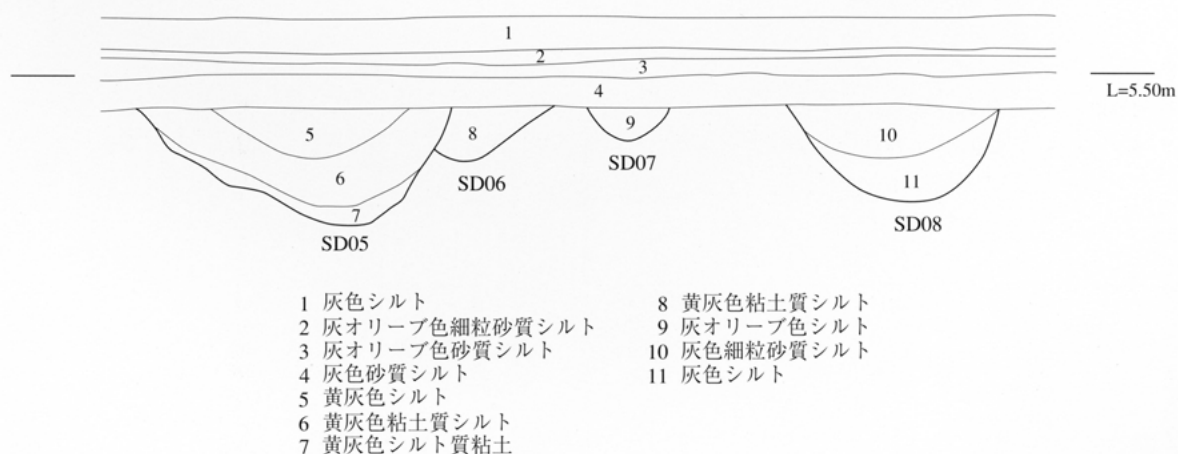


図 19 96Ca 区 SD05・06・07・08 断面図（1：40）

- SD11 96Db区は西尾張中央道をはさんで95A区の東に位置する調査区である。大半がすでに破壊されてしまっているため全体像は不明だが、やはり東西方向の溝が確認されている。SD11は幅220cm、深さ64cmで、96Ca区のSD01などと同様に西側の調査区と比べると遺物量は少ない(図20)。
- SD13 96Ea区の北西部分で検出された南北方向の溝。幅155cm、深さ50cmで、南北方向の溝が全体的に規模の小さいものが多いのと比べると、SD13は東西方向の溝とほぼ同規模であるのが特徴である。
- SD21 96Ea区中央部で検出された幅140cm、深さ50cmの東西方向の溝(図21)。この溝から北側では東西方向の溝は見られなくなり、南北方向を軸線とした楕円形の土坑が多数並ぶなど、遺構・遺物が全体的に希薄になると共に、遺構の性格も異なってくるようである。そういった点では96Cb区SD32や95Ba区SD55と同じような状況にあるといえる。
- SD22 SD21の南側を並行して走る東西方向の溝(図21)。幅257cm、深さ44cm。
- SD25 SD22の南約14mの所に位置する東西方向の溝。幅115cm、深さ21cm。
- SD26 SD25の南約8mの所に位置する東西方向の溝。幅80cm、深さ30cm。

5-2 土坑(SK)

溝で区画された内部には多数の土坑が検出された。すべてについて細かく時期を特定できないのだが、大まかに見て調査区の南北両端に近い土坑ほど比較的古い段階の遺構が多いように思われる。

- SK34 95Aa区の北側、SD15の南に位置する平面楕円形の土坑。東濃型明和1号窯式の灰釉系陶器などが出土している。
- SK53 95Aa区のほぼ中央に位置する平面楕円形の土坑。東濃型明和1号窯式の灰釉系陶器などが出土している。
- SK99 95Aa区の土坑で、SD19に切られている。東濃型明和1号窯式の灰釉系陶器・椀がまとめて出土している。



図20 96Db区SD11断面図(1:40)

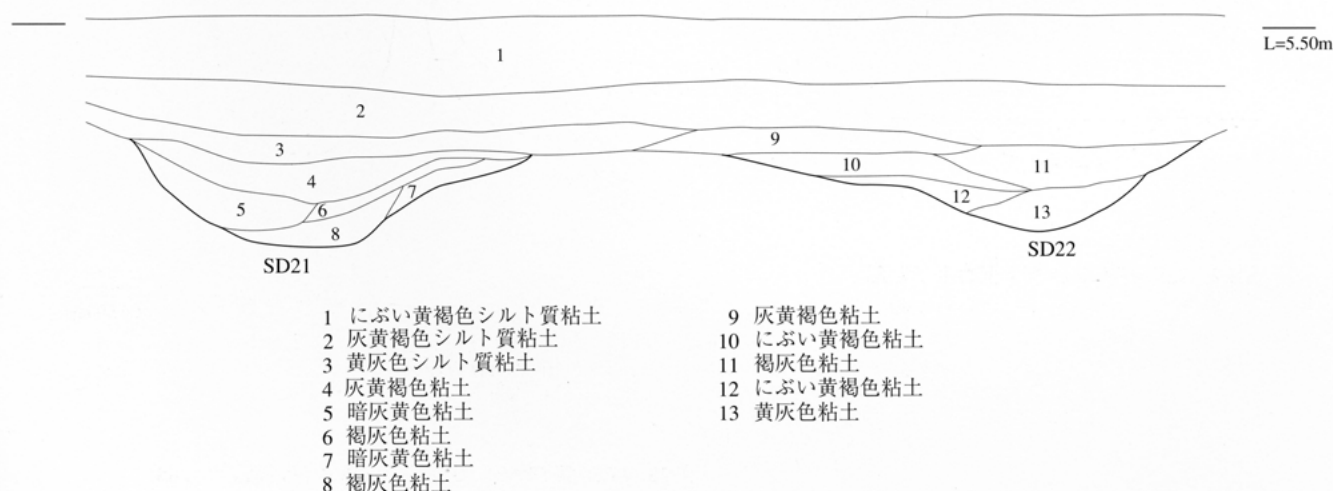


図21 96Ea区SD21・22断面図(1:40)

- SK210 95Ab 区の土坑で、SD41 などと同様に中世後期の段階の遺物がまとまって出土している。
- SK301 96Cb 区 SD22 の北側に位置する平面楕円形の土坑。東濃型明和 1 号窯式の灰釉系陶器などが出土している。
- SK189・191・311 96Ea 区北側で検出された土坑で、図 22 および図 23 に示したのはその代表的な例。大きさは長軸 2～4 m、短軸 1 m 程度で、平面形は楕円形を基本とし、深さは 10～20 cm 程度の浅いものである。遺物はほとんど出土していない。こういった形状の土坑が SD21 より北側の区域に多数存在しており、南北方向に軸線をそろえて並んでいる。
- SK224 96Ea 区の土坑で、SD22 と SD25 のほぼ中間に位置している。13 世紀末～14 世紀前半頃と考えられている羽釜型の土師器の鍋が出土している。
- SK267 96Da 区と Ea 区の境に位置する土坑。東濃型明和 1 号窯式や尾張型第 7 型式の灰釉系陶器の椀や、古瀬戸前Ⅱ期の四（三）耳壺、常滑産の甕などがまとまって出土している。

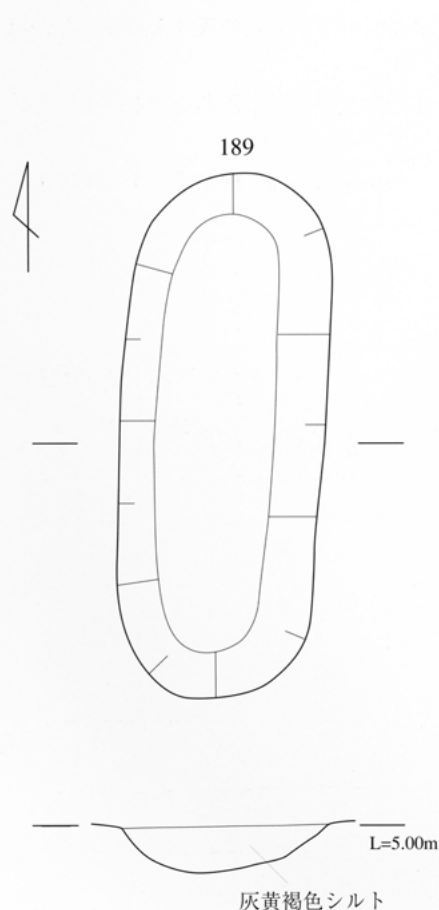


図 22 96Ea 区 SK189 平面図および断面図 (1:40)

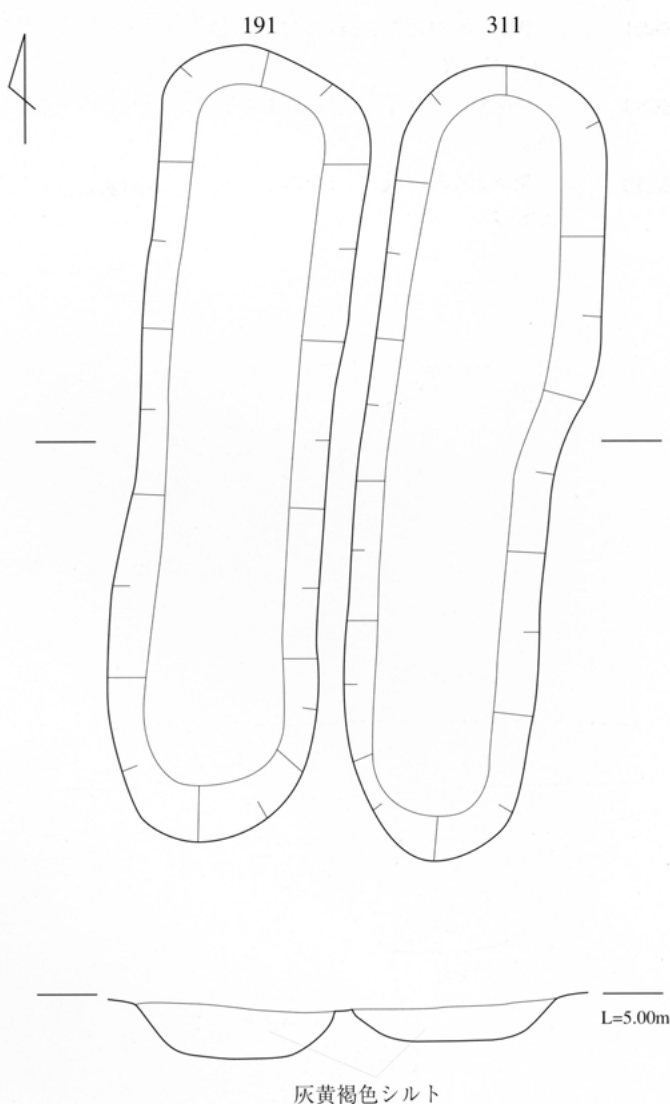


図 23 96Ea 区 SK191・311 平面図および断面図 (1:40)

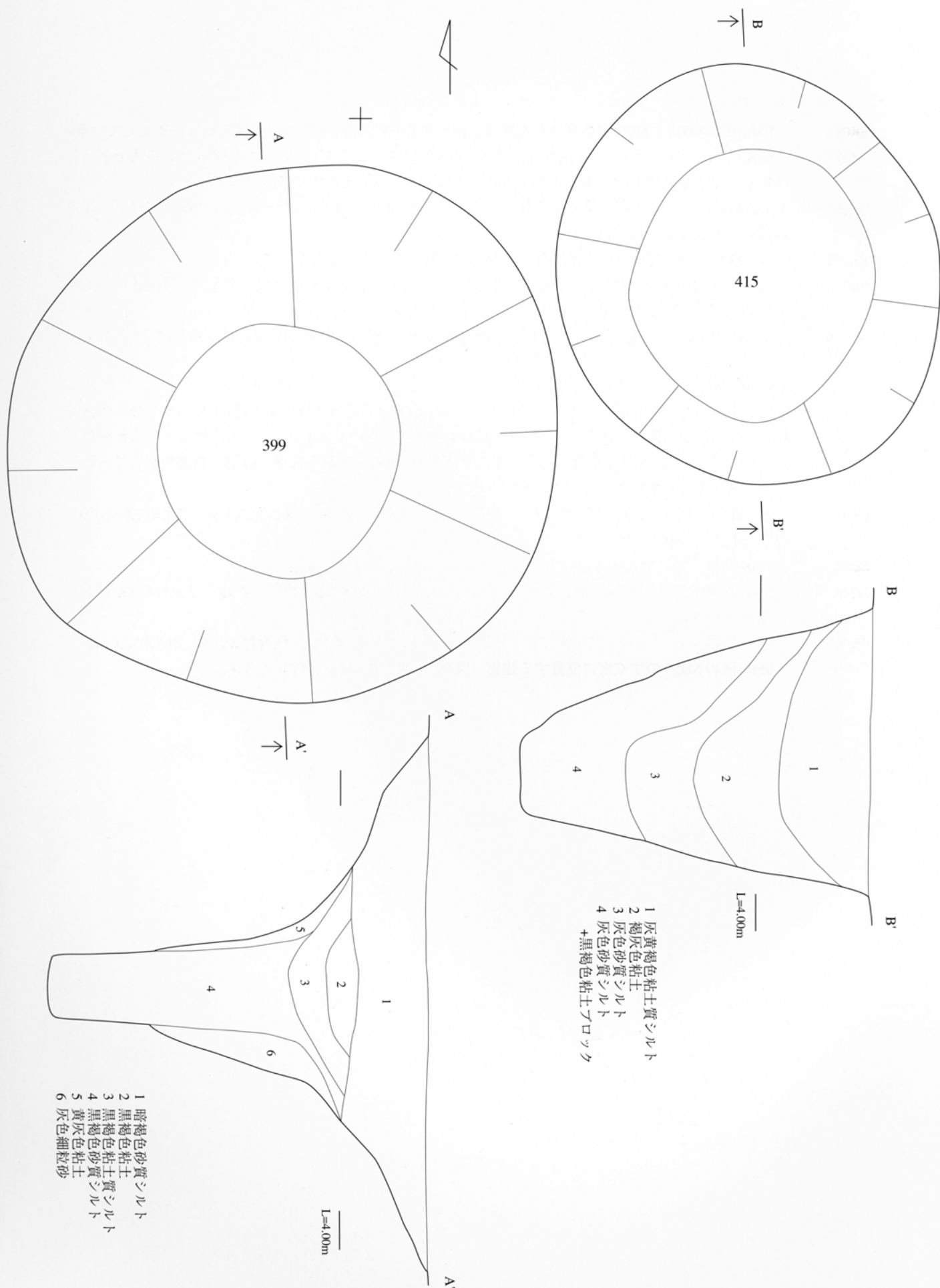


図 24 95Ba 区 SK399・415 平面図および断面図 (1:40)

5-3 井戸

- SK66 95Aa区のSD15とSD19に区画された区域に位置する井戸。底の部分から曲物の破片が出土している。
- SK275 95Ab区のSD20とSD41に区画された区域に位置する井戸（図25）。深さ140cm以上で、曲物を確認している。東濃型大畑大洞4号窯式古段階の灰釉系陶器の椀がまとまって出土している。
- SK299 SK275の西約10mの所に位置する井戸。東濃型大畑大洞4号窯式古段階の椀などの他、口縁部に卸目のはいった椀も出土している。
- SK420 SK299に切られている。東濃型明和1号窯式の椀がまとまって出土している。
- SK399 95Ba区の井戸で、SD55と切り合い関係にある（図24）。下層から東濃型大畑大洞4号窯式古段階の灰釉系陶器の椀などが出土している。
- SK415 SK399のすぐ東にある井戸（図24）。東濃型大洞東1号窯式の灰釉系陶器の椀などが出土している。

5-4 掘立柱建物（SB）

先程も述べたように調査区内は一面に小土坑が広がるといった状況であり、以下に述べる掘立柱建物についても溝との関係（方向性など）を重視して想定したものである。いずれの建物もきちんと柱が並ぶといったものではなく、遺物の時期幅から考えても、実際にはさらに多くの掘立柱建物が立てられたり、建て替えられていたと考えるべきであろう。

- SB01 95Ab区のSD20とSD41に区画された区域に位置する建物（図26）。東西約5.7m、南北約2.6mだが、さらに北に延びる可能性もある。
- SB02 SB01のすぐ南に隣接する建物（図26）。東西約5.8m、南北約4.8m。
- SB03 SD43の南側に位置する建物（図27）。東西約7.5m、南北約5.1m。建物の西側にはSD43へとつながるSD44がある。
- SB04 95Ba区のSD46とSD55に区画された区域に位置する建物（図28）。東西約6.2m、南北約8.1m。
- SB05 95Ba区のSD55のすぐ南に位置する建物（図29）。東西約4.3m、南北約3m。

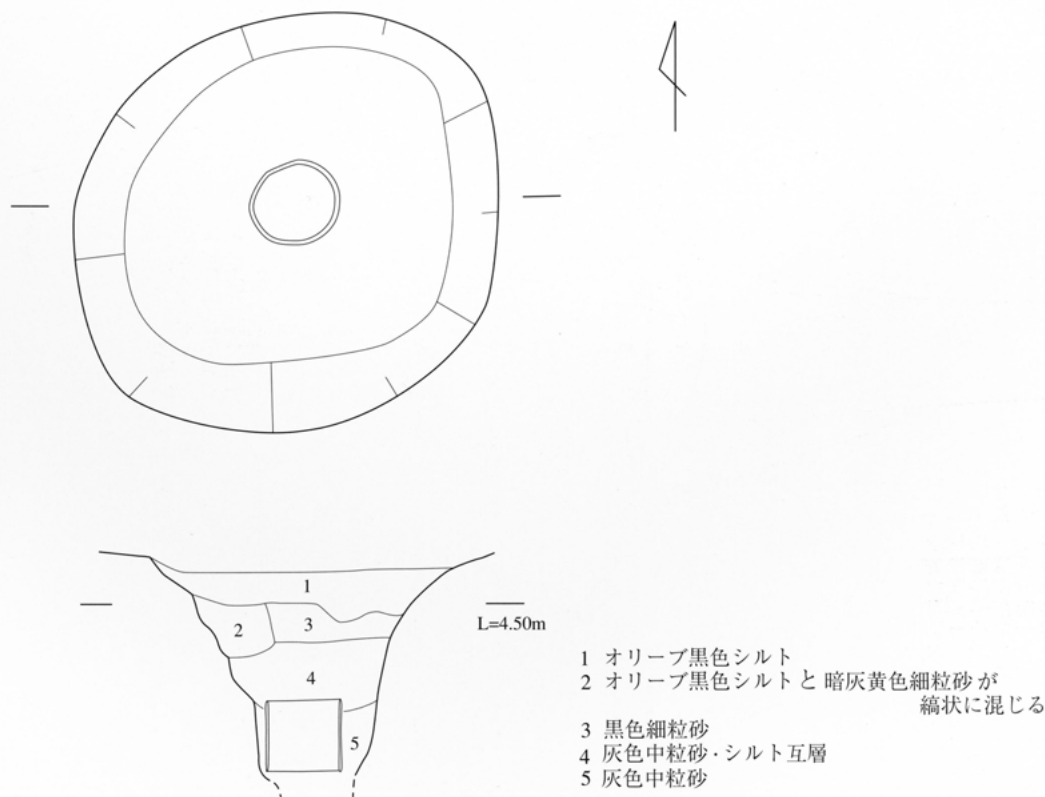


図25 95Ab区SK275平面図および断面図（1：40）

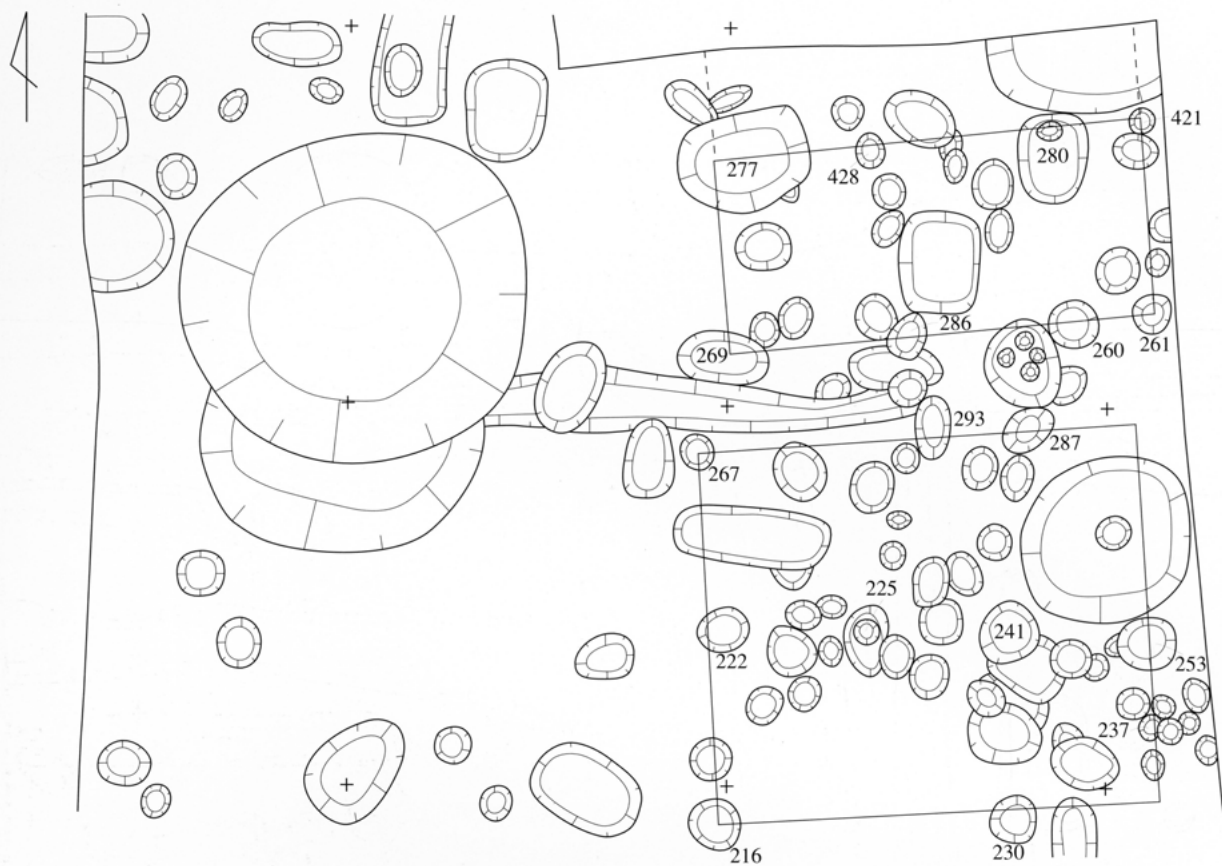


图 26 95Ab 区 SB01·02 平面图 (1 : 100)

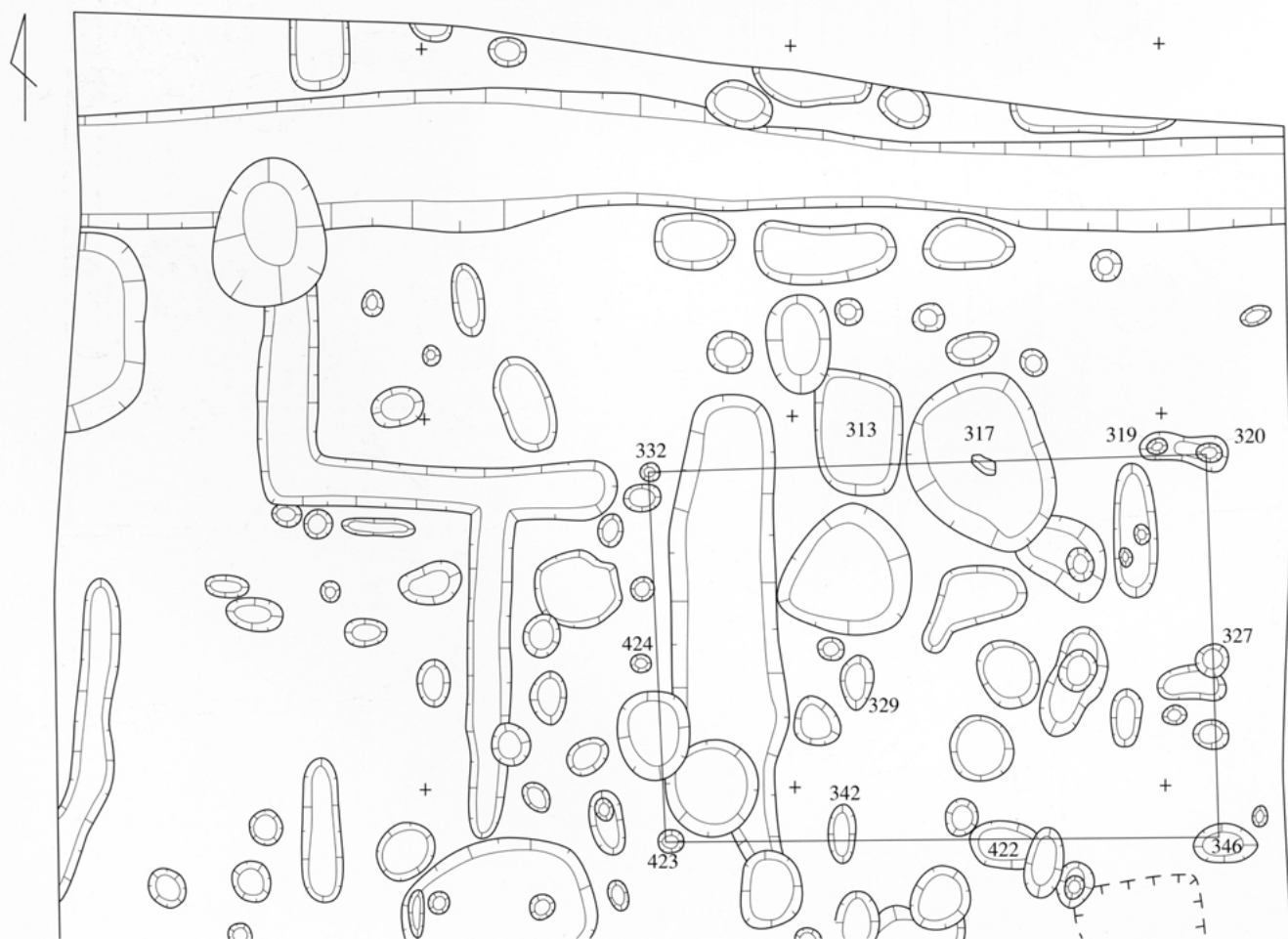


图 27 95Ba 区 SB03 平面图 (1 : 100)

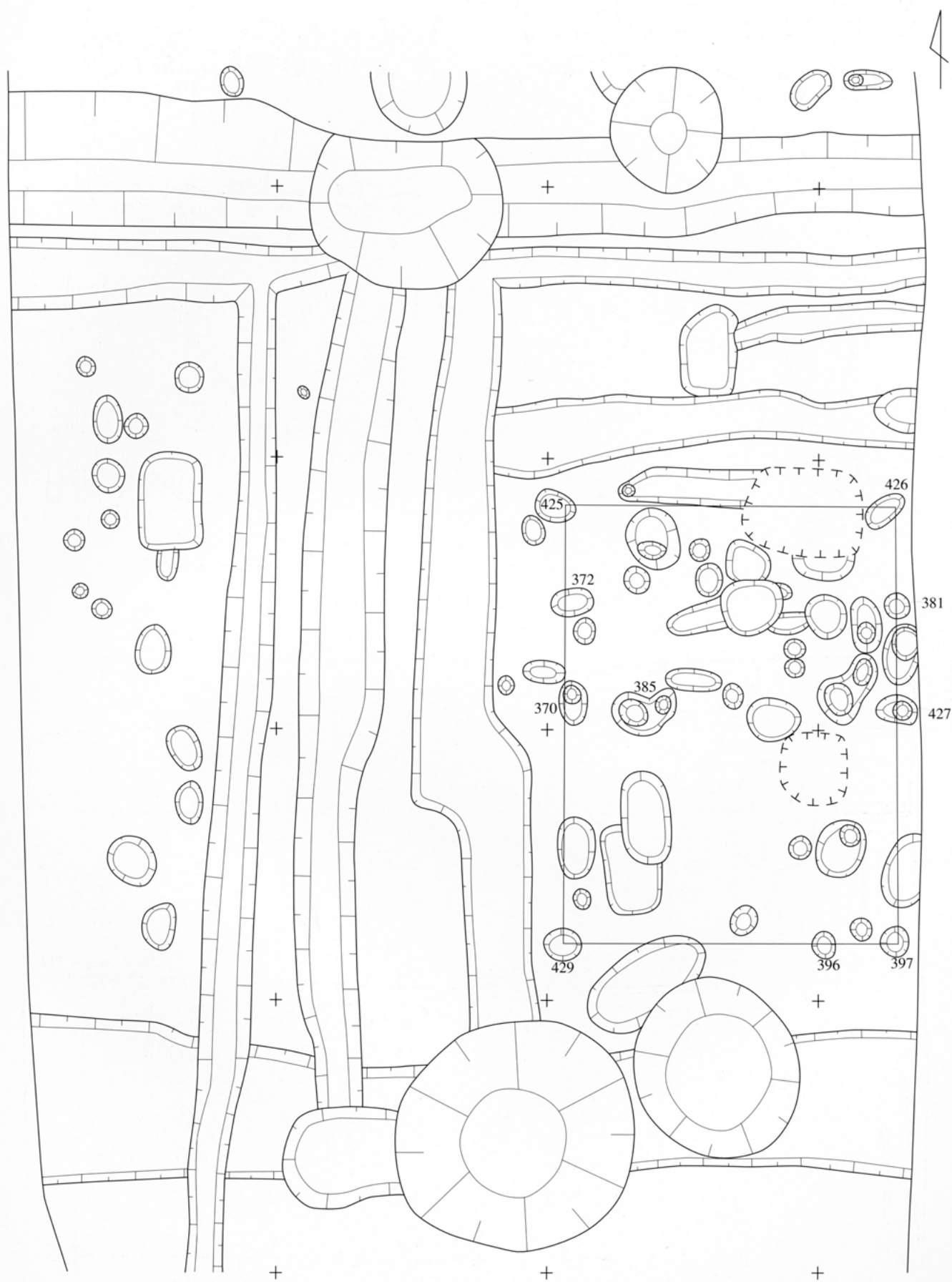


图 28 95Ba 区 SB04 平面图 (1:100)

SB06 96Ca 区の SD05 の北側に位置する建物 (図 30)。東西約 4.5 m、南北約 3.8 m だが、さらに西 (または東) に延びる可能性もある。

SB07 96Ca 区の SD08 の南側に位置する建物 (図 31)。東西約 5.1 m、南北約 3.6 m だが、さらに西 (または東) に延びる可能性もある。

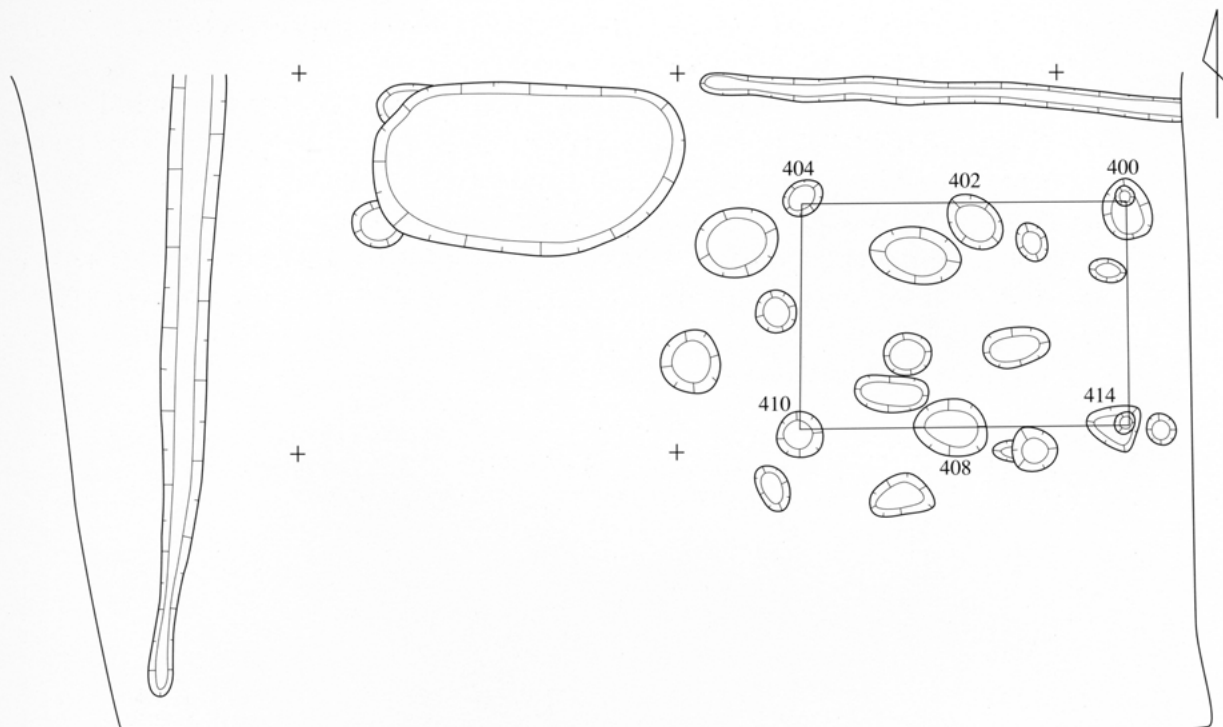


図 29 95Ba 区 SB05 平面図 (1 : 100)

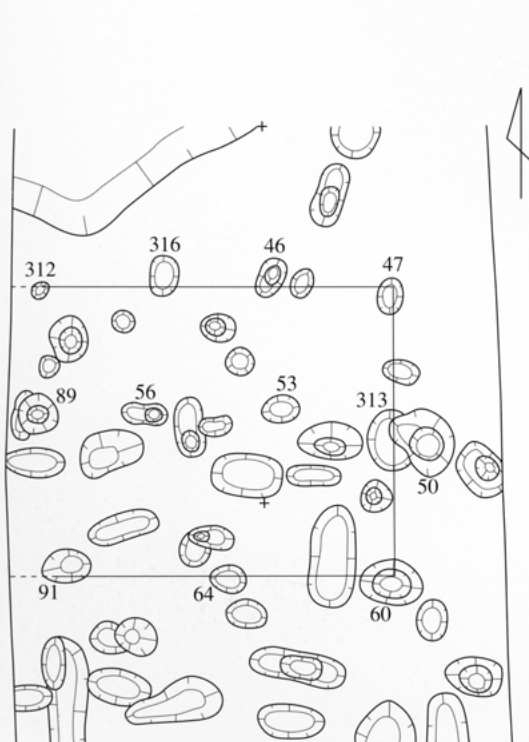


図 30 96Ca 区 SB06 平面図 (1 : 100)

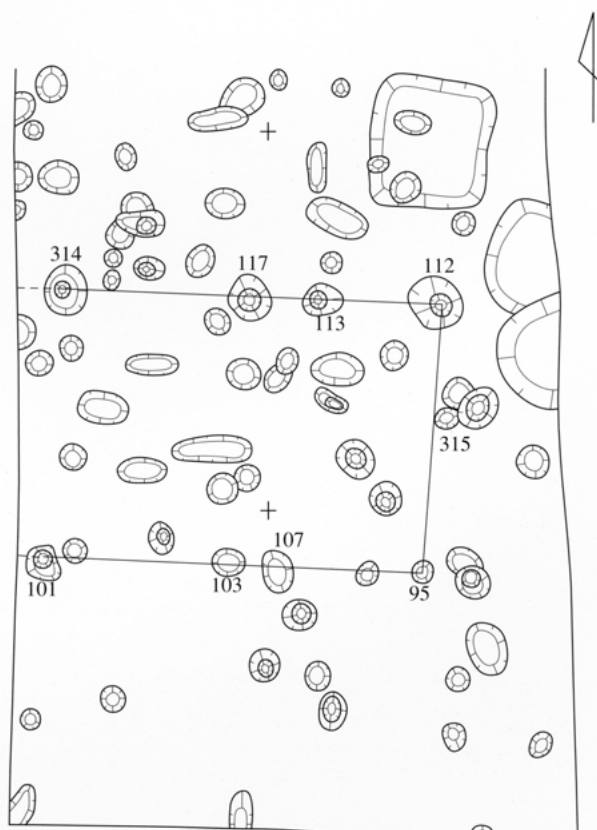


図 31 96Ca 区 SB07 平面図 (1 : 100)

Ⅲ 遺物

1 縄文時代および弥生時代

95Bb区の下面で縄文土器（5）や弥生土器（6）、さらに敲き石や石刀、石鏃などの石器が出土している（1～4）。1と3は古墳時代の溝であるSD31の下層から、その他もSD100およびSX01からの出土であり、この時期に該当する遺構は確認できなかった。

5は口縁がゆるく外傾する深鉢形土器。口縁端部を面取りし、刻目を施している。稲荷山式段階のものである。遺構に伴うものではないが、標高4m前後の黒色粘土層から出土している。ちなみにSX01およびSD100は池・沼的な環境であったと考えられるが、この黒色粘土層からはヨシ属およびイネ属の植物珪酸体が多数確認されており、近辺に水田が広がっていた可能性がある。

同時期の土器は大平遺跡や下津城などで出土しているが、大平遺跡では黄褐色砂層の下、標高3.7m前後の青灰色粘土層から（註1）、下津城では標高4m前後の黒色土層中から（註2）と、いずれの場合も現在の地表面よりかなり深い位置での出土である。

6はⅣ期前半の土器で、西三河からの搬入品である。

註1 伊藤和彦編（1990）『大平遺跡発掘調査報告書』尾西市教育委員会

註2 日野幸治・北條献示編（1986）『下津城発掘調査報告書（Ⅱ）』稲沢市教育委員会

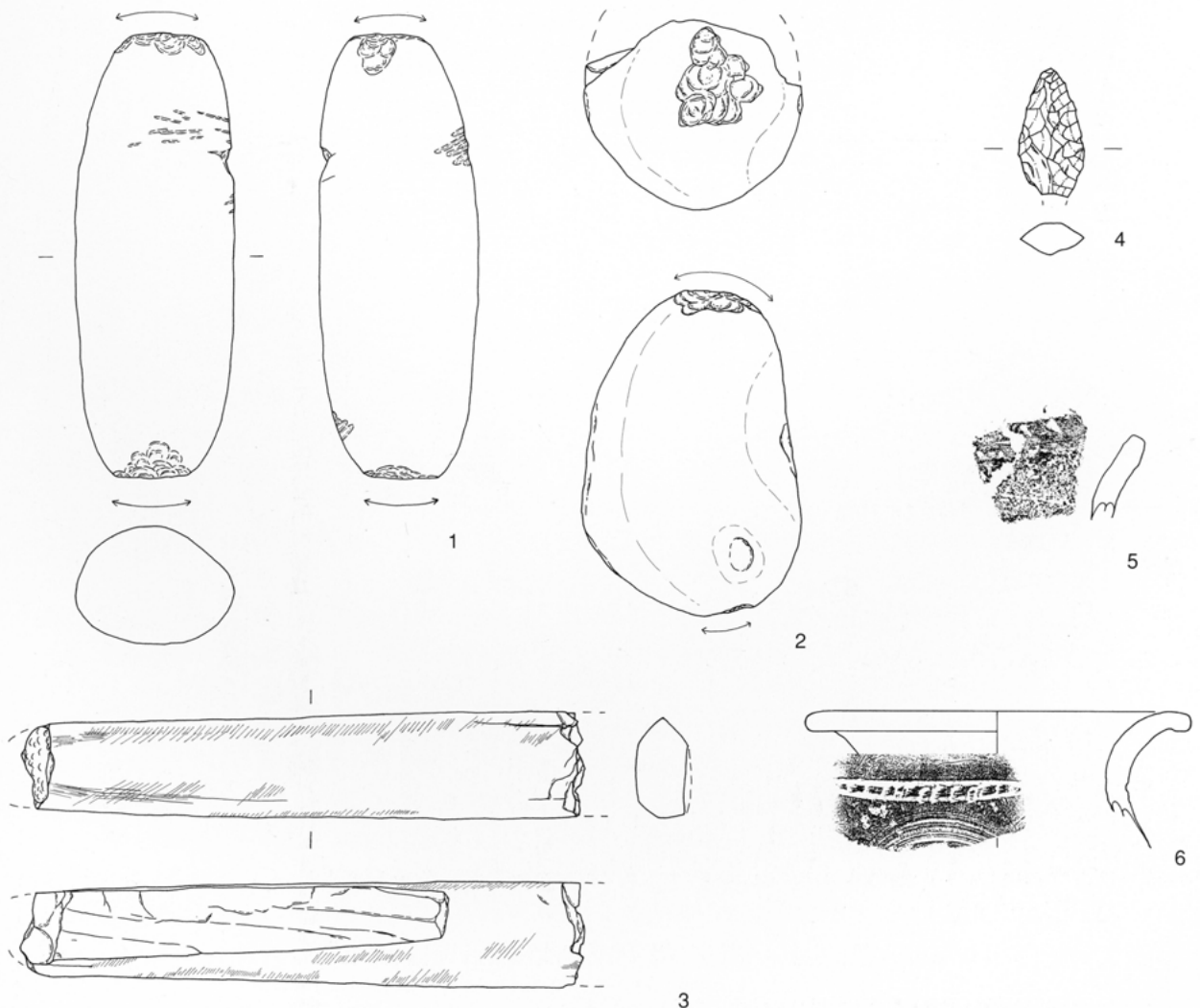


図32 縄文時代および弥生時代の遺物（1～3=1：2、4=2：3、5～6=1：3）

2 古墳時代 (註1)

2-1 96Ca 区 SX01 (図 33)

SX01 7～14は96Ca区下面のSX01出土の遺物で、廻間Ⅱ式期と宇田式期の資料に二分できる。7・8はS字甕B類の体部上半から口縁部にかけての資料で、形態的な特徴からいずれも廻間Ⅱ式後半期に所属するものと思われる。その内で7は体部表面のヨコハケが頸部付近にまで見られ、口縁端部には明瞭な平坦面が残り、S字甕B類中段階の資料と考えられよう。それに比べて8は、器壁が均質的になり頸部調整が見られるなど、S字甕B類新段階の特色が見られる。

9は口縁部が立ち上がる宇田型甕3類の資料。10～14は須恵器で、その内の10・11は有蓋高杯。12～14は杯身で、端部の調整は段をもつ13と丸く整える12・14が見られる。9～14の資料は宇田式中期、尾張型須恵器Ⅰ－4段階の資料に所属するものと考えられよう (註2)。

2-2 95Bb 区 SD31 (図 33～36)

95Bb区下面のSD31は大きく上下の二層に分離でき、その内の上層には土師器・須恵器がまとまって出土している。SD31には25のようなヨコミガキを持つ直口壺のような、廻間様式に所属する資料が数点見られる。しかしこれらは二次的な混入と考えることができ、SD31の掘削は下層の遺物の中核をなす松河戸式段階と想定することができよう。

SD31 下層 SD31下層の資料は溝内に点在するかたちで見られ、松河戸Ⅰ式後半期からⅡ式にかけての資料が中心である。15～18はS字甕D類であり、その形態的な特徴からは総じて松河戸Ⅰ式後半期に見られる資料が多い。20は甕Dで、口縁部に僅かに段をもつ丸底甕。体部外面は搔壁技法、内面は横方向の指頭ナデが見られる。21～24は小型土器で、21・22は口縁にわずかな段を持つ小型壺B3類で、23は口縁が体部最大径を凌駕する小型壺B1類に所属する資料である。26は高杯B2であり、屈曲部から脚端部までの長さが比較的長くかつ低いといった特徴や、調整痕からはやはり松河戸Ⅰ式後半期に所属する資料と考えたい。なお小型壺B3類は松河戸Ⅱ式期に顕著に見られる器種であり、この点を考慮すると、SD31下層は松河戸Ⅰ式の中段階に掘削され、Ⅱ式期にかけて継続的に使用された溝であると推測できよう。

SD31 上層 SD31上層の出土遺物は、土師器と須恵器に分けられる。その内の土師器については、宇田型甕と高杯によって占められ、他の器種についてはほとんど見られない。その他には72・73の韓式系土器の範疇で考えることができる資料も含まれる。27～46は宇田型台付甕 (宇田型甕) であり、41～46はその台部である。台部にはS字甕に見られた明瞭な折り返しが見られず、低く大きく開脚した形態が特徴であり、外面には宇田型甕特有のハケの痕跡が粗雑に残り、端部には指頭圧痕がそのまま残る。宇田型甕の形態は、ほぼ直線的に斜め方向に立ち上がる口縁部を有し、端部を水平方向に拡張する典型的な宇田型甕3類の資料で占められている。口縁内部にはわずかに内彎が残る。体部外面は粗い特有の羽状ハケ調整で、内面は横方向の板ナデ調整が見られる。口径の大きさからは3つに細分できるようである。最も小さいものは39の資料で、口径10cm前後、次に12・13cmと、15・16cmにまとまりが見られる。47～51は高杯で、杯部は段が不明瞭であり、碗形化が見られる。以上、土師器に含まれる資料は小碎片も含めて極く限定された器種のみによって構成されている。

52～54は須恵器有蓋高杯で、55・56は無蓋高杯であるが、55は尾張型須恵器には見られない形態である。52・53は脚部に透孔を穿たない典型的な尾張型須恵器の形態を留める。57・58は甕。59～71は須恵器蓋杯。59～65の杯蓋は、天井部の回転ヘラケズリが稜部近くまで施され、天井はやや高い。口縁端部の形状は、段を有する資料と、沈線あるいは内彎を呈する資料が見られる。66～71の杯身は全体に受部から底部にかけて斜めに浅い体部を有し、受部下には特徴的な屈折が見られる。口縁端部は段を有するもの、内彎・丸く整えるものなどがある。72は軟質で淡褐色を呈し、短く屈折する口縁を持つ鉢で、内面はヨコハケをナデによって調整する。外面は指あるいは板状工具によって整えている。73は壺であるが、瓦質焼成で、体部上端から口頸部にかけてカキ目が残り、体部外面は格子状タタキが施される。内面はタタキ痕跡を丁寧なナデ調整によって擦り消す。72・73は韓式系土器の範疇で考えられる資料と思われる。

註1 器種分類は赤塚 (1994) 「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集による

註2 岩崎直也 (1987) 「尾張型須恵器の提唱」『信濃』第39巻第4号

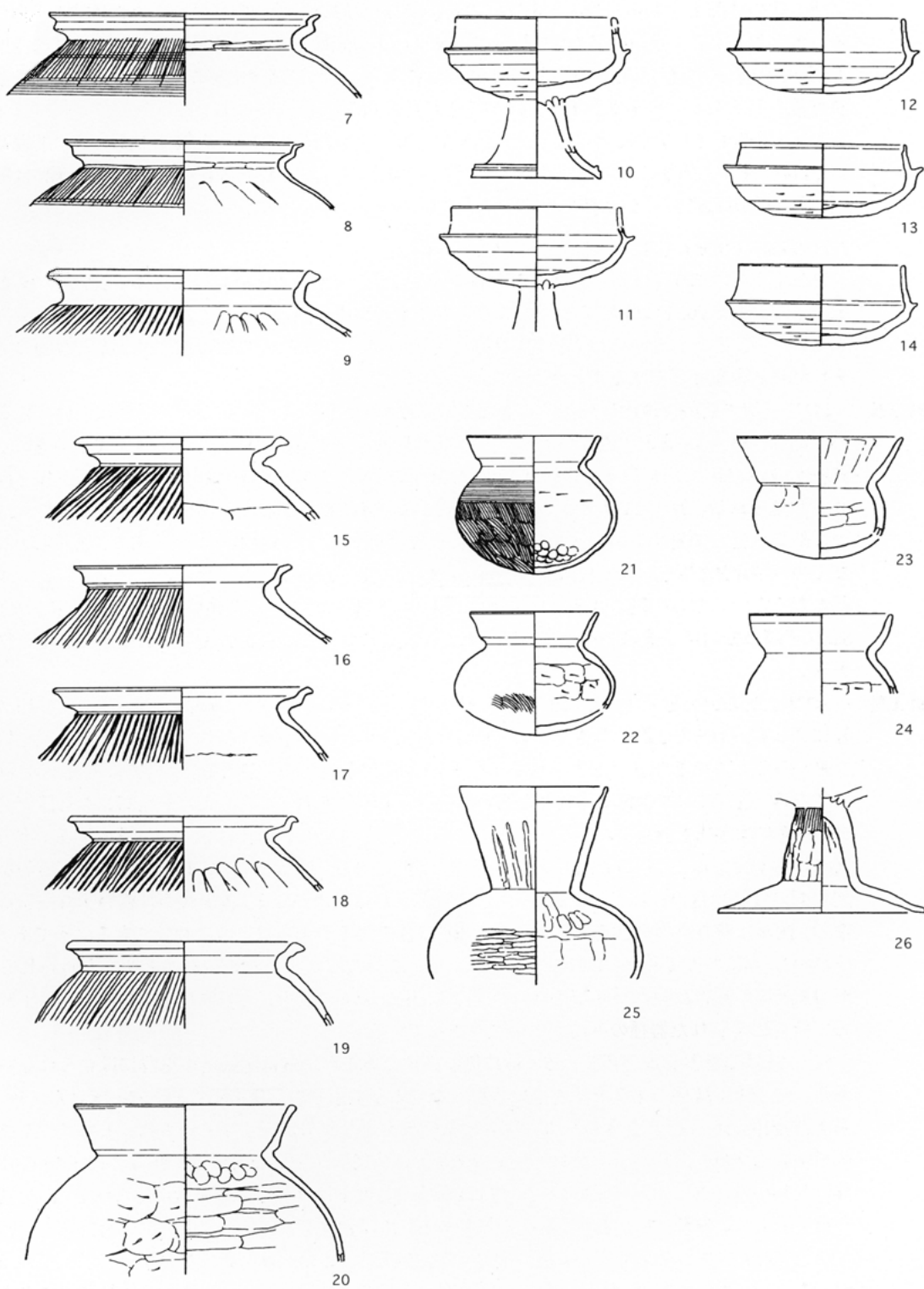


図33 古墳時代の遺物1 (1:4)

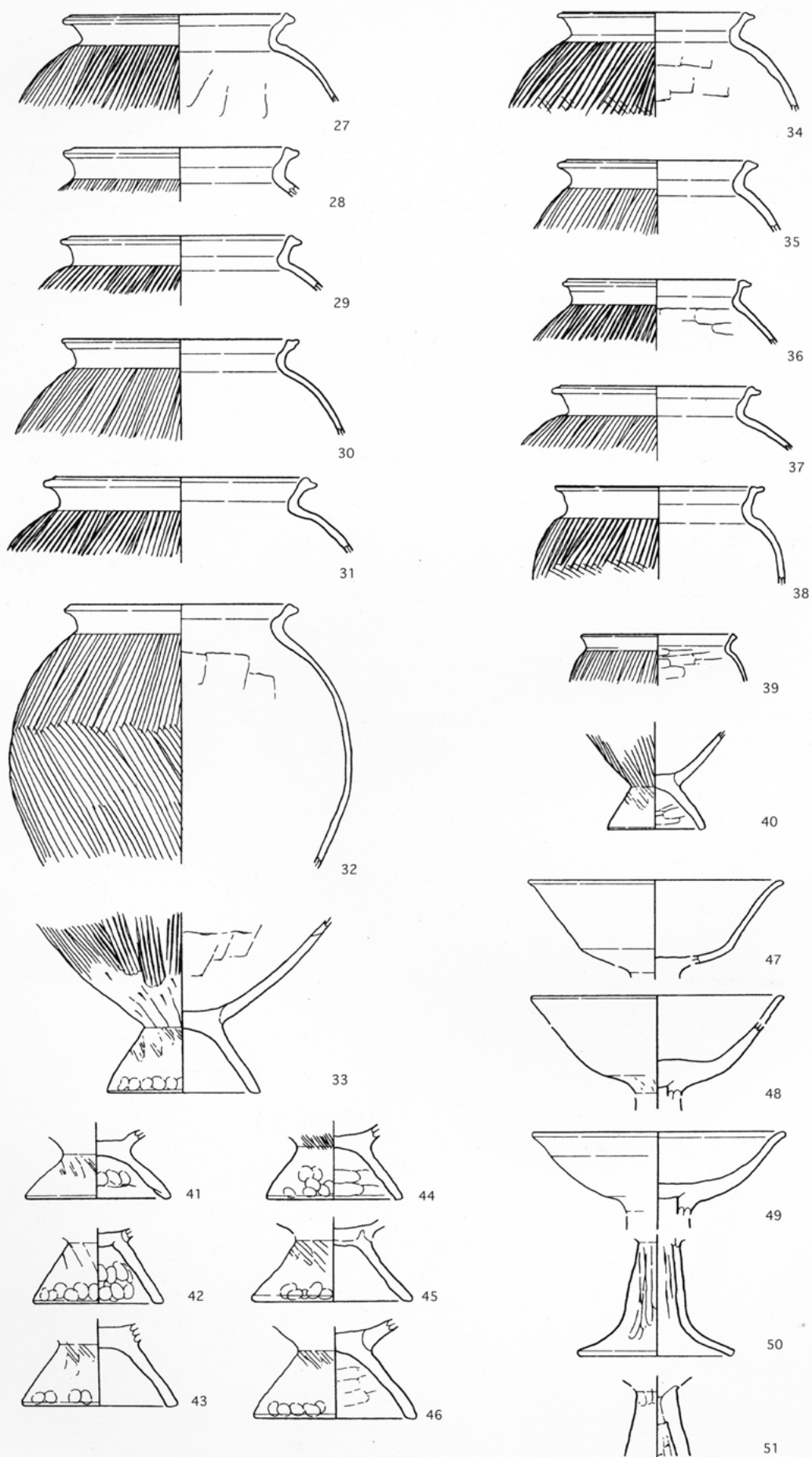


図34 古墳時代の遺物2 (1:4)

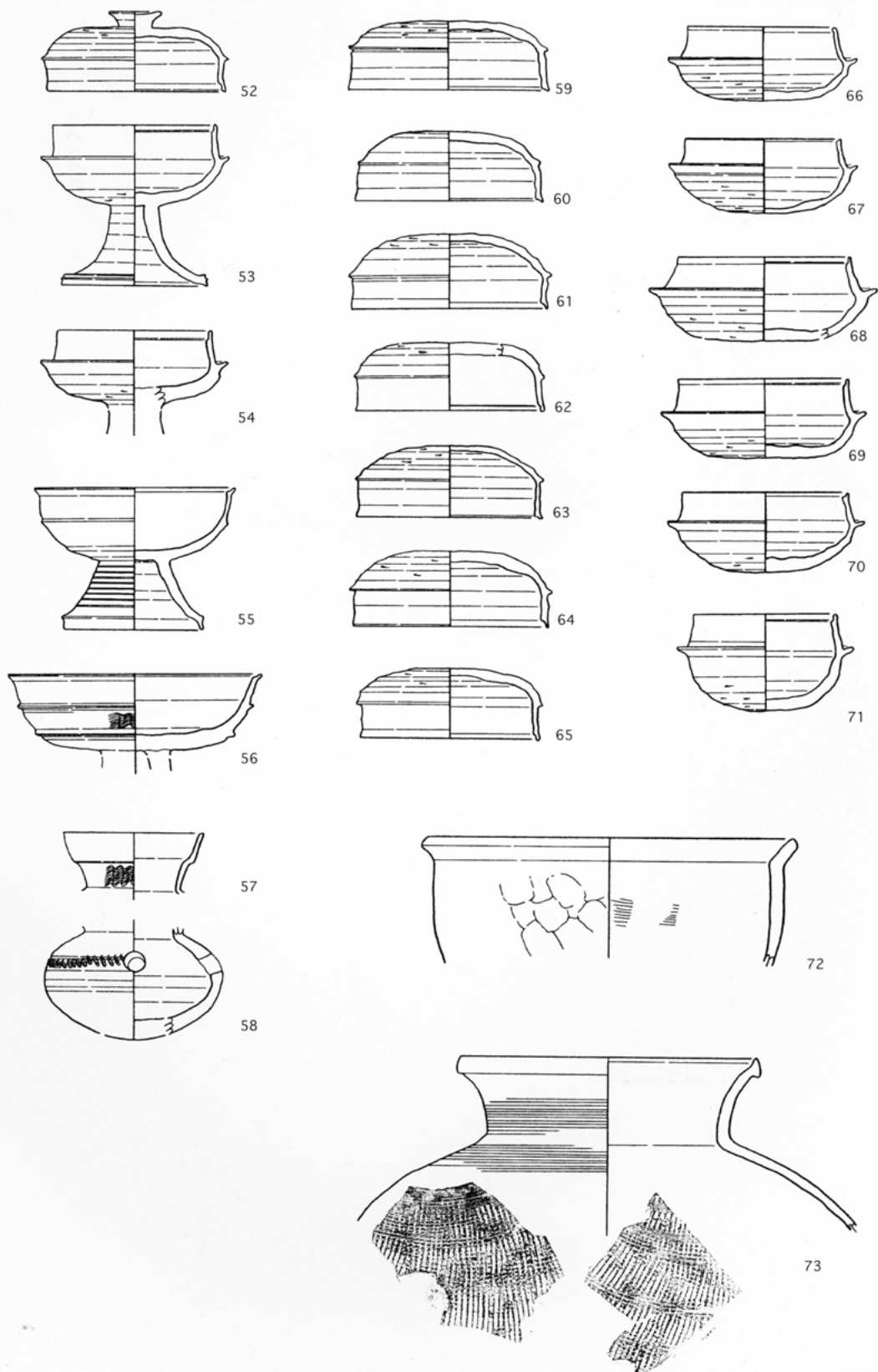


図35 古墳時代の遺物3 (1:4)

遺物組成 SD31 上層の資料は宇田型甕 3 類を中心とし、須恵器には尾張型須恵器 I - 4 段階を基本とする点を総合すると、宇田式中段階の良好な一括資料と考えることができる。また口縁部による個体識別を試みたところ 72 点を摘出することができた。その内訳は土師器 27 点 (38%)、須恵器 41 点 (57%)、韓式系土器 4 点 (5%) である。

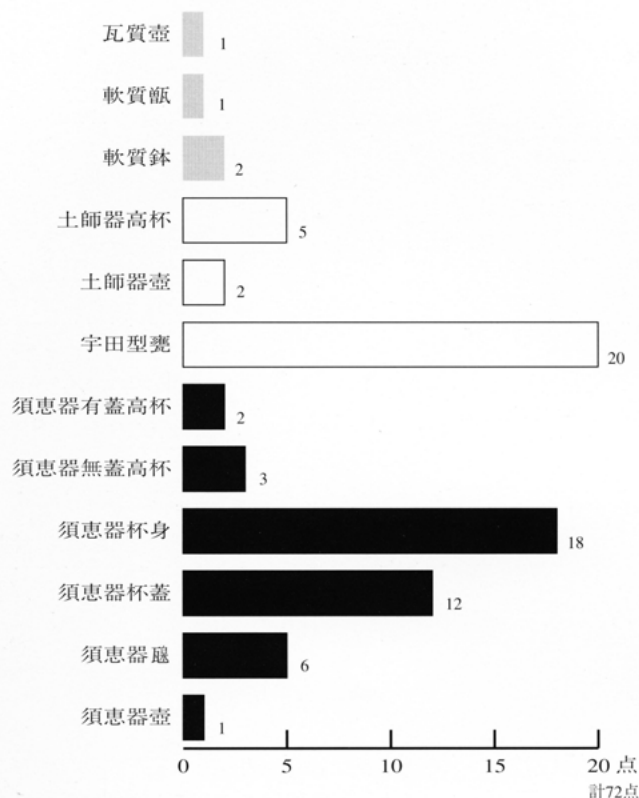


図 36 SD31 上層遺物組成

3 中世前期

概要 出土した遺物は灰釉系陶器 (碗・皿・片口鉢)、土師器 (皿・鍋)、焼き締め陶器 (常滑窯産甕)、白磁 (碗・皿) などである (図 37)。また SE02 からは加工円盤がまとまって出土している。この時期の遺構は 95Bb、95Ca、96Cb の各調査区 (下面) に限られており、遺物の量もそれほど多くない。

成形技法について 79、90、92、93、95、96 などの灰釉系陶器碗および皿には、口縁の一部分が肥厚して粘土を重ね合わせたような痕跡があったり、体部に亀裂や弱い凹線が観察できる。常滑窯の灰釉系陶器の成形技法は、粘土紐を巻き上げて基礎形を造った後、ロクロの回転運動を利用して細部を引き延ばす方法が想定されている (註 1)。79 などの状況は、こうした粘土紐巻き上げ一水挽き技法によるものと考えられる。

同様に中世後期の段階の東濃型灰釉系陶器にも、口縁の一部分が肥厚したり、体部に亀裂や弱い凹線があるものがいくつか認められる (117、121、334、361、384、388、403、428、464 など)。さらに施釉陶器の縁釉小皿の中にも、口縁部を重ね合わせたような痕跡を持つものがいくつかある (216、265)。こうした点から考えると、碗皿類の基本的な作り方としては、粘土紐巻き上げによって基礎となる形を作った後、ロクロ水挽き技法によって仕上げるといった成形技法が一般的であったのではないだろうか。

註 1 中野晴久 (1984) 「知多古窯址群における中世陶器成形技法の再検討」『知多古文化研究—杉崎章先生退官記念論文集』

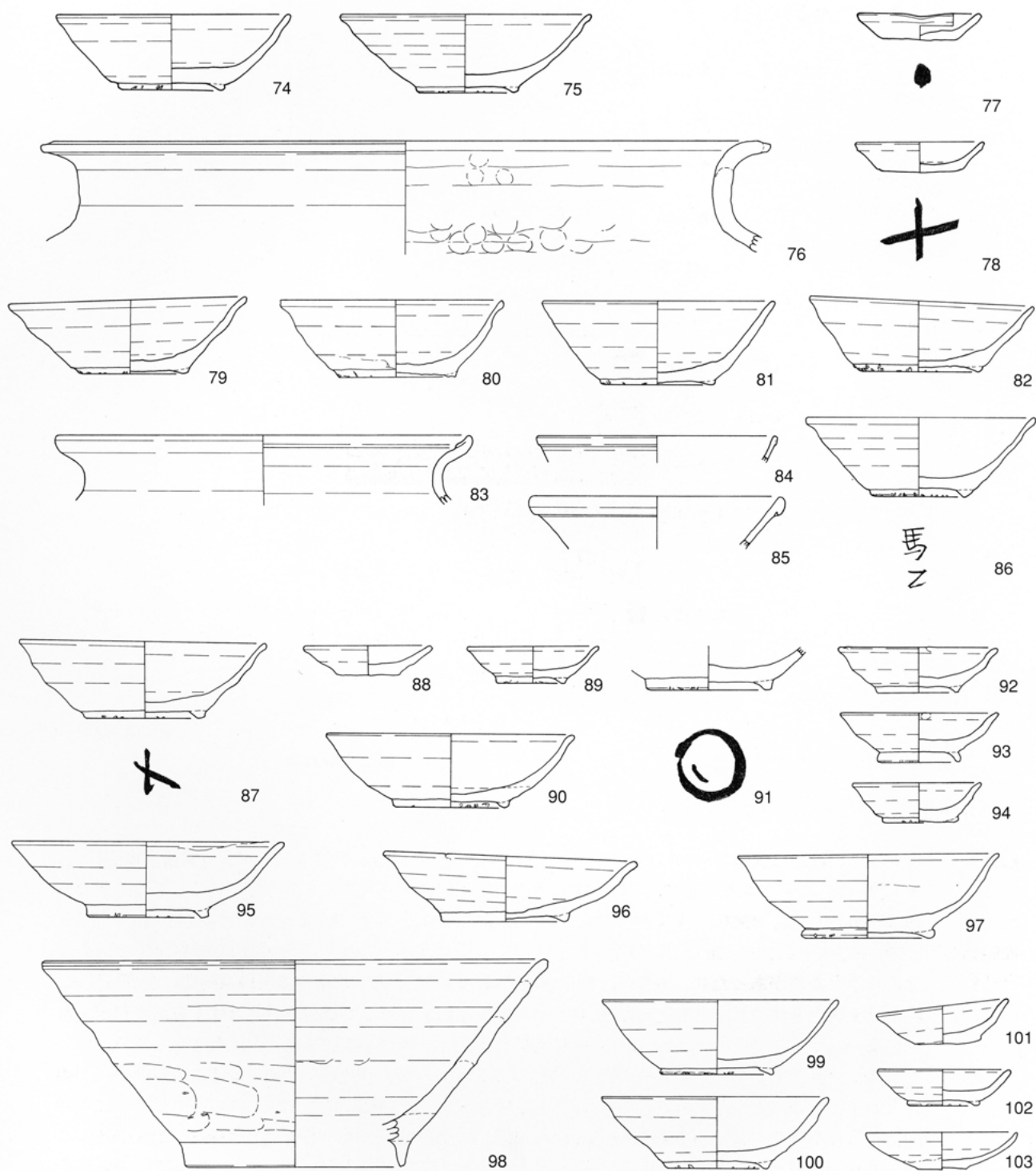


図 37 中世前期の遺物 (1:4)

4 中世後期

4-1 概要

馬引横手遺跡の中心となる時期である。出土した遺物は、灰釉系陶器（碗・皿・片口鉢）、土師器（皿・鍋・釜）、施釉陶器（古瀬戸製品）、焼き締め陶器（常滑製品）、輸入陶磁器などである（註1）。これらに関しては、まとめて遺物の出土の見られるSK210、SD41、SD39、SD45、SD46の出土遺物を対象に数量化を行った。またこの他にも加工円盤、陶丸、土錘、瓦、石製品、木製品、金属製品などが出土しているが、中世前期のものも含めてまとめて記載した。

4-2 灰釉系陶器

灰釉系陶器には碗・皿・片口鉢がある。

碗・皿類

灰釉系陶器の碗・皿類はいわゆる北部系のものがほとんどである。時期的には東濃型白土原1号窯式から生田2号窯式段階のものまで出土しているが、このうちSK210、SD41、SD39、SD45、SD46の各遺構出土の碗について時期別に数量を示したのが図38である。データ化するにあたっては、底部資料を用いて、藤澤良祐氏に分類していただいた。またグラフ化しなかったが、この他に尾張型の碗が、5型式のものが1点（SK210）、8型式のものが2点（SD39およびSD41）出土している。

片口鉢

片口鉢については一部常滑窯産のものも含んでいるが、次のように分類できる。

- 1類：口縁端部を丸くおさめるもの（157、449）。
- 2類：口縁端部に沈線状の浅い窪みがあるもの。沈線を施したというよりも、口縁外側に粘土を貼り付けた結果、境目が窪んだものと思われる（158、386）。口縁端部外側を内側に折り曲げる形のもの（225）もある。
- 3類：口縁端部が外側に突き出した形のもの。2類に比べると沈線状の窪みがよりはっきりとしている（160、226、297）。外側に突き出した部分を内側に折り曲げる形のもの（296）もある。
- 4類：3類に比べて口縁部がさらに外側に突き出しており、端部が面をなすもの（298）。
- 5類：さらに口縁部が外側に突き出した結果、端部が窪んで、口縁内側も突起状になる（299、318、346）。
- 6類：口縁部内側に粘土を上向きに貼り付けた結果、端部が窪んだ形状をなすもの。口縁の形は3類に近い（194、229、230、231）。

この分類を片口鉢の編年と照らし合わせると、1類が6型式に、2類が7型式に、3類が8型式に、4類と6類が9型式に、5類が10型式におおむね対応するものと思われる。

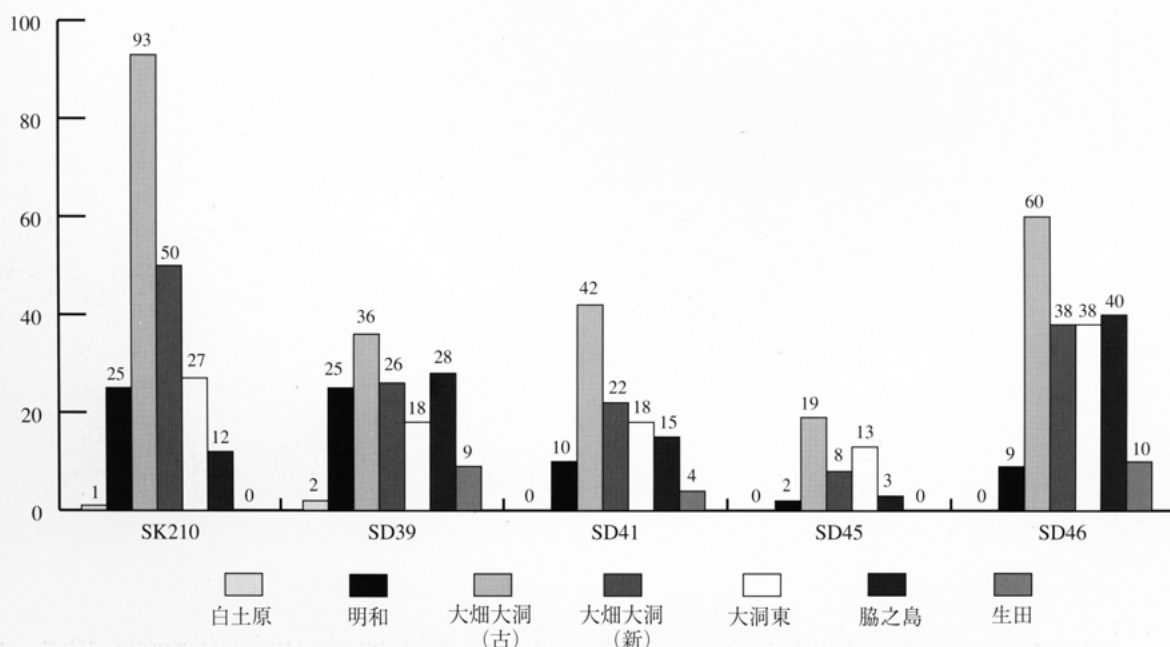


図38 灰釉系陶器・碗の時期別グラフ

4-3 土師器

土師器には皿と煮炊具（鍋および釜）がある。

皿

土師器皿は以下のように分類した。

A類

土師器皿A類：非ロクロ成形のもの。成形技法および法量の面から以下のように分類した。それぞれ黄橙色系のa類と灰白色系のb類とがある。

A 1 類：口径11.7～12.6 cm程度、器高が1.5～2 cm程度。口縁部をヨコナデし、体部との間に段を持つタイプ。黄橙色系のA 1 a類（113、169）のみ出土している。

A 2 類：口径6.8～7.7 cm程度、器高1.1～1.5 cm程度。強いヨコナデによって体部は直線的に立ち上がっている。底部外面は無調整で、体部との間が段をなす。底部内面と体部内面の境がやや窪むものが多い。黄橙色系のA 2 a類（171、234、444）と灰白色系のA 2 b類（168、203）とがある。

A 3 類：A 2 類と同様の調整方法で、口径6 cm前後、器高1.2 cmとさらに小形のタイプ。黄橙色系のA 3 a類（347）と灰白色系のA 3 b類（166）とがある。

A 4 類：A 2 類と同様の調整方法で、口径が8.5～9 cm程度の中形のタイプ。灰白色系のA 4 b類（109、167）のみ出土している。

A 5 類：口径6.8～8 cm程度、器高1～1.4 cm程度。内面はナデによって平滑に仕上げられているが、外面には一面に指頭圧痕が残る。黄橙色系のA 5 a類（106、107、206、466）と、灰白色系のA 5 b類（105、335）とがある。

A 6 類：A 5 類と同様の調整を行う中形のタイプ。黄橙色系のA 6 a類と灰白色系のA 6 b類とがある。235は口径9.8 cm、器高1.5 cmとやや大きめだが、その他は口径8.5 cm、器高1 cm程度でまとまっている。

A 7 類：A 5 類と同様の調整を行うやや深めのタイプ。A 7 a類（黄橙色系）の208が口径8.5 cm、器高2.2 cmなのに対して、A 7 b類（灰白色系）の172は口径7.8 cm、器高1.7 cmとやや浅くなっている。

A 8 類：口径7.2～8 cm程度、器高1.1～1.5 cm程度。口縁部をヨコナデし、体部はやや丸みを持って立ち上がる。体部下半から底部外面は無調整。内面はナデによって平滑に仕上げている。

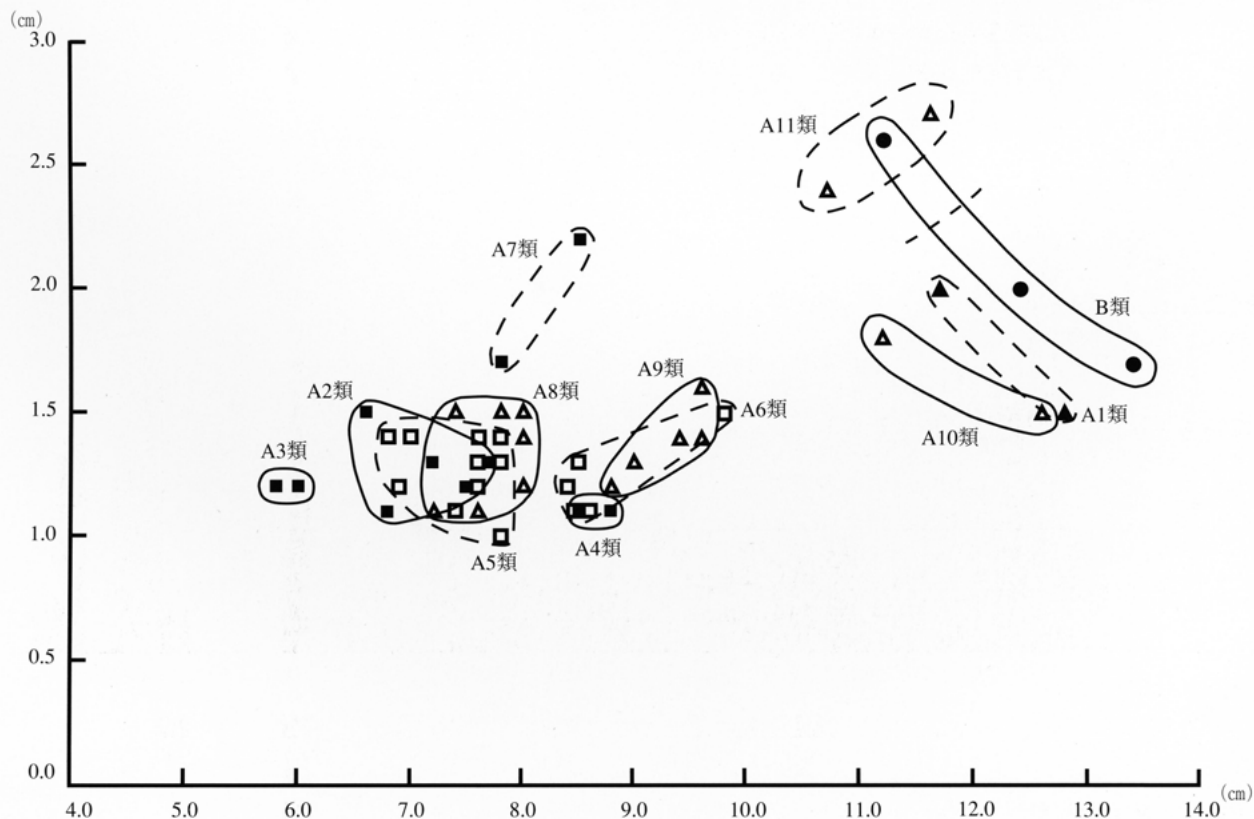


図39 土師器・皿の法量分布

黄橙色系のA 8 a類(104、204、381、422)のみ出土している。

A 9類：A 8類と同様の調整方法で、口径8.8～9.6 cm程度、器高1.2～1.6 cm程度の中形のタイプ。黄橙色系のA 9 a類(205、467)と、灰白色系のA 9 b類(110、468)とがある。

A 10類：A 8類と同様の調整方法で、口径11.2～12.6 cm程度、器高1.5～1.8 cm程度の大形のもの。黄橙色系のA 10 a類(108)と灰白色系のA 10 b類(111)とがある。

A 11類：A 8類と同様の調整方法で、器高2.5 cm程度とA 10類に比べてやや深めのもの。黄橙色系のA 11 a類(451)と灰白色系のA 11 b類(111、459)とがある。

B類 土師器皿B類：ロクロ成形のもの(170、202、207)。口径11.2～13.4 cm程度、器高1.7～2.6 cm程度のものが出土している。いずれも黄橙色系のa類。

法量について 土師器皿を口径と器高によってグラフ化したのが図39である。

このグラフを見るとまずロクロ成形のB類やA 1 a類、A 10類やA 11類が他のものとはっきり分かれており、こうした大形の皿の1群が存在していることがわかる。実際土師器皿B類の207と生田4号窯式期の灰釉系陶器である209を並べてみると(図47)、両者にはほとんど差がないことがわかる。またこの1群はA 10類とA 11類のように深さによっても分かれる可能性がある。

次に口径7～10 cm程度の中形の皿の1群がある。これらは口径8.5～10 cm程度のもの(A 4 b類、A 6類、A 9類)、口径6.5～8 cm程度のもの(A 2類、A 5類、A 8 a類)、やや深めのもの(A 7類)とに分けられそうである。

さらに口径6 cm程度の小形の皿(A 3類)もあり、法量的には大・中・小と、大きく3つのグループに分けることができそうである。また深さの点でも大きく2つのグループに分けられそうである。

煮炊具 土師器煮炊具は以下のように分類した。

A類 土師器煮炊具A類：いわゆる「伊勢型」鍋(83、283、392、425、481、482)。

口縁部の折り返しが小さいもの(83、481)、折り返し部分が幅広になり内彎するもの(392、425、482)、さらに折り返し部分が幅広になり、その下方部分が断面三角形を呈するもの(283)といくつかのタイプがあるものの、A類の出土量はかなり少ない。

B類 土師器煮炊具B類：鐏の付く「羽釜型」鍋

馬引横手遺跡での土師器煮炊具の主体をなす。口縁端部の調整の仕方や、口縁部下方の穿孔の仕方によってB 1類～B 8類に分類した。

B 1類：口縁端部を内側に向けてヨコナデするタイプで、水平方向にのびる鐏に対して、口縁部は内傾したのち垂直方向に立ち上がる(349、368、393、476、484)。口縁部下方、鐏との境の部分に焼成後の穿孔が認められる。焼成後穿孔はB 1類からB 6類まで共通に認められる。全体の形がわかる476などから推測すると、平底に近いプローションになる可能性がある。他と比べて器壁は厚く、胎土も砂粒混じりのやや粗いものである。

B 2類：B 1類と同様に口縁端部を内側に向けてヨコナデするタイプで、内傾する口縁部に対して、鐏はやや斜め上方にのび、口縁部がほとんど鐏に隠れてしまうものもある。鐏の端部はあまりしっかりと面を持たないものが多いようである(155、156、197、198、199、200、223、224、294、295、359、360、445、462、483)。さらに細かく分類することも可能ではあるが、1個体の中でも場所によって口縁部の形態が大きく異なるものも多い。

B 3類：B 2類と同様に口縁端部を内側に向けてヨコナデするタイプ。内傾する口縁部に対して鐏はやや斜め上方にのび、口縁部がほとんど鐏に隠れてしまうものもある。B 2類と違い鐏の端部は面を持つものが多い(291、292、293、358)。293のようにかなり浅い器形になると考えられる。

B 4類：口縁端部および鐏の端部が面を持つタイプ(321、356、357)。水平方向にのびる鐏に対して口縁部は相対的に短い。

B 5類：口縁端部を外側に向けてヨコナデするタイプで、口縁直下が玉縁状にふくらむもの。鐏の部分が大きく、鐏から上の口縁部が長いB 5 a類(196、222、285、286、287)と、相対的に鐏が小さく口縁部の短いB 5 b類(288、320)とがある。B 5 a類が南伊勢系の羽釜型の特徴を持っているのに対して、B 5 b類の口縁部は南伊勢系とは異なり、プロポー

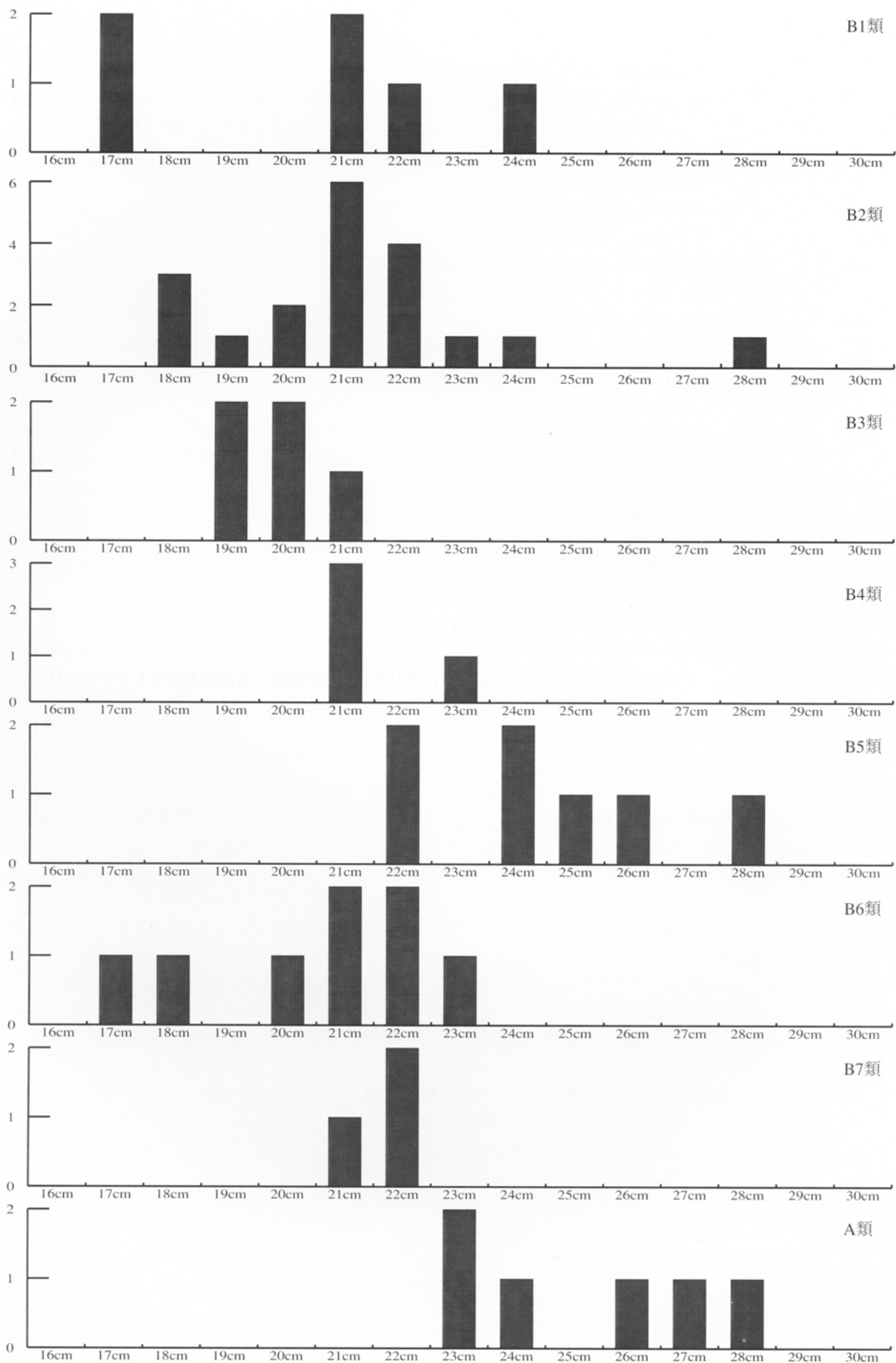


図 40 土師器・煮炊具の口径分布

シヨンのにはB 2類やB 3類に似ている。

B 6類：B 5類と同様に口縁端部を外方向にヨコナデし、口縁部が外側に折り返されるタイプ。鐔から上の口縁部が長いB 6 a類（290、328、329、355、439）と、相対的に口縁部の短いB 6 b類（289、322）とがあるが、やはりB 5類と同様にB 6 a類が南伊勢系の羽釜型の特徴を持つものに対して、B 6 b類の口縁部はB 2類などに似ている。

B 7類：口縁部下方、鐔との境の部分に焼成前の穿孔が認められるグループ。鐔の端部が面を持つB 7 a類（195、284）と、端部が面を持たないB 7 b類（323）がある。焼成前穿孔は中北勢の羽釜型鍋の大きな特徴であるが、鐔の部分を含めた口縁部の形が一般的な中北勢のものとは異なっており、やはりB 2類などに似ている。

B 8類：B 7 b類と同様に鐔の端部が面を持たないもの。こうした形状は中北勢の羽釜形鍋の大きな特徴であるが、全体の形がわかるものがなく、焼成前穿孔についても確認できなかったため、B 7 b類とは別にしておいた。口縁端部の調整方法がB 5類と同様に外側に向けてヨコナデする327と、B 1類などと同様に口縁端部を内側に向けてヨコナデする326とがある。

C類 土師器煮炊具C類：「茶釜型」釜（340）

口縁部が1点出土している。

煮炊具について 土師器煮炊具において、量的に主体となるのはB類である。A類の出土量はわずかであるが、283のように尾張地域ではほとんど出土しない第3段階のものが出土しているのは興味深い点である。B類についてもB 5類やB 6類のように南伊勢系の特徴を持つものや、B 7類やB 8類のように中北勢系の特徴を持つものが出土している。

口径の分布 図40はA類およびB類について口径をグラフ化したものである。

これを見ると、口径20～25cmのものを主体として、口径20cm以下の小形のものと、25cm以上の大形のものとがあるようである。

使用法について 土師器煮炊具の主体であるB類に関して、その使用法を考える上で興味深いのが295である。B類は形としては羽釜であるが、鐔はとうていその機能を果たせたとはいえない。さらに口縁部下方には吊り下げのためと考えられる孔があげられており、「おそらく竈に設置されるのではなく、五徳や吊り手を介して囲炉裏に設置あるいは懸架」（註2）されたものと考えられている。また、B類に限らずこうした土師器煮炊具は「構造的にこれらが竈に据えられた可能性は低く、一般的にはいずれも五徳の上で使われたものであろう」（註3）と考えられている。ところが295は口縁部に焼成後の穿孔は認められるものの、体部下半のみに煤が付着し口縁部付近には全く認められず、囲炉裏に設置されていたとは考えにくい状況である。こうした例はこの1点のみであるが、竈の可能性も考えていくべきであろう。

孔の問題 また口縁部にあけられた孔の数であるが、全体の形がわかる352では3個（2個：1個）の孔が確認できる。また293は4個穿孔されているが、その位置はかなり一方に偏っている（図41）。もともとA-B-Cと穿孔して使用していたものが、Cの部分破損したため、新たにC'を穿孔してA-B-C'として使用した可能性がある（註4）。こうした焼成後穿孔の例はB 5 a類やB 6 a類といった南伊勢系と思われるものにも認められる。また穿孔を途中でやめている例（未貫通のもの）もかなり確認できる。また344は口縁部などの特徴はB 2類と共通しているものの、明らかに焼成前穿孔を行っている例である。

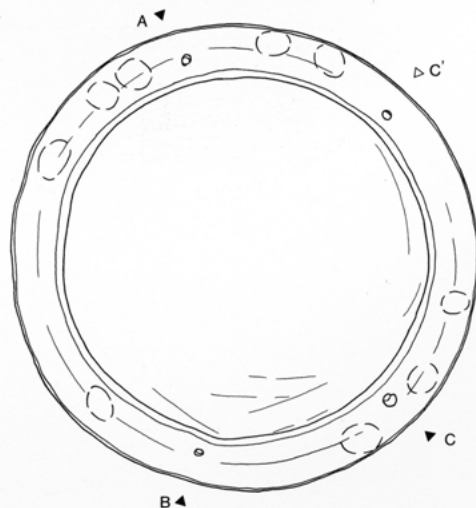


図41 293の穿孔の位置

B 3 類の形態と機能について

また、B 3 類については羽釜型鍋の範疇で分類したが、他と比べるとかなり浅い器形となっている。図42に示した3つの羽釜型鍋の口縁部は、いずれも短い鰐が斜め上方に短く突き出した形をしている。293と295はSD46から出土しており、360はSD15から出土している。SD46と違いSD15からは360以外にはそれほど遺物は出土していないが、大畑大洞～大洞東段階と思われる灰釉系陶器が出土しており、他の2つよりやや古くなる可能性がある。形態的にも胴部の最大径が胴部中央部にある360に対して、295などはより上部に最大径が位置している。さらに293と295を並べてみると、胴部の浅い293に対して295は下半部が深くなっており、両者の形態が異なっているのが分かる。

こうしてみると、羽釜型鍋は360→295という流れの中で、293のようにより浅い形のものが分化してきた可能性が考えられる。そしてそれは単に形が違うという形態的な問題だけでなく、機能的な問題をも含んでいる可能性がある。

図43は清洲城下町遺跡出土の焙烙である(註5)。焙烙の出現は「少なくとも尾張地方の織豊期城館跡出土の資料を見るかぎり、16世紀中葉もしくは後葉がその上限と考えられる。」(註6)という。293とは100年近くの空白期間があり、また口縁部の形態も大きく異なる両者を直接結び付けることはできない。しかしながら、いわゆる伊勢型鍋においては、第4段階以降「f型式の系統は焙烙へと変化していく模様である」(註7)との指摘もある。今後の資料の増加によっては、現在ある空白部分を埋めることができるかもしれない。

成形技法について

またこれらの羽釜型鍋の成形技法については、「体部下半のみ外型を使用し、そこから先は素地粘土の輪積みによる成形手法」(註8)が基本であると考えられる。体部外面の調整方法は下半部がヘラケズリであるのに対して上部はハケであり、内面についても下半部はヘラケズリ調整である。手順としては、①まず外型で底部(下半部)を作る(内側にはヘラケズリ調整を行う)→②粘土を輪積みしていつて形を作り、外型から上の部分にハケ調整を行う→③外型をはずしてひっくり返した後、底部外面をヘラケズリ調整する→④鰐をつけ、口縁端部をヨコナデして整える(この時ナデの方向が内側だったり、外側だったりする)、というような工程であったと考えられる。

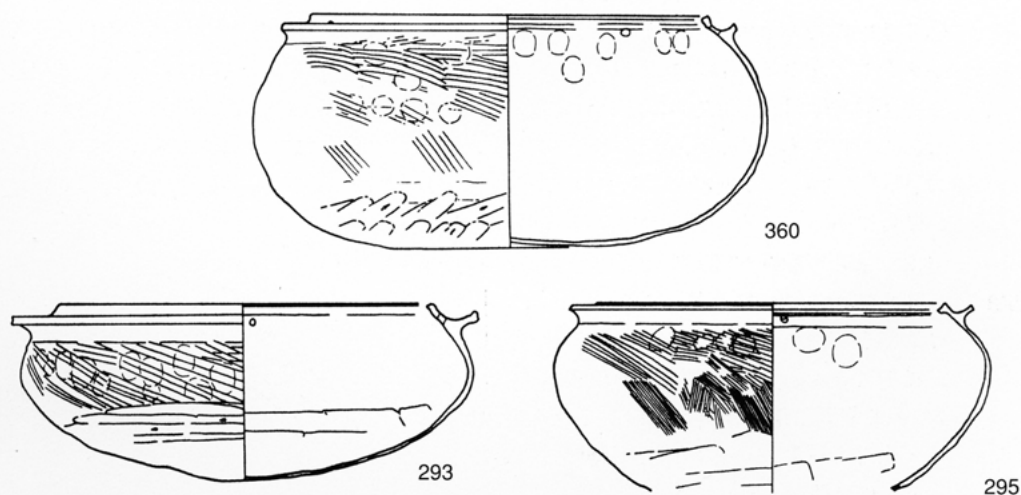


図42 B類(羽釜型鍋, 1:4)

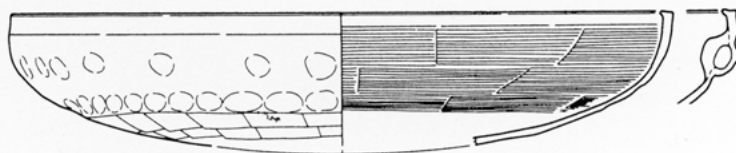


図43 清洲城下町遺跡出土の焙烙(1:4)

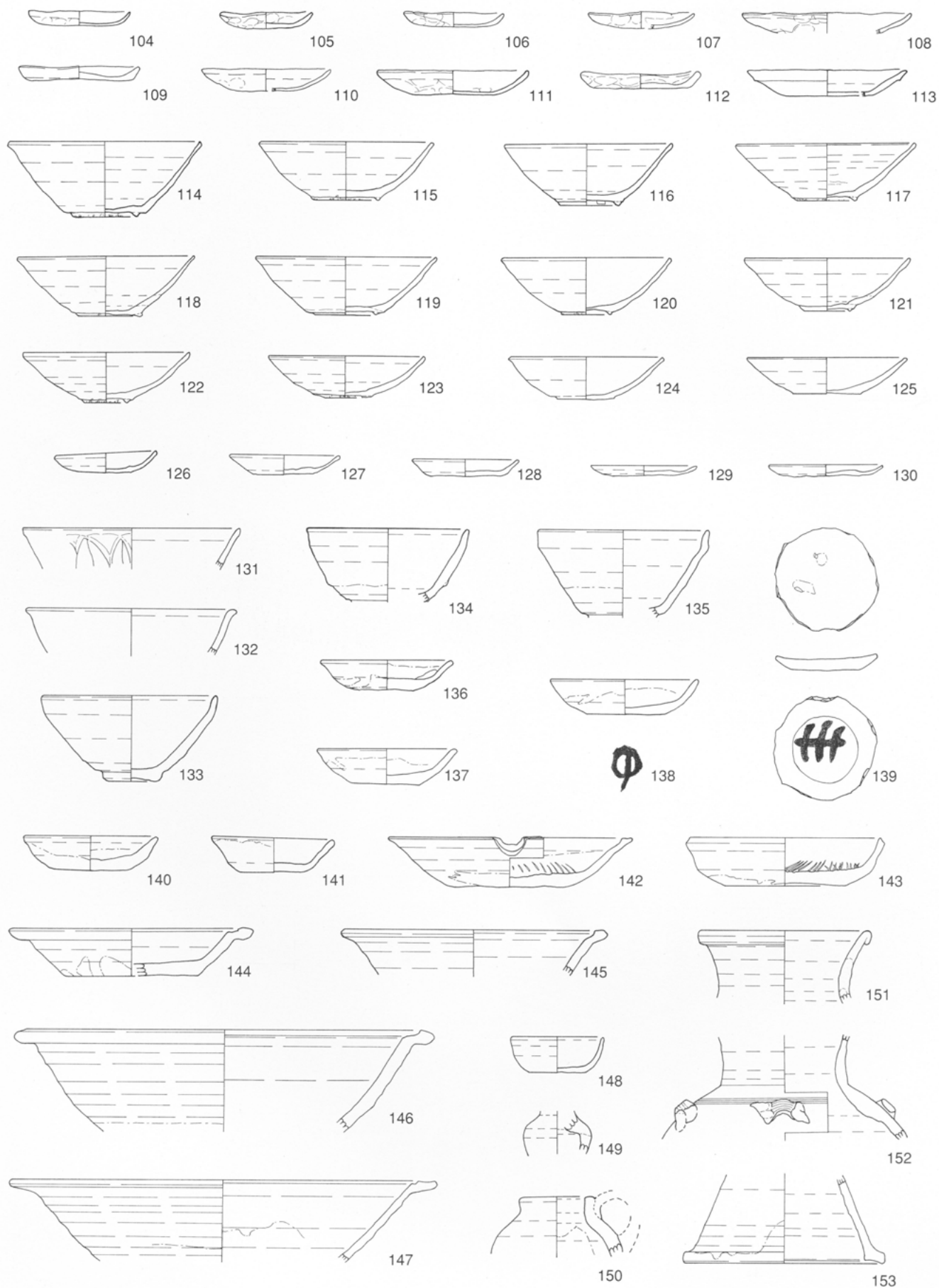


図44 中世後期の遺物1 (SK210, 1:4)

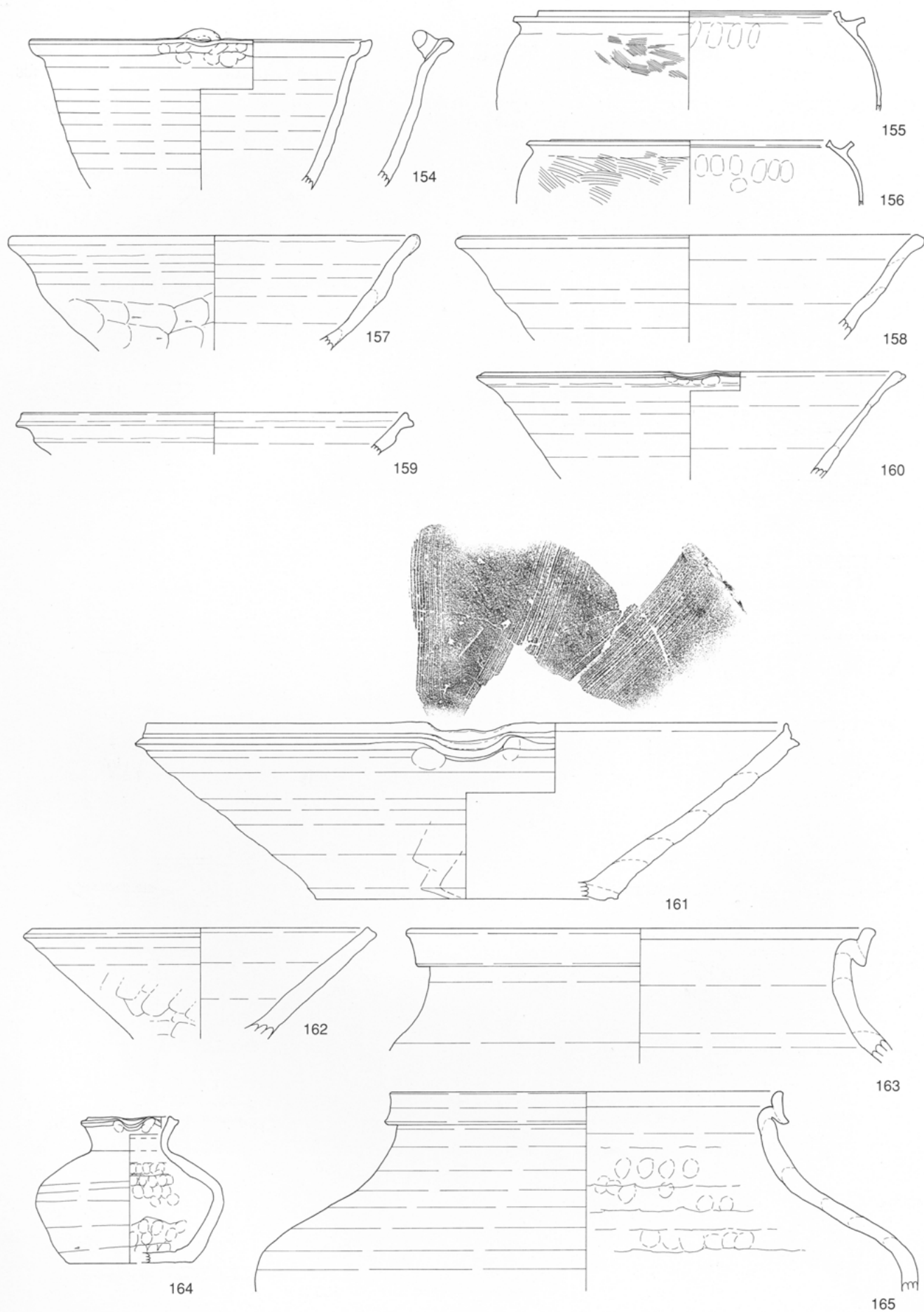


図 45 中世後期の遺物 2 (SK210, 1 : 4、ただし 161 = 1 : 3)

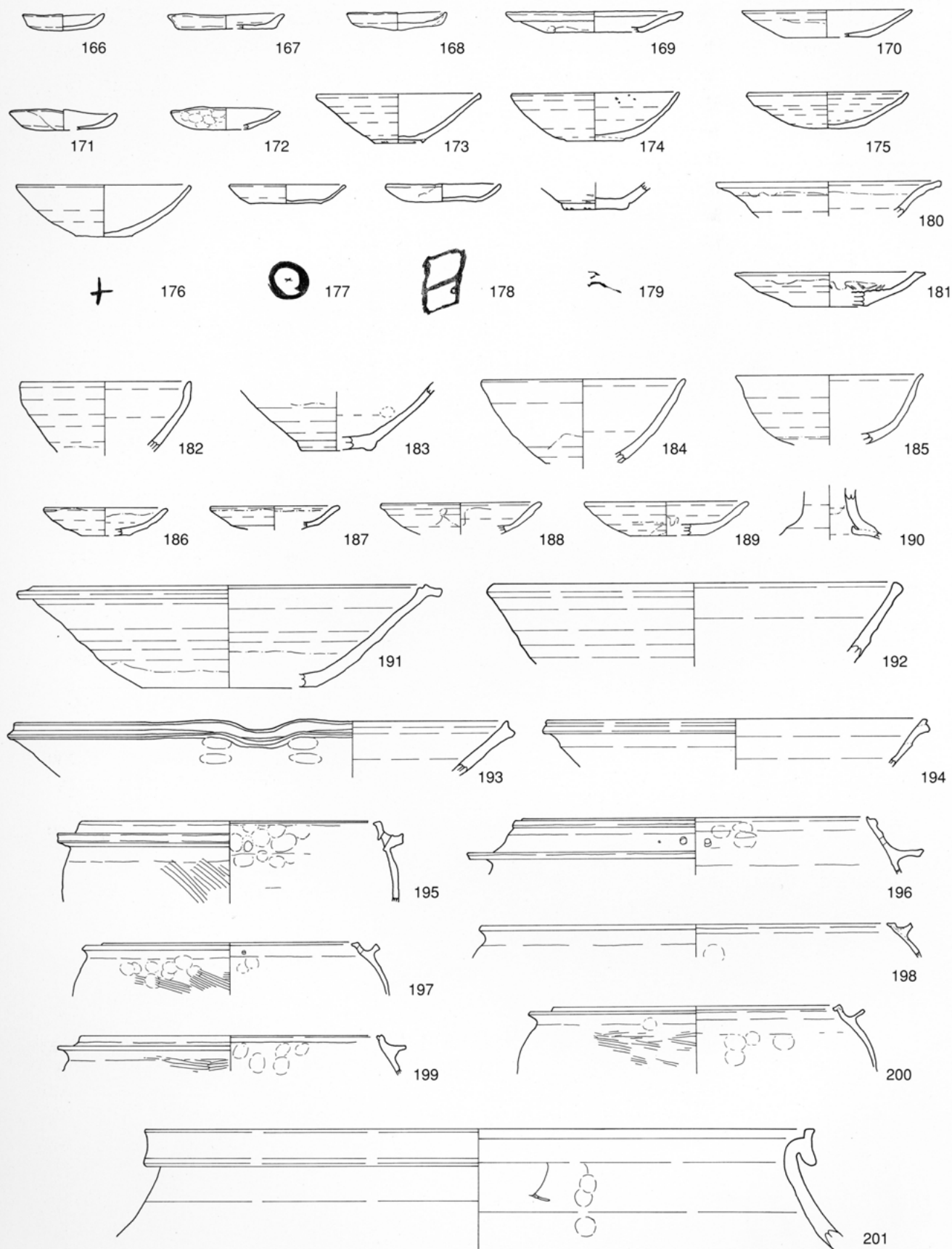


図46 中世後期の遺物3 (SD39, 1:4)

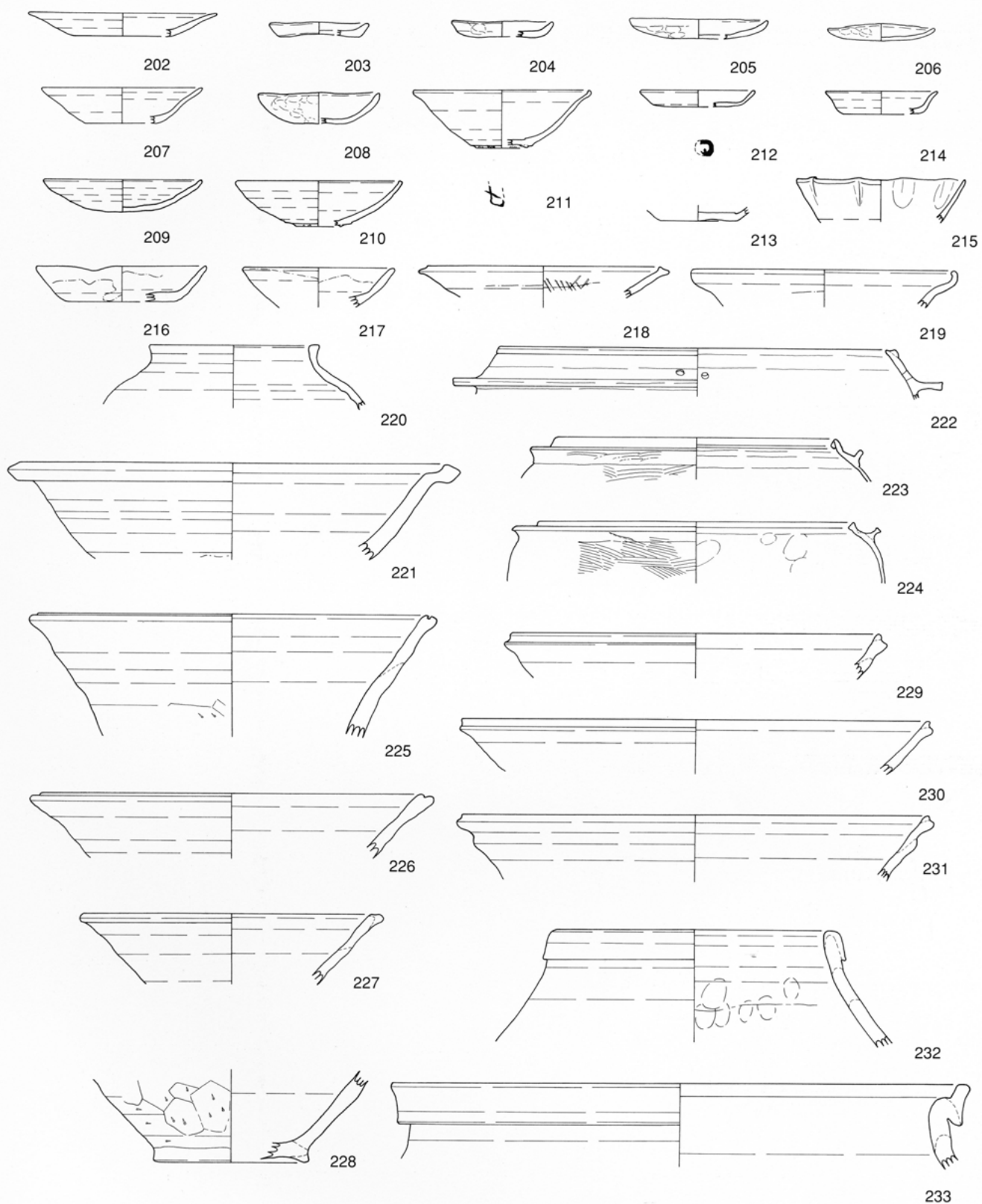


図 47 中世後期の遺物 4 (SD41, 1 : 4)

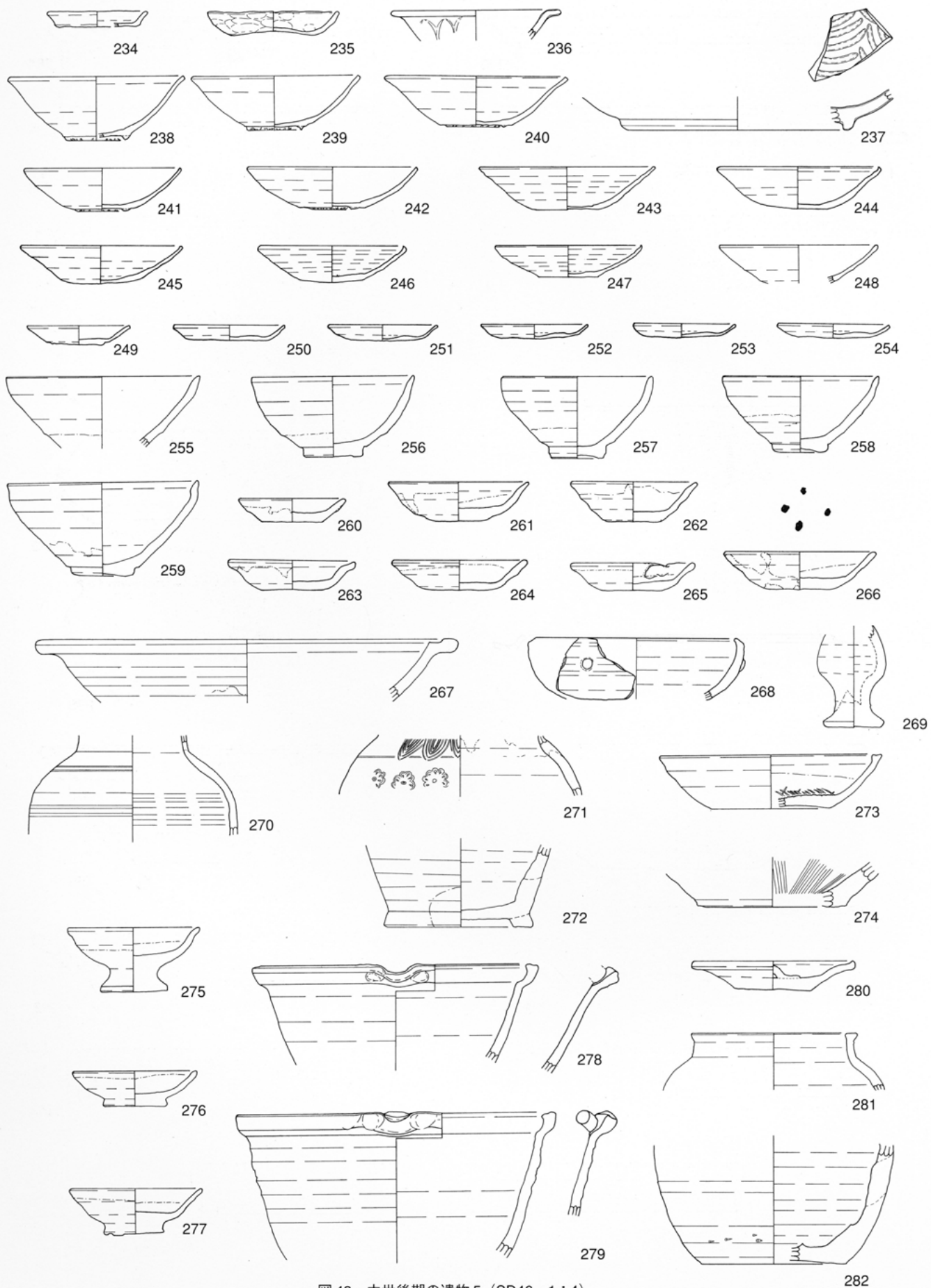


図48 中世後期の遺物5 (SD46, 1:4)

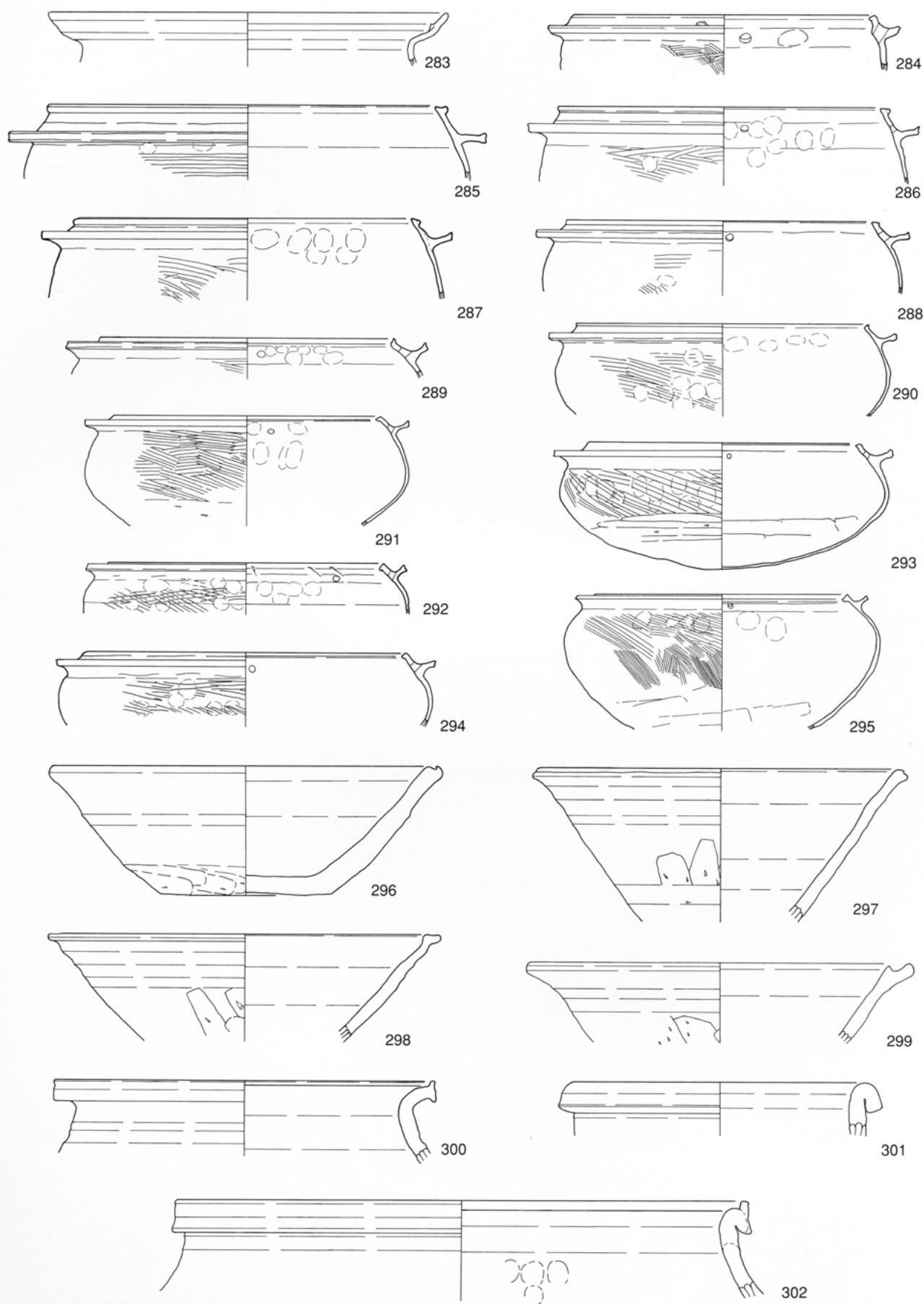


図49 中世後期の遺物6 (SD46, 1:4)

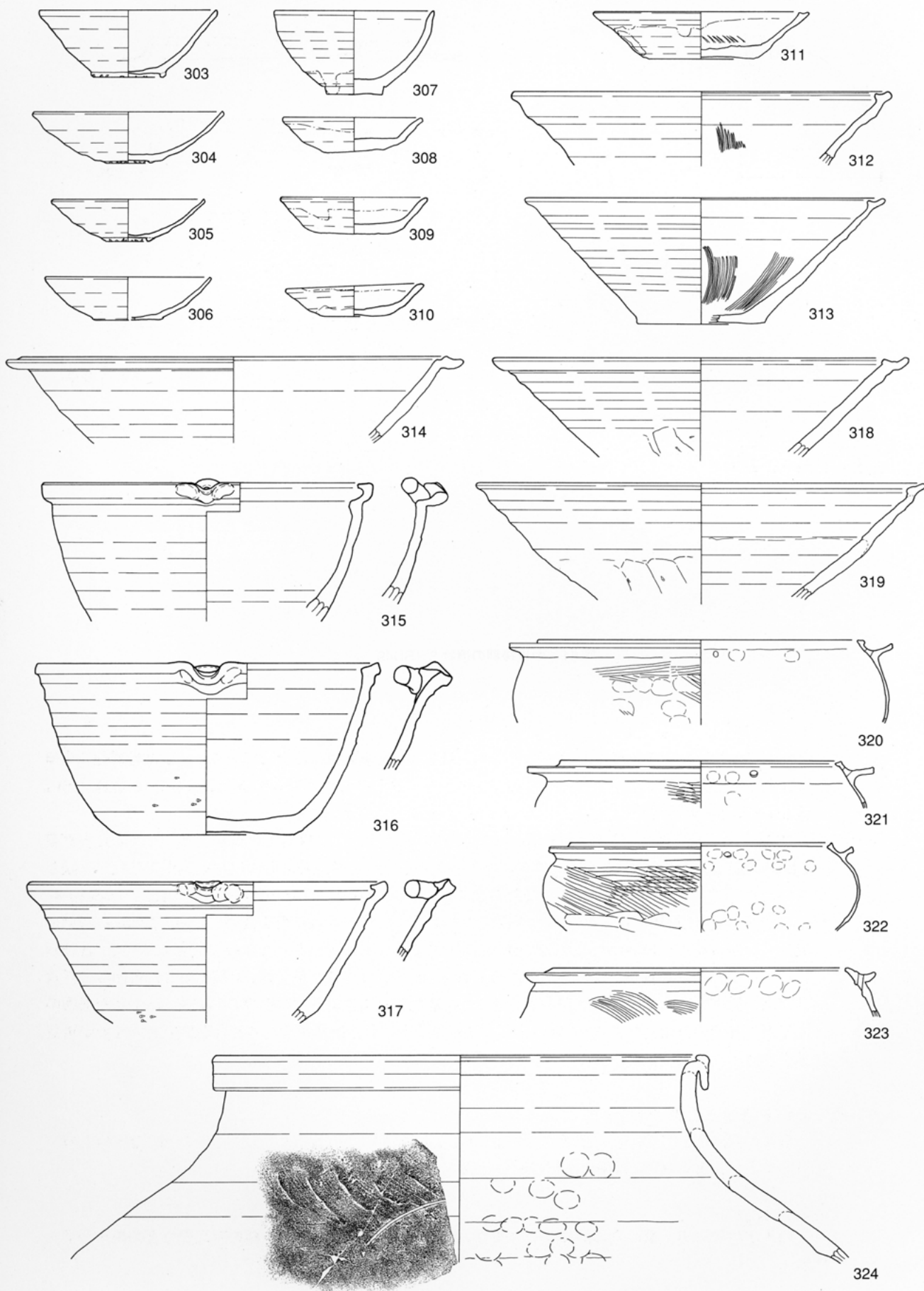


図50 中世後期の遺物7 (SD49, 1:4)

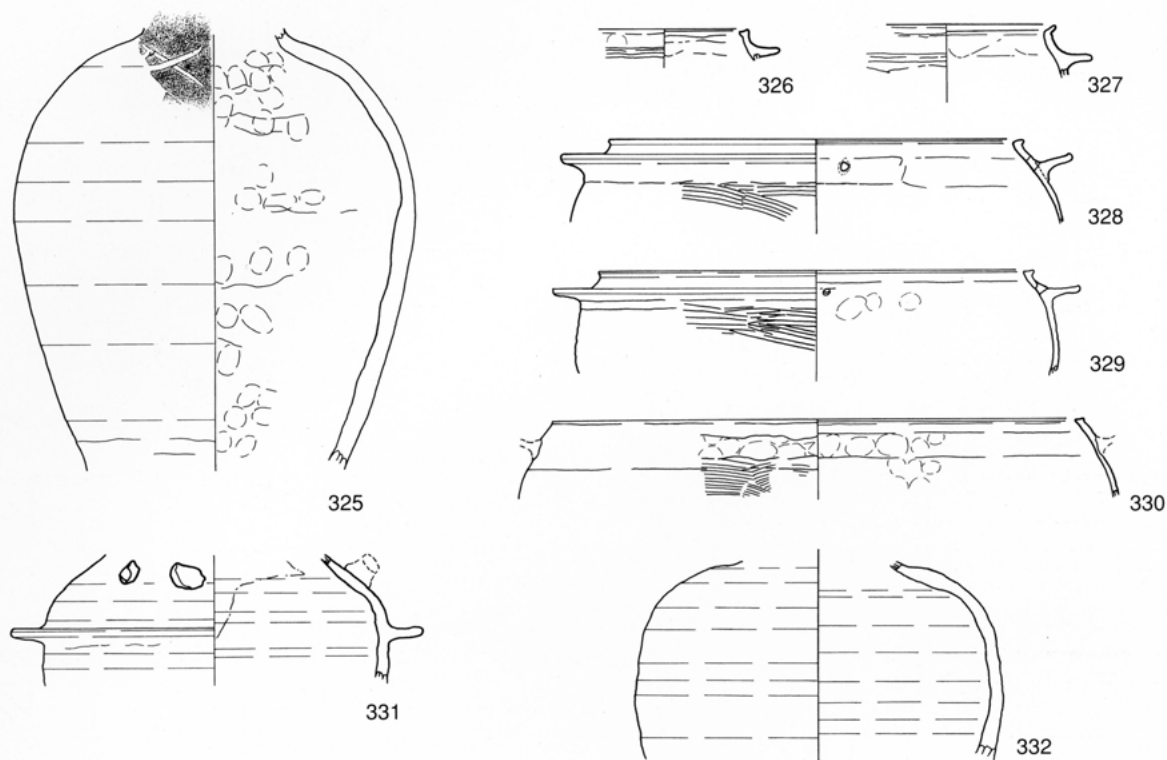


図51 中世後期の遺物8 (SD49, 1:4)

4-4 施釉陶器 (古瀬戸製品)

馬引横手遺跡出土の施釉陶器はすべて古瀬戸製品で、大窯製品は出土していない。また時期的にもほとんどが古瀬戸後Ⅳ期古段階までのもので、後Ⅳ期新段階のものは天目茶碗C類(446)と播鉢(95Ba区SD46出土)が1点ずつ出土しているだけである。

SK210、SD41、SD39、SD45、SD46出土の施釉陶器について、時期および器種ごとにまとめたのが表1および図52、53である。データ化するにあたっては、すべての施釉陶器の破片を藤澤良祐氏に分類していただいた。これを時期別にまとめたグラフが図52、器種別にまとめたグラフが図53である(註9)。

時期的には後期が中心で、とりわけ後期後半のものが全体の半数以上を占めている。これは古瀬戸の流通の面から見れば当然かもしれないが、その一方で器種別のデータとも密接に関係している。器種別に見てみると調理具Bが全体の3割を占めており、とりわけ内耳鍋や土瓶、茶釜といった古瀬戸の煮炊具が高い比率を占めていることがわかる。また数量化したSK210などの遺構以外にも、出土した遺物の大半が古瀬戸の煮炊具であるSD49のような遺構もあり、全体的に煮炊具の割合が高いというのが馬引横手遺跡の大きな特徴となっている。また播鉢を鍋に転用した例もある(274など)。

4-5 焼き締め陶器 (常滑製品)

全体の傾向としては、壺・甕類は6a・6b型式のものが多く、片口鉢(Ⅱ類)は9・10型式のものが多くようである。161には細かい播目が施されている。

4-6 磁器

輸入陶磁器の出土量は全体的にかなり少ないが、青磁の大皿(237)や白磁の四耳壺などの出土が見られる。

		前期 前半	前期 後半	前期	中期 前半	中期 後半	中期	後期 前半	後期 後半	後期	不明	合計
供膳具	平碗					1		11	25			37
	浅碗								1			1
	底卸目皿				1							1
	縁釉小皿							17	58		14	89
	折縁小皿								1			1
	折縁中皿					10		2	4			16
	皿							1		5		6
	小鉢								1			1
	供膳具小計	0	0	0	1	11	0	31	90	5	14	152
盤類	折縁深皿				2	11		4	4	3		24
	卸目付大皿								1			1
	直縁大皿							1	2	1		4
	盤類							7	5	18		30
	播座洗					1						1
	盤類小計	0	0	0	2	12	0	12	12	22	0	60
調理具 A	卸皿		3					4	6	4		17
	柄付片口					1	1	1				3
	調理具 A 小計	0	3	0	0	1	1	5	6	4	0	20
調理具 B	播鉢								46			46
	内耳鍋								41			41
	土瓶・釜類								59			59
	茶釜								13			13
	蓋								4			4
	調理具 B 小計	0	0	0	0	0	0	0	163	0	0	163
貯蔵具	四（三）耳壺	18		2		3	4		3	4		34
	瓶子		3			1	2	1		7		14
	壺・瓶類		2	5	1	2	3	3		12		28
	水注	2	1		7	1					1	12
	貯蔵具小計	20	6	7	8	7	9	4	3	23	1	88
茶道具	天目茶碗							7	28	4		39
	茶壺									1		1
	祖母懷壺									3		3
	茶道具小計	0	0	0	0	0	0	7	28	8	0	43
化粧具	入子	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
神仏具	花瓶		1				2	4		2		9
	筒形香炉								1			1
	仏供								5			5
	燭台							3				3
	小杯		1									1
	神仏具小計	0	2	0	0	0	2	7	6	2	0	19
その他	合子				1		1					2
	小壺	1			1		5					7
	その他・不明					1	1			6	2	10
	その他小計	1	0	0	2	1	7	0	0	6	2	19
合計		21	15	7	13	32	19	66	308	70	17	568

表 1 施釉陶器の時期別・器種別一覧表

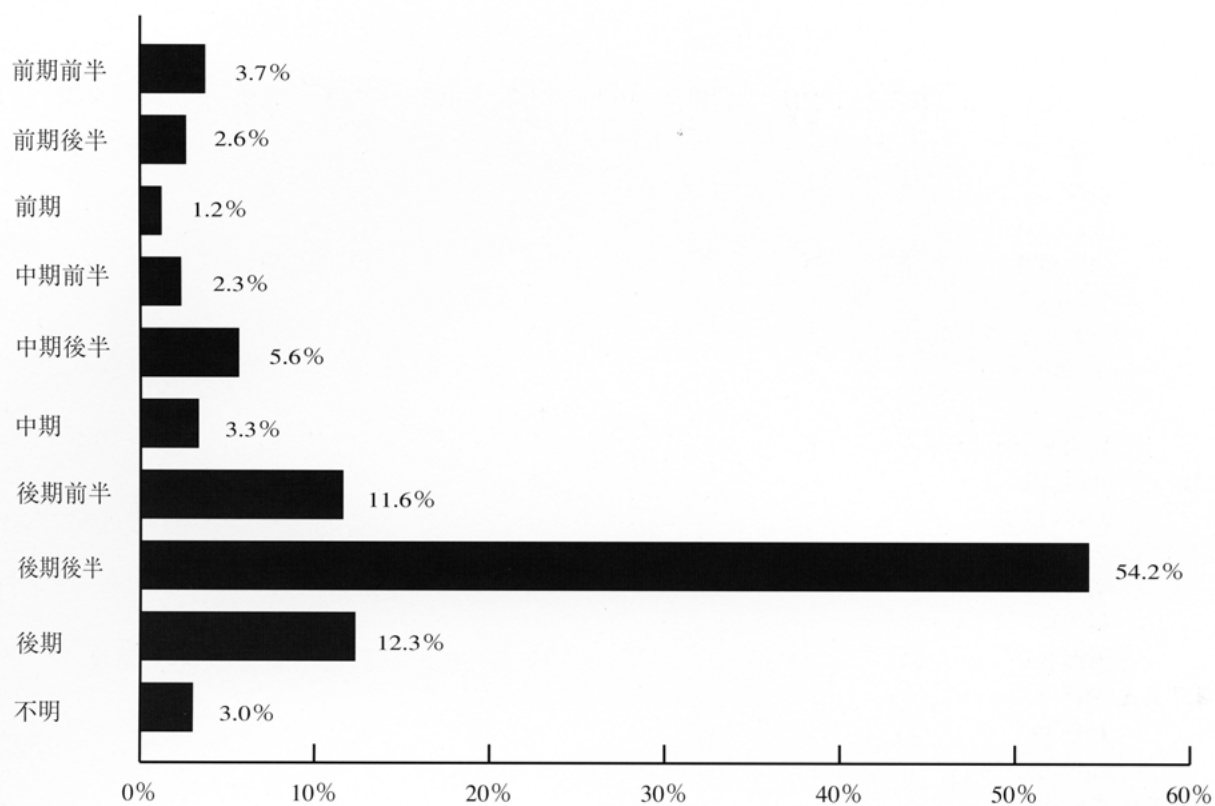


図 52 施釉陶器・時期別グラフ

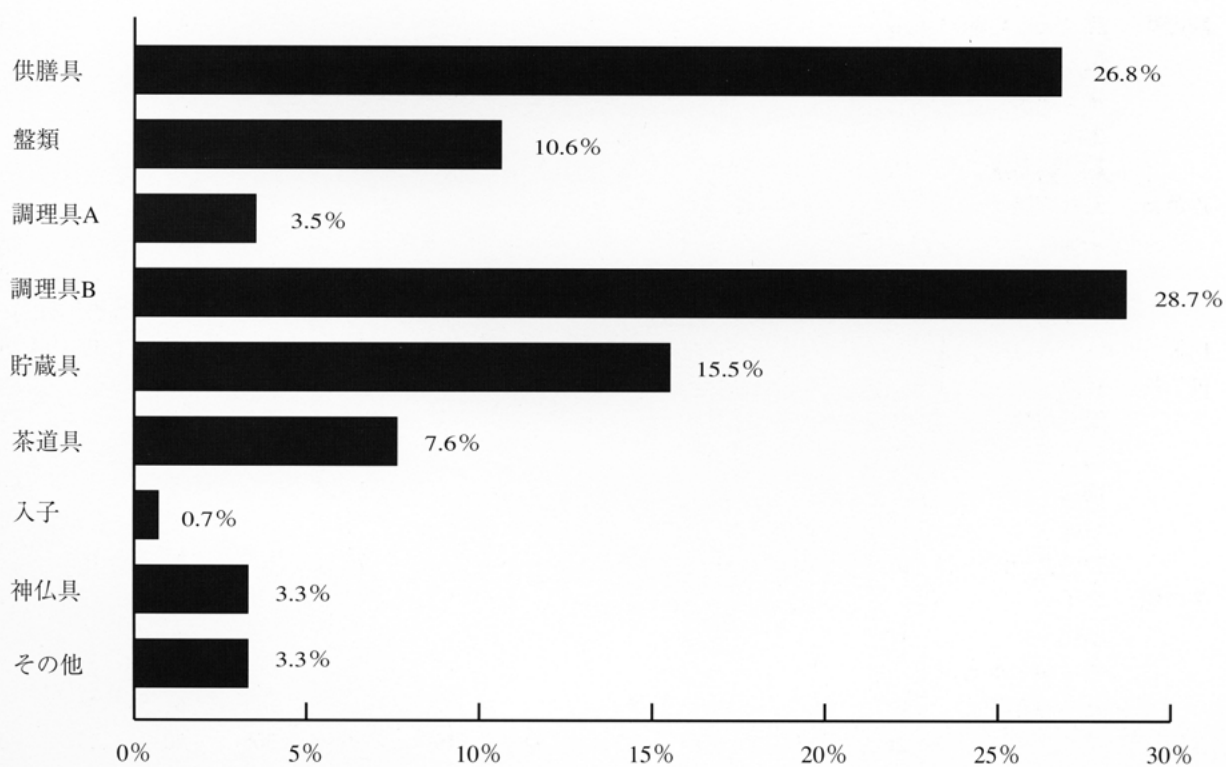


図 53 施釉陶器・器種別グラフ

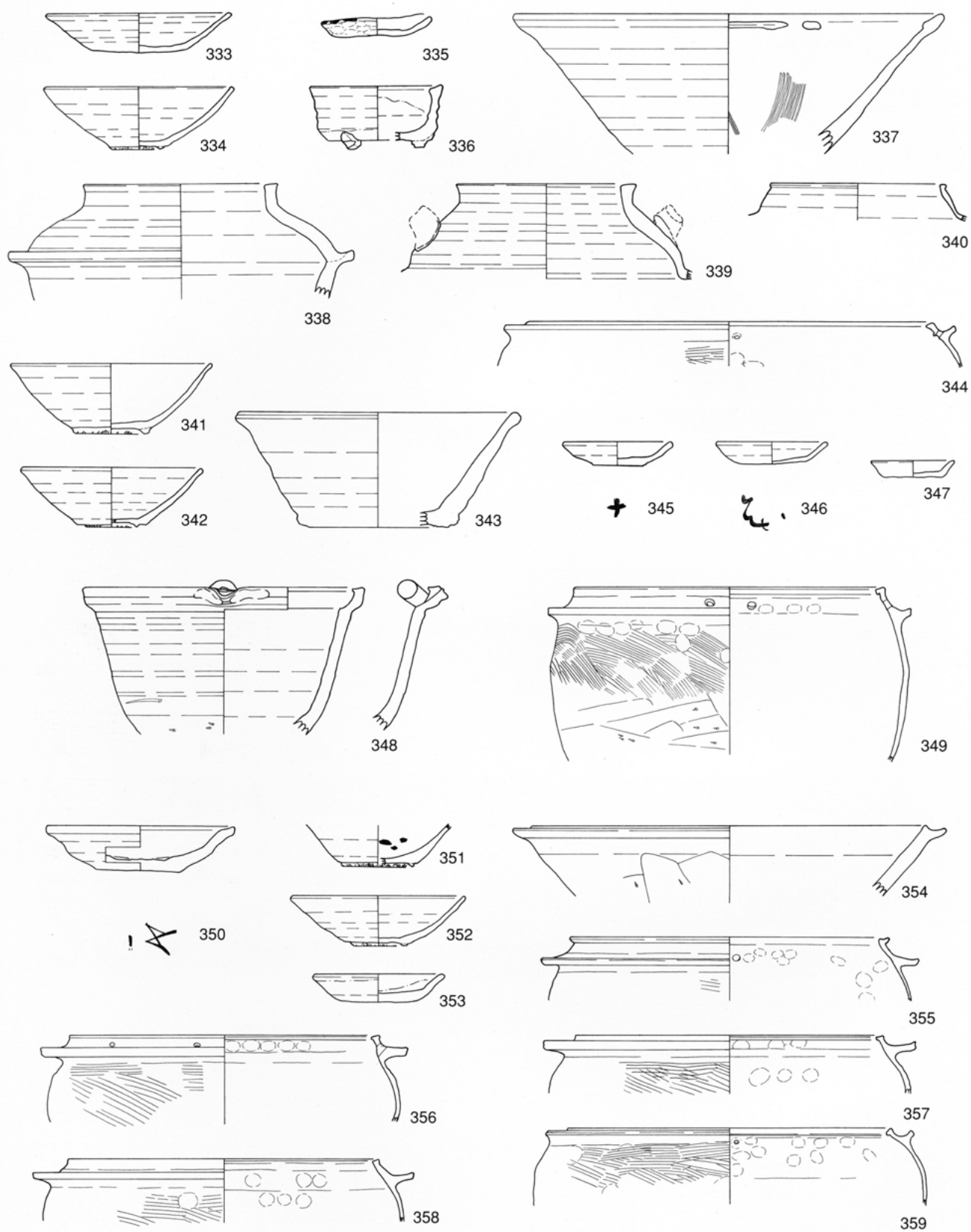


図 54 中世後期の遺物 9 (SD45・48・50・54・55, 1:4)

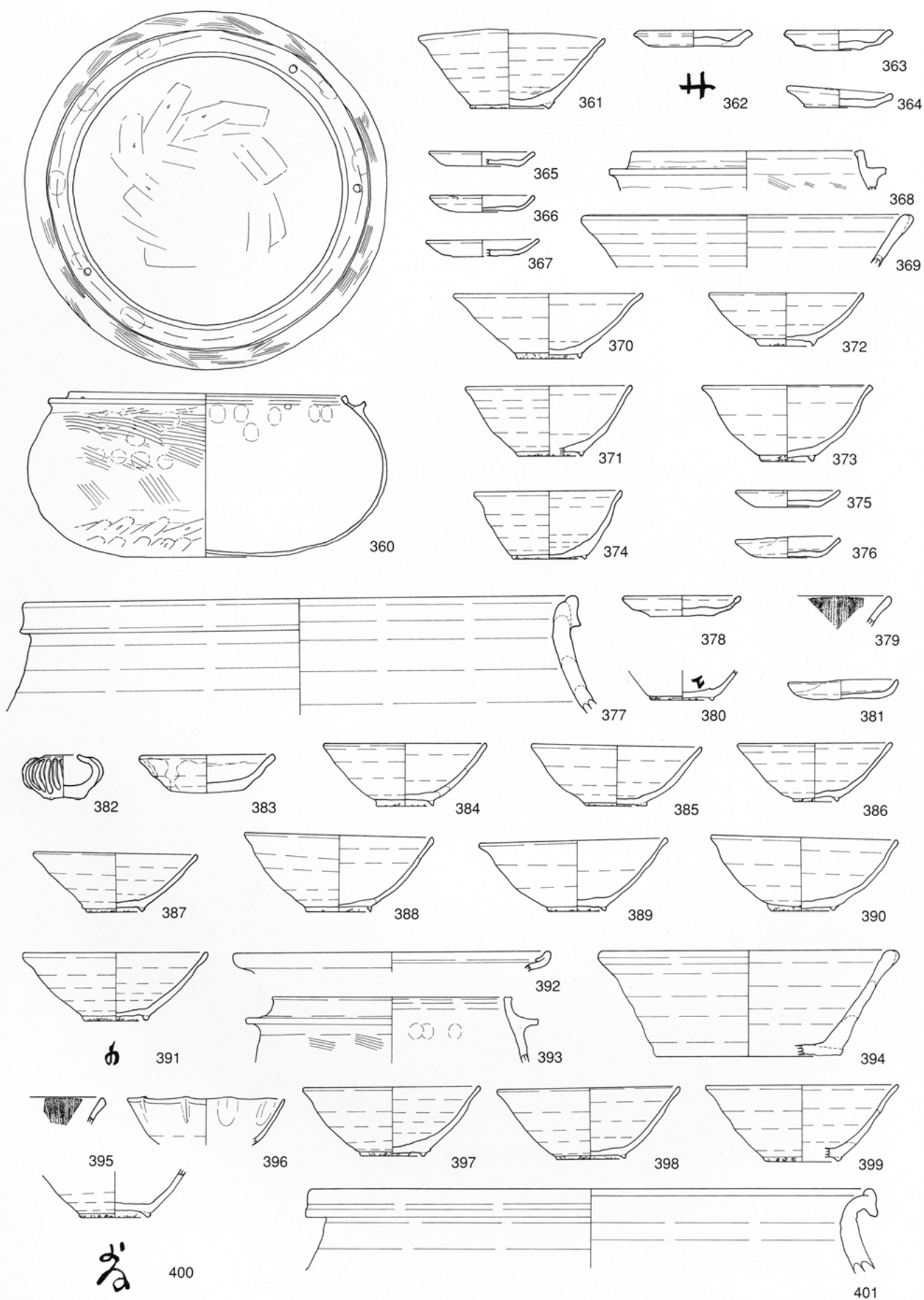


図55 中世後期の遺物10 (95A区, 1:4、ただし379・395=1:3)

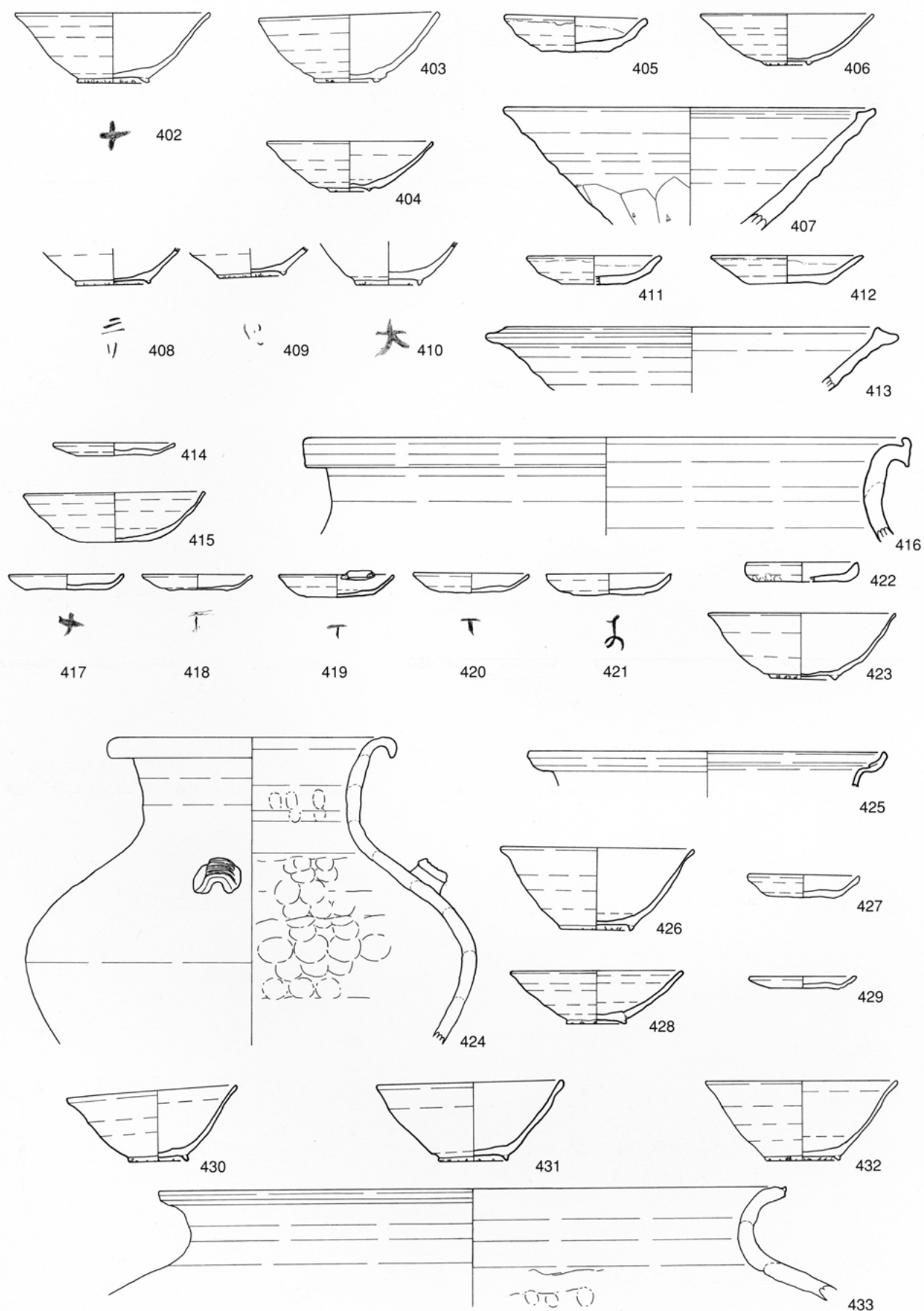


図 56 中世後期の遺物 11 (95Ba・C区, 1:4)

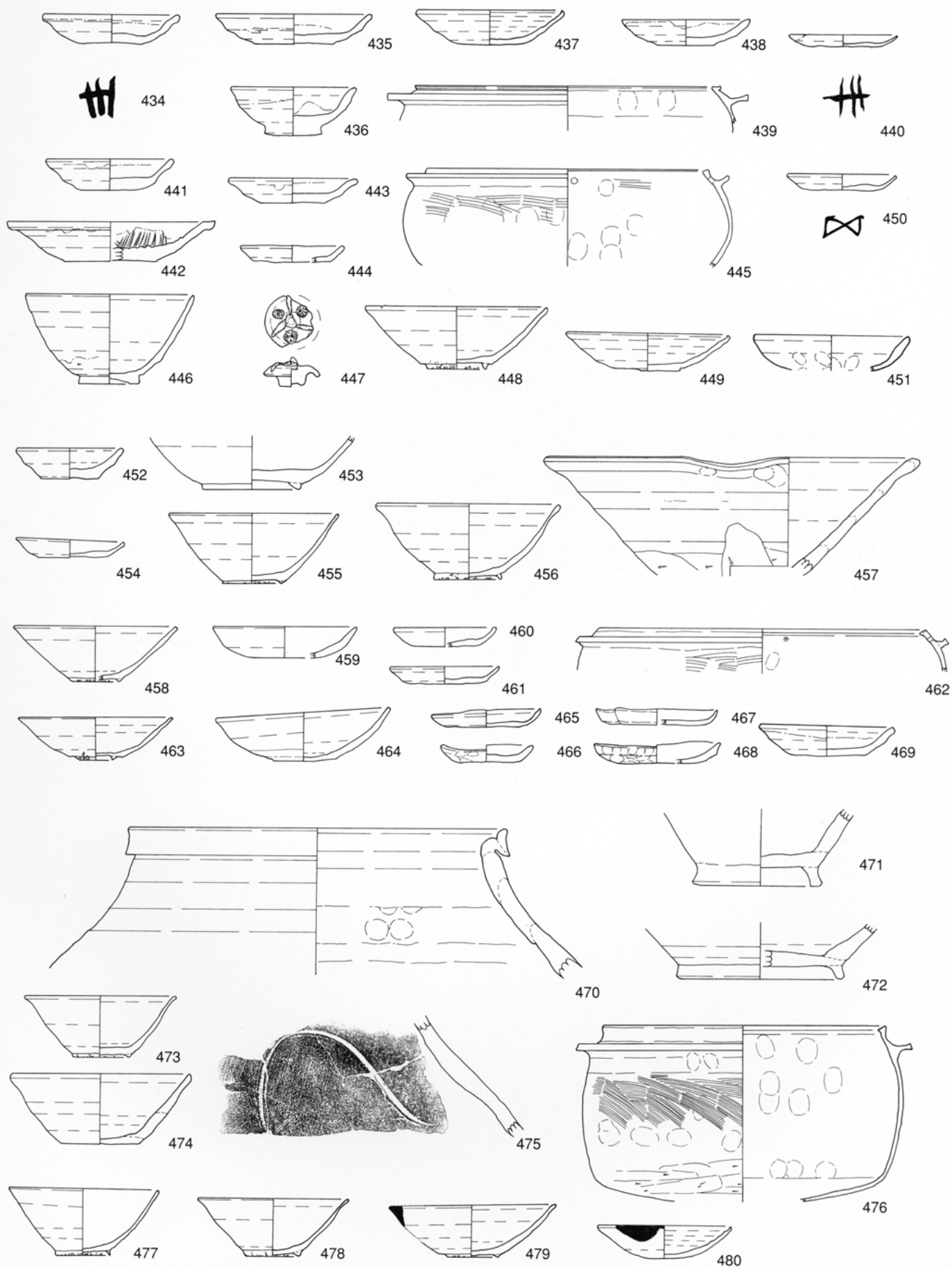


図 57 中世後期の遺物 12 (96 調査区, 1:4)

4-7 遺物の組成について

今回の調査でまとまって遺物が出土しているSK210、SD41、SD39、SD45、SD46について、出土遺物の組成を示したのが表2および図59である。

計測方法

出土遺物の計測方法としては破片数（接合前）を基本とした。溝の資料が中心であるため、全体の傾向を見るには母数を大きくとったほうがより安定したデータとなると考えたからである。また尾張地域の中世の土器・陶磁器組成についてはすでに尾野善裕氏によって破片数（接合前）を基本としてまとめられており（註10）、他遺跡との比較も容易である。

他遺跡の傾向

馬引横手遺跡の場合、遺構によってややばらつきはあるものの、灰釉系陶器の碗・皿類の比率が50～60%程度で、12～13世紀の尾張地域では灰釉系陶器の碗・皿類が8割以上を占めていたのに比べると、その比率はかなり下がっていることがわかる。14世紀を中心とした天白元屋敷遺跡（第3次調査）のデータを見てみると、灰釉系陶器（碗・皿類）が減った分、施釉陶器の割合が増えているように見える。また14世紀から15世紀後半の資料である名古屋城三の丸遺跡（第6・7次調査）の中世Ⅰ期のデータでは、さらに灰釉系陶器が減って土師器（皿および煮炊具）の割合が高くなっている。そういった傾向は名古屋城三の丸遺跡（第6・7次調査）の中世Ⅱ期（16世紀前半）になるとさらに進むようである。

馬引横手遺跡の特徴

こういった変遷をふまえた上で馬引横手遺跡のデータを見てみると、東濃型明和1号窯式の段階の灰釉系陶器・碗や古瀬戸前期の資料も少数ながら含まれてしまうのだが、全体の傾向から見れば、天白元屋敷遺跡のデータと名古屋城三の丸遺跡の中世Ⅰ期のデータの中間的な様相を示していると言ってい

だろう。

中間的な様相とは、単に灰釉系陶器の碗・皿類が減っているという点だけではなく、土師器の割合が高くなっている点に顕著にうかがえる。馬引横手遺跡の場合、施釉陶器の割合はそれほど高くなく、しかも施釉陶器全体の3割近くを占めているのは煮炊具である。つまり古瀬戸および土師器の煮炊具の比率がかなり高いというのが大きな特徴になっているのである。名古屋城三の丸遺跡では、中世Ⅰ期からⅡ期にかけて土師器の比率が格段に上がり、中世Ⅱ期になると土師器の煮炊具が全体の半分以上を占めてしまう。馬引横手遺跡において煮炊具の比率が高いという傾向は、煮炊具の増加の流れの中にうまく当てはまっていると言えそうである。

煮炊具と播鉢の比率

ちなみに煮炊具と鉢類の数量的関係を示すと、土師器煮炊具663点、施釉陶器煮炊具117点の合計780点に対して、灰釉系片口鉢類350点、焼き締め陶器片口鉢（Ⅱ類）24点、施釉陶器播鉢46点の合計420点である。鉢類を1とすると、煮炊具全体で約1.86、土師器煮炊具のみの場合は約1.58という値となる。13～14世紀の段階において「播鉢と土製煮炊具の量比は原則的に1：3以上」で「列島の広い範囲で認められそう」なのに対して、15世紀代になると日置荘遺跡の場合「およそ1：1に近い関係を示して」おり（註11）、馬引横手遺跡の場合もこれと似た数値を示していると言える。

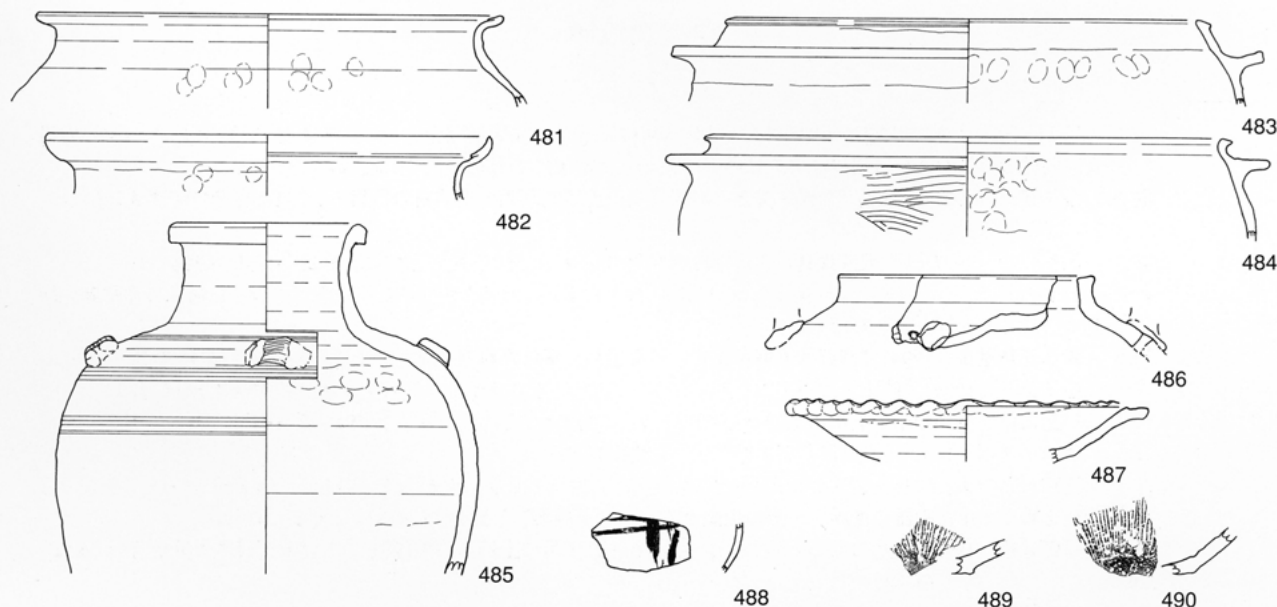


図58 中世後期の遺物13（包含層、1：4、ただし489・490=1：3）

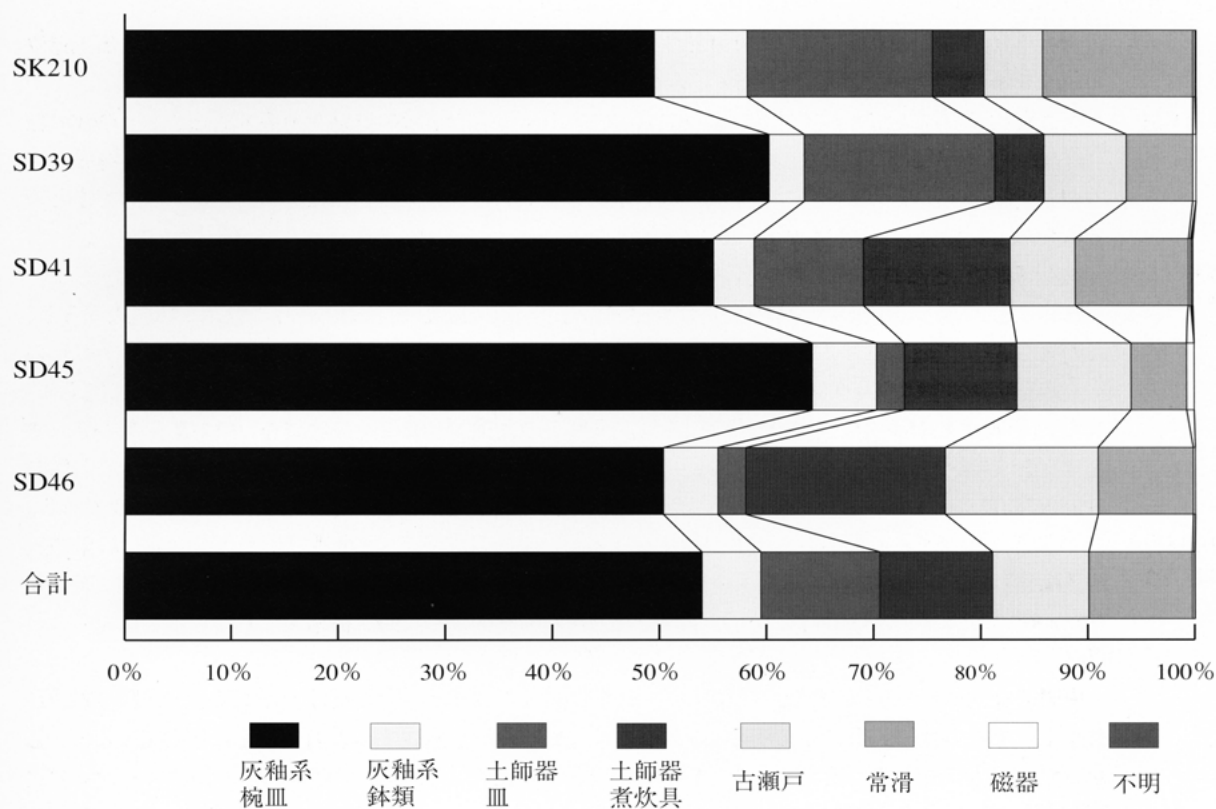


図 59 遺物組成グラフ

	灰釉系碗皿	灰釉系鉢類	土師器皿	土師器煮炊具	古瀬戸	常滑	磁器	不明	合計
SK210	863(49.6%)	151(8.7%)	301(17.3%)	83(4.8%)	95(5.5%)	243(14.0%)	3(0.2%)	1(0.1%)	1740
SD39	833(60.3%)	45(3.3%)	246(17.8%)	63(4.6%)	106(7.7%)	85(6.2%)	4(0.3%)	0(0.0%)	1382
SD41	523(55.1%)	36(3.8%)	97(10.2%)	130(13.7%)	58(6.1%)	101(10.6%)	2(0.2%)	2(0.2%)	949
SD45	270(64.3%)	25(6.0%)	11(2.6%)	44(10.5%)	45(10.7%)	22(5.2%)	3(0.7%)	0(0.0%)	420
SD46	928(50.4%)	93(5.1%)	47(2.6%)	343(18.6%)	264(14.3%)	163(8.9%)	3(0.2%)	0(0.0%)	1841
合計	3417(54.0%)	350(5.5%)	702(11.1%)	663(10.5%)	568(9.0%)	614(9.7%)	15(0.2%)	3(0.05%)	6332

表 2 遺物組成表

- 註1 灰釉系陶器と施釉陶器の分類および時期については藤澤良祐氏（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター）に、常滑窯産陶器の分類および時期については中野晴久氏（常滑市民俗資料館）にご教示いただいた。
- 註2 金子健一（1996）「古瀬戸の鍋・釜とその周辺 ―土器内耳鍋出現前夜の様相―」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
- 註3 鋤柄俊夫（1997）「土製煮炊具にみる中世食文化の特質」『国立歴史民俗博物館研究報告第71集』
- 註4 伊藤裕偉氏（三重県埋蔵文化財センター）のご教示による。伊藤氏からは南伊勢系および中北勢系の煮炊具に関していろいろと御教示いただいた。
- 註5 鈴木正貴他編（1994）『清洲城下町遺跡Ⅲ 外町遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第50集
- 註6 金子健一（1996）「尾張・三河地方のハウロク」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
- 註7 伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
- 註8 伊藤裕偉編（1997）『安濃津』三重県埋蔵文化財センター
- 註9 器種ごとのグラフを作製するにあたっては、『（財）瀬戸市埋蔵文化財センター設立5周年記念シンポジウム 古瀬戸をめぐる中世陶器の世界 ～その生産と流通～ 資料集』（1996）を参考にしてまとめた。
- 註10 尾野善裕（1996）「東海地方の尾張地域を中心とした中世の土器・陶磁器組成について」『中近世土器の基礎研究 XI』
- 註11 註3論文

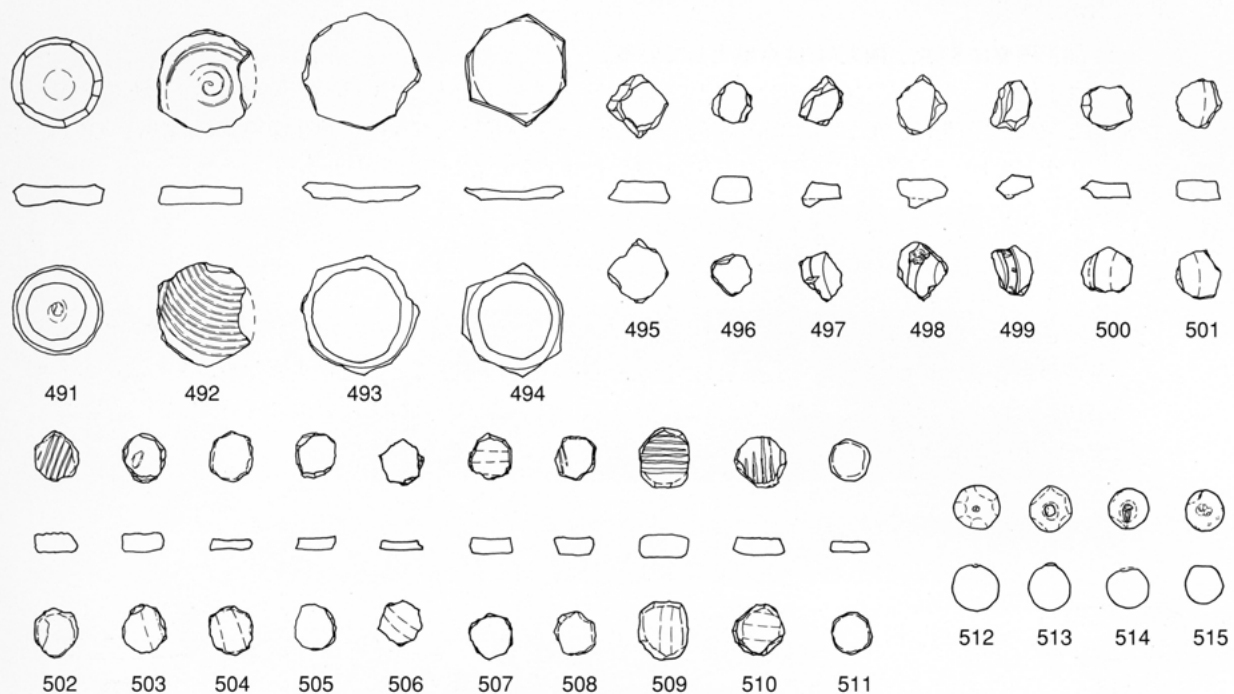


図60 加工円盤・陶丸 (1:4)

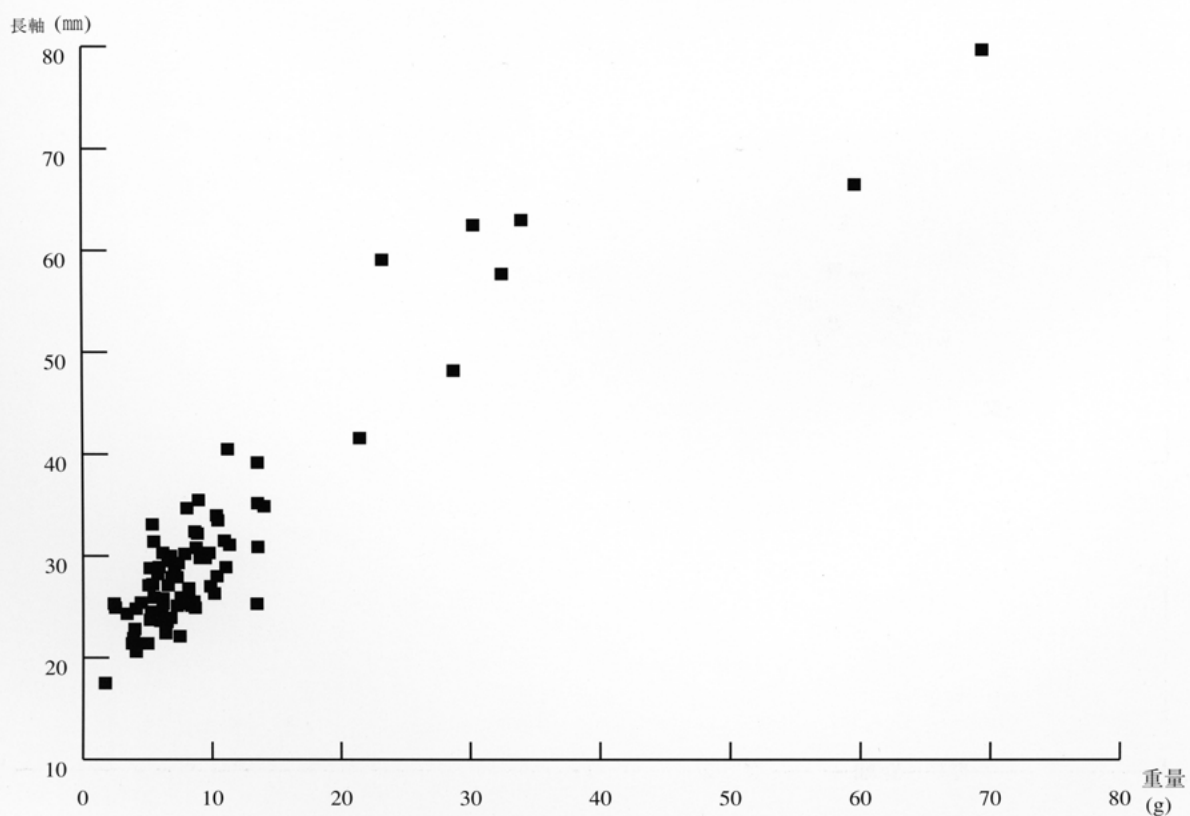


図61 加工円盤分布図 (長軸と重量)

5 加工円盤・陶丸

加工円盤は 83 点、陶丸は 33 点出土している。

加工円盤は 95Ca 区下面の SE02（中世前期）でまとまって出土している他、包含層出土のものを含めると 96Ea 区の北側、SD21 以北の区域からややまとまって出土しており、興味深い。また図 61 のグラフは出土した加工円盤（包含層を含む）の長軸の長ささと重量の関係を示したものである。

6 土錘

破片も含めて 29 点出土している。

長さとの関係を示したものが図 63 のグラフである。Y 軸上にドットされているのは、破片のため長さがわからないものである。形態的には管状のもの（517、522 など）と中央がやや膨らみ気味のもの（518、521 など）があり、端部も平坦面を持つもの（524 など）と持たないもの（516 など）とあるが、やや大形の 526 を除けばおおむね同じグループと言えそうである。

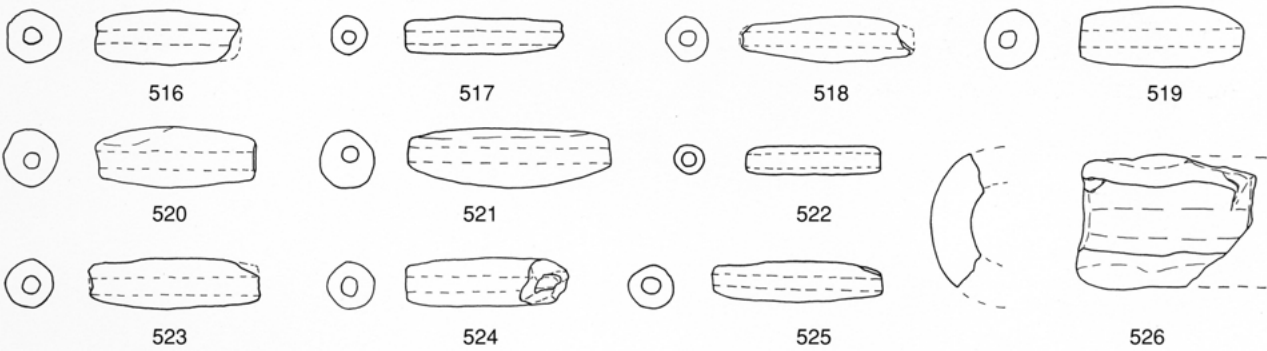


図 62 土錘 (1 : 4)

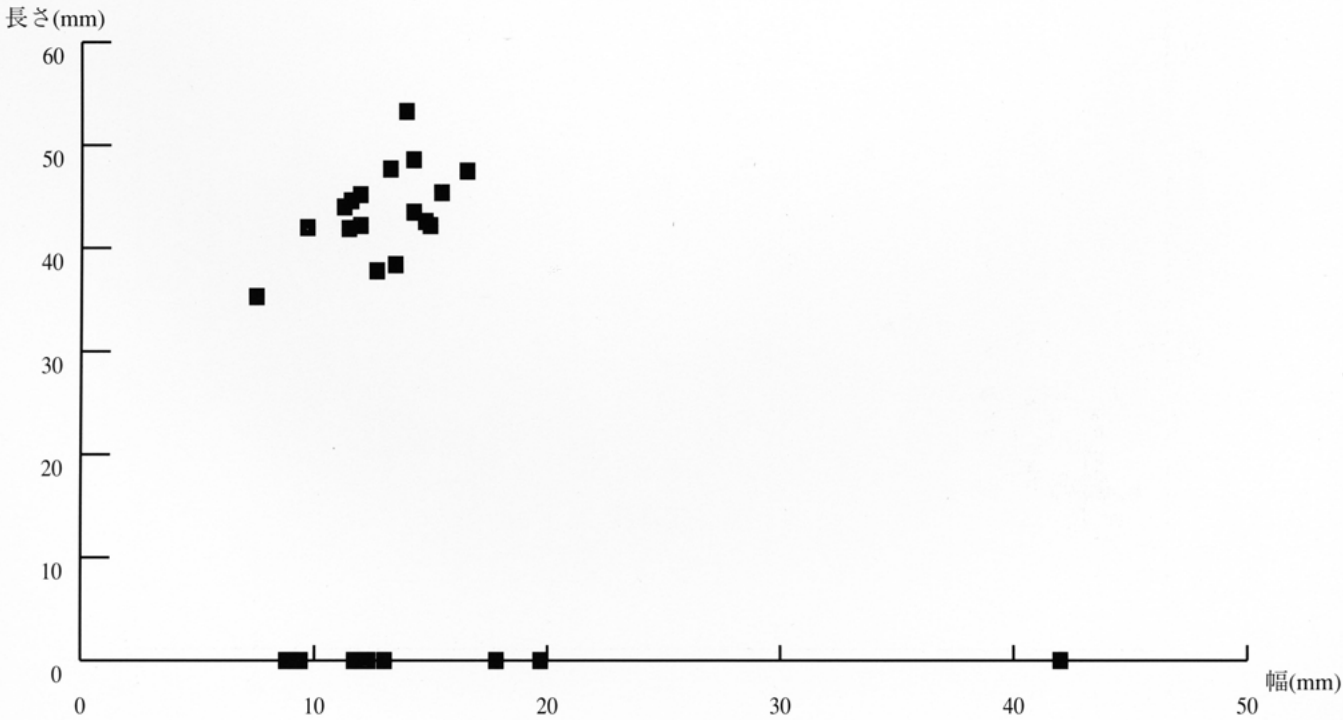


図 63 土錘分布図 (長さとの幅)

7 瓦

SK210から平瓦が1点出土している。凸面には格子状の叩き目が明瞭に見られ、凹面は布目痕が見られる。

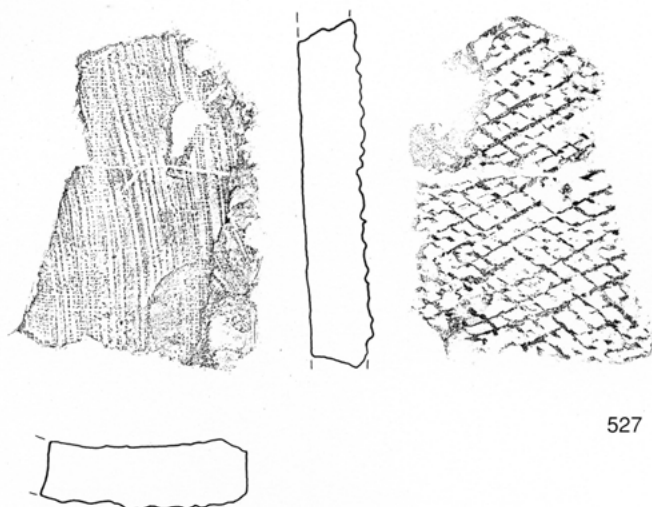


図64 瓦 (1:3)

8 石製品

砥石は70点ほど出土しており、形態的には長方形、バチ形および不定形と様々である。また中央部が膨らんで断面三角形状を呈するものがいくつか見られる。石材は凝灰岩および砂質凝灰岩、泥質凝灰岩で、緑色凝灰岩製のもの(530、531、535)もある。

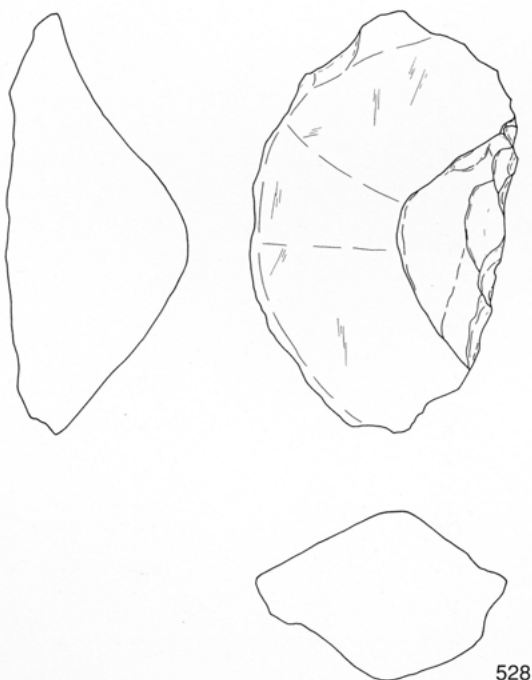


図65 石製品1 (1:2)

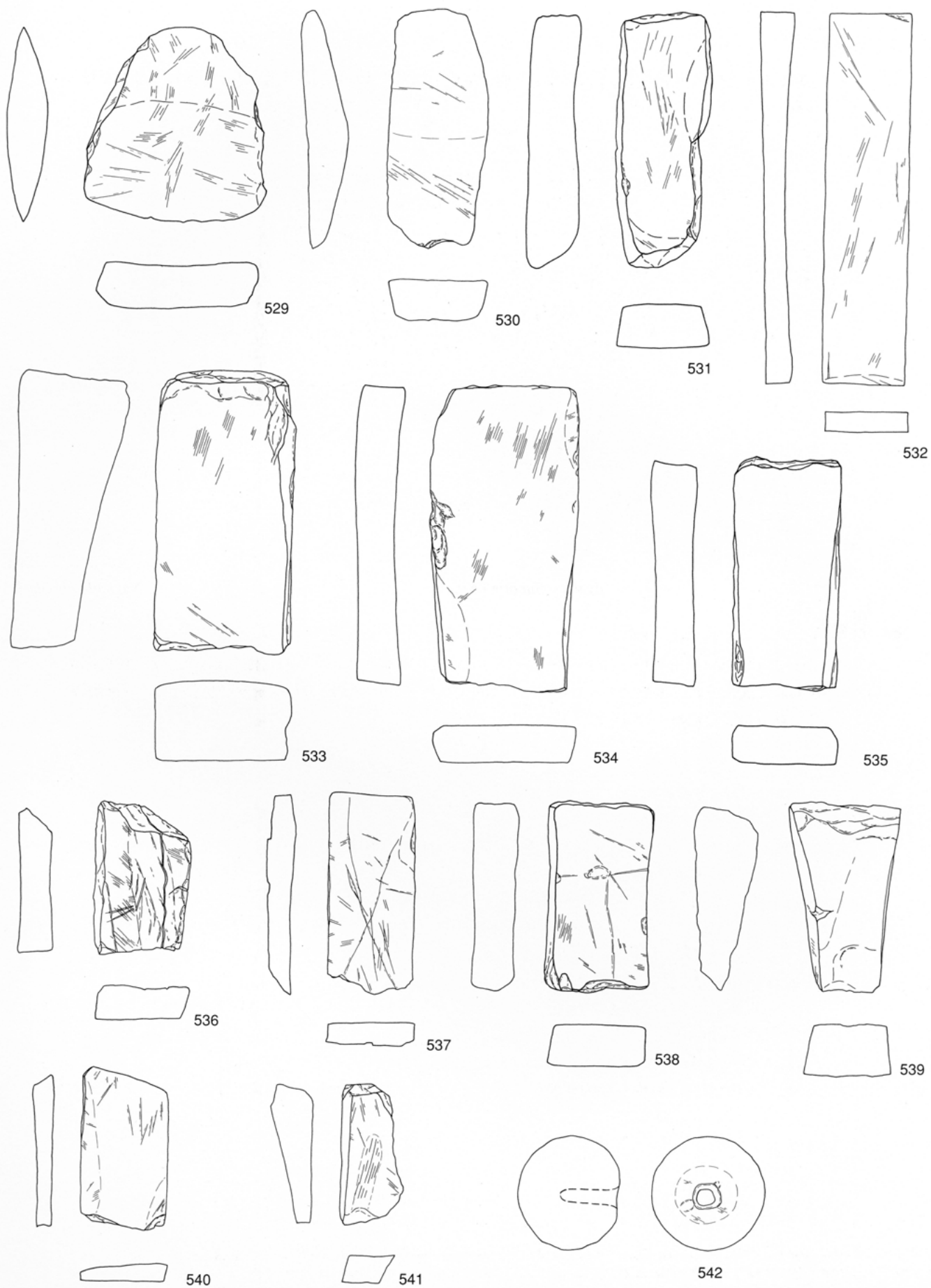


图66 石製品2 (1:2)

9 木製品

糸巻き (543) や下駄の歯 (544) の他、漆器の椀や曲物、箸などが出土している。

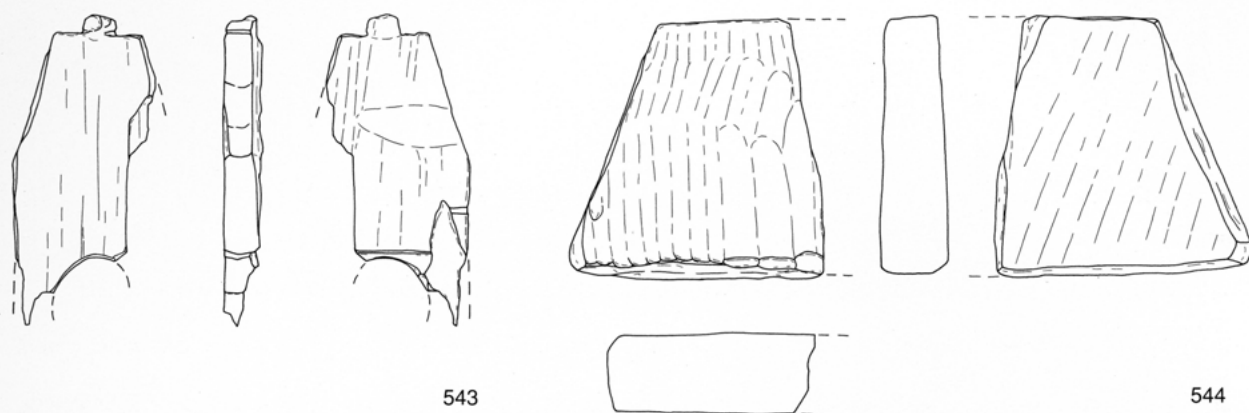


図 67 木製品 (1:2)

10 金属製品

金属製品には銭貨 (545～550) の他、鉄滓などの鉄器製作に関連する遺物 (551～557) などがある。

銭貨

銭貨は全部で26枚が出土しており、渡来銭と国内銭がある。銭種の内訳は、開元通寶2枚、淳化元寶1枚、咸平元寶1枚 (546)、天聖元寶2枚 (548)、皇宋通寶1枚 (545)、嘉祐元寶1枚 (550)、治平元寶1枚 (547) 熙寧元寶2枚、元豐通寶4枚 (549)、紹聖元寶1枚、聖宋元寶1枚、永樂通寶1枚、寛永通寶4枚、不明4枚である。渡来銭は開元通寶が唐銭、永樂通寶が明銭である他は全て北宋銭である。寛永通寶は全ていわゆる新寛永と呼ばれるものである。

鉄関連資料

本遺跡から出土した鉄器製作に関連する遺物には、鉄滓、鋳型片?、炉壁、含鉄遺物などがある。白色付着物がある炉壁が近世以降と推定される他は、出土遺構などからみて基本的に中世に属する遺物と思われる。なお、一覧表の凡例や分析方法是『門間沼遺跡』(註1)を参照されたい。

鉄滓は表面観察による形状分析から、椀型鉄滓、流動滓、再結合鉄滓に区分でき、椀型鉄滓についてはさらに細分が可能である。

椀型鉄滓A類は、上下面の表面が比較的平滑で重量が重いもので、下面に炉材が付着するものが多い。椀型鉄滓A類はさらに厚さが4cm前後のA1類 (551) と厚さが3cm前後のA2類 (552) に区分できる。552は表面全体が水酸化鉄に覆われ、上面が盛り上がっている。

椀型鉄滓B類は、上下面の表面が凸凹で平滑面があまり認められないもので、概して平面形が大きく薄い。椀型鉄滓B類は気泡が少なく比重が重いB1類 (553) と気泡が多く軽い印象を持つB2類 (554) に区分できる。後者は下面に炉材が付着していない。

555はガラス質の質感が軽い流動滓で、表面に光沢を持つ部分が認められる。

556は残存する表面が黒褐色に変色しており、鋳型片の可能性もある。屈曲部付近に浅い沈線が認められるが、製品の形状などについては不明である。

557は鉄製品・半製品などが錆膨れした棒状の含鉄遺物である。

註1 藤山誠一・鈴木正貴 (1999) 「金属製品」『門間沼遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第80集

番号	調査区	遺構	種別	形状	重量	長さ	短径	厚さ	着磁度	マトリ	マトリ2	マトリ3	残存	発泡	小石	植物	木炭	炉材	ガラス質	備考
1	95Ba	SD49	1/2分割碗型鉄滓	形状	252	7.8	5.4	4	2	0	0	0	欠	○	○	×	×	○	1	A 1類、 図 69-551
1	95Ba	検出	1/2分割碗型鉄滓		139	6.8	3.5	3.5	2	0	0	0	欠	○	○	×	×	○	1	A 1類、 図 69-551
2	95Ba	SK399	碗型鉄滓		146	7.3	6.3	2.3	2	0	0	0	完	○	○	×	×	○	1	A 2類、 図 69-552
3	95Ba	SD46	1/2分割碗型鉄滓		208	8.3	5.6	2.4	1	0	0	0	欠	○	○	○	×	○	1	B 1類、 図 69-553
4	95Ba	SD46	1/2分割碗型鉄滓		81	6.9	3.5	3	2	0	0	0	欠	○	×	×	○	×	1	B 2類、 図 69-554
5	95Bb2	SD32	流動滓	礫状	10.2	3.9	2.7	2	1	0	0	0	欠	○	○	×	×	×	2	緑色付着物、 図 69-555
6	95Ab	SD39	鑄型片	礫状	17.6	3.9	3.2	2.5	0	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	土型、表面黒色化、 図 69-556
7	95Ba	SK361	含鉄遺物	棒状	19.3	7.1	1.4	1.3	1	0	0	0	完	×	×	×	×	×	0	図 69-557
8	95Ab	SD38	再結合鉄滓	礫状	16.9	3.9	2.6	1.9	0	0	0	0	完	×	○	×	×	×	2	白色付着物
9	95Ab	SD38	炉壁	扁平	3.2	3.2	2.6	0.9	0	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	2	?
10	95Ab	SD38	流動滓	棒状	1.3	2.3	1.1	0.8	0	0	0	0	完	○	○	×	×	×	2	白色付着物
11	95Ab	SD38	炉壁	扁平	2.7	3.4	1.3	1.1	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	断面が層状(石?)
12	95Ab	SD38	炉壁	扁平	18.6	4	3.8	1	0	1	1	0	欠	○	×	×	×	×	2	断面が層状(石?)
13	95Ab	SD38	炉壁	扁平	2.5	2.4	2.3	0.7	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	白色付着物
14	95Ab	SD39	1/4分割碗型鉄滓	扁平	118	6.8	5	2.8	2	0	0	0	欠	○	×	×	×	○	1	A 2類
15	95Ab	SD39	炉壁または焼台	礫状	33.3	5.3	2.7	2.2	0	0	0	0	欠	×	○	×	×	×	2	青色・緑色付着物
16	95Ab	SK210	1/4分割碗型鉄滓		36.1	3.3	3.1	1.9	1	0	0	0	欠	○	×	×	×	○	1	B 2類
17	95Ab	SK270	流動滓	扁平	4.1	2.5	1.7	1	2	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	A 2類
18	95Ab	検出	1/8分割碗型鉄滓		44.9	5.7	3.3	2.4	1	0	0	0	欠	○	○	×	×	○	1	A 2類
19	95Ba	SD46	含鉄遺物	礫状	16.1	2.7	2.5	1.6	3	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
20	95Ba	SD49	流動滓	礫状	17.8	2.9	2.4	1.9	2	0	0	0	完	×	×	×	×	○	1	
21	95Ba	SK361	1/8分割碗型鉄滓		10.9	3.5	2.6	1.8	2	0	0	0	欠	○	×	×	○	×	1	B 2類
22	95Ba	SK388	流動滓	礫状	14.8	2.2	2.2	2.1	1	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	1	A 2類
23	95Ba	SK399	碗型鉄滓		131	6.4	4.5	3.2	1	0	0	0	欠	○	×	○	×	×	1	
24	95Ba	検出	流動滓	礫状	3.5	2.5	1.4	0.8	1	0	0	0	完	○	×	×	×	×	1	
25	95Ba	検出	含鉄遺物	礫状	1.7	2	1	0.7	1	0	0	0	完	×	×	×	×	×	0	
26	95Bb	検出	炉壁?	扁平	2.1	2	1.8	0.6	0	1	1	0	欠	×	×	×	×	×	0	
27	95Bb	検出	流動滓	扁平	0.8	2.5	1.4	0.5	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	紫色付着物
28	95Bb	検出	炉壁?	扁平	4.9	3.8	1.5	0.8	0	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
29	95Bb	検出	炉壁?	扁平	1.5	2.4	1.6	0.5	0	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
30	95Bb	検出	炉壁	棒状	1	2.3	0.9	0.7	0	0	0	0	完	○	×	×	×	×	2	白色付着物
31	95Bb	検出	炉壁	礫状	2.7	2.9	1.6	1.3	0	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	2	
32	95Bb	検出	炉壁	扁平	2.6	2.4	1.6	0.5	0	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
33	95Bb	検出	炉壁	礫状	1.4	1.6	1.3	1.1	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	白色付着物
34	95Bb	検出	炉壁	扁平	2.3	2.3	1.6	0.7	0	0	0	0	欠	×	○	×	×	×	0	
35	95Bb	検出	炉壁	扁平	1.3	2.5	2	0.8	0	0	0	0	欠	○	○	×	×	×	2	白色付着物
36	95Bb	検出	炉壁	扁平	1.5	2.2	1.4	0.5	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
37	95Bb	検出	炉壁	扁平	0.4	1.5	1.2	0.5	0	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	2	流動滓付着
38	95Bb	検出	炉壁	礫状	1.4	2	1.7	1.1	0	0	0	0	完	○	○	×	×	×	2	白色付着物
39	95Bb	検出	炉壁	礫状	3.1	2	1.3	1.6	0	0	0	0	欠	○	×	×	×	×	2	
40	95Bb	検出	炉壁	礫状	1.6	2.3	1.2	1	0	0	0	0	欠	×	○	×	×	×	2	白色付着物
41	95Bb	検出	?	棒状	2.8	1.8	1.6	0.9	2	1	1	0	欠	×	×	×	×	×	0	
42	95Bb	検出	?	扁平	13.3	4.1	1.5	0.9	3	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
43	95Bb	検出	?	扁平	17.2	5.1	1.4	0.8	3	1	0	0	欠	×	×	×	×	×	0	
44	96Ca	SD01	炉壁	礫状	6.3	3	2.5	1.2	1	0	0	0	欠	×	×	×	×	×	2	

表3 鉄関連資料一覧表



図 68 錢貨 (1:2)

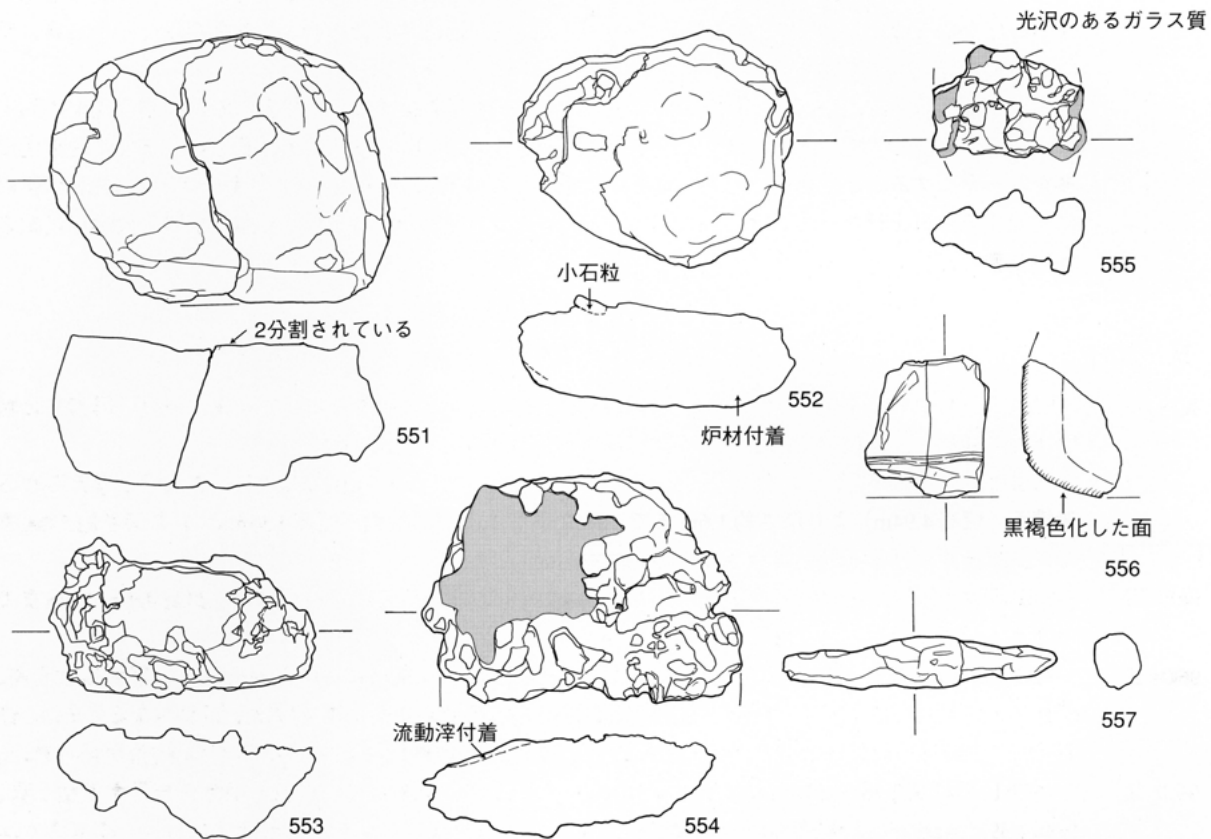


図 69 鉄関連資料 (1:2)

IV 馬引横手遺跡の古環境復元

はじめに

地球をひとつのシステムとして見ると、地球は、堆積物や地殻などの地圏や動物・植物からなる生物圏といったサブシステムから構成される。文明とは、これらサブシステムの物質やエネルギーの流れを利用する生き方であり、文明の誕生とは、地球システムの中に「人間圏」という人間をサブシステムとしたひとつの物質圏が生まれたことを指す。「農耕」の開始をもって始まる人間圏の成立は、人が自然に対して積極的に関与し始めるときでもある（松井, 1998）。

遺跡とはまさしくこの人間圏の時代のことであり、遺構の検出作業とは、当時の人間圏の痕跡を探す作業にはかならない。そして、ある場所でいつ頃人間圏が形成されたのか、これを探るもっとも良い手段が遺跡の発掘調査であろう。

本章では濃尾平野北東部、一宮市大和町馬引横手から尾西市籠屋にかけて広がる馬引横手遺跡の調査において、層序変化および採取試料の微化石分析を行ない、当地に人間圏が形成されるまでの古環境変遷を明らかにすることを目的とした。本遺跡で採取した試料についてパリノ・サーヴェイ（株）に依頼して微化石分析を行なった。また、 ^{14}C 年代測定はパリノ・サーヴェイ（株）を通じ学習院大学年代測定室に依頼した。

1 試料

試料 95Bb区・96Ca区・96Cb区の3調査区において、最終遺構面よりさらに下方に掘り下げ、露出した層序断面の観察と試料採取を行なった。試料採取位置と層準を図70に示す。

95Bb区では最終遺構面（標高4.80m）より深さ約2.0mまで、96Ca区では14～15世紀と考えられる遺構面（標高4.94m）より深さ約1.6mまで、96Cb区でも最終遺構面（標高4.556m）より深さ約1.8mまでの、地下水が湧出し始める深さまでさらに掘り下げた。

95Bb区 95Bb区の標高2.8～4.4mでは黒色や褐色ないし紫灰色を呈する厚い粘土層と、標高4.4～4.8mまでの砂サイズ粒子を含む粘土層とシルト層とが卓越する。

96Ca区 96Ca区の標高3.34～3.44mには砂質シルト層、標高3.44～4.50mには黒色～灰色等を呈する粘土層、標高4.50～4.94mには灰色～褐色等を呈するシルト質極細粒砂層やシルト質粘土層からなる。また、標高3.60～3.64mの炭化物を含む黒色粘土層から $2,270 \pm 70$ yrs BP (GaK-19729) の ^{14}C 年代値が得られた。

96Cb区 96Cb区の標高2.76～2.78mにはシルト質砂層、標高2.78～4.39mには黒色～褐色等を呈する粘土層、標高4.39～4.56mには砂質シルト層が堆積し、碎屑物の粒径からシルトと粘土サイズの各々卓越するユニットに大きく分けられる。また、標高2.76～2.78mの砂層中から得られた材からは $2,740 \pm 70$ yrs BP、標高3.32mの黒色腐植土層からは $2,420 \pm 70$ yrs BP、標高3.56mの黒色粘土層からは $2,540 \pm 80$ yrs BP、標高3.98mの黒色粘土層からは $1,720 \pm 70$ yrs BP の ^{14}C 年代値がそれぞれ得られた（表4）。

表4 ^{14}C 年代測定結果

調査区	試料名	試料の質	年代値[yrs BP]	Code No.
IBM96Ca	深掘 (4層)	土壌	$2,270 \pm 70$ (320 B.C.)	GaK-19729
IBM96Cb	深掘 No.1	土壌	$2,420 \pm 70$ (470 B.C.)	GaK-19727
IBM96Cb	深掘 No.2	土壌	$2,540 \pm 80$ (590 B.C.)	GaK-19726
IBM96Cb	深掘 No.3	土壌	$1,720 \pm 70$ (A.D. 230)	GaK-19725
IBM96Cb	深掘 No.4	材	$2,740 \pm 70$ (790 B.C.)	GaK-19728

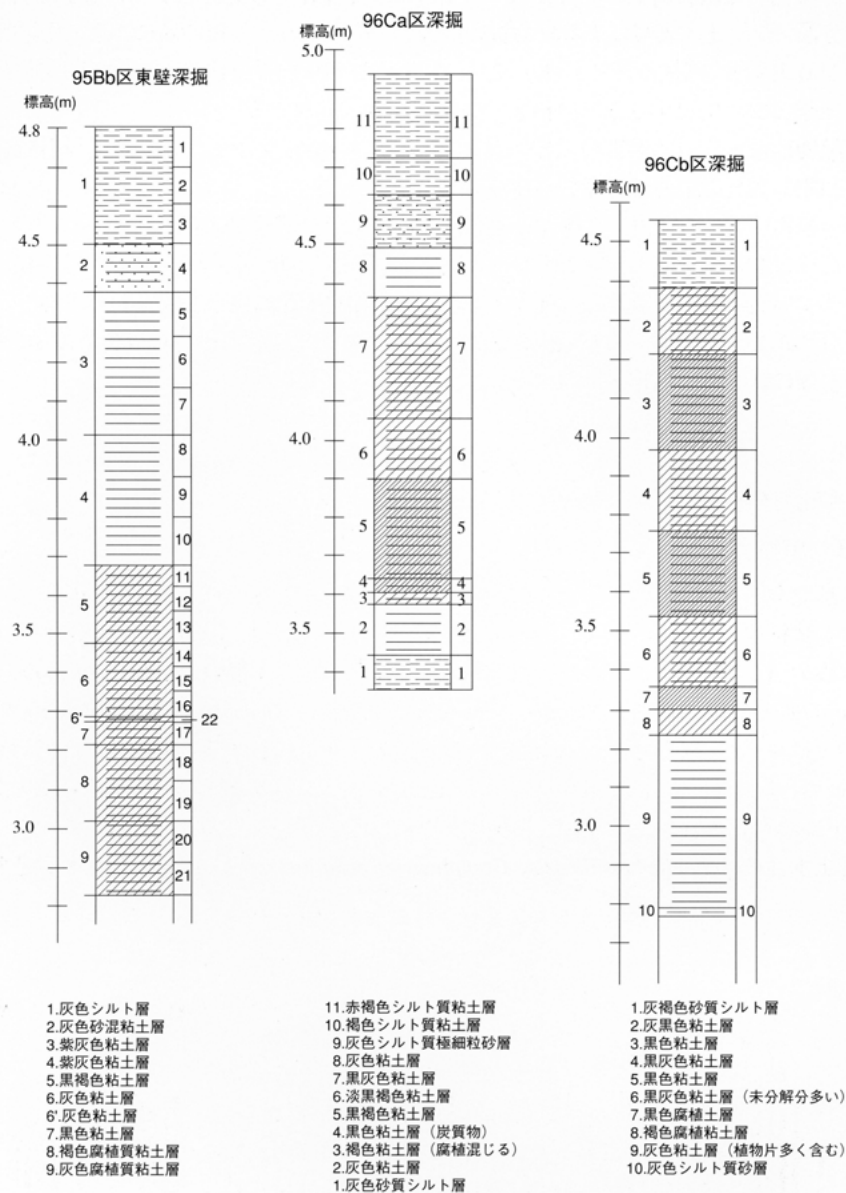


図 70 試料採取断面柱状図

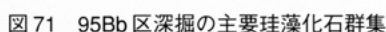
2 方法

珪藻化石 珪藻化石は次の手順で抽出した。試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して珪藻化石を濃集する。希釈後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入して永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する。種の同定は、K. Krammer and Lange - Bertalot (1986・1988・1991a・1991b)、K. Krammer (1992) などを用いる。堆積環境の解析にあたっては、海～汽水生種については小杉 (1988)、水生珪藻については安藤 (1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内 (1991)、汚濁耐性については、Asai and Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

植物珪酸体化石 植物珪酸体化石は湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W, 250KHz, 1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下乾燥する。乾燥後、ブリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

微化石分析の結果を各調査区ごとに記す。

珪藻化石 珪藻化石は全ての試料から産出し、試料中から 35 属 289 種類が認められる。結果を表 5、図 71 に示す。試料番号 21 では真・好流水性種が全体の 50% と優占することで特徴づけられる。産出種では好流水性の *Achnanthes convergens* が約 20% と多産し、同じ生態性をもつ *Achnanthes lanceolata*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Diatoma hyemale* var. *mesodon*、*Gomphonema sumatrense* を伴う。試料番号 20・19 では真・好止水性種、真・好酸性種と流水不定性種が増加する。産出種として流水不定性種の *Diploneis ovalis*、*Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Gomphonema parvulum*、*Navicula pupula* や好止水性種の *Eunotia bilunaris* などを 10% 前後産する。試料番号 18 での生態性には変化がみられないものの産出種は異なり、好止水性の *Actinella brasiliensis*、*Gomphonema acuminatum*、*G. gracile* や流水不定性種の *Pinnularia gibba*



63

などが10%程度産出する。試料番号17では貧塩・嫌塩性種と真・好酸性種、真・好止水性種が増加する。産出種では好止水性の *Eunotia monodon* var. *tropica*、流水不定性種の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、*E. pectinalis* var. *undulata*、陸生珪藻の *Eunotia praerupta* var. *bidens*、*Hantzschia amphioxys* などが特徴的である。試料番号16～11では貧塩・不定性種、流水不定性種と真・好止水性種、真・好アルカリ性種が多産する。浮遊生の *Aulacoseira ambigua* が約20%と多産し、同じく浮遊生の *Aulacoseira italica* を伴う。ほかに好止水性の *Gomphonema gracile* や流水不定性の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、*Navicula elginensis*、*Pinnularia gibba* もみられる。試料番号10～7では真・好止水性種が減少し、流水不定性種が増加する。好流水性の *Gomphonema sumatrense*、好塩性・流水不定性の *Rhopalodia gibberula*、陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys* などを産する。試料番号6・5では、いったん減少した真・好止水性種が再び増加傾向を示す。浮遊生の *Aulacoseira ambigua*、好流水性の *Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水不定性の *Gomphonema parvulum* などを多産する。試料番号4～1では再び真・好流水性種が増加することで特徴づけられる。好流水性の *Achnanthes convergens* や *Gomphonema sumatrense*、流水不定性の *Achnanthes minutissima*、*Cymbella silesiaca*、*Gomphonema parvulum* などを多産する。

植物珪酸体化石

植物珪酸体化石は保存状態が悪く、表面に多数の溶食痕の認められるものが多い。結果を表6、図72に示す。特に試料番号18以深ではほとんど確認されない。試料番号21～18では検出個体が少なく、タケ亜科やヨシ属が認められるにすぎない。試料番号17～11ではヨシ属の産出がめだち、キビ属・タケ亜科・イチゴツナギ亜科などを伴う。また、イネ属が比較的多く認められ、特に機動細胞珪酸体は約15%の出現率を示す。試料番号10～5でも試料番号17～11と同様な種類が認められるが、上位になるにつれてイネ属やタケ亜科がめだつようになる。試料番号4～1でも同様であるが、特にタケ亜科の産出が特徴的である。

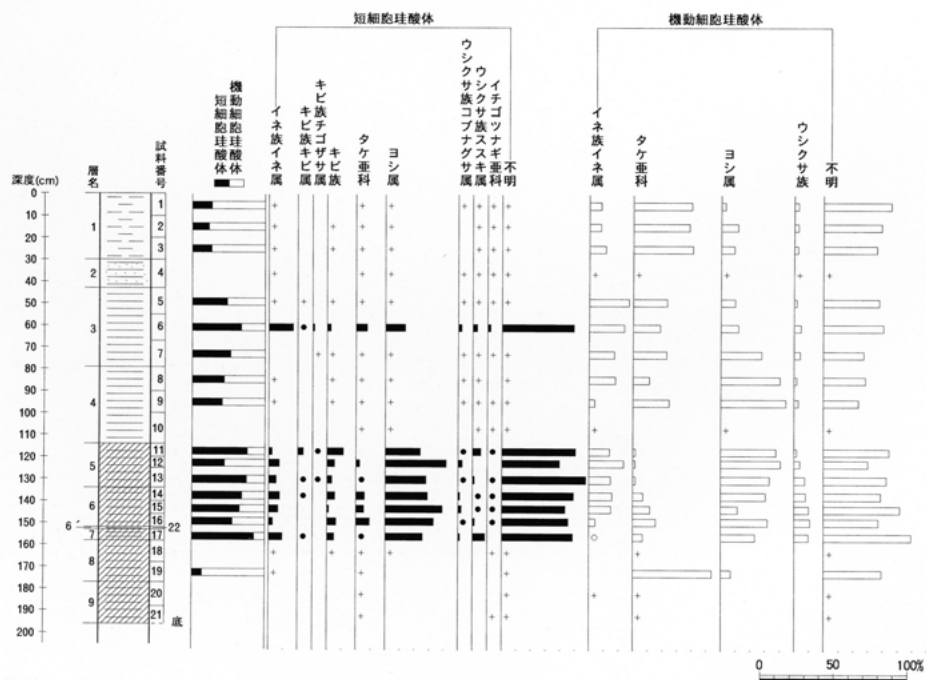


図72 95Bb区深掘の植物珪酸体化石組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。

なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個体未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個体未満の試料について検出された種類を示す。



出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を補属数を基数として百分率で算出した。



なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個体未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個体未満の試料について検出された種類を示す。

3-2 96Ca 区

花粉・孢子化石 花粉・孢子化石について、試料の保存状態は試料番号11～8では不良で検出化石数も少ない。試料番号7～1ではやや不良であるものの木本花粉が100個以上検出される。結果を表7、図73に示す。試料番号1～4では木本花粉の占める割合が高く、検出する種類数も豊富である。コナラ属アカガシ亜属が高率で出現しコナラ属コナラ亜属を伴う。マツ属も試料によりばらつきはあるが比較的高率である。試料番号3・4ではアカガシ亜属、コナラ亜属のほかに、スギ属とヤナギ属が特徴的な産出を示す。草本花粉は低率でイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などが検出される。試料番号5～7では、木本花粉の占める割合が低くなり、草本花粉・シダ類胞子の割合が高くなる。木本花粉はアカガシ亜属とマツ属が高率となり、コナラ亜属やその他の木本類は減少あるいは検出されなくなる。草本花粉ではイネ科が上位に向かって著しく増加する。試料番号5からはハス属、ヒシ属、サジオモダカ属などの水生植物が検出される。試料番号8～11は花粉・孢子化石が少なく、特に試料番号9～11からはほとんど検出されない。

植物珪酸体化石 植物珪酸体化石では各試料から植物珪酸体が検出されるものの、検出個体数が少ない試料があり、保存状態も概して悪い。結果を表8、図74に示す。試料番号1～3（1層～3層）ではタケ亜科の産出がめだち、ヨシ属・ウシクサ族などが認められる。試料番号4～7（4層～7層）ではヨシ属が優占し、タケ亜科・ウシクサ族なども認められる。また、栽培植物のイネ属も連続して検出される。試料番号8～11（8層～11層）では再びタケ亜科の産出がめだち、ヨシ属・ウシクサ族などが認められようになる。

3-3 96Cb 区

花粉・孢子化石 花粉・孢子化石の保存状態は、試料番号1・2では不良で検出化石数が少なく、試料番号3～10でやや不良である。結果を表9、図75に示す。試料番号10～8では木本花粉の占める割合が高く、検出する

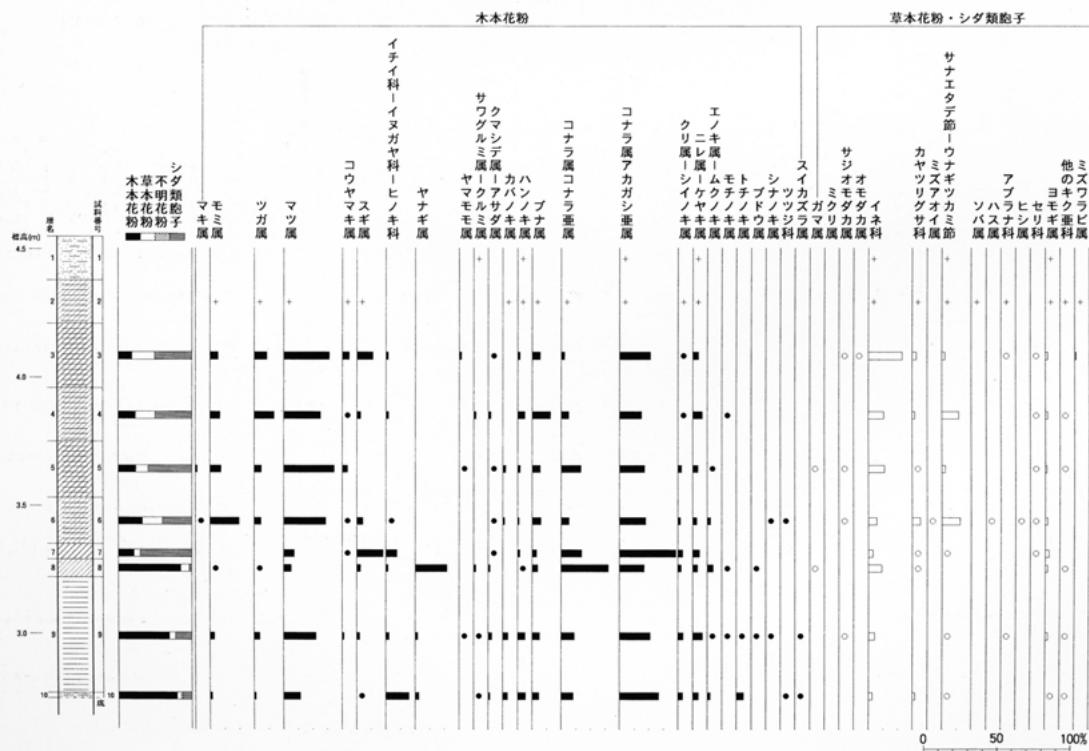


図 75 96Cb 区深掘の主要花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を補属数を基数として百分率で算出した。
なお、○●は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

る種類数も豊富である。コナラ属アカガシ亜属が高率で出現し、コナラ属コナラ亜属を伴う。マツ属も比較的高率である。試料番号8でヤナギ属が特徴的な産出を示す。草本花粉は低率で、イネ科、カヤツリグサ科などが検出される。96Ca区の試料番号1～4の花粉化石群集の結果と非常によく似ている。試料番号7～3では木本花粉の占める割合が低下し、草本花粉・シダ類胞子の割合が高くなる。96Ca区深掘の試料番号5～7とよく似た花粉化石組成だが、本地点ではマツ属がアカガシ亜属をやや上回って産出する。コナラ亜属やその他の木本類は減少あるいは検出されなくなる。草本花粉はイネ科が上位に向かって著しく増加する。ヒシ属、サジオモダカ属、サンショウモなどの水生植物の種類も増加する。試料番号2・1の花粉・胞子化石は少ないが、試料番号2からはソバ属の花粉化石が検出される。

珪藻化石

珪藻化石は全ての試料から産出する。結果を表10、図76に示す。完形殻の出現率は30～70%まで変化するが70%前後の試料が多い。試料中より出現した珪藻化石は30属231種類である。産出種の生態性の特徴から4つに分帯される。

I帯：試料番号10～9では貧塩-不定性種、pH不定性種、真・好アルカリ性種、真・好流水性種が多産する。産出種の特徴として好流水性の *Achnanthes convergens* が約20%と多産し、同じ生態性の *Achnanthes japonica*、*Ceratoneis arcus* var. *recta*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Gomphonema clevei* を伴う。流水不定性の *Cymbella silesiaca*、*Gomphonema parvulum*、*G. pumilum* を伴う。

II帯：試料番号7・8では、前試料と比較して貧塩-嫌塩性種、真・好酸性種、真・好止水性種が増加する。産出種の特徴として、試料8では好酸性・流水不定性の *Eunotia pectinalis* var. *minor*、*E. pectinalis* var. *undulata*、好止水性の *Gomphonema acuminatum*、*G. gracile*、*G. truncatum* が5～10%産出する。試料7では好止水性の *Aulacoseira italica*、*Eunotia flexuosa*、*E. serra*、陸生珪藻B群（伊藤・堀内，1991）の *Eunotia praerupta* var. *bidens*、*Hantzschia amphioxys* を伴う。

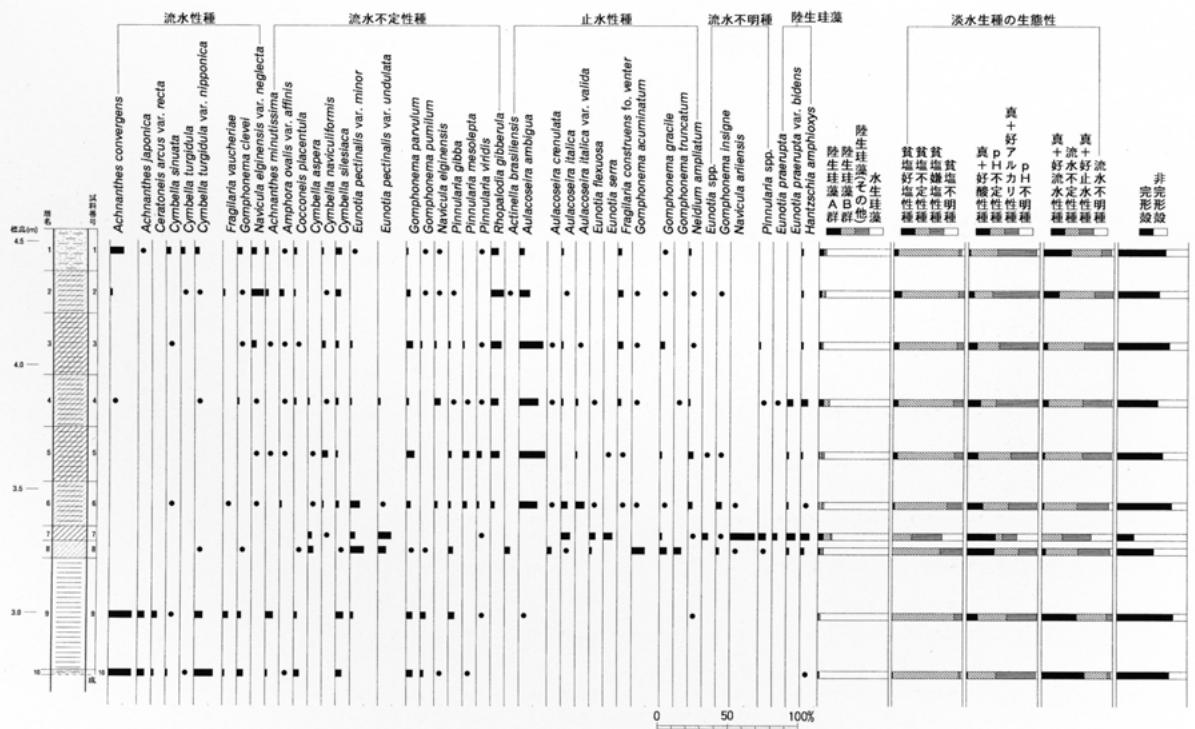


図76 96Cb区深掘の主要珪藻化石群集

各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満の試料について検出した種類を示す。

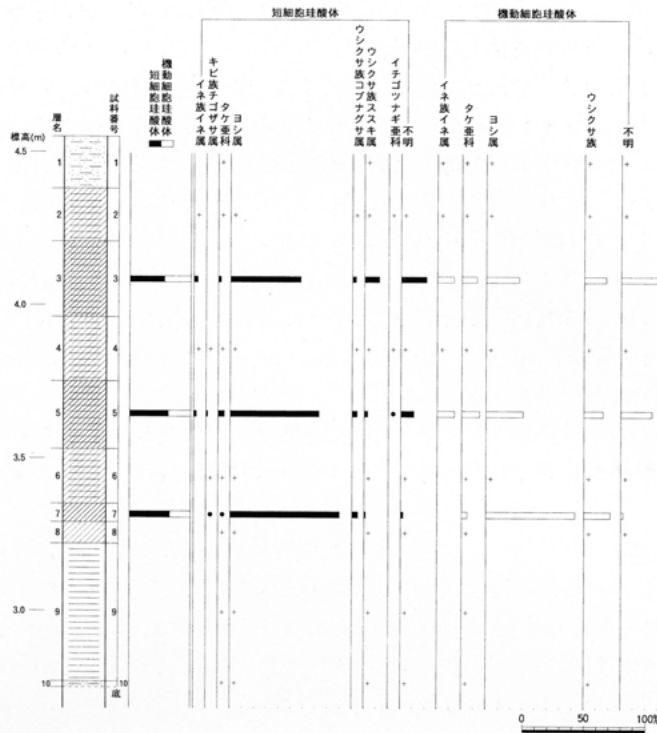


図 77 96Cb 区深掘の植物珪酸体化石組成

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。

なお、●は1%未満の種類、+はイネ科葉部短細胞珪酸体で200個体未満、イネ科葉身機動細胞珪酸体で100個体未満の試料について検出された種類を示す。

Ⅲ帯：試料番号6～2では貧塩-不定性種、真・好アルカリ性種、真・好止水性種と流水不定性種が多産する。特に、産出種の特徴として好止水性の *Aulacoseira ambigua* が20%前後と多産し、流水不定性の *Rhopalodia gibberula*、*Gomphonema parvulum* を伴う。また、上位に向かって好流水性の *Navicula elginensis* var. *neglecta* が増加する。

Ⅳ帯：試料番号1では真・好流水性種が増加することで特徴づけられる。産出種では好流水性の *Achnanthes convergens* が10%と多産し、同じ生態性の *Cymbella sinuata*、*C. turgidula* var. *nipponica*、*Gomphonema clevei*、*Navicula elginensis* var. *neglecta*、流水不定性の *Cymbella silesiaca*、*Rhopalodia gibberula* などを伴う。

植物珪酸体化石 植物珪酸体化石は各試料から植物珪酸体が検出されるものの、検出個数が少ない試料もあり、保存状態も概して悪い。結果を表11、図77に示す。96Ca区の試料と同様に、試料番号10～8（10層～8層）では検出個体数が少なく、タケ亜科やヨシ属が認められるに過ぎない。試料番号7（7層）ではヨシ属が優占し、キビ族チゴザサ属・タケ亜科・イチゴツナギ亜科なども認められる。試料番号6（6層）ではヨシ属の産出がめだち、キビ族チゴザサ属・タケ亜科・イチゴツナギ亜科なども認められる。試料番号5～3（5～3層）でもヨシ属の産出がめだちが、イネ属やタケ亜科も産出するようになる。イネ属の中には短細胞列として認められるものもある。試料番号2・1（2層・1層）では検出個数が少ないものの、下位試料と同様な種類がみられる。

4 馬引横手遺跡の古環境変遷

馬引横手遺跡の地下層序は標高2.8mないしは3.4m以深でみられるシルト質砂層～砂質シルト層の卓越するユニット1、標高約3.0～4.5mの層厚およそ1mの粘土層が卓越するユニット2、標高4.5m以浅のシルト層～シルト質粘土層が卓越するユニット3の大きく3つに分けられる。微化石分析の結果をもとに、馬引横手地域に人が生活を始めるまでの古環境変遷について考察する。

ユニット1はシルト質砂ないし砂質シルト層である。微化石の保存状態は非常に悪い。96Cb区の標高約2.76mの砂層中より採取した材の¹⁴C年代値から2,740 ± 70yrs BPを得ていることから、縄文時代晩期において、近傍に河川流路が位置していたと推定できる。

ユニット2からは微化石が良好に産した。ユニット2の粘土層は未分解または分解の進んだ植物片を多く含むのが特徴であり、色調の差によって下位から灰色→黒～黒褐色→灰～灰黒色へと漸移する。それは95Bb区、96Ca区、96Cb区の3地点において同様な傾向を示す。灰色粘土層からは *Achnanthes convergens*、*Achnanthes lanceolata*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Gomphonema sumatrense* といった好流水性の珪藻を多産する。また、それらの多産は基物となる植物の繁茂も推定でき、ヨシ属の植物珪酸体化石の産出はそれを裏づける。花粉化石では木本花粉が多く、特にコナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属が高率で検出されたことから、周辺地域の植生はコナラ属の優勢な林が広がっていたと推定される。

黒～黒褐色粘土層からは、浮遊生珪藻である *Aulacoseira ambigua*、*Aulacoseira italica* が多産した。本種は湖沼における浮遊生種として、沼沢地における付着生種として優勢に出現する。本種が多産することから、黒～黒褐色粘土層堆積時には止水域で沼沢地的な環境であったことがわかる。植物珪酸体化石ではヨシ属が優占し、花粉化石では河畔や水辺を好むヤナギ属やハス属、ヒシ属、サジオモダカ属といった水生植物が多産することとも矛盾しない。また、耐乾性をもつ陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、*Navicula mutica*、*Pinnularia subcapitata* など確認されることから、周辺での陸域の存在も示唆される。96Cb区でみられる黒～黒褐色粘土層から2,420 ± 70 yrs BP、2,540 ± 80 yrs BPの¹⁴C年代値が得られている。ユニット1の堆積から約200年経た後、本地域は沼沢地的環境であったことがわかる。

灰～灰黒色粘土層では、花粉化石について木本花粉に比べて草本花粉やシダ類胞子の割合が高くなる。中でもイネ科花粉が著しい増加傾向を示す。また、植物珪酸体化石でも上位に向かってイネ属が多産する。96Cb区、標高約4.0mの土壌から得られた¹⁴C年代値は1,720 ± 70 yrs BPを示しており、古墳時代の調査地周辺はかなり開けた環境で、周辺では稲作が行なわれていたことがわかる。

ユニット3では *Achnanthes convergens*、*Navicula elginensis* var. *neglecta* といった流水性珪藻が増加傾向を示し、堆積物自体も下位の粘土層に比べてシルトサイズの粒子を主体とした堆積物へと変化する。本ユニット堆積時に、それまで遠方に存在した河川流路が再び近傍に変化したことがわかる。また、シルトが卓越するようになることから、シルトを運搬できるだけの水理条件になり上方へ碎屑物を堆積させていったのがわかる。馬引横手遺跡の最終遺構面は本ユニット上に形成されていた。

謝 辞

本論をまとめるにあたりパリノ・サーヴェイ株式会社の辻本裕也氏にお世話になった。記して厚くお礼申し上げます。

参考文献

- Asai, K. and Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35 – 47.
- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *東北地理*, 42, 73 – 88.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, *珪藻学会誌*, 6, 23 – 45.
- 近藤鍊三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析 その特性と応用, *第四紀研究* 25, 31-64.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. *第四紀研究*, 27, 1 – 20.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1986, *Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1988, *Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991a, *Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991b, *Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa*, Gustav Fischer Verlag, 248p.
- Krammer, K., 1992, *PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. BERLIN · STUTTGART*, 1 – 353.
- 松井孝典, 1998, 人間圏とは何か, 岩波講座地球惑星科学 「社会地球科学」, 岩波書店, 1-12.

Palaeoenvironment changes in and around Archaeological Site since the Final Jomon Period

Tsuyoshi Kito, Mamiko Horiki and Kazumi Ozaki

The palaeoenvironmental change during the Upper Holocene in the Nobi Plain are discussed on the basis of micro fossils and ¹⁴C dating. We found three stages. The first stage (ca. 2,700 yrs BP) was characterized by sand and silt dominated sediments. In the second stage (ca. 2,500-1,700 yrs BP), there were swamp such as rheophilous and/or planktonic diatoms, the aquatic or the water's edge plant pollen as *Salix*, *Nelumbo*, *Alisma*, and

phytolith of *Phragmites*. During the first and second stages, the palaeoenvironment changed immediately, especially, the rate of grass weed pollen as Gramineae and phytolith of *Oryza* increased. The vegetation by human action began at the upper part of this stage. The third stage (ca. 1,700-1,300 yrs BP) was the surface of the earth, which consisted mainly of the terrestrial diatom and grass weed pollen.

表5 95Bb 区深掘の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性	環 境	出 現 率																				
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
<i>Nitzschia linearis</i> Grunow	alg	E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes convergens</i> H.Kobavasi	ind	r-ph	9	21	15	16	2	2	1	-	1	-	1	2	-	1	2	1	-	1	2	4	31
<i>Achnanthes exiuea</i> Grunow	alg	ind	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.) Grunow	alg	r-ph	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Achnanthes ianica</i> H.Kobavasi	alg	r-ph	1	2	3	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	alg	ind	2	2	-	4	3	-	1	-	3	1	1	2	1	-	1	-	-	-	2	1	9
<i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>elliptica</i> Cleve	alg	r-ph	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes laterostrata</i> Hustedt	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes linearis</i> var. <i>ovifolia</i> Grunow	ind	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzine	alg	ind	20	10	12	11	4	2	-	2	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2	5	11
<i>Achnanthes rostrata</i> Oestrup	alg	r-ph	-	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes rupestris</i> Hohn	alg	unk	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Achnanthes subundulata</i> Hustedt	ind	r-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1
<i>Achnanthes suchlandtii</i> Hustedt	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Achnanthes troica</i> Hustedt	ind	ind	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Achnanthes</i> sp.	alg	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	alg	ac-il	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	4	1
<i>Amphora montana</i> Krasske	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) IV. Heurck	alg	ind	U	2	2	1	2	5	7	7	5	4	4	2	1	5	1	3	-	-	2	-	3
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphileura cellulosa</i> Kuetzine	alg	r-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Anomoeoneis brachyura</i> (Breb.) Grunow	alg	ac-il	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Anomoeoneis eomphomeneae</i> (Grun.) H.Kobavasi	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Anomoeoneis vitrea</i> (Grun.) I. Ross	alg	l-ph	1	1	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Aulacoseira alveolata</i> (Grun.) Krammer	alg	l-ph	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	alg	l-ph	1	7	3	14	19	49	7	2	5	26	48	40	23	36	25	23	-	-	-	-	1
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	alg	l-ph	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira erianula</i> (Ehr.) Simonsen	alg	l-ph	-	-	-	-	-	1	5	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	alg	l-ph	U	-	2	-	-	-	3	3	-	7	13	4	3	4	13	22	24	7	5	-	1
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	alg	l-ph	-	-	1	-	-	-	-	2	2	1	-	1	1	2	3	-	-	-	-	-	-
<i>Aulacoseira laevissima</i> (Grun.) Krammer	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6	-	1	2	3	-	-	1	-	-	-	-
<i>Aulacoseira pensacola</i> (A.S.) Simonsen	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
<i>Bacillaria paxillifera</i> Gmelin	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis acrotholus</i> Bock	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	alg	ind	U	1	2	1	-	6	1	1	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis hvalina</i> Hustedt	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis laeta</i> Carter & Bailey-Watts	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis lentosoma</i> Krammer & Lanee-Bertalot	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis molaris</i> (Grun.) Krammer	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	3	5	2	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis schumanniana</i> (Grun.) Cleve	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	alg	l-ph	-	-	-	1	1	-	1	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>minuta</i> (Grun.) Cleve	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis</i> sp.-1	alg	unk	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ceratoneis arcus</i> Kuetzine	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>hatteriana</i> Meister	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>recta</i> (Cl.) Krasske	alg	ind	-	4	4	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cocconeis alacuta</i> (Ehr.) Cleve	alg	l-ph	U	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Cocconeis alacuta</i> var. <i>euvoluta</i> (Ehr.) Cleve	alg	l-ph	T	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis alacuta</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	alg	l-ph	-	2	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.) D.G. Mann	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella meneghiniana</i> Kuetzine	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyclotella stelleri</i> Cleve & Grunow	alg	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella affinis</i> Kuetzine	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella ambiovis</i> (Kuetz.) Grunow	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirschner	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzine	alg	ind	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella eracilis</i> (Ehr.) Kuetzine	alg	l-ph	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella heteroleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	alg	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella ianica</i> Reichelt	alg	unk	-	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella lacustris</i> (Ae.) Cleve	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella latens</i> Krasske	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella mesana</i> Cholnoky	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabh.	alg	ind	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella naviculiformis</i> Aerswald	alg	ind	-	2	-	4	3	2	1	2	-	-	1	1	-	4	4	2	-	-	-	-	-
<i>Cymbella norevillia</i> A.Cleve	alg	ind	-	1	1	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella silicula</i> Bleisch	alg	l-ph	7	9	9	12	8	2	1	4	7	4	2	10	12	7	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella sinuata</i> Greevor	alg	l-ph	2	1	3	3	2	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella subaequalis</i> Grunow	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> (Breb.) ex Kuetz. IV. Heurck	alg	ind	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumida</i> var. <i>eracilis</i> Hustedt	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumidula</i> Grunow	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumidula</i> var. <i>niponica</i> Skvortzow	alg	l-ph	1	2	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella tumidula</i> var. <i>niponica</i> Skvortzow	alg	l-ph	2	7	11	3	1	-	-	1	3	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma hemale</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirschner	alg	l-ph	-	3	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma vulgare</i> Borv	alg	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma balfouriana</i> (W. Smith) Grevill	alg	ind	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma finnica</i> (Ehr.) Cleve	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma ovalis</i> (Hilse) Cleve	alg	ind	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Diatoma adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	alg	ind	-	1	-	-	-	-															

表5 95Bb区深掘の珪藻分析結果(2)

種 類	生 物 性		環境 指標種																							
	雄	雌		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
<i>Fraxilaria construens</i> f. <i>venter</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	al-l	l-ph	S	-	3	4	1	5	8	14	-	3	3	-	8	2	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Fraxilaria exilis</i> Grunow	Ogh-ind	al-l	l-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Fraxilaria parastica</i> (W.Smith)Grunow	Ogh-ind	al-l	ind	U	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Fraxilaria oinnata</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	ind	S	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Fraxilaria oinnata</i> var. <i>lancetula</i> (Schum.)Hustedt	Ogh-ind	al-l	ind	S	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Fraxilaria vaucheriae</i> (Kuetz.)Peterson	Ogh-ind	al-l	r-ph	K,T	3	1	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	4	1	2	
<i>Fraxilaria vaucheriae</i> var. <i>cancellata</i> (Grun.)Patrick	Ogh-ind	al-l	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Fraxilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	ac-l	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Frustulia rhomboides</i> (Ehr.)De Toni	Ogh-hob	ac-l	l-ph	P	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i> (Rabh.)De Toni	Ogh-hob	ac-l	l-ph	O	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	2	1	1	2	-	-	-	1		
<i>Frustulia vulcanis</i> (Thwait.)De Toni	Ogh-ind	al-l	ind	U	5	3	9	-	1	-	-	3	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Frustulia weinholdii</i> Hustedt	Ogh-ind	al-l	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-		
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	2	1	1	18	2	1	-		
<i>Gomphonema affine</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-l	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema aneuraum</i> (Kuetz.)Rabenhorst	Ogh-ind	al-l	ind	U	-	-	-	-	3	3	2	2	1	1	4	2	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema aneuraum</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-l	unk	-	-	-	-	-	-	1	-	1	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema aeneur</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema aeneur</i> var. <i>turris</i> (Ehr.)Lanee-Bertolot	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
<i>Gomphonema christensenii</i> Lowe et Kociolek	Ogh-unk	unk	unk	T	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	1	1	-		
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	3	4	2	4	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3	-	2	2		
<i>Gomphonema clevei</i> var. <i>inacauloneum</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-l	r-ph	-	-	2	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
<i>Gomphonema contrarius</i> Lanee-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-l	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1	-		
<i>Gomphonema eracile</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	l-ph	O,U	-	-	-	5	2	-	1	3	3	-	2	7	8	5	13	13	12	12	3	2		
<i>Gomphonema parvulum</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind	U	6	9	7	8	10	26	3	9	4	8	7	5	10	7	9	7	1	4	14	15	12	
<i>Gomphonema parvulum</i> var. <i>laenula</i> (Kuetzine)Frensch	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema pseudoaeneur</i> Lanee-Bertolot	Ogh-ind	al-l	ind	S	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema pseudosphaeroborum</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-l	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema rounium</i> (Grun.)Reichardt & Lanee-Bertolot	Ogh-ind	al-l	ind	-	3	4	7	4	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1		
<i>Gomphonema quadratum</i> (Oestrup.)Wislouch	Ogh-ind	al-bi	r-ph	K,T	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gomphonema subtile</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
<i>Gomphonema sumatrense</i> Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	7	5	10	3	2	-	6	3	10	3	2	-	1	2	1	-	8	5	4	11		
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-		
<i>Gomphonema spon.</i>	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-		
<i>Gvosiema scalnoides</i> (Rabh.)Cleve	Ogh-ind	al-l	r-ph	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Gvosiema sponcerii</i> (W.Smith)Cleve	Ogh-ind	al-l	l-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Hantzschia amboixys</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-l	ind	RA,U	1	1	2	-	-	21	19	7	5	15	4	5	7	3	6	13	5	-	5	-		
<i>Melosira americana</i> Kuetzine	Ogh-hob	ac-l	l-ph	-	-	-	-	1	-	1	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Melosira varians</i> Aearth	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Meridion circulae</i> var. <i>constructum</i> (Ralfs)I.V.Heurck	Ogh-ind	al-l	r-bi	K,T	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-		
<i>Navicula americana</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula aeneura</i> Grunow	Ogh-ind	ac-l	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula ariensis</i> Okun	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	7	2	2	2	25	-	-	-	-		
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	ind	U	-	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
<i>Navicula brvholthi</i> Bove-Petersen	Ogh-ind	al-l	ind	RI	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-		
<i>Navicula canitata</i> Ehrenbere	Ogh-hil	al-l	r-ph	U	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula clementis</i> Grunow	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
<i>Navicula cohni</i> (Hilse)Lanee-Bertolot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-		
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-l	ind	RA,T	3	5	2	6	2	-	3	2	-	2	2	5	1	1	1	1	-	-	3	1	1	
<i>Navicula crvtoenella</i> Lanee-Bertolot	Ogh-ind	ind	ind	T	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula decussis</i> Oestrup	Ogh-ind	al-l	r-ph	K,U	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
<i>Navicula elenensis</i> (Gree.)Ralfs	Ogh-ind	al-l	ind	O,U	5	1	1	1	3	3	10	2	5	4	12	18	4	7	5	9	-	1	1	1		
<i>Navicula elenensis</i> var. <i>cuneata</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
<i>Navicula elenensis</i> var. <i>neelecta</i> (Krass.)Patrick	Ogh-ind	al-l	r-ph	U	8	4	9	13	17	9	3	9	-	2	-	4	-	1	1	-	-	-	-	-		
<i>Navicula roenocertiana</i> (Brassic)H.L.Smith	Ogh-ind	al-l	l-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula hasta</i> var. <i>eracilis</i> Skvortzov	Ogh-ind	al-l	l-ph	RB	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2		
<i>Navicula tenota</i> Kraske	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula tenota</i> var. <i>nalutris</i> (Hust.)Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula kotschvi</i> Grunow	Ogh-ind	al-l	ind	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula laevisima</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind	-	1	1	1	1	3	4	-	2	1	-	2	-	1	1	1	-	1	-	-	-		
<i>Navicula laevisima</i> fo. <i>fasticulos</i> (Oestrup)H.Kobavasi	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula lentostriata</i> Joerensen	Ogh-unk	unk	unk	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula mobilensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula mutica</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-l	ind	RAS	2	8	5	-	-	-	8	5	6	-	19	8	2	4	2	-	-	-	7	5	1	3
<i>Navicula notha</i> Wallace	Ogh-ind	al-l	ind	-	1	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula naramatica</i> Bock	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
<i>Navicula placenta</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-l	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-		
<i>Navicula placenta</i> fo. <i>obtus</i> Meister	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
<i>Navicula plausibilis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-l	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lanee-Bertolot	Ogh-ind	al-l	ind	U	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-		
<i>Navicula punula</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind	S	3	1	1	5	6	11	2	8	2	3	-	4	5	4	3	4	-	1	19	6	2	
<i>Navicula punula</i> var. <i>rectaneularis</i> (Gree.)Grunow	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula pusio</i> Cleve	Ogh-hob	ind	ind	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-		
<i>Navicula radiosa</i> fo. <i>ninoonica</i> Skvortzov	Ogh-ind	al-l	ind	T	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula rhvnochocella</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-l	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula saxohila</i> Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-		
<i>Navicula senioensis</i> H.Kobavasi	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1				

表5 95Bb 区深掘の珪藻分析結果 (3)

種 類		生 態 性	環 境	指 標 種																					
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	1	-	3	2	-	-	-	-	-	-	4	9	2	-	-	-	
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia carinata</i> Berber & Carter	Ogh-unk	unk	unk	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia diversens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	-	2	-	-	-	
<i>Pinnularia diversens</i> var. <i>elliptica</i> (Grun.)Cleve	Ogh-hob	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia diversensissima</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia centilis</i> (Donkin)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Pinnularia eibba</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	-	1	-	3	4	4	15	1	2	3	2	7	4	13	6	1	22	5	4	5
<i>Pinnularia eibba</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia eibba</i> var. <i>mesoenevula</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia eibba</i> var. <i>narva</i> (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	-	-	-	-	1	-	3	2	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia eraciloides</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	
<i>Pinnularia inneratrix</i> Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia inconstans</i> Mayer	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia interrupta</i> W.Smith	Ogh-ind	ac-il	ind	S	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia karelica</i> var. <i>isaronica</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	
<i>Pinnularia lenticuloides</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	
<i>Pinnularia luculenta</i> A.Schmidt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia macilenta</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Pinnularia maior</i> Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	1	-	1	1	3	-	2	1	-	2	3	4	4	2	2	-	-	2	1	-	
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	2	-	4	-	3	1	-	2	1	-	
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenbere	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	-	-	1	2	1	-	-	-	-	-	2	4	3	2	1	-	3	2	-	
<i>Pinnularia obscura</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	
<i>Pinnularia ornata</i> H.Kobavasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.)Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	
<i>Pinnularia stomatophora</i> (Grun.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	-	1	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia streptorhynchos</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia subcanitata</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	-	-	2	-	2	3	4	2	-	1	3	7	4	4	2	2	-	-	1	2	
<i>Pinnularia subnodosa</i> Hust.	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
<i>Pinnularia sudetica</i> (Hille)M.Peraallo	Ogh-hob	ac-il	l-ph	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.)Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	3	2	2	2	5	10	4	6	3	5	11	4	3	6	4	3	1	-	
<i>Pinnularia</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Pinnularia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Az.)Lanez-Bertolot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1	1	1	-	-	-	2	-	2	1	-	-	1	2	2	1	3	5	1	2	1
<i>Rhonalodia constricta</i> (W.Smith)Krammer	Ogh-hob	al-il	unk	-	-	-	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Rhonalodia eibba</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Rhonalodia eibberula</i> (Ehr.)O.Muller	Ogh-hil	al-il	ind	-	4	8	10	2	7	1	6	6	18	7	3	4	-	4	10	-	-	-	-	-	
<i>Rhonalodia ouismiriana</i> Skvortzow	Ogh-hil	al-il	l-ph	-	1	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois acuta</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
<i>Staurois aerestris</i> var. <i>inflata</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois anceps</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	1	-	1	2	-	2	-	1	2	4	2	4	-	3	-	-	1	1	
<i>Staurois anceps</i> fo. <i>linearis</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois krieeri</i> Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	
<i>Staurois laurburiana</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois leucomis</i> (Ehr.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois nobilis</i> Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois obtusa</i> Laeert	Ogh-ind	ind	ind	RB	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Staurois rhoicenteron</i> (Nitz.)Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	1	-	1	-	-	6	1	1	-	1	4	2	1	2	1	-	1	-	
<i>Staurois rhoicenteron</i> fo. <i>eracilis</i> (Ehr.)Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	
<i>Staurois rhoicenteron</i> var. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	1	-	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois rhoicenteron</i> var. <i>sienata</i> Meister	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Staurois prominula</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois smithii</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois staurilineata</i> Reim	Ogh-unk	unk	unk	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
<i>Staurois tenera</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Staurois</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Surirella aneusta</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-bi	U	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Surirella linearis</i> W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	
<i>Surirella ovata</i> var. <i>ovinata</i> (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Surirella robusta</i> Ehrenbere	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Surirella tenera</i> Grunow	Ogh-hob	ind	l-bi	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Synedra inaequalis</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,K,T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	
<i>Synedra rostrata</i> Pantocsek	Ogh-ind	al-il	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<i>Synedra ulna</i> (Kuetz.)Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	2	4	4
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lyneb.)Kuetzing	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	2	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	2	-	-	1	1	-	
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
海水-汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									

凡例

H.R.:塩分濃度に対する適応性 pH:水素イオン濃度に対する適応性 C.R.:流水に対する適応性

Meh :汽水生種 al-bi:真769性

表 6 95Bb 区深掘の植物珪酸体化石分析結果

種類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
イネ科葉部短細胞珪酸体																							
イネ族イネ属		1	2	4	3	7	38	-	4	3	-	8	15	17	17	15	6	55	1	1	-	-	
キビ族キビ属		-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	13	-	3	1	-	-	4	-	-	-	-	
キビ族ゴザサ属		-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
キビ族		-	2	4	-	5	6	6	7	6	-	38	11	11	12	3	13	29	3	-	-	-	
タケ亜科		8	6	13	17	7	17	10	4	3	11	-	5	2	13	12	19	3	3	5	4	3	
ヨシ属		2	2	1	1	12	31	27	16	8	12	81	85	90	64	88	68	151	1	-	-	-	
ウシクサ族コブナグサ属		2	-	-	1	3	5	4	1	3	-	1	6	3	3	5	1	8	-	-	-	-	
ウシクサ族ススキ属		1	1	4	2	1	7	6	6	1	4	19	-	4	1	2	3	51	-	-	-	-	
イチゴツナギ亜科		2	1	5	3	1	5	1	-	1	2	3	-	3	1	1	1	-	1	-	-	1	
不明キビ型		14	10	5	13	25	50	39	23	31	6	73	33	39	25	24	19	107	9	11	1	3	
不明ヒゲシバ型		2	2	1	7	6	19	7	5	7	8	33	11	42	33	34	23	93	9	-	-	-	
不明ダンクン型		5	5	2	6	26	43	29	16	8	18	64	37	105	51	40	52	87	2	-	-	-	
イネ科葉身機動細胞珪酸体																							
イネ族イネ属		8	8	12	11	28	26	20	19	4	1	15	60	16	16	18	7	1	-	-	1	-	
タケ亜科		40	40	44	45	24	20	27	12	25	-	2	4	2	7	14	26	7	7	55	2	2	
ヨシ属		3	12	10	4	10	13	33	43	45	2	40	104	36	31	14	53	24	-	7	-	-	
ウシクサ族		3	3	3	4	2	5	5	2	3	-	2	10	8	8	12	18	10	-	-	-	-	
不明		46	41	39	33	39	44	32	30	24	2	47	76	46	39	62	61	61	33	40	10	2	
合 計																							
イネ科葉部短細胞珪酸体		37	31	39	53	95	226	131	82	71	61	335	203	321	221	224	205	588	29	17	5	7	
イネ科葉身機動細胞珪酸体		100	104	108	97	103	108	117	106	101	5	106	254	108	101	120	165	103	40	102	13	4	
総 計		137	135	147	150	198	334	248	188	172	66	441	457	429	322	344	370	691	69	119	18	11	
組 織 片																							
イネ属短細胞列		1	2	-	3	4	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

表 7 96Ca 区深掘の花粉化石分析結果

種類	試料番号	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
木本花粉												
マキ属						1		3	1	1	1	
モミ属					1	9	4	18	5	4	10	8
ツガ属					1	12	4	7	4	7	17	23
トウヒ属						1					5	1
マツ属					2	40	24	71	31	12	59	8
コウヤマキ属					1	6	1	9	2	3	8	
スギ属					12	12	19	22	10	4	7	
イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科					6	2	4	3	2	4	15	
ヤナギ属									12	27	5	4
ヤマモモ属					2	2						
サワグルミ属-クルミ属						2		1			3	4
クマシデ属-アサダ属					6	3	2	2	2		5	
カバノキ属					2			2	2	6	9	
ハンノキ属					2	2	6	3	5	6	6	23
ブナ属					1	13	10	5	10	15	6	8
コナラ属コナラ亜属						4	7	11	30	26	21	25
コナラ属アカガシ亜属					4	51	54	48	65	71	40	29
クリ属-シイノキ属						2	3	5	3	7	2	13
ニレ属-ケヤキ属					1	9	8	6	15	9	7	11
エノキ属-ムクノキ属							1		3		3	4
コクサギ属											1	
アカメガシワ属										3		1
モチノキ属						1				1	3	2
カエデ属											2	4
トチノキ属									1			2
ブドウ属							2		1			1
ツタ属										1	1	
シナノキ属												1
ウコギ属										2	1	1
ミズキ属										1		
ツツジ科								1		1	3	4
スイカズラ属											3	
草本花粉												
ガマ属									3			
サジオモダカ属						2	1	9				
オモダカ属						2	3					
イネ科					23	261	288	68	9	8	1	3
カヤツリグサ科					3	58	12	14	21	1	2	
ミズアオイ属						8	11					
サナエタデ属-ウナギツカミ節					4	5	23	36	10	6		
タデ属											1	3
アカザ科								1			1	
ナデシコ科						2		1				
ハス属								1				
マメ科									1			1
ヒシ属								1				
セリ科							1	1			1	1
ヒルガオ属									1			
オミナエシ属												1
ゴキツル属									1	4		
ヨモギ属					2	14	10	5	13	10	4	1
他のキク亜科					2				2	1	1	1
タンポポ亜科						2		1				1
不明花粉					1		2		1	1	1	2
シダ類胞子												
ミズワラビ属								2				
サンショウモ						3		6		11		
他のシダ類胞子		3	8	2	182		507	778	113	11	128	26
合計												
木本花粉		0	0	0	13	181	143	213	217	213	221	213
草本花粉		0	0	0	34	354	349	138	61	30	11	12
不明花粉		0	0	0	1	0	2	0	1	1	1	2
シダ類胞子		3	8	2	182	3	508	786	113	22	128	26
総計 (不明を除く)		3	8	2	229	538	1000	1137	391	265	360	251

表 8 96Ca 区深掘の植物珪酸体化石分析結果

種類	試料番号									
	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
イネ科葉部短細胞珪酸体										
イネ族イネ属	1	1	7	2	2	4	5	1		
キビ族チゴササ属					1			3		
タケ亜科	15	1	6	6	16	15	24	42	37	8
ヨシ属			3	2	97	163	101	115	14	3
ウシクサ族コブナグサ属				1	8	10	10	2		
ウシクサ族ススキ属	2	1	1	4	47	7	7	11	3	18
イチゴツナギ亜科	4				1		2			
不明キビ型	5	2	1	1	62	30	49	38	13	12
不明ヒゲシバ型	2			1	18	3	3	4	3	2
不明ダンチク型	3		1		22	8	14	3	7	5
イネ科葉身機動細胞珪酸体										
イネ族イネ属	1	2	3	2	11	11	15			
タケ亜科	32	4	7	2	25	19	30	36	27	21
ヨシ属	4	1	3	2	44	70	32	45	3	2
ウシクサ族	8	1		7	14	10	24	39	5	2
不明	11	1	1	6	30	18	30	21	8	5
合計										
イネ科葉部短細胞珪酸体	32	5	19	17	274	240	215	219	77	77
イネ科葉身機動細胞珪酸体	56	9	14	19	124	128	131	141	43	30
総計	88	14	33	36	398	368	346	360	120	107
組織片										
イネ属短細胞列		1		2				1		

表 9 96Cb 区深掘の花粉化石分析結果

種類	試料番号									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
木本花粉										
マキ属					2	1				
モミ属		1	7	8	12	33		2	7	2
ツガ属		1	11	16	8	8		2	9	2
マツ属		5	40	30	56	48	9	14	51	17
コウヤマキ属		3	6	1	6	1	1		3	
スギ属		2	14	3		7	22	7	5	1
イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科			2	2		1	9	4	5	23
ヤナギ属								57	4	4
ヤマモモ属			2		1				1	
サワグルミ属・クルミ属	1			2				4	2	1
クマシデ属・アサダ属			1	2	1	1	1	3	6	2
カバノキ属		1			3	2			8	5
ハンノキ属	3	2	2	6	3	2	2	2	12	8
ブナ属		2	7	15	9	10	4	10	12	7
コナラ属・コナラ亜属		2	3	6	22	9	17	84	21	12
コナラ属・アカガシ亜属	1	9	27	18	28	30	47	44	48	39
クリ属・セイノキ属		2	1	1	4	3	4	6	8	5
ニレ属・ケヤキ属	1	1	5	8	6	5	6	9	16	6
エノキ属・ムクノキ属					1	4		11	1	3
アカメガシワ属									1	
モチノキ属				1				1	2	
トチノキ属									2	7
ブドウ属								1	1	
シナノキ属						1			1	
ツツジ科						1				1
イボタノキ属									1	
スイカズラ属									2	1
草本花粉										
ガマ属					3			1		
ミクリ属										
サジオモダカ属			1		3	1			1	
オモダカ属			2							
イネ科	1	51	160	53	76	30	19	28	14	5
カヤツリグサ科		5	20	9	4	28	4	1		3
ミズアオイ属						2				
サナエタデ属・ウナギツカミ節	1	10	15	59	17	62	4		1	1
ソバ属		2								
アカサ科		1								
ナデシコ科			2							
ハス属						1				
アブラナ科		1	1						1	
ヒシ属						2				
セリ科			2	5	2	3	4			
ヒルガオ属	1									
オミナエシ属									1	
ヨモギ属	1	1	11	8	8	9	15	5	6	1
他のキク亜科		1		1	1			1	3	1
タンポポ亜科			1							
不明花粉		2						1		3
シダ類胞子										
ミズワラビ属			6	8						
サンショウモ					3	4		3		
他のシダ類胞子	13	400	344	250	401	203	400	7	74	23
合計										
木本花粉	6	31	128	119	162	167	122	261	229	146
草本花粉	4	72	215	135	114	138	46	36	27	11
不明花粉	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
シダ類胞子	13	406	352	253	405	203	400	10	74	23
総計（不明を除く）	23	509	695	507	681	508	568	307	330	180

表 10 96Cb 区深掘の珪藻分析結果 (1)

種 類	生 態 性			環 境 指標種										
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<i>Nitzschia macrinulata</i> var. <i>subconstricta</i> Grunow	Euh													
<i>Cocconeis scutellum</i> Ehrenberg	Euh-Meh			Cl										
<i>Nitzschia levidensis</i> var. <i>islandica</i> Grunow	Meh													
<i>Achnanthes convergens</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	20	4		1					33	33
<i>Achnanthes inflata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T								2	1	
<i>Achnanthes japonica</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,T	2								10	11
<i>Achnanthes lanceolata</i> (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T		1			1				1	2
<i>Achnanthes linearis</i> W.Smith	Ogh-ind	al-bi	ind		1	1								
<i>Achnanthes linearis</i> var. <i>pusilla</i> Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph											2
<i>Achnanthes minutissima</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	ind	U	5	5	1		1				11	3
<i>Achnanthes oblongella</i> Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T			1							
<i>Achnanthes subhudsonis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T									4	
<i>Achnanthes tronica</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		1	1						1		
<i>Achnanthes soo.</i>	Ogh-unk	unk	unk											1
<i>Actinella brasiliensis</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O		1						8		
<i>Amphora montana</i> Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	1									
<i>Amphora ovakis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) VHeurck	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	7	2	2	2	3				1
<i>Amphora pediculus</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	1									
<i>Aulacoseira ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	8	16	36	28	39	28				1
<i>Aulacoseira crenulata</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph				2	1	1			7		
<i>Aulacoseira distans</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-bi	N,U	1			4		1				
<i>Aulacoseira granulata</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U				1	4	1				
<i>Aulacoseira italica</i> (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	3	2	3	3		10	7	2		
<i>Aulacoseira italica</i> var. <i>valida</i> (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph					1	4	3	14			
<i>Aulacoseira densacolata</i> (A.S.) Simonsen	Ogh-hob	ac-il	l-ph								2			
<i>Caloneis bacillum</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U		2	2		3	1				
<i>Caloneis lauta</i> Carter & Bailev-Watts	Ogh-ind	ind	ind		1		2							
<i>Caloneis lentosoma</i> Krammer & Kanee-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	2	2	1					1		
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		2		1		2					
<i>Caloneis</i> sp.-1	Ogh-unk	unk	unk	RI		1								
<i>Ceratoneis arcus</i> Kuetzine	Ogh-hob	ind	r-bi	K,T	4	4						2	3	
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>hattoriana</i> Meister	Ogh-ind	ind	r-bi	J									1	
<i>Ceratoneis arcus</i> var. <i>recta</i> (Cl.) Krasske	Ogh-ind	ind	r-bi	T								8	4	
<i>Cocconeis disculus</i> Schmann	Ogh-ind	al-il	l-bi									1		
<i>Cocconeis placentula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	5	3	1	4				2	5	8
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>euvolvata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T			1	1				1		
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	1								1	
<i>Craticula halophila</i> (Grun. ex V.Heurck) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind			1								
<i>Cymbella affinis</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	ind	T	1									
<i>Cymbella amohioxys</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph						3	2				
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T				3	1	1	3	8		
<i>Cymbella cistula</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T		1								
<i>Cymbella cuspidata</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind		1	1			1	1			1	
<i>Cymbella eracilis</i> (Ehr.) Kuetzine	Ogh-ind	ind	l-ph	T									2	
<i>Cymbella heteroleura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph							1				
<i>Cymbella hybrida</i> var. <i>lanceolata</i> Krammer	Ogh-ind	al-bi	ind							2				
<i>Cymbella japonica</i> Reichelt	Ogh-unk	unk	unk	T	5			1		1			1	
<i>Cymbella lacustris</i> (Ag.) Cleve	Ogh-ind	al-bi	ind	T									1	1
<i>Cymbella lentoceros</i> (Ehr.) Kuetzine	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T										3
<i>Cymbella mesiana</i> Chohnokv	Ogh-ind	al-il	l-bi	O										
<i>Cymbella minuta</i> Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T					1				1	1
<i>Cymbella naviculiformis</i> Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	3	1	6	1	9	3	1			
<i>Cymbella nervosilla</i> A.Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph						4					
<i>Cymbella silesiaca</i> Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	9	8	5	4	3	5		1	11	9
<i>Cymbella sinuata</i> Gregorv	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	7		1			1			2	3
<i>Cymbella subaequalis</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,T									1	
<i>Cymbella tumida</i> (Breb. ex Kuetz.) V.Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T									2	2
<i>Cymbella tureidula</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,T	7	2								1
<i>Cymbella tureidula</i> var. <i>nipponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	7	2		1				1	12	27
<i>Cymbella soo.</i>	Ogh-unk	unk	unk											1
<i>Diatoma hvmalis</i> var. <i>mesodon</i> (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	1			1					1	5
<i>Diatoma vulearis</i> Borv	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T										1
<i>Diatomella balfouriana</i> (W.Smith) Grevil	Ogh-ind	ind	ind	RA	1									
<i>Dioloneis mareinistriata</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind					1						
<i>Dioloneis ovalis</i> (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind			1	2	3		1		2		
<i>Dioloneis parma</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind			3	1	2	5	4				
<i>Enithemia adnata</i> (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		1			1					1	1
<i>Enithemia tureida</i> (Ehr.) Kuetzine	Ogh-ind	al-il	l-ph	T			1							1
<i>Eunotia arcus</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph									1		
<i>Eunotia arcus</i> var. <i>bidens</i> Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph						3	1				
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1		1		1	1	3	1	4	
<i>Eunotia biserialis</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	ac-il	ind	RA	1	1								
<i>Eunotia duplicoraphis</i> H.Kobavasi	Ogh-hob	ac-bi	l-ph										1	3
<i>Eunotia fallax</i> A.Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	1									
<i>Eunotia flexuosa</i> (Breb.) Kuetzine	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O				1		2	5	4		
<i>Eunotia bformica</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ind	l-bi									1	1	1
<i>Eunotia eracialis</i> Meister	Ogh-hob	ac-il	l-bi						2	2		6		
<i>Eunotia incisa</i> W.Smith ex Gregorv	Ogh-hob	ac-il	ind	O								3	1	
<i>Eunotia monodon</i> var. <i>asiatica</i> Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	ind							1		1	1	
<i>Eunotia monodon</i> var. <i>tronica</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O										
<i>Eunotia naeseli</i> Mieula	Ogh-hob	ac-il	ind			1								
<i>Eunotia ovillon</i> (Grun.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind											1
<i>Eunotia pectinelis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1		4	3		15	4	21	5	
<i>Eunotia pectinelis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O				4		2	10	12		
<i>Eunotia pectinelis</i> var. <i>ventralis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind										1	
<i>Eunotia praerupta</i> Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O,T					2			4		
<i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O					9	3	3	7	4	
<i>Eunotia praerupta</i> var. <i>inflata</i> Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RI										1
<i>Eunotia praerupta pseudotridentata</i> H.Kobavasi	Ogh-hob	ac-bi	ind		1			1						
<i>Eunotia pyramidata</i> var. <i>monodon</i> Krasske	Ogh-hob	ac-bi	ind			1						1	5	
<i>Eunotia serra</i> Ehrenberg	Ogh-hob	unk	l-bi	P								7		
<i>Eunotia soo.</i>	Ogh-unk	al-il	unk							1		5		
<i>Fragilaria breviseriata</i> Grunow	Ogh-hil	al-il	l-ph	U	1									
<i>Fragilaria caucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T									1	1
<i>Fragilaria caucina</i> var. <i>eracilis</i> (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	1	1		1						3

表 10 96Cb 区深堀の珪藻分析結果 (2)

種名	種分	種	種	指標種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<i>Fraeilaria capucina</i> var. <i>radians</i> (Kuetz.) Lanee-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U		5								1
<i>Fraeilaria construens</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	6	8	8	5	2	1				
<i>Fraeilaria construens</i> fo. <i>venter</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph		1									
<i>Fraeilaria exieua</i> Grunow	Ogh-ind	ind	l-ph	S		2								
<i>Fraeilaria pinnata</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	l-ph	K,T		3				1			8	3
<i>Fraeilaria vaucheriae</i> (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U		1		1						
<i>Fraeilaria virescens</i> Ralfs	Ogh-ind	al-il	l-ph	O			3		2				1	
<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i> (Rabh.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	1		1		1				2	
<i>Frustulia vulgaris</i> (Rabh.) De Toni	Ogh-ind	ind	l-ph	O		1	2	2		1		20		
<i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph									3		
<i>Gomphonema acuminatum</i> var. <i>brebissonii</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U			1	4	2			1		
<i>Gomphonema aneustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	ac-il	unk					2						
<i>Gomphonema anebustatum</i> var. <i>linearis</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind									1		
<i>Gomphonema aneustum</i> Aardh	Ogh-ind	ind	ind									1		
<i>Gomphonema aueur</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind									1		
<i>Gomphonema aueur</i> var. <i>turris</i> (Ehr.) Lanee-Bertalot	Ogh-unk	unk	r-ph	T	2					1			1	1
<i>Gomphonema christensenii</i> Lowe et Kociolek	Ogh-ind	al-il	ind		1									
<i>Gomphonema clavatum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T	8	2	1	3				2	6	9
<i>Gomphonema clevei</i> Fricke	Ogh-ind	al-il	r-ph		5	3		3				1	6	5
<i>Gomphonema clevei</i> var. <i>javonica</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph									4		
<i>Gomphonema contraturnis</i> Lanee-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	1	2	7		3	1	2	11		
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	unk			1			2	9	1	5		
<i>Gomphonema insigne</i> Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	U								2		
<i>Gomphonema minutum</i> (Aardh) Aardh	Ogh-ind	ind	ind	U	3	6	10	4	12	7		2	9	10
<i>Gomphonema narvulum</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	r-ph	S			1							1
<i>Gomphonema narvulum</i> var. <i>laenula</i> (Kuetzine) Freneulli	Ogh-ind	al-il	ind		2	1	3					2	8	5
<i>Gomphonema pumilum</i> (Grun.) Reichardt & Lanee-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	T		1	1		1					
<i>Gomphonema sphaerophorum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind					1						
<i>Gomphonema subtile</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind					1				2		
<i>Gomphonema sumatrense</i> Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	J	6	3		6	1			3		
<i>Gomphonema truncatum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph	T				1				11		
<i>Gomphonema sub.</i>	Ogh-unk	unk	unk		2	1								1
<i>Gvrosiema nodiferum</i> (Grun.) G. West	Ogh-hil	al-il	ind					2						
<i>Hantzschia amboixovs</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	3	3	3	10	3		1	7	6	1
<i>Hantzschia vivax</i> var. <i>hynerborea</i> (Grun.) Lanee-Bertalot	Ogh-unk	unk	unk								1			
<i>Melosira varians</i> Aardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U									1	1
<i>Navicula americana</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	l-ph				1	1						
<i>Navicula arriensis</i> Okuno	Ogh-unk	unk	unk							1	19	2		
<i>Navicula bacillum</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind	U				1						
<i>Navicula brvophula</i> Bove-Petersen	Ogh-ind	al-il	ind	RI		1								
<i>Navicula chonii</i> (Hilse) Lanee-Bertalot	Ogh-ind	al-bi	ind	RI	1									1
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,T	2	2		1		1	1			1
<i>Navicula crvototenella</i> Lanee-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T										
<i>Navicula decussis</i> Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	1							1	1
<i>Navicula eleinensis</i> (Gree.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	1	2	3	9		5				1
<i>Navicula eleinensis</i> var. <i>cuneata</i> H. Kobavasi	Ogh-ind	al-il	ind						1					
<i>Navicula eleinensis</i> var. <i>neelecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	8	19	8	1	1	2				
<i>Navicula eastum</i> (Ehr.) Kuetzine	Ogh-ind	al-il	l-ph			1								
<i>Navicula eoenortiana</i> (Bleisch) H.L. Smith	Ogh-hil	al-il	ind	S		1								
<i>Navicula laevicima</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind		2	1	3	2	1	4				
<i>Navicula mobilensis</i> var. <i>minor</i> Patrick	Ogh-ind	al-il	ind										1	
<i>Navicula mutica</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	6	3	3	3				1		1
<i>Navicula mutica</i> var. <i>centricosa</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI									1	
<i>Navicula naramutica</i> Bock	Ogh-ind	ind	ind	RB		2								
<i>Navicula olacenta</i> Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind	RI				1						
<i>Navicula olacenta</i> fo. <i>obtus</i> Meister	Ogh-ind	al-il	ind					4						
<i>Navicula olausibilis</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		1		1						1	
<i>Navicula pseudolanceolata</i> Lanee-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U									1	1
<i>Navicula ovula</i> Kuetzine	Ogh-ind	ind	ind	S	2	5	5	1	2			2	3	5
<i>Navicula ovula</i> var. <i>canotata</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	S		1								
<i>Navicula ovula</i> var. <i>rectangularis</i> (Gree.) Grunow	Ogh-ind	ind	ind									2		1
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1								
<i>Navicula radiosa</i> fo. <i>Nirponica</i> Skvortzow	Ogh-ind	al-il	ind	T		1								
<i>Navicula subnvmpharum</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind				1							
<i>Navicula tantula</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RI,U		1								
<i>Navicula tokvoensis</i> H. Kobavasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI								2		
<i>Navicula venerabilis</i> Hohn & Helleman	Ogh-ind	al-il	l-ph					1					1	
<i>Navicula viridula</i> (Kuetz.) Kuetzine	Ogh-ind	al-il	r-ph	K,U	1	1	1							
<i>Navicula viridula</i> var. <i>rostrata</i> Skv.	Ogh-unk	unk	unk											1
<i>Navicula zanonii</i> Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-bi	U										1
<i>Neidium affine</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ind	l-bi						1					
<i>Neidium affine</i> var. <i>longicorns</i> (Gree.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi			1								
<i>Neidium albinum</i> Hustedt	Ogh-ind	unk	ind	RA									1	
<i>Neidium amoliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		4	2	1	3	8	7	1		2	
<i>Neidium bisulcatum</i> (Laberst.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	ind	RI	1									
<i>Neidium iridis</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O		1	2	1	2					
<i>Nitzschia amhibia</i> Grunow	Ogh-hil	ak-bi	ind	S	1	1								
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	1	3		2		1				1
<i>Nitzschia dissinata</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T										1
<i>Nitzschia hantzshiana</i> Rabenhorst	Ogh-ind	al-bi	ind										1	1
<i>Nitzschia nana</i> Grunow	Ogh-hil	ind	ind	RB,S		1								
<i>Nitzschia obtusa</i> var. <i>scalpelliformis</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S		1								
<i>Nitzschia siemoides</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-ind	al-bi	ind							1				
<i>Nitzschia sinuata</i> var. <i>deloenei</i> (Grun.) Lanee-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	U						1				
<i>Nitzschia terrestris</i> (Pet.) Hustedt	Ogh-unk	ind	ind	RI						5	2		1	
<i>Nitzschia sub.</i>	Ogh-unk	unk	unk								2			
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> W. Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O		2	3	1		1	1	1		
<i>Pinnularia acrosphaeria</i> var. <i>undulata</i> Skvortzow	Ogh-hob	al-il	l-ph	O	1									
<i>Pinnularia aloina</i> W. Smith	Ogh-hob	ac-il	unk						1					
<i>Pinnularia appendiculata</i> (Ae.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	RB						1	1			
<i>Pinnularia borealis</i> var. <i>scalaris</i> (Ehr.) Rabenhorst	Ogh-hob	ind	ind	RA				1						
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun) Cleve	Ogh-ind	ac-bi	l-ph			3	2							2
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	ind			2	3	1	1			4		
<i>Pinnularia cardinalis</i> (Ehr.) W. Smith	Ogh-hob	ac-il	ind									1		
<i>Pinnularia diversens</i> W. Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph			1			1					

表 10 96Cb 区深堀の珪藻分析結果 (3)

	生態性			環境 指標種										
	塩分	pH	流水		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
<i>Pinnularia divergens</i> var. <i>decrescens</i> (Grun.) Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind				3		1	4				
<i>Pinnularia divergens</i> var. <i>elliptica</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ind	ind						1					
<i>Pinnularia divergens</i> var. <i>undulata</i> Heribaud	Ogh-hob	ac-il	ind		1									1
<i>Pinnularia divergentissima</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		1				1					
<i>Pinnularia eibba</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ac-il	ind	O	1	3	2	5	4		7	9		
<i>Pinnularia eraciloides</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind									1		
<i>Pinnularia hemitera</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-hob	ind	l-ph		1	1	1	1	3					
<i>Pinnularia inconstans</i> Mayer	Ogh-hob	ac-il	ind			1								
<i>Pinnularia macilenta</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph					2						
<i>Pinnularia maior</i> Kuetzine	Ogh-ind	ac-il	l-bi									1		
<i>Pinnularia mesolepta</i> (Ehr.) W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S			3	1	10	7				1
<i>Pinnularia microstauron</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ind	ind	S	2	2	1	1	3					
<i>Pinnularia nodosa</i> Ehrenbere	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O		3		1		3				
<i>Pinnularia rupestris</i> Hantzsch	Ogh-ind	ind	ind		2		3	3	1		1			
<i>Pinnularia schoenfelderii</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI			2	3	2			1	1	
<i>Pinnularia schroederii</i> (Hust.) Krammer	Ogh-ind	ind	ind	RI			1		5				1	
<i>Pinnularia silvatica</i> Petersen	Ogh-ind	ind	ind	RI			1							
<i>Pinnularia stomatorhiza</i> (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph				2	2	2			1	1	
<i>Pinnularia streptorhiza</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph					1						
<i>Pinnularia subcanitata</i> Gregeorv	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	1	1	1		2	3		1	1	1
<i>Pinnularia subrupestris</i> Krammer	Ogh-ind	ind	ind						2					
<i>Pinnularia substomatophora</i> Hustedt	Ogh-hob	ac-il	l-ph						1					
<i>Pinnularia viridis</i> (Nitz.) Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind	O	2		2	2	8	4	1		1	
<i>Pinnularia</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk				3	2		6	2			
<i>Rhoicosphenia abbreviata</i> (Ag.) Lane-Bertalot	Ogh-hil	al-il	r-ph	K,T	1				1					
<i>Rhonalodia gibba</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-hil	al-il	ind			2								
<i>Rhonalodia gibberula</i> (Ehr.) O.Muller	Ogh-hil	al-il	ind		11	19	16	11	13	6				
<i>Rhonalodia quisumbiriana</i> Skvortzow	Ogh-hil	al-il	l-ph											1
<i>Stauroneis acuta</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph								1			
<i>Stauroneis ancens</i> Ehrenbere	Ogh-ind	ind	ind	T	1	1	3	1	4	1				
<i>Stauroneis ancens</i> fo. <i>linearis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	T					1					
<i>Stauroneis ancens</i> var. <i>siberica</i> Grunow	Ogh-ind	ind	ind						1					
<i>Stauroneis lezumen</i> var. <i>elliptica</i> H.Kobavasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph					1						
<i>Stauroneis nobilis</i> Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind										1	
<i>Stauroneis rhoenicerteron</i> (Nitz.) Ehrenbere	Ogh-ind	ind	l-ph	O				3	1	2		1		
<i>Stauroneis rhoenicerteron</i> fo. <i>eracilis</i> (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	ind	l-ph	O			2	1						
<i>Stauroneis rhoenicerteron</i> var. <i>hattorii</i> Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O			2		1					
<i>Stauroneis prominula</i> Hustedt	Ogh-ind	ind	unk										1	
<i>Stauroneis smithii</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	U										1
<i>Stauroneis staurolineata</i> Reim	Ogh-unk	unk	unk						1	1				
<i>Stauroneis</i> sp.	Ogh-unk	unk	unk		1									
<i>Surirella aneusta</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	r-bi	U									1	
<i>Surirella linearis</i> W.Smith	Ogh-ind	ind	ind							2				
<i>Surirella tenera</i> Gregeorv	Ogh-hob	ind	l-bi						1					
<i>Svnedra arcus</i> Kuetzine	Ogh-ind	al-il	l-ph	T										1
<i>Svnedra inaequalis</i> H.Kobavasi	Ogh-ind	al-il	r-bi	J,K,T						1				5
<i>Svnedra ulna</i> (Kuetz.) Ehrenbere	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	1							1	1
<i>Tabellaria fenestrata</i> (Lvnbe.) Kuetzine	Ogh-ind	ac-il	l-bi	O,T				2		2		1		
<i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth) Kuetzine	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T						2	1	1		
海水生種合計					0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
海水-汽水生種合計					0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種合計					0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
淡水生種合計					205	208	209	204	208	212	107	207	203	203
珪藻化石総数					205	209	210	205	208	212	107	207	203	203

凡例：

H.R.:塩分濃度に対する適応性

Euh:海水生種

Euh-Meh:海水生種-汽水生種

Meh:汽水生種

Ogh-hil:貧塩好塩性種

Ogh-ind:貧塩不定性種

Ogh-hob:貧塩嫌塩性種

Ogh-unk:貧塩不明種

pH:水素イオン濃度に対する適応性

al-bi:塩アルカリ性種

al-il:好アルカリ性種

ind:pH不定種

ac-il:好酸性種

ac-bi:真酸性種

unk:pH不明種

C.R:流水に対する適応性

l-bi:真止水性種

l-ph:好止水性種

ind:流水不定性種

r-ph:好流水性種

r-bi:真流水性種

unk:流水不明種

環境指標種 (小杉、1988)

Cl:海水藻場指標種

J:上流性河川指標種 K:中～下流性河川指標種 M:湖沼浮遊性種 N:湖沼沼沢湿地指標種

O:沼沢湿地付着性種 P:高層湿原指標種 (以上は安藤,1990)

S:好汚濁性種 U:広適応種 T:好清水性種 (以上はAsai,K. & Watanabe,T. 1995)

R:陸生珪藻 (RA:A群、RB:B群、RI:未分類、伊藤・堀内,1991)

表 11 96Cb 区深掘の植物珪酸体分析結果

種類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ科葉部短細胞珪酸体											
イネ族イネ属			2	7	5	5					
キビ族チゴササ属					3	3	1	2			
タケ亜科	1	6	5	5	11	4	1	3	5	7	
ヨシ属		2	123	64	156	24	199	1	1	1	
ウシクサ族コブナグサ属		3	7	10	9		11				
ウシクサ族ススキ属	2	1	26	4	6	2	3	1	2	3	
イチゴツナギ亜科		1		1	1						
不明キビ型		6	29	23	11	1	5			1	
不明ヒゲシバ型		3	3	10	6					1	
不明ダンチク型		4	13		6	1		1			
イネ科葉身機動細胞珪酸体											
イネ族イネ属	2	8	22	13	17						
タケ亜科	9	22	20	10	18	2	5	2	5	2	
ヨシ属	3	2	44	6	37	3	82				
ウシクサ族	2	8	29	7	19	4	24	1		1	
不明	6	9	49	10	31	3	2	2			
合計											
イネ科葉部短細胞珪酸体	3	28	213	125	214	33	221	6	9	12	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	22	49	164	46	122	12	113	5	5	3	
総計	25	77	377	171	336	45	334	11	14	15	
組織片											
イネ属短細胞列		2	4								

V まとめ

1 馬引横手遺跡の特徴について

馬引横手遺跡の場合中世後期の遺構が中心となるわけだが、ではいったいどういった性格の遺跡と理解すればよいのだろうか。

そこでまず、今回の調査の結果を遺物と遺構の面からそれぞれまとめておきたい。

遺物の特徴 まず遺物の面から見ると、古瀬戸も含めた煮炊具の量と種類の多さが大きな特徴である。この点特にB類とした土師器の羽釜型鍋に顕著にうかがうことができる。例えばB 5類やB 6類は南伊勢系の特徴を持つ一群であるが、この中にも南伊勢系そのものといったa類と、全体のプロポーションが若干異なるb類とが存在している。また焼成前穿孔は中北勢の羽釜型鍋の大きな特徴であるが、鐙の端部が面を持つもの・持たないもの、口縁端部のヨコナデを内側に向けるもの・外側に向けるものというように様々なタイプが存在している。もちろん、B 2類やB 3類のように内傾する口縁部が斜め上方に突き出す鐙によってほとんど隠れてしまいそうな、尾張地域で一般的に見られるタイプのものも存在している。このようにひとくちに羽釜型鍋といってもいろいろなタイプのものが存在しているのである。

時間幅の問題 と同時に、遺物に関しては時期幅の問題もある。溝の資料が中心となるため、図38で示したように一部白土原1号窯式段階の資料も含むが、各遺構とも基本的には東濃型明和1号窯式から生田2号窯式の段階まで出土しており、かなりの時間幅を持ってしまうことになる。羽釜型鍋の種類の違いは、単に時期差である可能性もあるわけである。しかしながら、もしそれだけの期間同じような状況で続いていたとするならば、例えばA類とした伊勢型鍋や、B 1類に相当するような羽釜型鍋の古い段階のものの出土量がもっと多くてもよいのではないだろうか。

一般に尾張地域では、「13世紀後葉からは内彎型羽釜が出現し、14世紀代に伊勢型鍋の比率は減少し、14世紀後葉以降は伊勢型鍋は認められなくなる。」(註1)と指摘されている(内彎型羽釜は馬引横手遺跡でのB類にあたる)。にもかかわらず、馬引横手遺跡での伊勢型鍋の出土はごくわずかであり、その反面で、尾張地域では14世紀後葉以降見られなくなる段階の伊勢型鍋が出土しているのである。羽釜型鍋についても、中北勢の羽釜型鍋の出現時期については「15世紀前半以前に出現していた可能性」が指摘されており、また南伊勢系の羽釜型鍋は安濃津遺跡群の中世後期の段階のものに相当するようである(安濃津遺跡群では14世紀中葉を境に前期と後期にわけられている)(註2)。また口縁部が鐙によってほとんど隠れてしまう形のものも、14世紀後葉から15世紀中葉の段階に位置づけられている(註3)。こうしてみると羽釜型鍋についても14世紀半ば以降のものが中心ということになり、その種類の多さは時

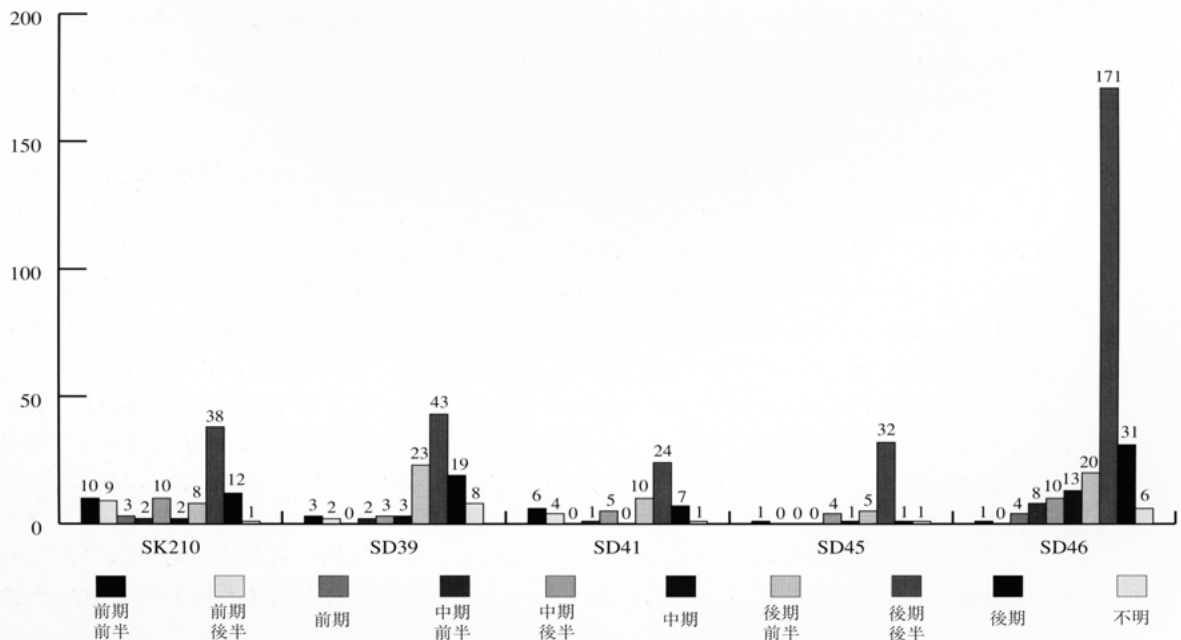


図78 施釉陶器・時期別グラフ(遺構別破片数)

期差ではなく、工人集団の違いに由来しているものと言えそうである。

さらに付け加えるならば、煮炊具と播鉢の比率もほぼ1:1に近い値を示しており、15世紀代の遺跡の様相に近いものがある。また灰釉系陶器・椀と同様に、古瀬戸についても各遺構ごとに時期別のグラフを作成してみると(図78)、図38でみられるような灰釉系陶器の傾向とは明らかに異なり、後期後半が主体となるようである。

こうして考えていくと、馬引横手遺跡の場合、14世紀半ばの段階で状況が大きく変化している可能性があるのではないだろうか。

しかもちょうどこの時期に、隣接する法圓寺中世墓遺跡でも墳墓形態に変化が見られるという(註4)。それまで作られていた積石墓から、積石墓を埋め尽くすように大量の礫が集積され、集石中に蔵骨器が埋納されるようになるのが、14世紀第2四半期の段階なのである。

遺構の特徴 遺構の面からは、基本的には「一本の道に沿って建物群が建ち並ぶ集落」(註5)形態であると考えられる。掘立柱建物については不確定な面も多いが、2間×3間程度の東西幅の長い建物を基本としていると思われる。図79は、このような建物や井戸が東西方向の溝によって区画されながら並んでいる様子を示したものである。はっきりと道を確認できているわけではないが、東西方向の溝と同規模で、それらと直交する方向性を持つ96Ea区のSD13を道の一部であると想定した。

また、遺物の大半は95Ab区および95Ba区からの出土である。両調査区の間には現在起街道が走っている。起街道の成立は近世以降と考えられているが、法圓寺中世墓遺跡と馬引横手遺跡を結ぶ道として加えておいた。

そしてこういった形態が整ったのは、おそらく遺物の面で変化の見られる14世紀半ば以降のことだったのではないだろうか。

2 馬引横手遺跡の性格について

「町」の条件 笹本正治氏によると、以下のような条件を持つのが「町」であるという(註6)。

- 1 住民の多数が第一次産業に従事していない
- 2 道を中心に家々が密集し、人口が集中している
- 3 町の空間が限定され、町割がされている
- 4 商業機能を内包している
- 5 宿の機能を持つ

馬引横手遺跡の性格 この5つの条件を参考にしながら、馬引横手遺跡の性格を考えていきたい。

まず1についてだが、馬引横手遺跡の北東500mの所に東苧安賀遺跡という中世の遺跡がある(註7)。方形の屋敷地が単独で存在する形態であると考えられ、時期的には馬引横手遺跡にやや先行する遺跡である。出土遺物の約8割を灰釉系陶器が占める中世前期の一般的な遺跡であるが、調査面積が4,424㎡と95Ab区の12倍近くあるにもかかわらず、遺物は95Ab区の6割ほどしか出土していない。このように両者は遺構の面からも、また遺物の面からも大きく異なっている状況にあるのは明らかであり、馬引横手遺跡が一般的な農村であったとは考えにくい状況にある。

2および3については図79で示したとおりである。また、遺物も95Ab区および95Ba区に集中しており、北および南に行くにしたがって遺物量は減る傾向にある。そして北側は95Ea区のSD21を境に、南側は95Ba区のSD55や96Cb区のSD32を境として遺構もなくなっていき、限定された空間であったことがうかがえる。これらの溝の内側の空間では、溝によって町割がなされ、掘立柱建物や井戸が建ち並ぶ町並みが展開している。一方SD21(96Ea区)の北では南北に軸線を持つ土坑群が展開しており、墓域であった可能性がある。さらにSD32(96Cb区)の南では、遺構の空白地帯をはさんでSD28～31といった溝群があるが、これらの方向は、遺跡の南側で大きく蛇行している日光川の流れの方向と一致していて、SD41などの東西方向の溝群とは明らかに方向性が異なっている。このことから、SD28などが地形的な制約を受けているのに対して、SD41などの東西方向の溝群はそれとは無関係に、計画的に配置されたと考えていいのではないだろうか。

4と5に関しては、やはり煮炊具に対する評価がポイントとなってくるのではないだろうか。出土した煮炊具のうち、古瀬戸製品については古瀬戸後期後半に限定される時期のものである。また土師器煮

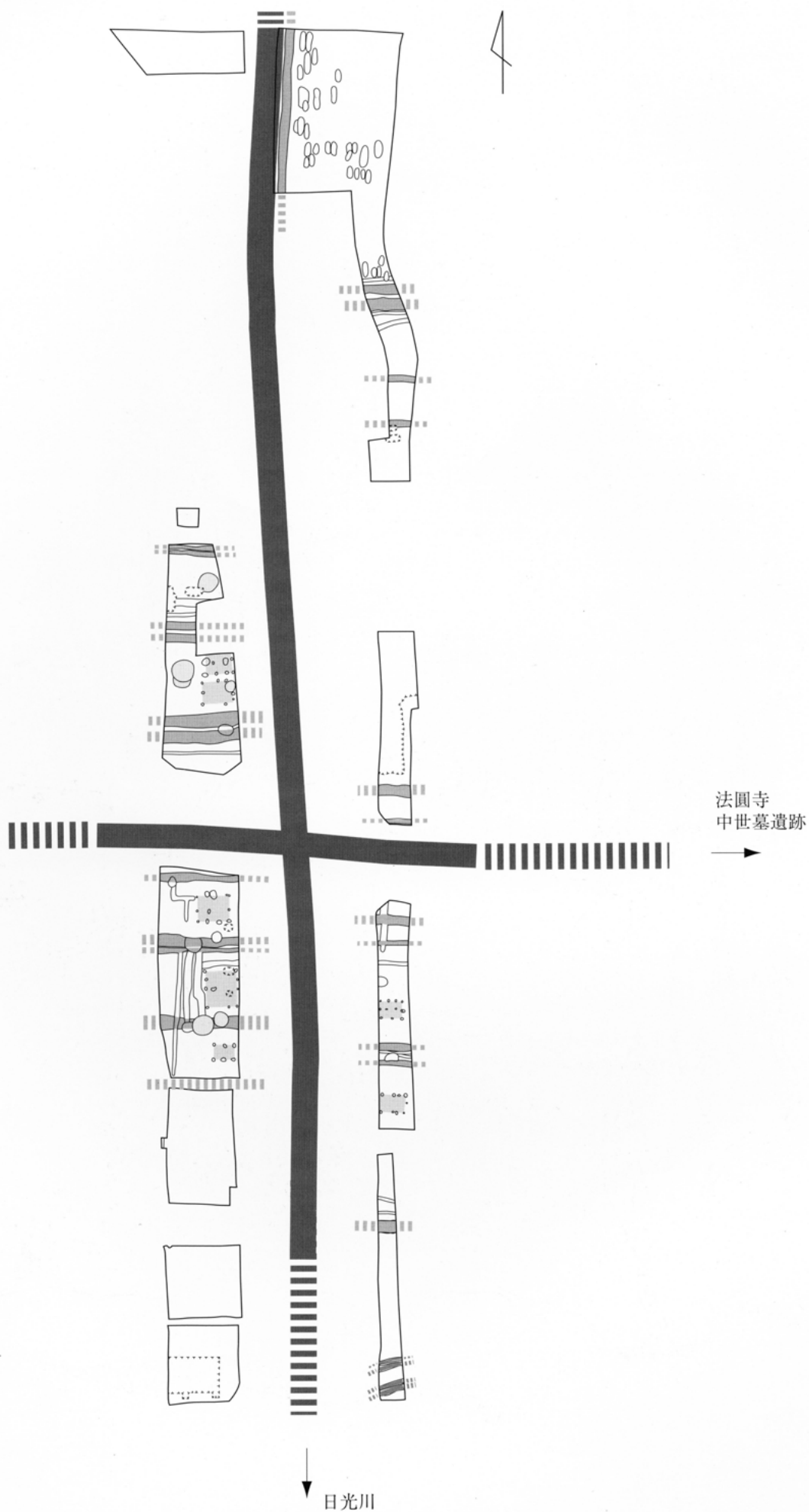


図 79 馬引横手遺跡主要遺構配置図（中世後期）

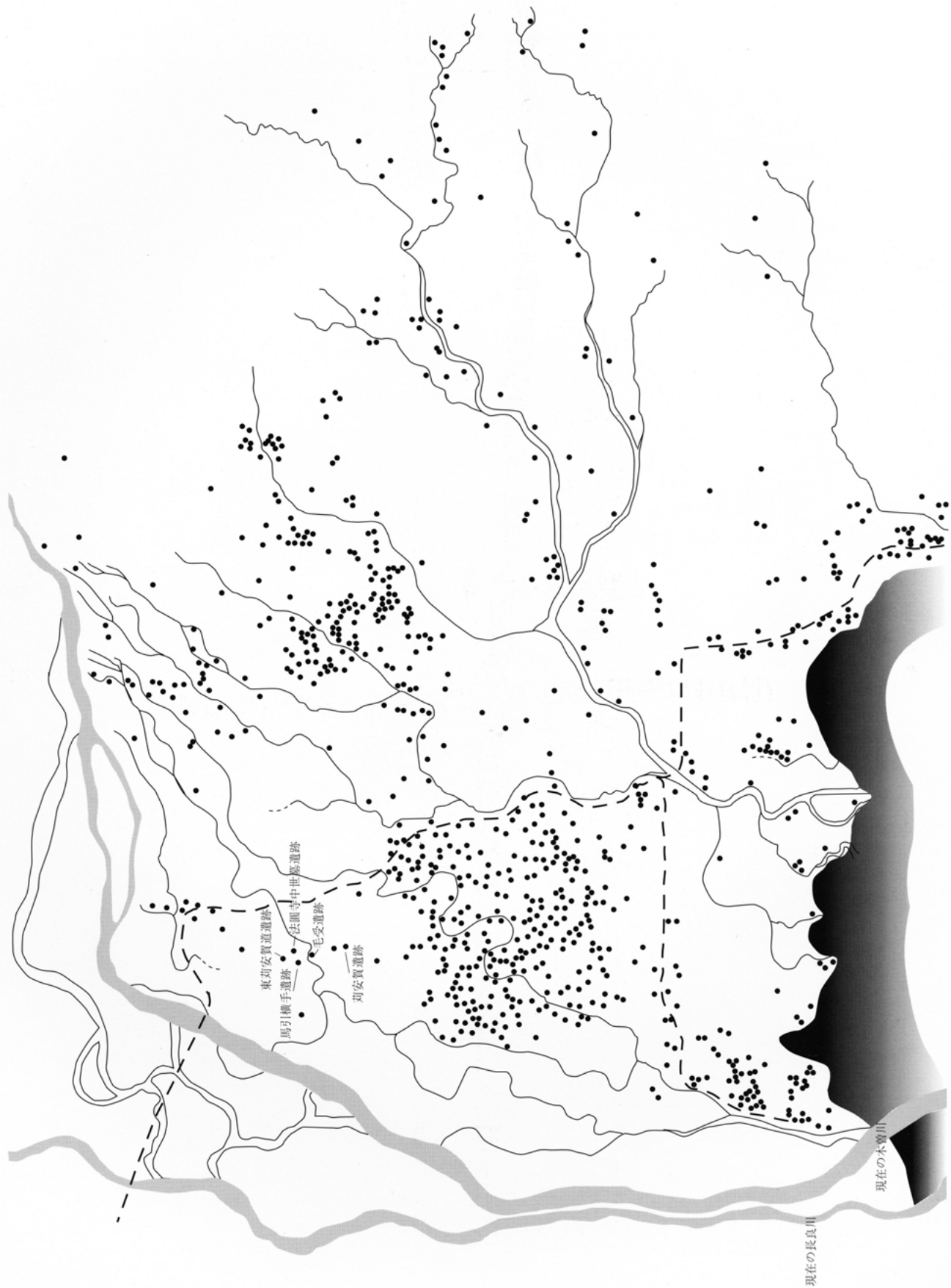


図80 中世の遺跡分布図

炊具についてもその主体は14世紀半ば以降と考えられる。ということは、ある程度限定された時間の中でこれらの煮炊具は使われていたものと考えられるが、阿弥陀寺遺跡（海部郡甚目寺町）や朝日西遺跡（西春日井郡清洲町）といった尾張地域の他の中世の遺跡を見てもこういった煮炊具の出土はそれほど多くないようであり（註8）、その種類の多さ、量の多さは馬引横手遺跡の大きな特徴であると言ってい

いだろう。また伊勢型鍋も含めて、この段階の南伊勢系の鍋は尾張地域ではほとんど出土していない類いのものであるが、こうした南伊勢系および中北勢系の特徴を持つ羽釜型鍋は、どの調査区からも出土しているというわけではない。95Ba区でまとまって出土する以外は95Ab区で若干出土しているだけで、その他の調査区では全くと言っていい程出土していないのである。さらにこうした傾向は古瀬戸の煮炊具についても言えそうである。図78では95Ba区のSD46の後期後半の数が突出しているが、このうち内耳鍋が37点、土瓶・釜類が34点、茶釜が1点、蓋が4点で、これは図78にあげた遺構から出土している煮炊具全体（117点）の約65%にあたる数なのである。

このように遺跡内部は空間的にも決して均質とは言えない。そういった意味では法圓寺中世墓遺跡へと続く東西の道と、日光川へと続く南北の道が交差する95Ba区において、多様な煮炊具が顕著に認められる点は注目すべき点であろう。つまり東西および南北の2つの軸があることによって、こうした非均質性が生じたものと考えられるのである。

そしてこういった特徴こそが、人や物の動きを示す大きな証拠になるのではないだろうか。つまりこの場所に「市」などの機能があって多くの人や物が集まった、その結果としていろいろな種類の煮炊具が出土しているとは考えられないだろうか。

馬引横手遺跡の立地 ここでもう一度馬引横手遺跡の立地している場所を確認してみよう（図80）。

馬引横手遺跡は日光川右岸の自然堤防上に立地している。木曽川が現在の場所に固定される以前はずっと水量も豊富であったはずで、洪水で大きな被害をおよぼす反面、日光川の水運を利用して多くの物資が運ばれていたはずである。馬引横手遺跡は馬引の集落のはずれに位置し、毛受や荊安賀といった集落の対岸に位置する。毛受および荊安賀には中世城館があったとされ、特に荊安賀はこの地域の拠点集落であったと考えられている。

法圓寺中世墓遺跡の存在 そして馬引横手遺跡について考える場合、やはり法圓寺中世墓遺跡の存在が大きいと思われる。

先程の笹本氏による「町」の定義に関して、松尾剛次氏は「中世都市の風景に、宗教施設をぬきにしては、その定義ができるとは思えない」とし、「中世の都市的な場には、禪・律・念仏・日蓮といった遁世僧教団の寺院が、必ずといっていいほど存在していた」のであり、「中世の境内墓地を有する寺院を見つけたら、私のいう遁世僧の寺院であると推測されて間違い」ないという（註9）。法圓寺の創建は寺伝によれば15世紀前半に遡るが、法圓寺中世墓の成立は少なくとも13世紀後半までは遡るという。「町」である馬引横手遺跡を支える「宗教施設」の役割を、法圓寺中世墓遺跡が担っていたと考えたい。

「市町」の可能性 以上、推測に頼る部分が多いのは事実であるが、馬引横手遺跡の性格としては、「法圓寺」を核として成立した、日光川（および木曽川）の水運に支えられた「市町」であった可能性を考えておきたい。

こうして日光川の水運によって発展した馬引横手遺跡だったが、最終的にはその日光川の洪水によって埋没してしまい、そのまま忘れ去られてしまったのである。

註1 鈴木正貴（1996）「総論 ー東海地方の中世から近世の煮沸具の様相と諸問題ー」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム

註2 伊藤裕偉編（1997）『安濃津』三重県埋蔵文化財センター

註3 北村和宏（1996）「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」『年報平成7年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター

註4 土本典生編（1995）『法圓寺中世墓遺跡発掘調査報告書』一宮市教育委員会

註5 佐久間貴士（1994）「発掘された中世の村と町」『岩波講座日本通史第9巻 中世3』岩波書店

註6 笹本正治（1994）「市・宿・町」『岩波講座日本通史第9巻 中世3』岩波書店

註7 伊藤太佳彦編（1998）『東荊安賀道遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第77集

註8 金子健一氏（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター）のご教示による。

註9 松尾剛次（1997）「中世の都市的な場と宗教 ー二つの荘園地図を利用してー」『都市と宗教 中世都市研究4』新人物往来社

調査区	遺構	番号	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	平面形	断面形	時期	備考
95Ca	SK	02	385	375	22	橢円形	皿	中世後期	
95Ca	SK	16	180	125	17	長方形	皿	中世後期	
95Aa	SK	34	137	105	11	橢円形	皿	中世後期	
95Aa	SK	52						中世後期	
95Aa	SK	53	140	56	21	橢円形	皿	中世後期	
95Aa	SK	66	406	400	225	円形		中世後期	井戸（曲物片）
95Aa	SK	74	(220)	120	32	長方形	U	中世後期	
95Aa	SK	87	102		16	橢円？	皿	中世後期	
95Aa	SK	99						中世後期	
95Aa	SK	107						中世後期	S K 299 の一部
95Ab	SK	110	90	80	24	長方形	皿	中世後期	
95Ab	SK	138	74	32	34	橢円形	箱	中世後期	
95Ab	SK	141	49	49	31	円形	箱	中世後期	
95Ab	SK	144	71	40	34	橢円形	箱	中世後期	
95Ab	SK	148	53	43	17	橢円形	皿	中世後期	
95Bb2	SK	151	70	70	23	円形	皿	中世前期	
95Ab	SK	210	320	230	124	橢円形	U	中世後期	
95Ab	SK	216	60	60	23	円形	皿	中世後期	SB02
95Ab	SK	218	48	42	17	橢円形	皿	中世後期	
95Ab	SK	222	56	40	13	橢円形	皿	中世後期	SB02
95Ab	SK	225	30	30	18	円形	皿	中世後期	
95Ab	SK	230	40	40	20	円形	箱	中世後期	SB02
95Ab	SK	237	31	22	15	橢円形	箱	中世後期	SB02
95Ab	SK	241	70	58	46	橢円？	箱	中世後期	
95Ab	SK	247	54	44	24	橢円形	皿	中世後期	
95Ab	SK	248	56	50	45	橢円形		中世後期	
95Ab	SK	253	57	53	32	橢円形	箱	中世後期	SB02
95Ab	SK	260	70	60	22	橢円形	皿	中世後期	SB01
95Ab	SK	261	47	47	28	円形	箱	中世後期	SB01
95Ab	SK	267	40	34	25	橢円形	箱	中世後期	SB02
95Ab	SK	269	107	48	38	橢円形	箱	中世後期	SB01
95Ab	SK	274						中世後期	
95Ab	SK	275	240	220		円形		中世後期	井戸（曲物）
95Ab	SK	277	143	91	41	橢円形	箱	中世後期	SB01
95Ab	SK	278	85	60	42	橢円形	箱	中世後期	
95Ab	SK	280	100	70	37	長方形	箱	中世後期	SB01
95Ab	SK	284	49	33	33	橢円形	箱	中世後期	
95Ab	SK	286		43	28	橢円形	皿	中世後期	SB01
95Ab	SK	287	85	59	14	橢円形	皿	中世後期	SB02
95Ab	SK	293	85	34	25	橢円形	皿	中世後期	SB02
95Ab	SK	299	460	440		円形		中世後期	
95Ba	SK	306	194	143	52	橢円形	U	中世後期	
95Ba	SK	307			62	橢円？	U	中世後期	
95Ba	SK	313	250	150	13	長方形	皿	中世後期	SB03
95Ba	SK	317	236	210	43	橢円形	U	中世後期	SB03
95Ba	SK	320	76	43	46	橢円形	箱	中世後期	SB03
95Ba	SK	323	182	165	50	橢円形	皿	中世後期	
95Ba	SK	327	42	42	54	円形	箱	中世後期	SB03
95Ba	SK	329	69	33	40	橢円形	箱	中世後期	
95Ba	SK	331		140	32	長方形	U	中世後期	
95Ba	SK	332	19	19	14	円形	箱	中世後期	SB03

遺構一覧表 1

調査区	遺構	番号	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	平面形	断面形	時期	備考
95Ba	SK	341	77	77	28	円形	皿	中世後期	
95Ba	SK	342	78	28	26	楕円形	箱	中世後期	SB03
95Ba	SK	346	80	48	30	楕円形	箱	中世後期	SB03
95Ba	SK	358	183	165	52	楕円形	皿	中世後期	
95Ba	SK	359	234	210	183	楕円形	U	中世後期	
95Ba	SK	360					皿	中世後期	
95Ba	SK	361	360	270	70	円形	U	中世後期	
95Ba	SK	367	172	109	13	長方形	皿	中世後期	
95Ba	SK	370	30	30	34	円形	箱	中世後期	SB04
95Ba	SK	372	79	44	41	楕円形	箱	中世後期	SB04
95Ba	SK	374	106	85	44	楕円形	皿	中世後期	
95Ba	SK	377			23	楕円?	皿	中世後期	
95Ba	SK	380	42	42	36	円形	箱	中世後期	
95Ba	SK	381	40	40	22	円形	箱	中世後期	SB04
95Ba	SK	387	45	45	25	円形	箱	中世後期	SB04
95Ba	SK	389	113	70	17	楕円形	皿	中世後期	
95Ba	SK	394	109	95	55	楕円形	箱	中世後期	
95Ba	SK	395			33	楕円?	皿	中世後期	
95Ba	SK	396	47	40	20	楕円形	箱	中世後期	SB04
95Ba	SK	397	55	47	29	楕円形	皿	中世後期	SB04
95Ba	SK	399	425	420	310	円形		中世後期	井戸
95Ba	SK	400	68	62	34	楕円形	箱	中世後期	SB05
95Ba	SK	402	74	70	30	楕円形	皿	中世後期	SB05
95Ba	SK	404	52	38	11	楕円形	皿	中世後期	SB05
95Ba	SK	408	85	53	36	楕円形	箱	中世後期	SB05
95Ba	SK	410	53	46	25	楕円形	皿	中世後期	SB05
95Ba	SK	414	67	48	28	楕円形	箱	中世後期	SB05
95Ba	SK	415	285	285	280	円形		中世後期	
95Ab	SK	420						中世後期	井戸
95Ab	SK	421	34	34	20	円形	箱	中世後期	SB01
95Ba	SK	422		66	26	楕円?	U	中世後期	SB03
95Ba	SK	423	38	32	4	円形	皿	中世後期	SB03
95Ba	SK	424	30	26	6	円形	皿	中世後期	SB03
95Ba	SK	425	70	58	10	楕円形	皿	中世後期	SB04
95Ba	SK	426	83	47	10	楕円形	皿	中世後期	SB04
95Ba	SK	427	78	51	27	楕円形	箱	中世後期	SB04
95Ab	SK	428	48	40	13	楕円形	皿	中世後期	SB01
95Ba	SK	429	70	62	21	楕円形	U	中世後期	SB04
95Aa	SD	14		90	21		U	中世後期	
95Aa	SD	15		71	24		U	中世後期	
95Aa	SD	19		160	34		U	中世後期	
95Aa	SD	20		160	49		U	中世後期	
95Bb2	SD	31		118	29		U	古墳前期	95Bb 区下面
95Bb2	SD	32						中世前期	95Bb 区下面
95Cb	SD	36		190	47		箱	中世後期	
95Ab	SD	38		400	23		皿	中世後期	
95Ab	SD	39		270	59		U	中世後期	
95Ab	SD	41		280	71		U	中世後期	
95Ba	SD	43		105	43		U	中世後期	
95Ba	SD	44		50	18		U	中世後期	
95Ba	SD	45		235	66		U	中世後期	

遺構一覧表 2

調査区	遺構	番号	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	平面形	断面形	時期	備考
95Ba	SD	46		140	66		U	中世後期	
95Ba	SD	47		132	20		U	中世後期	
95Ba	SD	48		62	24		U	中世後期	
95Ba	SD	49		68	23		U	中世後期	
95Ba	SD	50		142	38		U	中世後期	
95Ba	SD	51		142	11		皿	中世後期	
95Ba	SD	53		41	25		皿	中世後期	
95Ba	SD	54		60	19		皿	中世後期	
95Ba	SD	55		260	21		箱	中世後期	
95Ba	SD	56		22	5		U	中世後期	
95Bb2	SD	100							95Bb 区下面
95Bb2	SE	01	206	200	70	円形			95Bb 区下面
95Ca2	SE	02	250		280	円形		中世前期	95Ca 区下面
95Ca2	SE	03	270	270	234	円形		中世前期	95Ca 区下面
95Bb2	SX	01							95Bb 区下面、縄文土器出土
96Ca	SK	35	80	35	25	楕円形	U	中世後期	
96Ca	SK	40	105	(20)	12	楕円形	U	中世後期	
96Ca	SK	42	(65)	30	30	楕円形	U	中世後期	
96Ca	SK	46	30	30	15	円形	U	中世後期	SB06
96Ca	SK	47	45	30	20	楕円形	U	中世後期	SB06
96Ca	SK	48	45	28	45	楕円形	箱	中世後期	
96Ca	SK	60	70	45	50	楕円形	U	中世後期	SB06
96Ca	SK	64	50	35	55	楕円形	箱	中世後期	SB06
96Ca	SK	74	115	100	15	楕円形	皿	中世後期	
96Ca	SK	81	110	140	20	楕円？	皿	中世後期	
96Ca	SK	89	35	30	70	楕円形	箱	中世後期	
96Ca	SK	91	60	40	60	楕円形	U	中世後期	SB06
96Ca	SK	95	28	28	33	円形	箱	中世後期	SB07
96Ca	SK	101	46	40	20	楕円形	U	中世後期	SB07
96Ca	SK	103	44	35	43	楕円形	箱	中世後期	SB07
96Ca	SK	107	45	30	30	楕円形	U	中世後期	SB07
96Ca	SK	109	27	25	19	円形	箱	中世後期	
96Ca	SK	112	45	38	35	楕円形	箱	中世後期	SB07
96Ca	SK	113	50	23	24	楕円形	U	中世後期	SB07
96Ca	SK	117	38	34	40	円形	箱	中世後期	SB07
96Db	SK	150			17	不定形	皿	中世後期	
96Ca	SK	180	34	33	22	円形	箱	中世後期	
96Ea	SK	189	280	100	23	楕円形	皿	中世後期	
96Ea	SK	191	420	100	23	楕円形	皿	中世後期	
96Ea	SK	215	60	26	31	楕円形	箱	中世後期	
96Ea	SK	217	78	28	23	楕円形	箱	中世後期	
96Ea	SK	224	83	62	9	楕円形	皿	中世後期	
96Ea	SK	234	58	30	48	楕円形	箱	中世後期	
96Da	SK	267		55	20	楕円形	U	中世後期	
96Da	SK	280	75	50	15	楕円形	皿	中世後期	
96Cb	SK	301	43	38	35	楕円形	箱	中世後期	
96Ea	SK	311		100	22	楕円形	皿	中世後期	
96Ca	SK	312	16	10	12	円形	箱	中世後期	SB06
96Ca	SK	313	80		18	楕円？	U	中世後期	SB06
96Ca	SK	314	64	56	41	楕円形	箱	中世後期	SB07
96Ca	SK	315	(34)	30	11	円形	箱	中世後期	SB07

遺構一覧表 3

調査区	遺構	番号	長軸 cm	短軸 cm	深さ cm	平面形	断面形	時期	備考
96Ca	SK	316	54	38	8	楕円形	皿	中世後期	SB06
96Ca	SD	01		162	71		U	中世後期	
96Ca	SD	02		64	6		皿	中世後期	
96Ca	SD	04		120	34		U	中世後期	
96Ca	SD	05		170	62		U	中世後期	
96Ca	SD	06			30		U	中世後期	
96Ca	SD	07		44	18		皿	中世後期	
96Ca	SD	08		110	53		U	中世後期	
96Db	SD	10		80	36		U	中世後期	
96Db	SD	11		220	64		U	中世後期	
96Ea	SD	13		155	50		箱	中世後期	
96Ea	SD	14		110	25		皿	中世後期	
96Ea	SD	18			25		皿	中世後期	
96Ea	SD	20		60	25		U	中世後期	
96Ea	SD	21		140	50		U	中世後期	
96Ea	SD	22		257	44		皿	中世後期	
96Ea	SD	25		115	21		U	中世後期	
96Ea	SD	26		80	30		U	中世後期	
96Cb	SD	28		110	39		U	中世後期	
96Cb	SD	29		60	20		皿	中世後期	
96Cb	SD	30		80	10		皿	中世後期	
96Cb	SD	31		40	13		皿	中世後期	
96Cb	SD	32		355	45		皿	中世後期	
96Cb2	SD	37		91	23		皿	中世前期	
96Cb2	SX	01							

遺構一覧表 4

調査区	番号	遺構番号	種類	長軸mm	短軸mm	厚さmm	重量 g	備考
95Bb2	1	SD31 下層	敲き石	121.7	44.0	33.0	290.7	砂岩
95Bb2	2	SD100	敲き石	88.3	59.0		305.4	安山岩（下呂石）
95Bb2	3	SD31 下層	石刀		29.4	18.1	128.2	頁岩
95Bb2	4	検出	石鏃		13.6	6.8	2.2	安山岩（下呂石）
95Ba	528	検出	砥石	111.5	64.2	41.7		凝灰岩
95Ba	529	検出	砥石	73.9	61.9	15.5	98.6	凝灰岩
95Ba	530	SD50	砥石	90.2	37.1	15.8	68.3	凝灰岩（緑色）
95Ba	531	SK321	砥石	93.3	34.9	17.7	116.5	凝灰岩（緑色）
96Ca	532	検出	砥石	140.9	31.5	7.5	88.7	泥質凝灰岩
95Ab	533	SD39	砥石	104.5	51.9	32.0		凝灰岩
95Ba	534	SD49	砥石	113.6	55.9	14.8	188.2	凝灰岩
95Ba	535	SD46	砥石	84.7	40.2	13.5	105.6	凝灰岩（緑色）
96Da	536	SK269	砥石	58.2	36.2	12.4	47.5	泥質凝灰岩
95Bb	537	SK19	砥石	76.1	32.8	9.0	39.2	凝灰岩
96Ca	538	SD2	砥石	71.9	36.7	16.7	87.7	砂質凝灰岩
96Ea	539	SD22	砥石	69.9	33.6	23.1	80.6	砂質凝灰岩
95Ba	540	SD55	砥石	57.1	33.3	6.2	24.6	凝灰岩
95Ba	541	検出	砥石	52.8	18.8	11.5	19.2	凝灰岩
95Ba	542	検出	石製品	42.5	37.0		82.6	凝灰岩、途中まで穿孔

遺物一覧表 1

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Bb2	5	SX 01	縄文土器	深鉢				稲荷山式期
95Bb2	6	SD 100	弥生土器	壺	(14.5)			Ⅳ期前半
96Cb2	7	SX 01	土師器	S字甕B類	(16.4)			B類中段階、廻間Ⅱ式期
96Cb2	8	SX 01	土師器	S字甕B類	(14.6)			B類新段階、廻間Ⅱ式期
96Cb2	9	SX 01	土師器	宇田型甕3類	(15.8)			宇田式中期
96Cb2	10	SX 01	須恵器	有蓋高杯	(9.5)	(7.8)		宇田式中期
96Cb2	11	SX 01	須恵器	有蓋高杯	(10.2)			宇田式中期
96Cb2	12	SX 01	須恵器	杯身	10.0		4.6	宇田式中期
96Cb2	13	SX 01	須恵器	杯身	10.2		4.7	宇田式中期
96Cb2	14	SX 01	須恵器	杯身	(10.2)		5.0	宇田式中期
95Bb2	15	SD 31下層	土師器	S字甕D類	(12.2)			松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	16	SD 31下層	土師器	S字甕D類	12.8			松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	17	SD 31下層	土師器	S字甕D類	(15.8)			松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	18	SD 31下層	土師器	S字甕D類	(13.6)			松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	19	SD 31下層	土師器	宇田型甕1類	(13.8)			松河戸Ⅱ式期
95Bb2	20	SD 31下層	土師器	甕D	13.2			松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	21	SD 31下層	土師器	小型壺B3類	8.0		8.7	松河戸Ⅱ式期
95Bb2	22	SD 31下層	土師器	小型壺B3類	(7.8)		7.7	松河戸Ⅱ式期
95Bb2	23	SD 31下層	土師器	小型壺B1類	(10.0)		7.5	松河戸Ⅰ式期
95Bb2	24	SD 31下層	土師器	小型壺	(8.4)			
95Bb2	25	SD 31下層	土師器	直口壺	9.1			
95Bb2	26	SD 31下層	土師器	高杯B2		12.4		松河戸Ⅰ式後半
95Bb2	27	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(14.2)			宇田式中段階
95Bb2	28	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	14.0			宇田式中段階
95Bb2	29	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(14.6)			宇田式中段階
95Bb2	30	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(15.4)			宇田式中段階
95Bb2	31	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(16.6)			宇田式中段階
95Bb2	32	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	14.2			宇田式中段階
95Bb2	33	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		(9.0)		宇田式中段階
95Bb2	34	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	12.2			宇田式中段階
95Bb2	35	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(12.4)			宇田式中段階
95Bb2	36	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(11.4)			宇田式中段階
95Bb2	37	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(12.4)			宇田式中段階
95Bb2	38	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	(12.5)			宇田式中段階
95Bb2	39	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類	10.0			宇田式中段階
95Bb2	40	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		5.9		宇田式中段階
95Bb2	41	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		9.2		台部、宇田式中段階
95Bb2	42	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		7.8		台部、宇田式中段階
95Bb2	43	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		(9.4)		台部、宇田式中段階
95Bb2	44	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		8.0		台部、宇田式中段階
95Bb2	45	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		9.4		台部、宇田式中段階
95Bb2	46	SD 31上層	土師器	宇田型甕3類		9.8		台部、宇田式中段階
95Bb2	47	SD 31上層	土師器	高杯	16.8			宇田式中段階
95Bb2	48	SD 31上層	土師器	高杯	(16.4)			宇田式中段階
95Bb2	49	SD 31上層	土師器	高杯	(16.8)			宇田式中段階
95Bb2	50	SD 31上層	土師器	高杯		10.4		宇田式中段階
95Bb2	51	SD 31上層	土師器	高杯		(11.2)		宇田式中段階
95Bb2	52	SD 31上層	須恵器	有蓋高杯	11.4		5.0	宇田式中段階
95Bb2	53	SD 31上層	須恵器	有蓋高杯	(10.2)	(9.3)	10.0	宇田式中段階
95Bb2	54	SD 31上層	須恵器	有蓋高杯	(9.6)			宇田式中段階
95Bb2	55	SD 31上層	須恵器	無蓋高杯	(12.6)	(8.4)	8.9	宇田式中段階

遺物一覧表2

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Bb2	56	SD 31 上層	須恵器	無蓋高杯	(15.8)			宇田式中段階
95Bb2	57	SD 31 上層	須恵器	甕	(8.6)			宇田式中段階
95Bb2	58	SD 31 上層	須恵器	甕				宇田式中段階
95Bb2	59	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(12.8)		4.3	宇田式中段階
95Bb2	60	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(11.9)		4.3	宇田式中段階
95Bb2	61	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	12.6		4.7	宇田式中段階
95Bb2	62	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(11.8)		4.2	宇田式中段階
95Bb2	63	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(11.8)		4.4	宇田式中段階
95Bb2	64	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(12.4)		4.8	宇田式中段階
95Bb2	65	SD 31 上層	須恵器	杯蓋	(11.3)		4.4	宇田式中段階
95Bb2	66	SD 31 上層	須恵器	杯身	9.0		4.5	宇田式中段階
95Bb2	67	SD 31 上層	須恵器	杯身	(9.6)		4.6	宇田式中段階
95Bb2	68	SD 31 上層	須恵器	杯身	(10.6)		5.2	宇田式中段階
95Bb2	69	SD 31 上層	須恵器	杯身	(10.6)		5.0	宇田式中段階
95Bb2	70	SD 31 上層	須恵器	杯身	10.4		5.1	宇田式中段階
95Bb2	71	SD 31 上層	須恵器	杯身	8.7		6.3	宇田式中段階
95Bb2	72	SD 31 上層	韓式系	鉢	(23.0)			軟質
95Bb2	73	SD 31 上層	韓式系	壺	(18.8)			瓦質
95Bb2	74	SD 32	灰釉系	碗	(15.2)	6.3	5.0	尾張型第5型式
95Bb2	75	SD 32	灰釉系	碗	(16.3)	6.1	5.2	尾張型第5型式
95Bb2	76	SD 32	常滑	甕	(46.1)			2型式
95Bb2	77	検出	灰釉系	皿	7.9	4.7	1.8	尾張型第6型式、片口
95Bb2	78	検出	灰釉系	皿	(8.4)	(5.3)	2.0	尾張型第6型式、墨書
95Bb2	79	SK 151	灰釉系	碗	(15.4)	(7.1)	5.1	尾張型第5型式 (古)
95Bb2	80	SK 151	灰釉系	碗	14.6	7.1	5.1	尾張型第5型式
95Bb2	81	SK 151	灰釉系	碗	(15.0)	6.8	5.1	尾張型第5型式 (古)
95Bb2	82	SK 151	灰釉系	碗	14.5	7.8	4.8	尾張型第6型式
95Bb2	83	SK 151	土師器	鍋	(27.5)			A類
95Bb2	84	SD 100	白磁	碗	(15.6)			Ⅱ類 or Ⅲ類
95Bb2	85	SD 100	白磁	碗	(16.2)			Ⅳ類
95Bb2	86	SD 100	灰釉系	碗	(15.0)	4.7	5.3	尾張型第6型式、墨書
95Ca2	87	SE 02 上層	灰釉系	碗	16.3	7.2	5.3	尾張型第5型式、墨書
95Ca2	88	SE 02 上層	灰釉系	皿	(8.2)	4.3	2.0	尾張型第5型式
95Ca2	89	SE 02 上層	灰釉系	皿	8.7	4.2	2.5	
95Ca2	90	SE 02 上層	灰釉系	碗	(16.3)	(7.2)	4.9	尾張型第5型式
95Ca2	91	SE 03 上層	灰釉系	碗		7.6		尾張型第4型式、墨書
95Ca2	92	SE 03	灰釉系	皿	10.0	5.3	3.3	尾張型第4型式
95Ca2	93	SE 03 上層	灰釉系	皿	(10.3)	(5.2)	3.3	尾張型第4型式
95Ca2	94	SE 03 上層	灰釉系	皿	8.3	4.5	2.7	尾張型第4型式
95Ca2	95	SE 03 上層	灰釉系	碗	18.0	7.4	5.1	尾張型第4型式
95Ca2	96	SE 03	灰釉系	碗	16.3	8.1	4.3	尾張型第5型式
95Ca2	97	SE 03 上層	灰釉系	碗	(17.2)	(8.0)	5.8	尾張型第5型式
95Ca2	98	検出	灰釉系	片口鉢	(33.0)	(13.9)	13.8	尾張型第4型式 (常滑産)
96Cb2	99	SD 37	灰釉系	碗	15.3	7.1	5.1	尾張型第5型式
96Cb2	100	SD 37	灰釉系	碗	14.9	6.5	4.8	尾張型第6型式
96Cb2	101	SD 37	灰釉系	皿	8.6	4.4	2.6	尾張型第5型式
96Cb2	102	SD 37	灰釉系	皿	(8.5)	(4.4)	2.5	尾張型第4型式
96Cb2	103	SD 37	白磁	皿	(9.8)	(3.2)	(2.5)	Ⅵ類
95Ab	104	SK 210	土師器	皿	(7.6)		1.1	A 8 a類
95Ab	105	SK 210	土師器	皿	(6.9)	(4.3)	1.2	A 5 b類
95Ab	106	SK 210	土師器	皿	(7.4)		1.1	A 5 a類

遺物一覧表3

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ab	107	SK 210	土師器	皿	(7.8)		1.3	A 5 a 類
95Ab	108	SK 210	土師器	皿	(12.6)		1.5	A 10 a 類
95Ab	109	SK 210	土師器	皿	(8.8)	(8.2)	1.1	A 4 b 類
95Ab	110	SK 210	土師器	皿	(9.6)	(4.5)	(1.6)	A 9 b 類
95Ab	111	SK 210	土師器	皿	(11.2)	(6.2)	1.8	A 10 b 類
95Ab	112	SK 210	土師器	皿	(8.5)		1.1	A 6 b 類
95Ab	113	SK 210	土師器	皿	(11.7)	(6.0)	(2.0)	A 1 a 類
95Ab	114	SK 210	灰釉系	碗	(14.1)	(4.7)	5.6	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	115	SK 210	灰釉系	碗	(12.7)	(4.7)	4.4	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	116	SK 210	灰釉系	碗	12.3	4.2	4.6	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	117	SK 210	灰釉系	碗	13.1	4.3	4.3	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	118	SK 210	灰釉系	碗	12.9	4.6	4.5	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	119	SK 210	灰釉系	碗	(13.5)	(4.5)	4.5	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	120	SK 210	灰釉系	碗	(12.4)	3.7	4.3	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	121	SK 210	灰釉系	碗	(12.2)	(2.4)	4.0	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	122	SK 210	灰釉系	碗	(12.3)	(3.1)	3.8	大洞東 1 号窯式
95Ab	123	SK 210	灰釉系	碗	11.6	2.8	3.2	大洞東 1 号窯式
95Ab	124	SK 210	灰釉系	碗	(11.3)	4.3	3.2	脇之島 3 号窯式
95Ab	125	SK 210	灰釉系	碗	(11.4)	4.4	2.7	脇之島 3 号窯式
95Ab	126	SK 210	灰釉系	皿	7.5	4.1	1.5	
95Ab	127	SK 210	灰釉系	皿	8.3	4.2	1.5	
95Ab	128	SK 210	灰釉系	皿	7.7	5.2	1.3	
95Ab	129	SK 210	灰釉系	皿	7.9	4.5	0.8	
95Ab	130	SK 210	灰釉系	皿	8.4	4.4	0.9	
95Ab	131	SK 210	青磁	碗	(16.1)			
95Ab	132	SK 210	青磁	碗	(15.2)			
95Ab	133	SK 210	古瀬戸	天目茶碗	12.7	4.2	6.5	後Ⅳ
95Ab	134	SK 210	古瀬戸	天目茶碗	(12.0)			後Ⅱ
95Ab	135	SK 210	古瀬戸	天目茶碗	(12.5)			後Ⅳ
95Ab	136	SK 210	古瀬戸	緑釉小皿	9.5	4.0	2.2	後Ⅲ
95Ab	137	SK 210	古瀬戸	緑釉小皿	10.3	5.1	2.7	後Ⅲ、煤付着
95Ab	138	SK 210	古瀬戸	緑釉小皿	11.0	5.9	2.6	後Ⅲ 墨書
95Ab	140	SK 210	古瀬戸	緑釉小皿	(10.0)	(5.5)	2.6	後Ⅲ
95Ab	141	SK 210	古瀬戸	小皿	8.9	4.9	2.6	後期
95Ab	142	SK 210	古瀬戸	卸皿	(18.0)	(8.2)	3.8	後Ⅲ、煤付着
95Ab	143	SK 210	古瀬戸	卸皿	(14.1)	(8.8)	3.6	前Ⅲ
95Ab	144	SK 210	古瀬戸	折縁中皿	17.4	9.9	3.6	中Ⅳ
95Ab	145	SK 210	古瀬戸	折縁中皿	(19.4)			中Ⅲ
95Ab	146	SK 210	古瀬戸	折縁深皿	(29.4)			中Ⅳ
95Ab	147	SK 210	古瀬戸	折縁深皿	(31.4)			後Ⅱ
95Ab	148	SK 210	古瀬戸	入子	(6.7)	4.2	2.7	前Ⅲ～中Ⅱ
95Ab	149	SK 210	古瀬戸	花瓶				前期後半
95Ab	150	SK 210	古瀬戸	水注	(4.3)			中期前半
95Ab	151	SK 210	古瀬戸	四 (三) 耳壺	(12.4)			前Ⅱ
95Ab	152	SK 210	古瀬戸	四 (三) 耳壺				後期
95Ab	153	SK 210	古瀬戸	燭台	14.7			後期前半
95Ab	154	SK 210	古瀬戸	内耳鍋	(25.6)			後Ⅲ
95Ab	155	SK 210	土師器	鍋	(22.5)			B 2 類
95Ab	156	SK 210	土師器	鍋	(21.0)			B 2 類
95Ab	157	SK 210	灰釉系	片口鉢	(30.1)			6 a 型式 (常滑窯産)
95Ab	158	SK 210	灰釉系	片口鉢	34.3			7 型式

遺物一覧表 4

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ab	159	SK 210	灰釉系	片口鉢	(29.0)			9 型式
95Ab	160	SK 210	灰釉系	片口鉢	(31.0)			8 型式
95Ab	161	SK 210	常滑	擂鉢	(36.0)		9.9	10 型式
95Ab	162	SK 210	常滑	片口鉢	(25.2)			7 型式
95Ab	163	SK 210	常滑	甕	34.3			6 b 型式
95Ab	164	SK 210	常滑	鳶口壺	(6.1)	(9.2)	(11.1)	6 a 型式
95Ab	165	SK 210	常滑	甕	(29.4)			6 b 型式
95Ab	166	SD 39	土師器	皿	6.0		1.2	A 3 b 類
95Ab	167	SD 39	土師器	皿	(8.5)		1.1	A 4 b 類
95Ab	168	SD 39	土師器	皿	(7.2)		1.3	A 2 b 類
95Ab	169	SD 39	土師器	皿	(12.8)		(1.5)	A 1 a 類
95Ab	170	SD 39	土師器	皿	(12.4)		(2.0)	B 類
95Ab	171	SD 39	土師器	皿	7.8		(1.5)	A 2 a 類
95Ab	172	SD 39	土師器	皿	(7.8)	(3.5)	(1.7)	A 7 b 類
95Ab	173	SD 39	灰釉系	椀	(11.9)	(3.5)	3.6	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	174	SD 39	灰釉系	椀	(12.2)	4.0	3.5	脇之島 3 号窯式
95Ab	175	SD 39	灰釉系	椀	11.7	4.4	2.7	生田 2 号窯式
95Ab	176	SD 39	灰釉系	椀	(12.6)	(4.1)	3.8	脇之島 3 号窯式、墨書
95Ab	177	SD 39	灰釉系	皿	8.3	5.1	1.4	墨書
95Ab	178	SD 39	灰釉系	皿	8.2	4.7	1.3	墨書
95Ab	179	SD 39	古瀬戸	平碗		4.6		後Ⅲ、墨書
95Ab	180	SD 39	古瀬戸	折縁中皿	(16.2)			後Ⅳ古
95Ab	181	SD 39	古瀬戸	卸皿	(12.5)	5.1	2.5	後Ⅳ古
95Ab	182	SD 39	古瀬戸	天目茶碗	(12.4)			後期後半
95Ab	183	SD 39	古瀬戸	平碗		(5.2)		後Ⅲ
95Ab	184	SD 39	古瀬戸	平碗	(14.7)			後Ⅳ古
95Ab	185	SD 39	古瀬戸	平碗	(13.4)			後Ⅳ古
95Ab	186	SD 39	古瀬戸	緑釉小皿	(9.0)	(3.6)	2.1	後Ⅳ古
95Ab	187	SD 39	古瀬戸	緑釉小皿	(9.2)			後Ⅳ古
95Ab	188	SD 39	古瀬戸	緑釉小皿	(11.5)			後Ⅱ
95Ab	189	SD 39	古瀬戸	緑釉小皿	(11.7)	(5.5)	2.5	後Ⅱ
95Ab	190	SD 39	古瀬戸	水注				
95Ab	191	SD 39	古瀬戸	折縁深皿	(28.8)	(12.8)	7.5	後Ⅲ
95Ab	192	SD 39	古瀬戸	擂鉢	(29.5)			後Ⅳ古
95Ab	193	SD 39	常滑	片口鉢	(35.8)			9 型式
95Ab	194	SD 39	灰釉系	片口鉢	(27.4)			9 型式
95Ab	195	SD 39	土師器	鍋	(21.7)			B 7 a 類
95Ab	196	SD 39	土師器	鍋	(25.1)			B 5 a 類
95Ab	197	SD 39	土師器	鍋	(18.6)			B 2 類
95Ab	198	SD 39	土師器	鍋	(28.0)			B 2 類
95Ab	199	SD 39	土師器	鍋	(22.1)			B 2 類
95Ab	200	SD 39	土師器	鍋	(20.9)			B 2 類
95Ab	201	SD 39	常滑	甕	(48.6)			6 b 型式
95Ab	202	SD 41	土師器	皿	(13.4)	(7.0)	(1.7)	B 類
95Ab	203	SD 41	土師器	皿	(6.8)	(5.9)	(1.1)	A 2 b 類
95Ab	204	SD 41	土師器	皿	(7.2)	(5.3)	(1.1)	A 8 a 類
95Ab	205	SD 41	土師器	皿	(9.6)	(4.0)	(1.4)	A 9 a 類
95Ab	206	SD 41	土師器	皿	(7.6)		1.2	A 5 a 類
95Ab	207	SD 41	土師器	皿	(11.2)	(5.0)	(2.6)	B 類
95Ab	208	SD 41	土師器	皿	(8.5)	(3.6)	(2.2)	A 2 a 類
95Ab	209	SD 41	灰釉系	椀	(11.2)		2.4	生田 2 号窯式

遺物一覧表 5

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ab	210	SD 41	灰釉系	椀	(11.8)	(3.2)	3.2	大洞東1号窯式
95Ab	211	SD 41	灰釉系	椀	(12.7)	(3.7)	4.1	大畑大洞4号窯式(新)、墨書
95Ab	212	SD 41	灰釉系	皿	(8.0)	(4.6)	1.2	墨書
95Ab	213	SD 41	白磁	皿		(5.4)		Ⅸ類
95Ab	214	SD 41	古瀬戸	小杯	(7.9)	(5.5)	1.6	前期後半
95Ab	215	SD 41	古瀬戸	入子	(11.9)			前Ⅲ～中Ⅱ
95Ab	216	SD 41	古瀬戸	縁釉小皿	(12.0)	(7.6)	2.6	後Ⅲ
95Ab	217	SD 41	古瀬戸	縁釉小皿	(10.7)			後Ⅲ
95Ab	218	SD 41	古瀬戸	卸皿	(16.5)			後Ⅲ
95Ab	219	SD 41	古瀬戸	折縁中皿	(18.3)			後Ⅳ古
95Ab	220	SD 41	古瀬戸	茶釜	(11.9)			後期後半
95Ab	221	SD 41	古瀬戸	折縁深皿	(30.4)			中Ⅳ
95Ab	222	SD 41	土師器	鍋	(26.4)			B 5 a 類
95Ab	223	SD 41	土師器	鍋	(19.7)			B 2 類
95Ab	224	SD 41	土師器	鍋	(22.1)			B 2 類
95Ab	225	SD 41	灰釉系	片口鉢	(27.8)			7 型式
95Ab	226	SD 41	灰釉系	片口鉢	(27.2)			8 型式
95Ab	227	SD 41	灰釉系	片口鉢	(20.9)			8 型式
95Ab	228	SD 41	灰釉系	片口鉢		(10.3)		
95Ab	229	SD 41	灰釉系	片口鉢	(25.8)			9 型式
95Ab	230	SD 41	灰釉系	片口鉢	(32.8)			9 型式
95Ab	231	SD 41	灰釉系	片口鉢	32.9			9 型式
95Ab	232	SD 41	常滑	広口壺	(18.8)			10 型式
95Ab	233	SD 41	常滑	甕	(40.6)			6 b 型式
95Ba	234	SD 46	土師器	皿	(7.5)	(6.6)	(1.2)	A 2 a 類
95Ba	235	SD 46	土師器	皿	(9.8)	(6.4)	(1.5)	A 6 a 類、煤付着
95Ba	236	SD 46	青磁	碗	(11.0)			
95Ba	237	SD 46	青磁	大皿		(16.8)		
95Ba	238	SD 46	灰釉系	椀	(13.4)	(4.3)	4.9	大畑大洞4号窯式(新)
95Ba	239	SD 46	灰釉系	椀	12.6	4.0	4.2	大洞東1号窯式
95Ba	240	SD 46	灰釉系	椀	(13.6)	(4.2)	3.9	大洞東1号窯式
95Ba	241	SD 46	灰釉系	椀	(11.8)	(3.5)	3.3	大洞東1号窯式
95Ba	242	SD 46	灰釉系	椀	(12.7)	(2.8)	3.3	大洞東1号窯式
95Ba	243	SD 46	灰釉系	椀	(13.0)	(4.8)	3.3	脇之島3号窯式
95Ba	244	SD 46	灰釉系	椀	12.2	4.8	3.3	脇之島3号窯式
95Ba	245	SD 46	灰釉系	椀	12.2	5.0	2.9	脇之島3号窯式
95Ba	246	SD 46	灰釉系	椀	10.8	4.8	2.9	生田2号窯式
95Ba	247	SD 46	灰釉系	椀	(11.0)	(4.5)	2.4	生田2号窯式
95Ba	248	SD 46	灰釉系	椀	(12.0)			内面に炭化物付着
95Ba	249	SD 46	灰釉系	皿	7.8	3.8	1.5	
95Ba	250	SD 46	灰釉系	皿	8.3	4.8	1.2	
95Ba	251	SD 46	灰釉系	皿	8.2	4.5	1.3	
95Ba	252	SD 46	灰釉系	皿	7.9	4.9	1.2	
95Ba	253	SD 46	灰釉系	皿	7.7	4.7	1.1	
95Ba	254	SD 46	灰釉系	皿	8.3	5.1	1.1	
95Ba	255	SD 46	古瀬戸	平碗	(14.6)			後Ⅳ古
95Ba	256	SD 46	古瀬戸	天目茶碗	(12.2)	(4.2)	6.1	後Ⅰ
95Ba	257	SD 46	古瀬戸	天目茶碗	(11.3)	4.0	6.2	後Ⅳ古
95Ba	258	SD 46	古瀬戸	天目茶碗	(11.7)	(3.8)	5.8	後Ⅳ古
95Ba	259	SD 46	古瀬戸	天目茶碗	14.3	3.6	7.1	後Ⅲ
95Ba	260	SD 46	古瀬戸	皿(豆皿・小皿)	(7.9)	(4.6)	1.8	後期

遺物一覧表 6

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ba	261	SD 46	古瀬戸	緑釉小皿	(10.5)	(4.8)	3.7	後Ⅱ
95Ba	262	SD 46	古瀬戸	緑釉小皿	(9.4)	(4.0)	3.1	後Ⅲ
95Ba	263	SD 46	古瀬戸	折縁小皿	9.3	4.7	2.3	後Ⅲ
95Ba	264	SD 46	古瀬戸	緑釉小皿	(10.0)	(4.2)	2.3	後Ⅲ
95Ba	265	SD 46	古瀬戸	緑釉小皿	(9.0)	(4.8)	2.1	後Ⅳ古
95Ba	266	SD 46	古瀬戸	緑釉小皿	(11.2)	(4.8)	2.9	後Ⅱ 墨書
95Ba	267	SD 46	古瀬戸	折縁深皿	(30.7)			中Ⅳ
95Ba	268	SD 46	古瀬戸	播座洗	(15.3)			中Ⅲ
95Ba	269	SD 46	古瀬戸	花瓶		4.2		後期
95Ba	270	SD 46	古瀬戸	瓶子				後期
95Ba	271	SD 46	古瀬戸	水注				中Ⅰ
95Ba	272	SD 46	古瀬戸	四（三）耳壺		(11.0)		後期後半
95Ba	273	SD 46	古瀬戸	卸皿	(16.8)	(9.0)	4.1	後Ⅱ
95Ba	274	SD 46	古瀬戸	播鉢		(11.3)		後期後半、鍋に転用
95Ba	275	SD 46	古瀬戸	仏供	9.8	5.1	4.9	後Ⅲ
95Ba	276	SD 46	古瀬戸	仏供	(9.4)	(4.5)	2.7	後Ⅳ古
95Ba	277	SD 46	古瀬戸	仏供	10.0	4.5	3.5	後Ⅳ古
95Ba	278	SD 46	古瀬戸	内耳鍋	(20.3)			後Ⅲ
95Ba	279	SD 46	古瀬戸	内耳鍋	(23.9)			後Ⅲ
95Ba	280	SD 46	古瀬戸	蓋	12.0	5.5	2.2	後期後半
95Ba	281	SD 46	古瀬戸	茶釜	(12.5)			後期後半
95Ba	282	SD 46	古瀬戸	土瓶・釜類		(11.0)		後期後半
95Ba	283	SD 46	土師器	鍋	(28.7)			A類
95Ba	284	SD 46	土師器	鍋	(22.0)			B 7 a類
95Ba	285	SD 46	土師器	鍋	(28.8)			B 5 a類
95Ba	286	SD 46	土師器	鍋	(22.9)			B 5 a類
95Ba	287	SD 46	土師器	鍋	(24.4)			B 5 a類
95Ba	288	SD 46	土師器	鍋	(22.0)			B 5 b類
95Ba	289	SD 46	土師器	鍋	(21.5)			B 6 b類
95Ba	290	SD 46	土師器	鍋	(21.4)			B 6 a類
95Ba	291	SD 46	土師器	鍋	(19.8)			B 3類
95Ba	292	SD 46	土師器	鍋	(20.2)			B 3類
95Ba	293	SD 46	土師器	鍋	19.9		9.2	B 3類
95Ba	294	SD 46	土師器	鍋	(23.6)			B 2類
95Ba	295	SD 46	土師器	鍋	(18.5)			B 2類、体部下半部のみ煤付着
95Ba	296	SD 46	灰釉系	片口鉢	(28.2)	(12.6)	9.5	8 型式
95Ba	297	SD 46	灰釉系	片口鉢	(26.3)			8 型式
95Ba	298	SD 46	灰釉系	片口鉢	(26.8)			9 型式
95Ba	299	SD 46	灰釉系	片口鉢	(27.9)			10 型式
95Ba	300	SD 46	常滑	甕	(27.9)			5 型式
95Ba	301	SD 46	常滑	甕	(21.2)			10 型式
95Ba	302	SD 46	常滑	甕	(40.8)			
95Ba	303	SD 49	灰釉系	椀	(13.2)	(5.2)	5.1	明和 1 号窯式
95Ba	304	SD 49	灰釉系	椀	(14.1)	(3.4)	3.9	大洞東 1 号窯式
95Ba	305	SD 49	灰釉系	椀	(11.3)	(3.0)	3.2	大洞東 1 号窯式
95Ba	306	SD 49	灰釉系	椀	(12.4)	(3.2)	3.2	脇之島 3 号窯式
95Ba	307	SD 49	古瀬戸	天目茶碗	(11.9)	(4.2)	6.3	後Ⅰ
95Ba	308	SD 49	古瀬戸	緑釉小皿	10.4	4.5	2.6	後Ⅱ
95Ba	309	SD 49	古瀬戸	緑釉小皿	10.9	5.6	2.7	後Ⅲ
95Ba	310	SD 49	古瀬戸	緑釉小皿	10.1	5.1	2.3	後Ⅳ古
95Ba	311	SD 49	古瀬戸	卸皿	(15.9)	(7.8)	3.5	後Ⅳ古

遺物一覧表 7

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ba	312	SD 49	古瀬戸	擂鉢	(27.8)			後Ⅲ
95Ba	313	SD 49	古瀬戸	擂鉢	(26.5)	9.6	9.4	後Ⅳ古
95Ba	314	SD 49	古瀬戸	折縁深皿	(31.8)			後Ⅱ
95Ba	315	SD 49	古瀬戸	内耳鍋	(24.2)			後Ⅳ古
95Ba	316	SD 49	古瀬戸	内耳鍋	(25.2)	(13.0)	12.9	後期後半
95Ba	317	SD 49	古瀬戸	内耳鍋	(26.2)			後Ⅳ古
95Ba	318	SD 49	灰釉系	片口鉢	(30.4)			10 型式
95Ba	319	SD 49		鉢	(33.2)			産地不明
95Ba	320	SD 49	土師器	鍋	(23.6)			B 5 b 類
95Ba	321	SD 49	土師器	鍋	(21.0)			B 4 類
95Ba	322	SD 49	土師器	鍋	(19.4)			B 6 b 類
95Ba	323	SD 49	土師器	鍋	(22.0)			B 7 b 類
95Ba	324	SD 49	常滑	甕	(36.6)			6 b 型式
95Ba	325	SD 49	常滑	壺				
95Ba	326	SD 49	土師器	鍋				B 8 類
95Ba	327	SD 49	土師器	鍋				B 8 類
95Ba	328	SD 49	土師器	鍋	(22.0)			B 6 a 類
95Ba	329	SD 49	土師器	鍋	(22.7)			B 6 a 類
95Ba	330	SD 49	土師器	鍋	(28.1)			
95Ba	331	SD 49	古瀬戸	茶釜				後期後半
95Ba	332	SD 49	古瀬戸	土瓶・釜類				後期後半
95Ba	333	SD 45	灰釉系	椀	(12.8)	(6.1)	2.8	脇之島 3 号窯式
95Ba	334	SD 45	灰釉系	椀	13.3	3.5	4.4	大洞東 1 号窯式
95Ba	335	SD 45	土師器	皿	8.5		1.3	A 5 b 類
95Ba	336	SD 45	古瀬戸	筒形香炉	(9.3)	(6.9)	4.5	後Ⅲ
95Ba	337	SD 45	古瀬戸	擂鉢	(29.8)			後Ⅳ古、煤付着
95Ba	338	SD 45	古瀬戸	茶釜	(13.6)			後期後半
95Ba	339	SD 45	古瀬戸	茶釜	(12.7)			後期後半
95Ba	340	SD 45	土師器	茶釜	(11.7)			
95Ba	341	SD 48	灰釉系	椀	(14.2)	(4.7)	5.0	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ba	342	SD 48	灰釉系	椀	(12.6)	(3.6)	4.3	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ba	343	SD 48	灰釉系	片口鉢	(19.4)	9.7	8.2	6 a 型式 (常滑窯産)
95Ba	344	SD 51	土師器	鍋	(28.9)			B 2 類、焼成前穿孔
95Ba	345	SD 50	灰釉系	皿	7.7	3.8	1.7	墨書
95Ba	346	SD 50	灰釉系	皿	7.8	4.7	1.5	墨書
95Ba	347	SD 50	土師器	皿	(5.8)		1.2	A 3 a 類
95Ba	348	SD 50	古瀬戸	内耳鍋	(19.6)			後Ⅲ
95Ba	349	SD 50	土師器	鍋	(21.9)			B 1 類
95Ba	350	SD 54	古瀬戸	蓋	13.3	5.9	3.1	後期後半、墨書
95Ba	351	SD 54	灰釉系	椀		(4.8)		大洞東 1 号窯式、墨書
95Ba	352	SD 55	灰釉系	椀	12.3	3.8	3.6	大洞東 1 号窯式
95Ba	353	SD 55	古瀬戸	縁釉小皿	9.1	5.3	2.0	後Ⅳ古
95Ba	354	SD 55	灰釉系	片口鉢	(28.0)			10 型式
95Ba	355	SD 55 下層	土師器	鍋	(22.6)			B 6 a 類
95Ba	356	SD 55	土師器	鍋	(21.9)			B 4 類、未完通の孔 2 つ
95Ba	357	SD 55	土師器	鍋	(21.8)			B 4 類
95Ba	358	SD 55	土師器	鍋	(22.0)			B 3 類
95Ba	359	SD 55	土師器	鍋	(22.8)			B 2 類
95Aa	360	SD 15	土師器	鍋	21.1		12.4	B 2 類
95Aa	361	SK 53	灰釉系	椀	13.9	6.0	5.8	明和 1 号窯式
95Aa	362	SK 74	灰釉系	皿	(8.4)	(5.0)	1.3	尾張型第 6 型式、墨書

遺物一覧表 8

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Aa	363	SK 87	灰釉系	皿	7.6	3.7	1.5	尾張型第 6 型式
95Aa	364	SK 107	灰釉系	皿	7.7	5.4	1.4	
95Aa	365	SK 66	灰釉系	皿	(7.8)	(5.6)	1.1	
95Aa	366	SK 66	灰釉系	皿	7.8	4.2	1.3	
95Aa	367	SK 66	灰釉系	皿	(8.3)	(4.6)	1.3	
95Aa	368	SK 66	土師器	鍋	17.4			B 1 類
95Aa	369	SK 66	灰釉系	片口鉢	(23.8)			
95Aa	370	SK 66	灰釉系	椀	(14.2)	(4.8)	4.9	明和 1 号窯式
95Aa	371	SK 66	灰釉系	椀	(12.3)	(4.8)	5.3	明和 1 号窯式
95Aa	372	SK 66	灰釉系	椀	(11.4)	4.5	4.0	明和 1 号窯式
95Aa	373	SK 34	灰釉系	椀	(12.5)	(3.8)	5.7	明和 1 号窯式
95Aa	374	SK 99	灰釉系	椀	(11.0)	5.6	5.1	明和 1 号窯式
95Aa	375	SK 99	灰釉系	皿	7.8	4.6	1.3	
95Aa	376	SK 99	灰釉系	皿	7.8	4.5	1.6	
95Aa	377	SD 19	常滑	甕	(41.2)			6 b 型式
95Aa	378	SD 19	灰釉系	皿	(8.6)	(4.7)	1.5	尾張型第 6 型式
95Aa	379	SD 20	灰釉系	椀				卸目あり
95Ab	380	SD 38	灰釉系	椀		4.6		大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	381	SK 225	土師器	皿	8.0		1.5	A 8 a 類
95Ab	382	SK 274	古瀬戸	合子	2.6	3.2	3.4	中期前半
95Ab	383	SK 274	古瀬戸	縁釉小皿	(9.9)	(5.6)	2.9	後Ⅲ
95Ab	384	SK 144	灰釉系	椀	(12.2)	(4.2)	4.7	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	385	SK 144	灰釉系	椀	12.7	4.5	4.5	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ab	386	SK 275	灰釉系	椀	(11.5)	(3.2)	4.4	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	387	SK 275	灰釉系	椀	12.3	4.1	4.5	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	388	SK 275	灰釉系	椀	14.1	4.8	5.8	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	389	SK 275	灰釉系	椀	13.8	4.2	5.4	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	390	SK 275	灰釉系	椀	(13.7)	(4.6)	5.6	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	391	SK 110	灰釉系	椀	(13.8)	(4.5)	5.2	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	392	SK 277	土師器	鍋	(23.2)			A 類
95Ab	393	SK 277	土師器	鍋	(17.0)			B 1 類
95Ab	394	SK 148	灰釉系	片口鉢	(21.0)	(13.7)	8.0	7 型式
95Ab	395	SK 299	灰釉系	椀				卸目あり
95Ab	396	SK 299	古瀬戸	入子	(11.8)			前Ⅲ～中Ⅱ
95Ab	397	SK 299	灰釉系	椀	(13.6)	(5.1)	5.4	大畑大洞 4 号窯式 (古)
95Ab	398	SK 420	灰釉系	椀	(14.3)	(5.4)	5.8	明和 1 号窯式、煤付着
95Ab	399	SK 420	灰釉系	皿		4.4		墨書
95Ab	400	SK 420	灰釉系	椀		5.1		明和 1 号窯式、墨書
95Ab	401	SK 420	常滑	甕	(41.8)			6 a 型式
95Ba	402	SK 358	灰釉系	椀	(14.1)	5.0	5.1	明和 1 号窯式、墨書
95Ba	403	SK 367	灰釉系	椀	12.8	4.1	4.9	大畑大洞 4 号窯式 (新)
95Ba	404	SK 415	灰釉系	椀	(11.8)	(2.9)	3.7	大洞東 1 号窯式
95Ba	405	SK 361	古瀬戸	縁釉小皿	(10.1)	5.1	2.6	後Ⅲ
95Ba	406	SK 361	灰釉系	椀	(12.4)	(3.1)	3.8	大洞東 1 号窯式
95Ba	407	SK 361	灰釉系	片口鉢	(26.7)			10 型式
95Ba	408	SK 359	灰釉系	椀		5.2		明和 1 号窯式、墨書
95Ba	409	SK 359	灰釉系	椀		4.6		明和 1 号窯式、墨書
95Ba	410	SK 359	灰釉系	椀		(4.4)		大畑大洞 4 号窯式 (古)、墨書
95Ba	411	SK 359	古瀬戸	縁釉小皿	(9.4)	(4.6)	2.1	後Ⅲ
95Ba	412	SK 359	古瀬戸	縁釉小皿	(11.0)	(5.6)	2.0	後Ⅲ、煤付着
95Ba	413	SK 359	灰釉系	片口鉢	(26.7)			10 型式

遺物一覧表 9

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
95Ba	414	SK 359	灰釉系	皿	(8.7)	(5.5)	0.9	
95Ba	415	SK 359	灰釉系	椀	(12.8)	(5.5)	3.6	脇之島3号窯式
95Ba	416	SK 359	常滑	甕	(43.4)			5型式
95Ba	417	SK 399	灰釉系	皿	8.2	5.9	1.1	墨書
95Ba	418	SK 399	灰釉系	皿	7.9	4.2	1.2	墨書
95Ba	419	SK 399	灰釉系	皿	8.2	5.5	1.7	墨書
95Ba	420	SK 399	灰釉系	皿	8.3	4.5	1.4	墨書
95Ba	421	SK 399	灰釉系	皿	(9.1)	(4.2)	1.6	墨書
95Ba	422	SK 399	土師器	皿	(8.0)	(6.7)	1.4	A 8 a 類
95Ba	423	SK 399	灰釉系	椀	13.6	4.7	4.8	大畑大洞4号窯式 (古)
95Ca	424	SK 02	常滑	四 (三) 耳壺	(19.3)			6 a 型式
95Ca	425	SK 02	土師器	鍋	(25.6)			A 類
95Ca	426	SK 02	灰釉系	椀	(14.0)	(4.9)	6.0	明和1号窯式
95Ca	427	SK 02	灰釉系	皿	(8.0)	(4.5)	2.6	
95Ca	428	SK 16	灰釉系	椀	(12.4)	(4.4)	3.9	大畑大洞4号窯式 (古)
95Ca	429	SK 16	灰釉系	皿	7.3	5.2	0.9	
95Cb	430	SD 36	灰釉系	椀	12.2	4.2	5.2	大畑大洞4号窯式 (古)
95Cb	431	SD 36	灰釉系	椀	13.5	4.9	5.8	大畑大洞4号窯式 (古)
95Cb	432	SD 36	灰釉系	椀	13.8	5.2	5.9	明和1号窯式
95Cb	433	SD 36	常滑	甕	(45.4)			3型式
96Ca	434	SD 01	古瀬戸	緑釉小皿	(10.4)	4.7	2.2	後Ⅱ
96Ca	435	SD 01	古瀬戸	緑釉小皿	(11.8)	(6.1)	2.3	後Ⅱ
96Ca	436	SD 01	古瀬戸	仏供	(9.5)	(4.4)	3.7	後Ⅳ古
96Ca	437	SD 02	灰釉系	椀	(11.0)	(5.0)	2.7	生田2号窯式
96Ca	438	SD 02	古瀬戸	緑釉小皿	(9.8)	(4.4)	2.0	後Ⅳ古
96Ca	439	SD 02	土師器	鍋	(23.3)			B 6 a 類
96Ca	440	SD 04	灰釉系	皿	(8.2)	(5.4)	1.0	墨書
96Ca	441	SD 05	古瀬戸	緑釉小皿	(9.5)	4.2	2.5	後Ⅳ古
96Ca	442	SD 05	古瀬戸	卸皿	(16)	(7.1)	3.1	後Ⅳ古
96Ca	443	SD 05	古瀬戸	緑釉小皿	(9.5)	(5.0)	2.0	後Ⅲ
96Ca	444	SD 05	土師器	皿	(7.7)	(5.7)	1.3	A 2 a 類
96Ca	445	SD 05	土師器	鍋	(21.4)			B 2 類
96Ca	446	SD 08	古瀬戸	天目茶碗	12.9	4.6	6.8	後Ⅳ新・補修の跡あり
96Ca	447	SD 08	古瀬戸	合子・蓋	(3.9)		2.2	中期前半
96Ca	448	SK 40	灰釉系	椀	(13.8)	(4.5)	4.8	大畑大洞4号窯式 (古)
96Ca	449	SK 35	灰釉系	椀	12.2	4.8	2.9	脇之島3号窯式
96Ca	450	SK 81	灰釉系	皿	8.2	4.2	1.2	墨書
96Ca	451	SK 112	土師器	皿	(11.6)	(2.7)		A 11 a 類
96Cb	452	SD 31	灰釉系	皿	(8.1)	(4.2)	2.4	尾張型第5型式
96Cb	453	SD 31	灰釉系	椀		(7.0)		尾張型第5型式
96Cb	454	SD 32	灰釉系	皿	8.1	5.0	1.4	
96Cb	455	SD 32	灰釉系	椀	(12.7)	4.5	5.4	大畑大洞4号窯式 (古)
96Cb	456	SK 301	灰釉系	椀	(13.8)	5.0	5.8	明和1号窯式
96Cb	457	SK 301	灰釉系	片口鉢	(27.6)			6型式
96Db	458	SD 10	灰釉系	椀	(12.2)	(3.5)	4.3	
96Db	459	SD 10	土師器	皿	(10.7)		(2.4)	A 10 b 類
96Db	460	SD 10	灰釉系	皿	(7.6)	(4.8)	1.5	
96Db	461	SD 10	灰釉系	皿	(8.2)	(5.2)	1.4	
96Db	462	SD 10	土師器	鍋	(24.6)			B 2 類
96Db	463	SD 11	灰釉系	椀	(11.7)	(2.5)	3.3	大洞東1号窯式
96Db	464	SD 11	灰釉系	椀	13.1	4.8	3.8	脇之島3号窯式

遺物一覧表 10

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	口径cm	底径cm	器高cm	備考
96Db	465	SD 11	灰釉系	皿	8.3	5.4	1.3	
96Db	466	SD 11	土師器	皿	(6.8)	(4.0)	1.4	A 5 a 類
96Db	467	SD 11	土師器	皿	(9.0)		1.3	A 9 a 類
96Db	468	SD 11	土師器	皿	(9.4)	(5.6)	(1.4)	A 9 b 類
96Db	469	SD 11	古瀬戸	緑釉小皿	(10.1)	(5.7)	2.4	後Ⅲ
96Da	470	SK 267	常滑	甕	(28.8)			
96Da	471	SK 267	古瀬戸	四（三）耳壺		(9.5)		前Ⅱ
96Da	472	SK 267	灰釉系	片口鉢		(12.1)		5 型式
96Da	473	SK 267	灰釉系	椀	(11.3)	4.2	4.7	明和 1 号窯式
96Da	474	SK 267	灰釉系	椀	(13.4)	(6.0)	5.4	尾張型第 7 型式
96Da	475	SK 267	常滑	甕				
96Ea	476	SK 224	土師器	鍋	21.4			B 1 類
96Ea	477	SD 20	灰釉系	椀	11.3	4.1	5.1	大畑大洞 4 号窯式（古）
96Ea	478	SD 14	灰釉系	椀	(11.4)	(4.0)	4.5	大畑大洞 4 号窯式（古）
96Ea	479	SK 215	灰釉系	椀	12.5	3.8	4.0	大畑大洞 4 号窯式（新）
96Ea	480	SK 234	灰釉系	椀	10.1	3.9	2.6	生田 2 号窯式
95Ab	481	検出	土師器	鍋	(24.6)			A 類
95Ab	482	検出	土師器	鍋	(23.4)			A 類
95Ba	483	検出	土師器	鍋	(24.2)			B 5 a 類
95Ba	484	検出	土師器	鍋	(26.9)			B 8 類
95Ba	485	検出	古瀬戸	四耳壺	(9.6)			後Ⅱ
95Ba	486	検出	古瀬戸	茶釜	(13.2)			後期後半、穿孔あり
95Ba	487	検出	古瀬戸	折縁中皿	(19.3)			後Ⅳ
95Ba	488	検出	土師器	鍋				墨書
95Aa	489	検出	灰釉系	椀				卸目あり
95Ab	490	検出	灰釉系	椀				卸目あり

遺物一覧表 11

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	長軸mm	短軸mm	厚さmm	重量 g	備考
95Ab	139	SK210	加工円盤	緑釉小皿	79.7	76.0	9.5	69.3	墨書
95Ab	491	検出	加工円盤		47.1	46.8	9.9	28.7	
95Ba	492	検出	加工円盤		55.9	51.8	10.0	32.4	
95Ab	493	SK210	加工円盤		63.0	62.0	7.5	33.9	
95Ab	494	SK210	加工円盤		59.1	52.6	6.0	23.2	
95Ba	495	SK361	加工円盤		33.5	32.1	11.2	10.5	
96Ea	496	SD18	加工円盤		22.1	20.3	13.7	7.5	
95Ca2	497	SE02 上層	加工円盤		25.8	20.1	13.0	6.2	
95Ca2	498	SE02 上層	加工円盤		31.1	25.5	16.5	11.4	
95Ca2	499	SE02 上層	加工円盤		30.0	20.4	17.7	6.8	
95Ca2	500	SE02 上層	加工円盤		27.9	24.4	10.3	7.3	
95Ca2	501	SE02 上層	加工円盤		25.5	24.0	11.2	8.6	
96Ea	502	検出	加工円盤		26.3	24.8	11.0	8.6	
96Ea	503	検出	加工円盤		25.1	23.5	9.9	7.3	
96Ea	504	検出	加工円盤		24.8	24.1	4.9	4.1	
96Ea	505	検出	加工円盤		24.5	21.7	6.5	5.3	
96Ea	506	検出	加工円盤		24.3	21.4	4.9	3.4	
96Ea	507	検出	加工円盤		23.5	22.9	8.6	6.5	
96Ea	508	検出	加工円盤		23.6	22.1	9.6	6.0	
96Ea	509	検出	加工円盤		30.9	25.8	11.4	13.6	
96Db	510	検出	加工円盤		26.8	26.3	7.4	8.2	

遺物一覧表 12

調査区	番号	遺構番号	種類	器種	長軸mm	短軸mm	厚さmm	重量g	備考
96Db	511	検出	加工円盤		21.4	20.8	6.0	3.8	
95Ba	512	SD45	陶丸		24.8	24.4		16.0	
95Ba	513	SD46	陶丸		23.3	21.0		13.5	
95Ba	514	SD48	陶丸		21.2	21.0		10.7	
96Ea	515	SD18	陶丸		21.2	20.4		9.7	

遺物一覧表 13

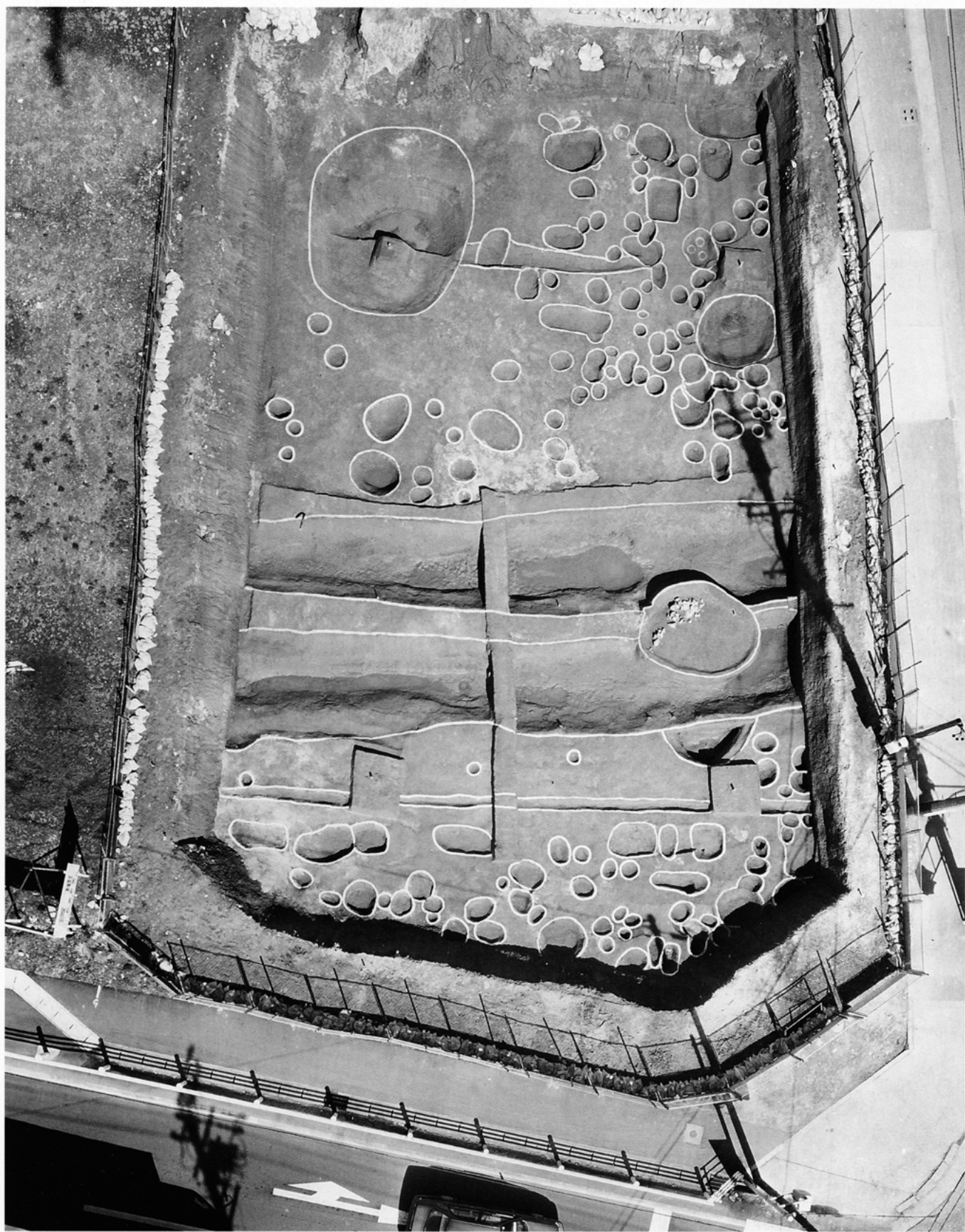
調査区	番号	遺構番号	種類	器種	長さmm	幅mm	孔径mm	重量g	備考
95Ab	516	SK 299	土錘		(38.4)	13.5	4.5	6.7	
95Ab	517	SK 299	土錘		42.0	9.7	3.8	3.5	
95Ba	518	SK 320	土錘		(44.0)	11.3	3.8	5.3	
95Ba	519	SK 399 下層	土錘		42.6	14.8	4.8	8.8	
95Ba	520	SK 331	土錘		42.2	15.0	4.2	8.9	
95Ba	521	SK 331	土錘		53.3	14.0	4.0	11.7	
96Ea	522	検出	土錘		35.3	7.5	3.9	4.7	
95Ba	523	SD 53	土錘		(45.2)	12.0	4.8	6.5	
95Ba	524	SD 54	土錘		(42.2)	12.0	4.0	7.5	
95Ba	525	SD 48	土錘		44.6	11.6	3.9	5.5	
95Ab	526	SD 39	土錘			(42)	(22)		
95Ab	527	SK 210	平瓦						
95Ab	543	SK 210	糸巻き						
95Ab	544	SK 210	下駄 (菌)						
95Ab	545	SK 138	銭貨						皇宋通寶
95Ab	546	検出	銭貨						咸平元寶
95Ab	547	検出	銭貨						治平元寶
95Ba	548	SD 46	銭貨						天聖元寶
95Ba	549	SK 359	銭貨						元豐通寶
95Ba	550	SK 360	銭貨						嘉祐元寶
95Ba	551	SD 49・検出	鉄滓						表3 参照
95Ba	552	SK 399	鉄滓						表3 参照
95Ba	553	SD 46	鉄滓						表3 参照
95Ba	554	SD 46	鉄滓						表3 参照
95Bb2	555	SD 32	鉄滓						表3 参照
95Ab	556	SD 39	鋳型片						表3 参照
95Ba	557	SK 361	含鉄遺物						表3 参照

遺物一覧表 14

図版



95Aa 区全景



95Ab 区全景



95Ab 区 (北から)



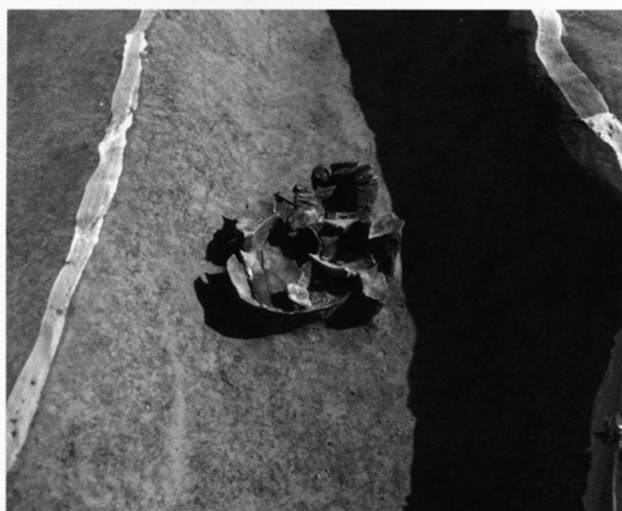
95Ab 区 SD39・SD41・SK210 (東から)



95Ab 区 SB01・SB02 (北から)



95Ab 区 SB01・SB02 (北西から)



95Aa 区 SD15 (東から)



95Ab 区 SK275 (南から)



95Ba区 全景



95Ba 区および Ab 区 (南東から)



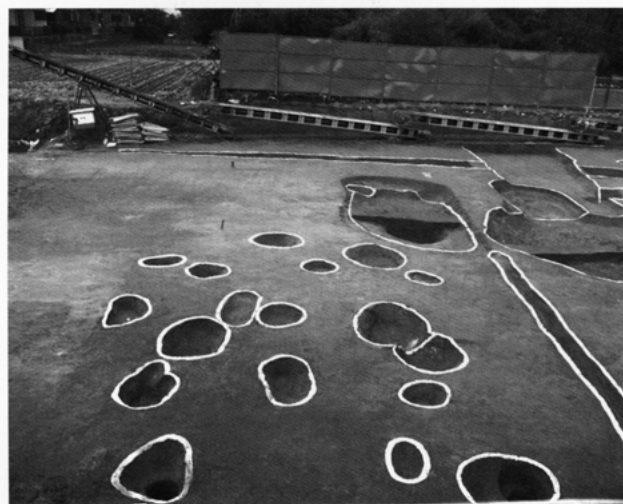
95Ba 区 SD45・SD46 (西から)



95Ba 区 SB03 (東から)



95Ba 区 SD45・SD46 (西から)



95Ba 区 SB05 (東から)



95Ba 区 SK399 (西から)



96Ca区全景（上：北半部、下：南半部）



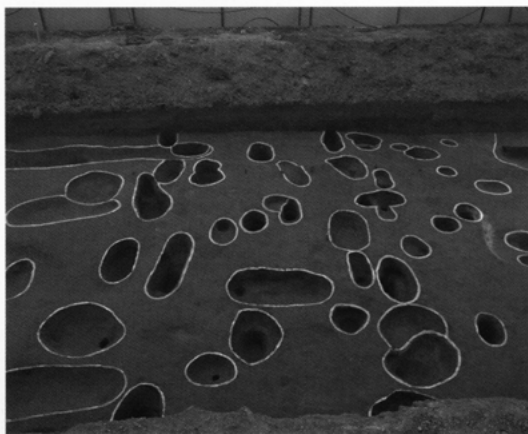
96Ca区 SB07（東から）



96Ca区 SD05～08（東から）



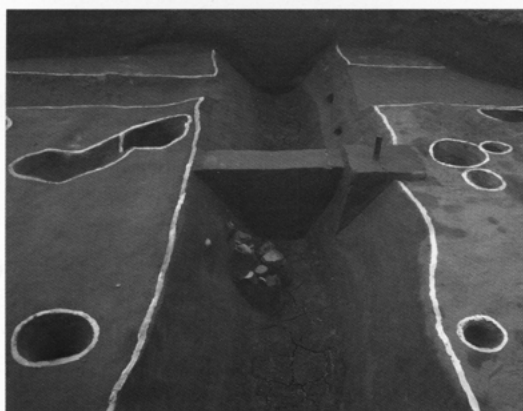
96Ca区（北東から）



96Ca区 SB06（東から）



96Db区全景



96Ca区 SD01 (東から)



96Db区 SD11 (西から)



96Ea・Eb・Da区全景



96Ea区 SK224 遺物出土状況



96Da区 SK267 遺物出土状況



96Ea 区北部（北から）



96Ea 区中央部（北から）



96Cb 区（南から）



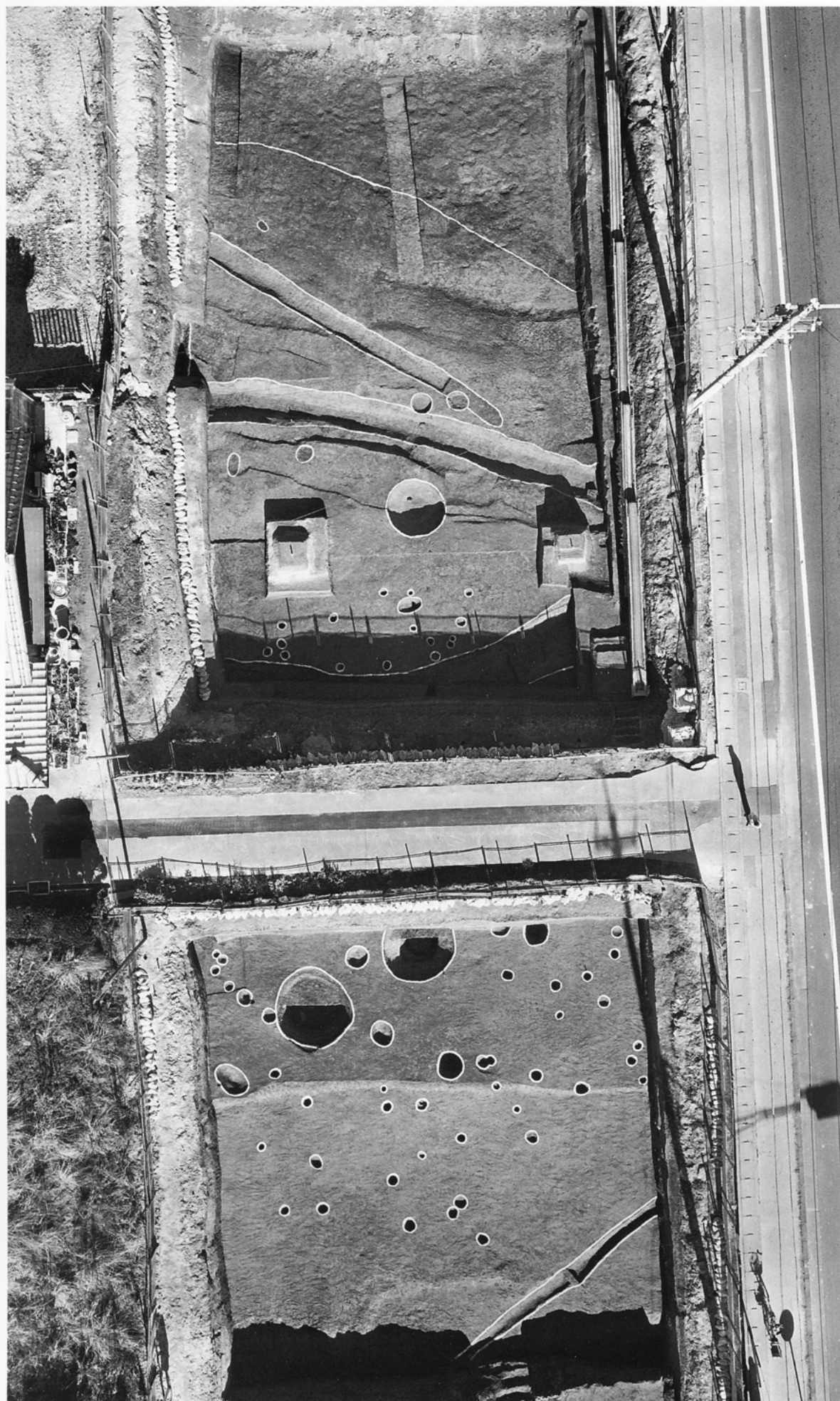
96Cb 区（南から）



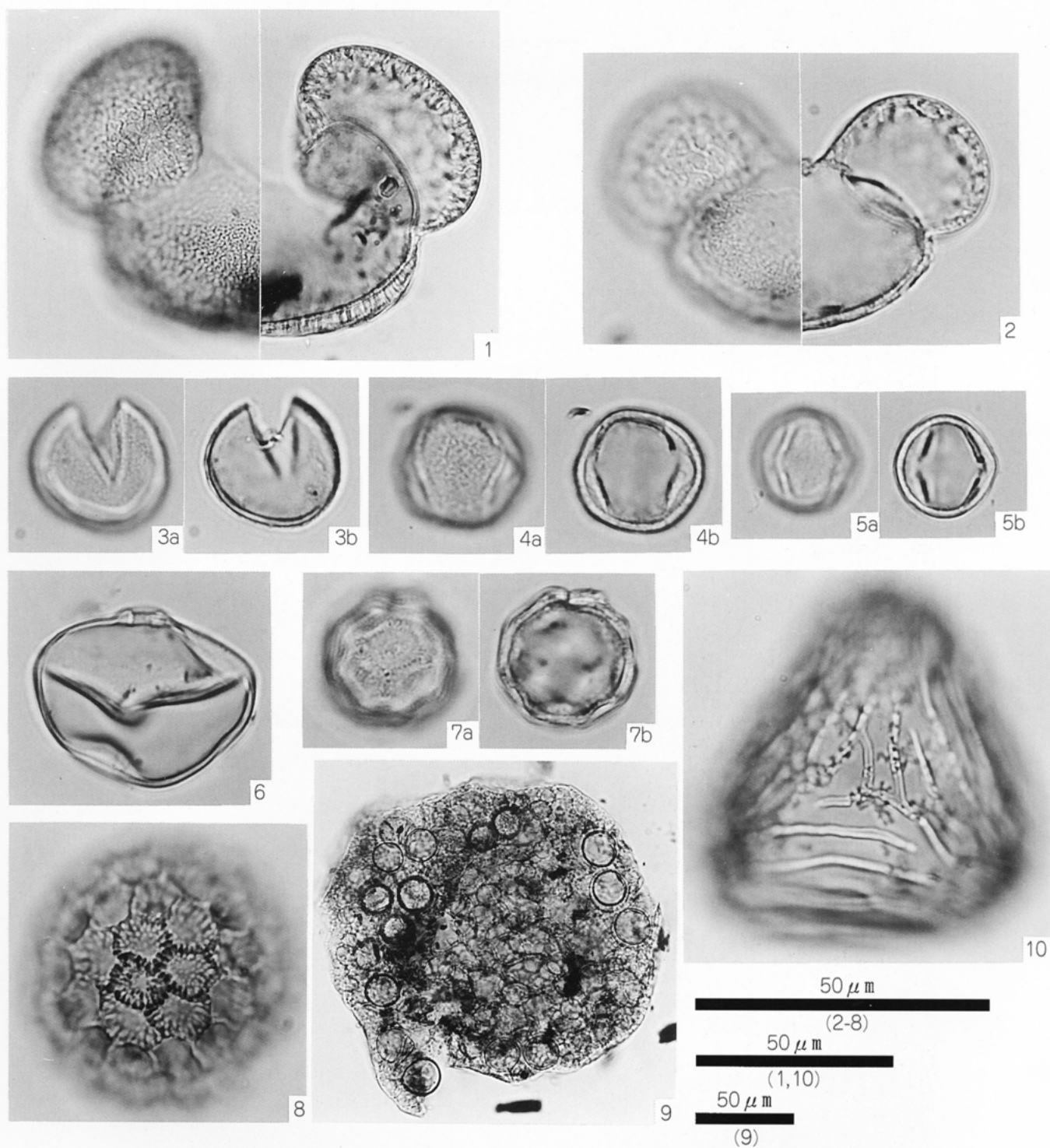
95Cb2 区 SD31 遺物出土状況



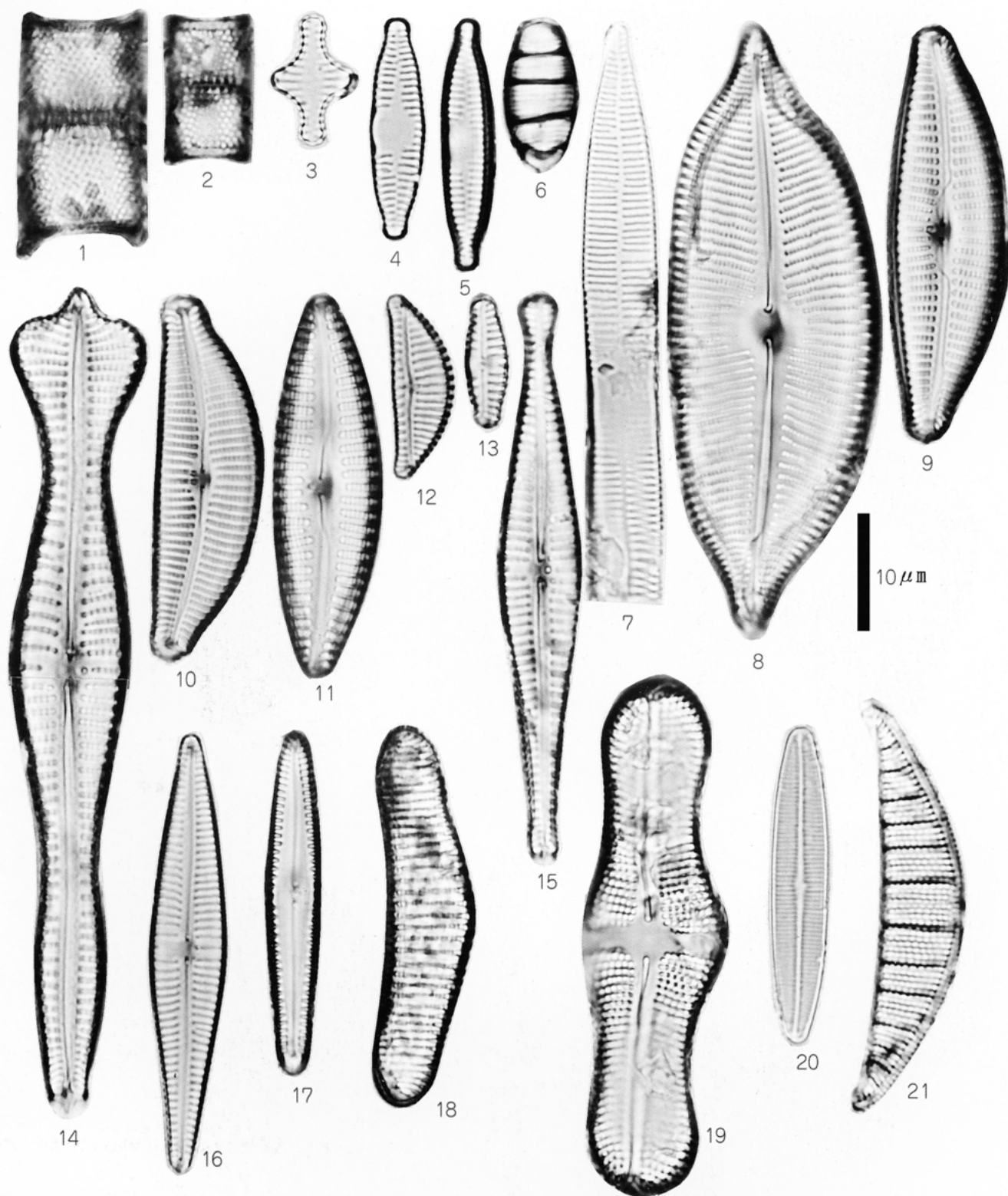
96Cb2 区 SX01 遺物出土状況



95Bb2区・Ca2区 全景

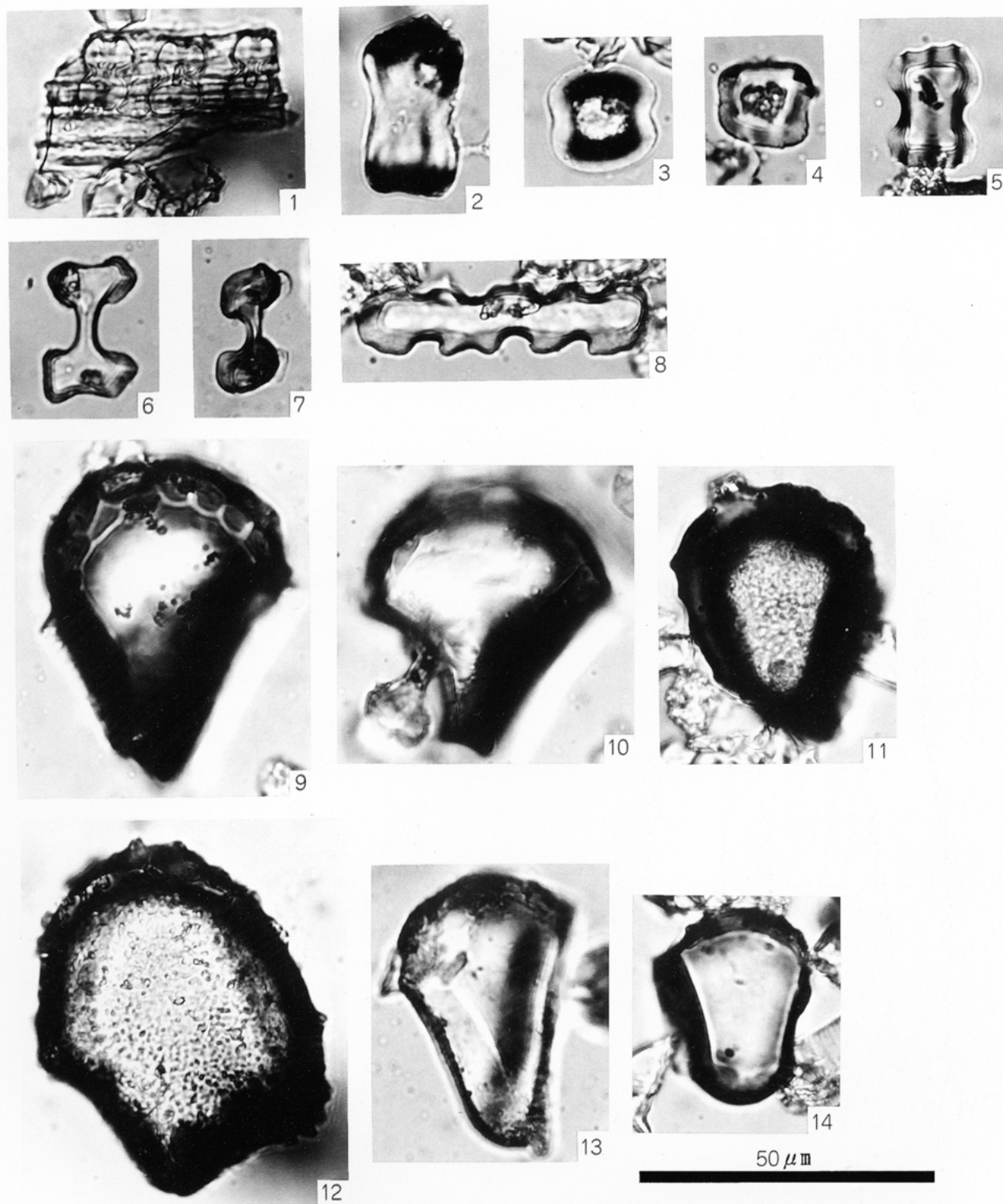


- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. モミ属 | 2. マツ属 |
| 3. スギ属 | 4. コナラ属コナラ亜属 |
| 5. コナラ属アカガシ亜属 | 6. イネ科 |
| 7. サジオモダカ属 | 8. サナエタデ節-ウナギツカミ節 |
| 9. サンショウモ | 10. ミズワラビ属 |



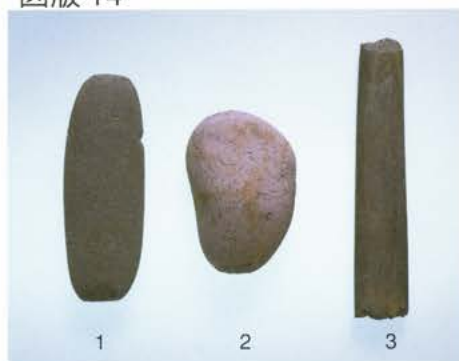
1. *Aulacoseira italica* var. *valida* (Grun.) Simonsen
2. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen
3. *Fragilaria construens* (Ehr.) Grunow
4. *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.) Petersen
5. *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.) Petersen
6. *Diatoma hyenalis* var. *mesodon* (Ehr.) Kirchner
7. *Synedra inaequalis* H. Kobayasi
8. *Cymbella cuspidata* Kuetzing
9. *Cymbella turgidula* Grunow
10. *Cymbella turgidula* var. *nipponica* Skvortzow

11. *Cymbella leptoceros* (Ehr.) Kuetzing
12. *Cymbella minuta* Hilse ex Rabh.
13. *Cymbella sinuata* Gregory
14. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg
15. *Gomphonema subtile* Ehrenberg
16. *Gomphonema gracile* Ehrenberg
17. *Gomphonema clevei* Fricke
18. *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst
19. *Achnanthes inflata* (Kuetz.) Grunow
20. *Achnanthes conbergens* H. Kobayasi
21. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) O. Muller



1. イネ科短細胞列
3. ヨシ属短細胞珪酸体
5. コブナグサ属短細胞珪酸体
6. ススキ属短細胞珪酸体
7. ススキ属短細胞珪酸体
9. イネ属機動細胞珪酸体
11. タケ亜科機動細胞珪酸体
12. ヨシ属機動細胞珪酸体
13. ウシクサ族機動細胞珪酸体

2. タケ亜科短細胞珪酸体
4. ヨシ属短細胞珪酸体
8. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体
10. イネ属機動細胞珪酸体
14. ウシクサ族機動細胞珪酸体













315



316



317



338



293

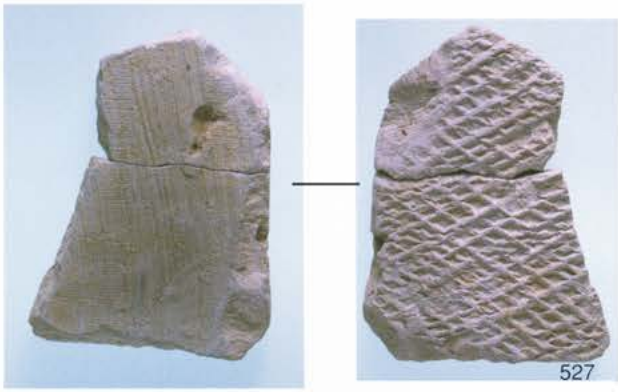
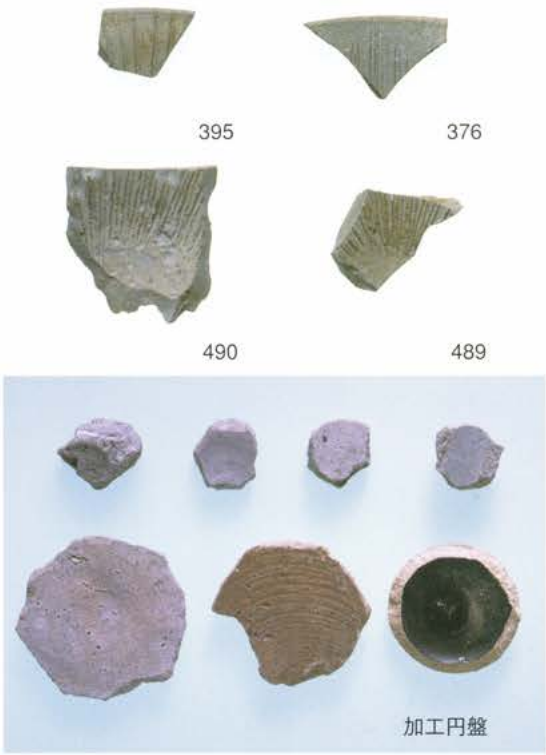
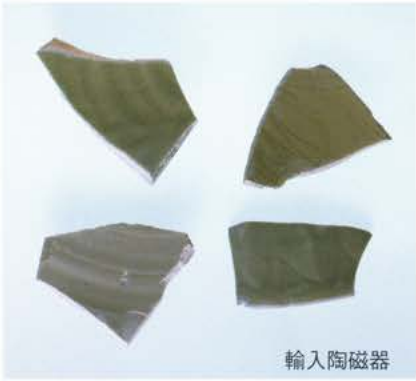


360



295





報告書抄録

ふりがな	まびきよこて
書名	馬引横手遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第84集
編集者名	伊藤太佳彦
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24
発行年月日	西暦 1999年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まびきよこて 馬引横手	あいちけん いちのみやし 愛知県一宮市 やまとちようまびき 大和町馬引字 よこて びさいし 横手・尾西市 かいめい 開明	02	097	35 度 18 分 12 秒	136 度 46 分 36 秒	199510 ～199610	7,489㎡	東海北陸自 動車道建設 に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
馬引横手	集落	縄文 弥生 古墳 中世 前期 中世 後期	 溝 溝・土坑・井戸 区画溝をともなう 建物・井戸	土器・石器 土器 土師器・須恵器 灰釉系陶器・常滑製品 灰釉系陶器・土師器 古瀬戸製品・常滑製品	遺構は確認でき なかった 宇田式中段階の遺 物がまとまって出 土 「市町」の可能性

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第84集

馬引|横手遺跡

1999年8月31日

編集・発行 財団法人
愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
印刷 株式会社 名古屋大気堂